

平成28年度

食育・健康づくりに関する

市民アンケート調査報告書

平成28年12月

新潟市

目次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 調査の設計	1
4 回収結果	1
5 集計結果の数字の見方	2
6 回答者の構成	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 職業	4
(4) 地区	5
(5) 家族構成	5
第2章 調査結果	7
1 体格 (BMI の状況)	7
2 「食育」に対する意識	8
(1) 「食育」への関心度	8
(2) 「食育」の実践度	13
(3) 食育を実践していない理由	18
(4) 食べ物を無駄にしないための行動	21
(5) 伝統的な料理や作法の大切さ	26
(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承	31
(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承	36
3 日ごろの食生活の状況	41
(1) 健全な食生活実践のために参考にしている指針等	41
(2) 「地産地消」の実践度	44
(3) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数	49
(4) 生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度	54
(5) 健康のために食事意識していること	59
(6) この1か月間の野菜・緑黄色野菜・果物の摂取頻度	66
(7) 朝食の回数	76
(8) 朝食を食べない理由	81
(9) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ	83
(10) 家族と朝食を食べる回数	88
(11) 家族と夕食を食べる回数	93
(12) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数	98
(13) 家族と食事を一緒に食べることの良い点	103
(14) 家族との食事に対する意識	105
(15) 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度	106
(16) 食べ方への関心度	111
(17) ゆっくりよく噛んで味わって食べている頻度	116
(18) かねて食べる時の状態	121
4 「食の安全」について	124
(1) 食の安全に対する関心度	124
(2) 特に関心があること	129
(3) 食の安全に関する知識を持っている程度	131
(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度	136

(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況	141
(6) 特に不十分だと感じている取組	146
(7) 食の安全に関して必要としている情報	148
5 健康づくりに対する意識や状況	150
(1) 自身の現在の健康状態	150
(2) 睡眠による休養	155
(3) ストレスがある時の対処法	160
(4) 定期的に継続している運動の実施状況	163
(5) 1日60分くらいの運動習慣	168
(6) 喫煙習慣	173
(7) 受動喫煙の機会	178
(8) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度	179
(9) 飲酒の頻度	184
(10) 平均飲酒量	189
(11) 歯科健（検）診の受診状況	194
(12) 歯間部清掃用具の利用状況	199
(13) 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度	204
(14) メタボリックシンドロームの予防・改善の取組状況	209
(15) メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること	214
(16) 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度	216
(17) 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況	221
(18) 最近1年間のがん検診の受診状況	223
(19) がん検診の検診場所	225
(20) がん検診を受けなかった主な理由	236
(21) 地域の人たちとのつながり	241
(22) 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況	246
6 農林漁業体験について	248
(1) 農林漁業体験の参加経験の有無	248
(2) 参加した農林漁業体験の内容	253
(3) 今後の農林漁業体験への参加意向	256
7 食育や健康づくりに関する情報やサービスの利用状況等	261
(1) スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの	261
(2) 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象	265
8 食育や健康づくりに関しての意見・提案（自由記載）	270

資料編

調査白票

第 1 章

調査概要

第1章 調査概要

1 調査目的

「新潟市食育推進計画（H24～28）」、「新潟市健康づくり推進基本計画（H26～30）」および「新潟市歯科保健計画（H26～30）」の評価のために、市民の食育・健康づくりに関する意識や実践状況等を把握するとともに、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 体格（BMI の状況）
- (2) 「食育」に対する意識
- (3) 日ごろの食生活の状況
- (4) 「食の安全」について
- (5) 健康づくりに対する意識や状況
- (6) 農林漁業体験について
- (7) 食育や健康づくりに関する情報やサービスの利用状況等
- (8) 食育や健康づくりに関しての意見・提案

3 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 確立比例系統抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成28年9月5日～9月23日

4 回収結果

有効回収数（率） 1,534人（51.1%）

【参考】性別、年齢別、居住地区別回収結果

(1) 性別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
男性	1,407人	620人	44.1%
女性	1,593人	851人	53.4%
性別不明		63人	

(2) 年齢別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
20～29歳	329人	106人	32.2%
30～39歳	425人	171人	40.2%
40～49歳	567人	226人	39.9%
50～59歳	465人	244人	52.5%
60～69歳	531人	346人	65.2%
70歳以上	683人	423人	61.9%
年齢不明		18人	

(2) 居住地区別

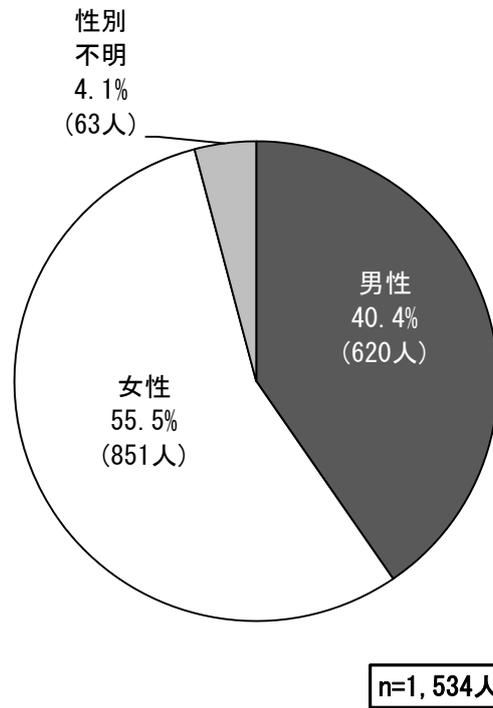
調査対象者	標本数	回収数	回収率
北区	282人	141人	50.0%
東区	516人	259人	50.2%
中央区	667人	325人	48.7%
江南区	257人	130人	50.6%
秋葉区	291人	147人	50.5%
南区	174人	88人	50.6%
西区	588人	311人	52.9%
西蒲区	225人	116人	51.6%
居住地区不明		17人	

5 集計結果の数字の見方

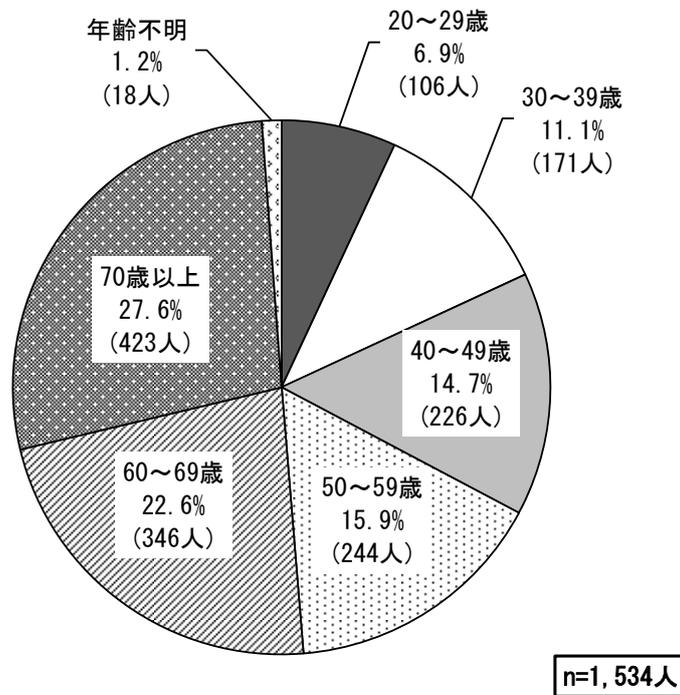
- (1) 結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答(2つ以上の回答)では、合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n (number of cases の略)」は、質問に対する回答者の総数(該当者質問では該当者数)を示し、回答者の比率(%)を算出するための基数である。

6 回答者の構成

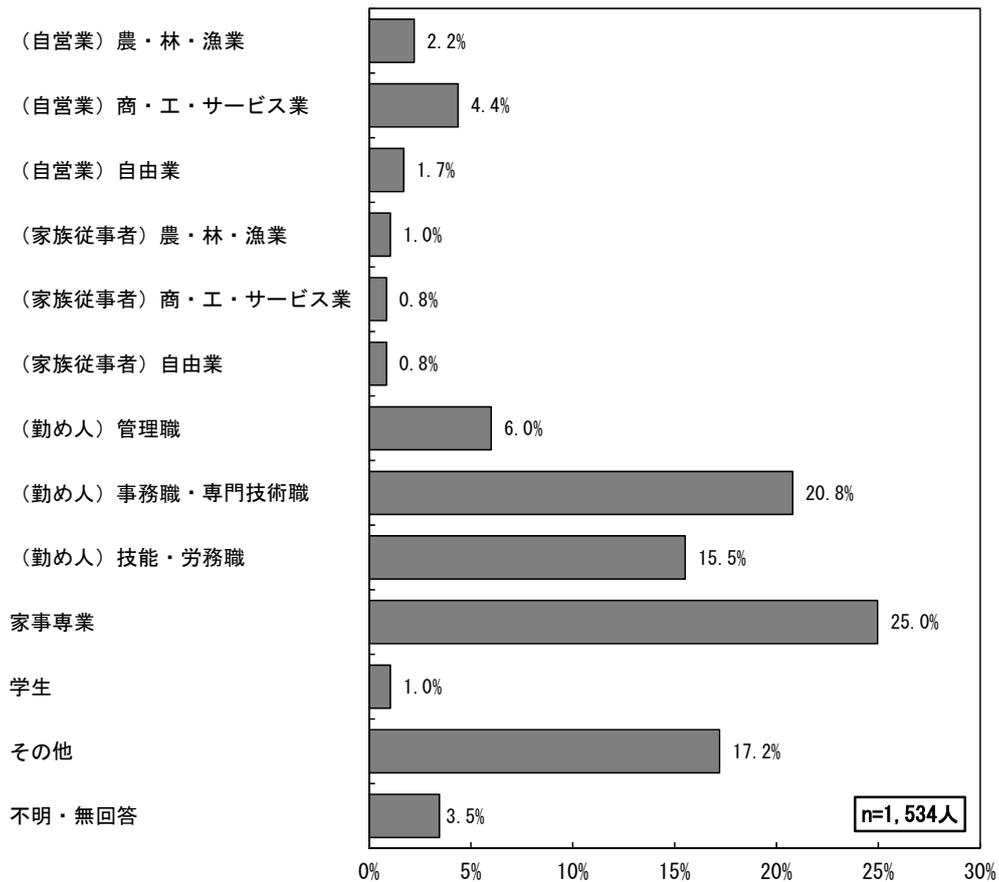
(1) 性別



(2) 年齢



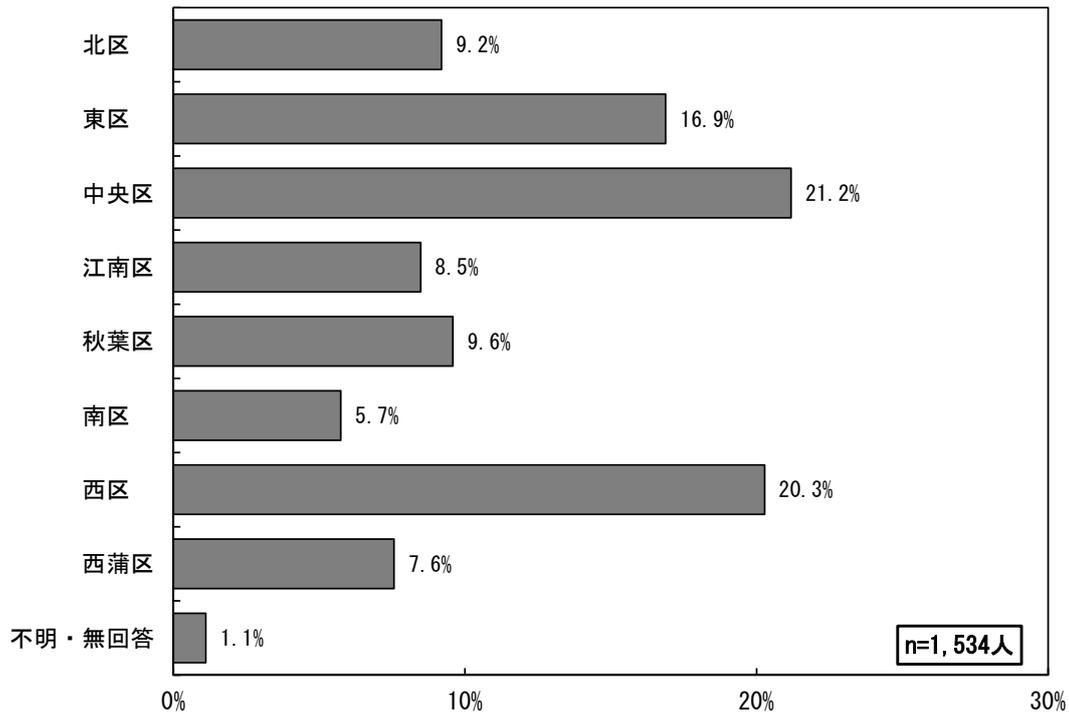
(3) 職業



全体	自営業			家族従事者			不明・無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
	勤め人			無職			不明・無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
	92	319	238	383	16	264	53

(人)

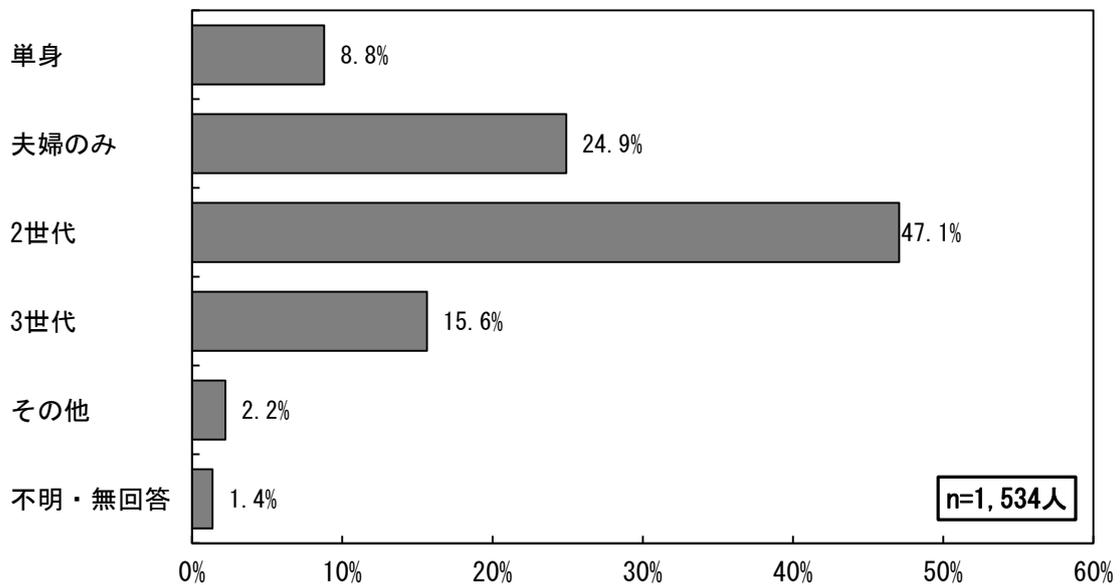
(4) 地区



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	不明・無回答
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

(人)

(5) 家族構成



全体	単身	夫婦のみ	2世代	3世代	その他	不明・無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

第 2 章

調査結果

第2章 調査結果

1 体格 (BMI の状況)

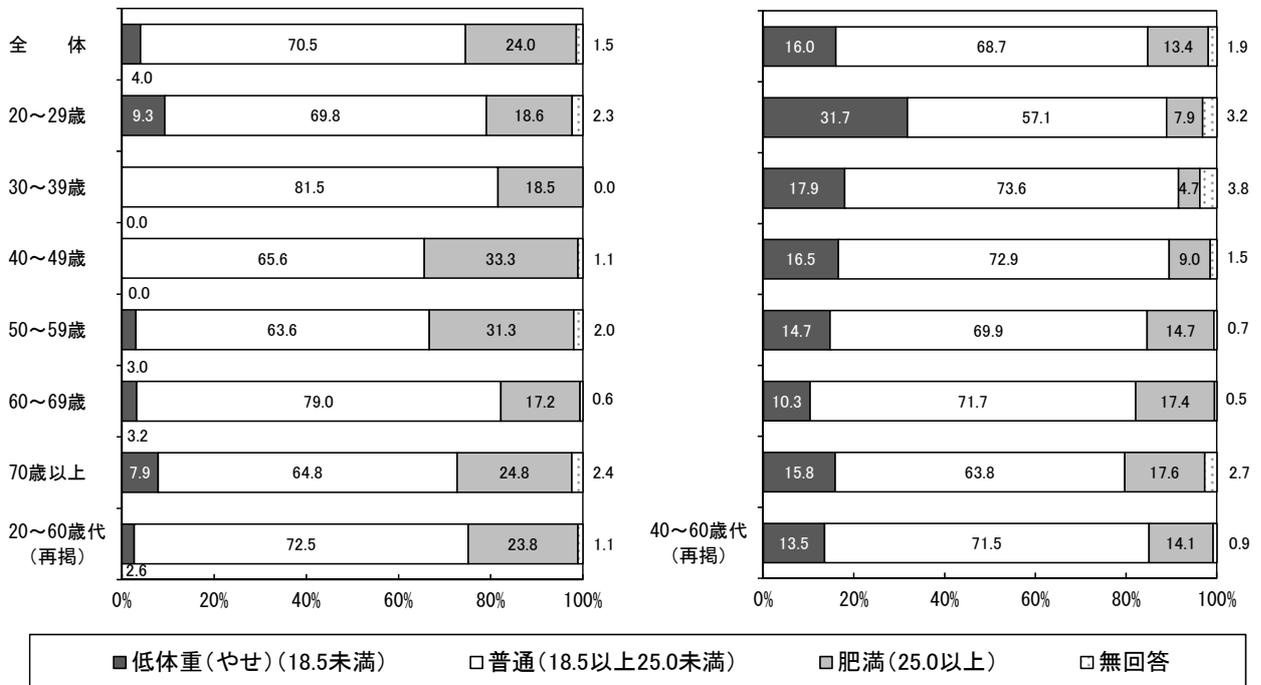
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の2割強が肥満 (BMI25.0以上)、女性の2割弱が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は40歳代 (33.3%) で最も高く、以下50歳代 (31.3%)、70歳以上 (24.8%) と続き、これらの年代で2割強となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は70歳以上 (17.6%) で2割弱と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、20歳代 (31.7%) で3割強と最も高くなっている。

図1.1 BMI区分による肥満・普通・やせの者の割合
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

BMI = 体重 [kg] ÷ 身長 [m] ÷ 身長 [m] により算出
 BMI < 18.5 低体重 (やせ)
 18.5 ≤ BMI < 25.0 普通体重 (正常)
 25.0 ≤ BMI 肥満

2 「食育」に対する意識

「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることであります。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身につけたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

(1) 「食育」への関心度

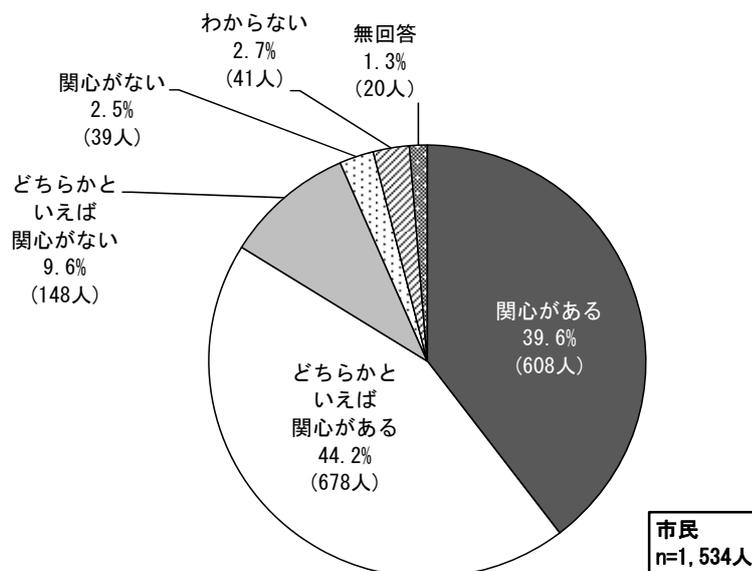
問7 あなたは、食(食事や食習慣)に関心がありますか。(○は1つだけ)

8割強が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

【全体結果】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は8割強(83.8%)で、「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と回答した人の割合は1割強(12.1%)となっている。

図2.1 「食育」への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性(79.3%)に対し女性(88.7%)の方が高くなっている。特に30歳代と50歳代の女性が高く、9割強となっている。

図 2.2 「食育」への関心度 (年齢別・全体)

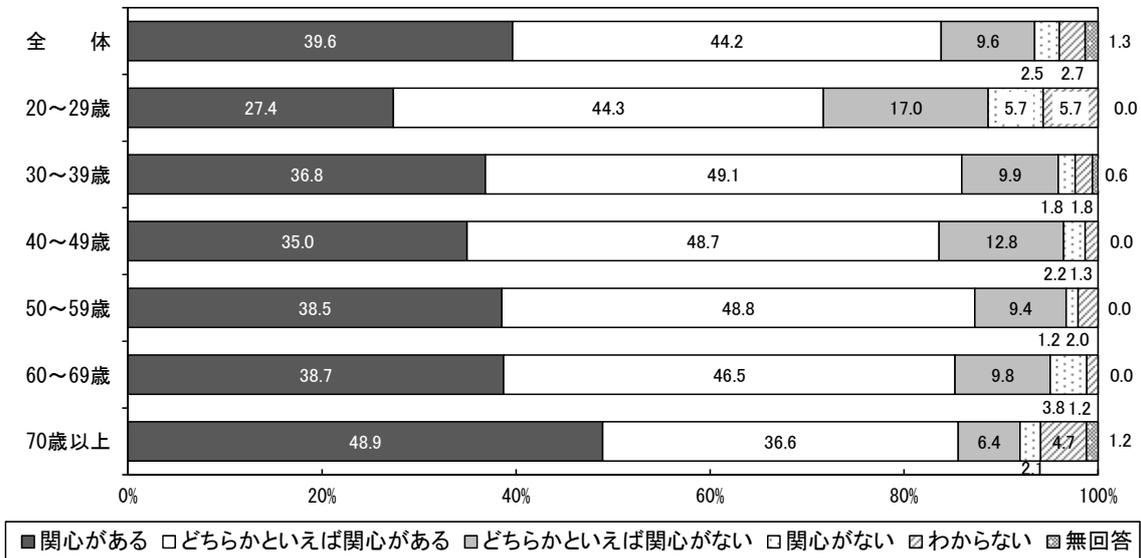
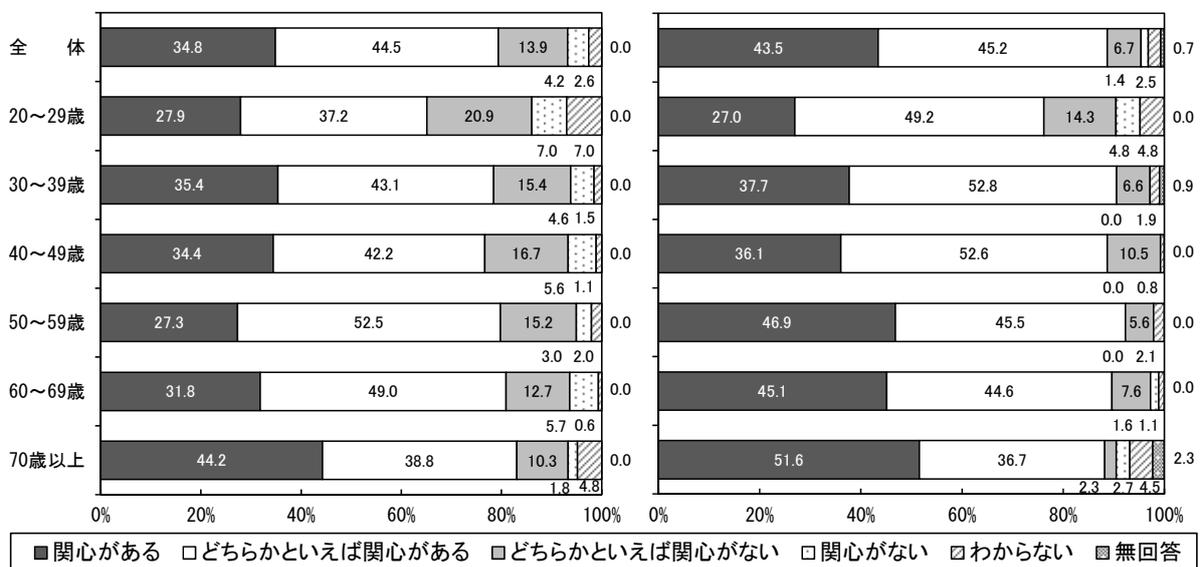


図 2.3 「食育」への関心度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

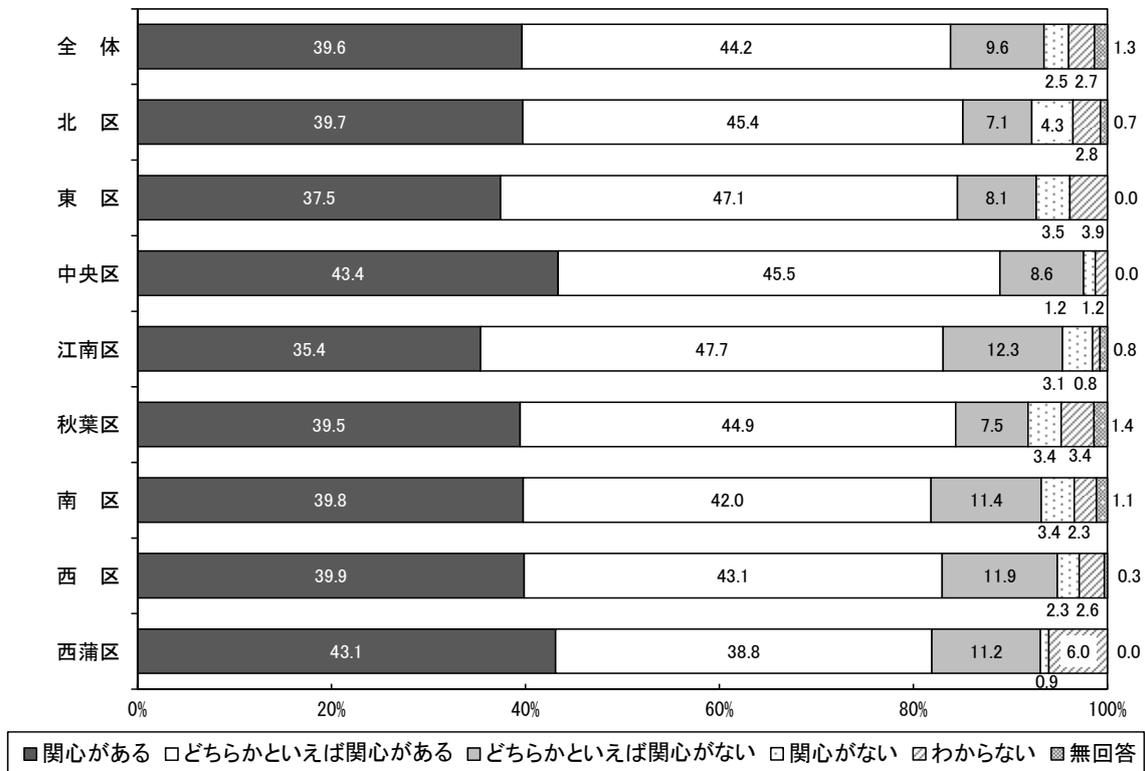
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、中央区（88.9%）で最も高く、南区（81.8%）で最も低くなっている。

図 2.4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

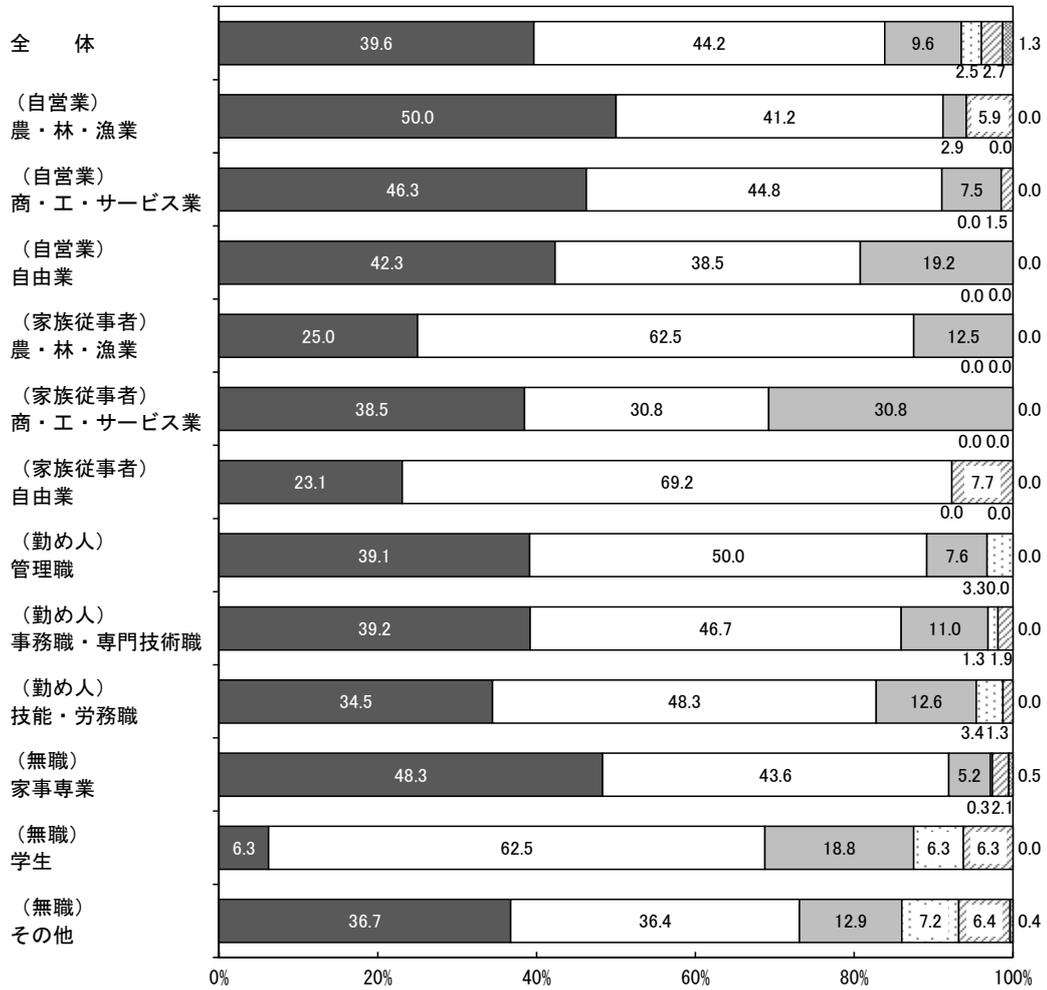
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5 「食育」への関心度（職業別）



■関心がある □どちらかといえば関心がある □どちらかといえば関心がない □関心がない □わからない ■無回答

全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

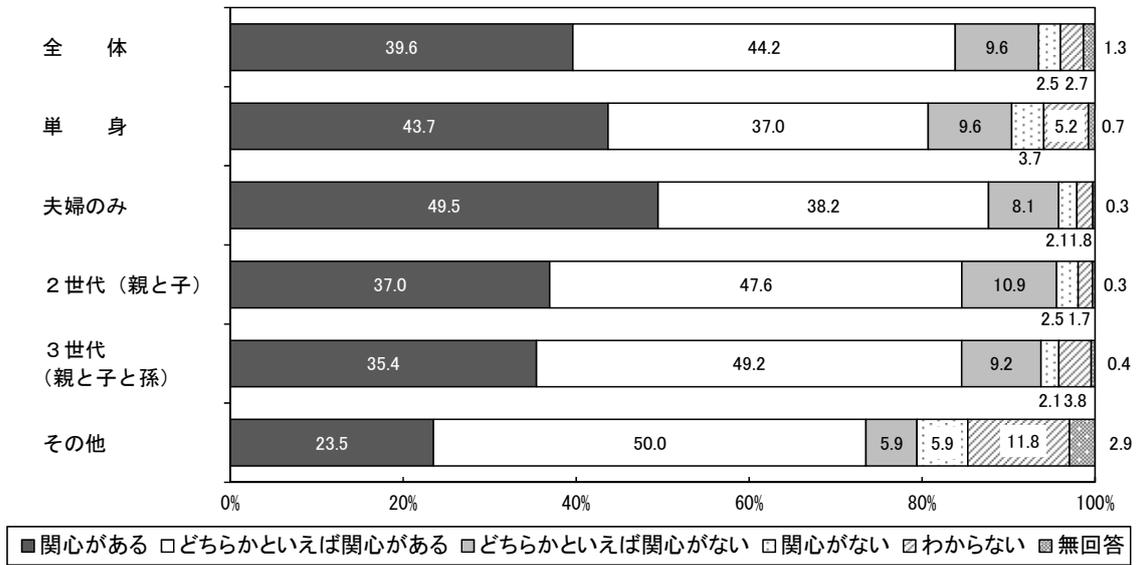
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、夫婦のみ（87.7%）で最も高くなっている。

図 2.6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(2)「食育」の実践度

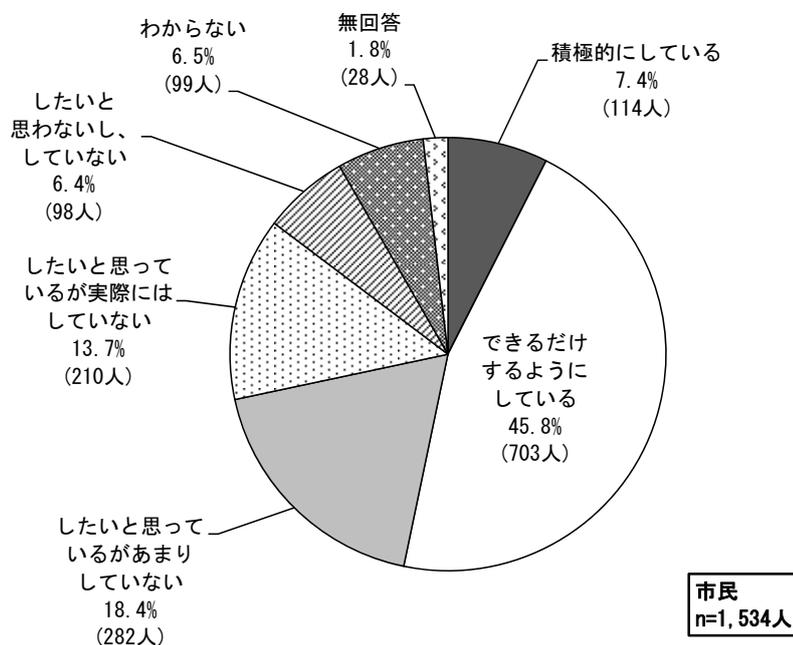
問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

5割強が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

【全体結果】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は5割強(53.2%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は3割強(32.1%)で、「したいとは思わないし、していない」と回答した人の割合は1割弱(6.4%)となっている。

図3.1 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図3.2 「食育」の実践度（年齢別・全体）

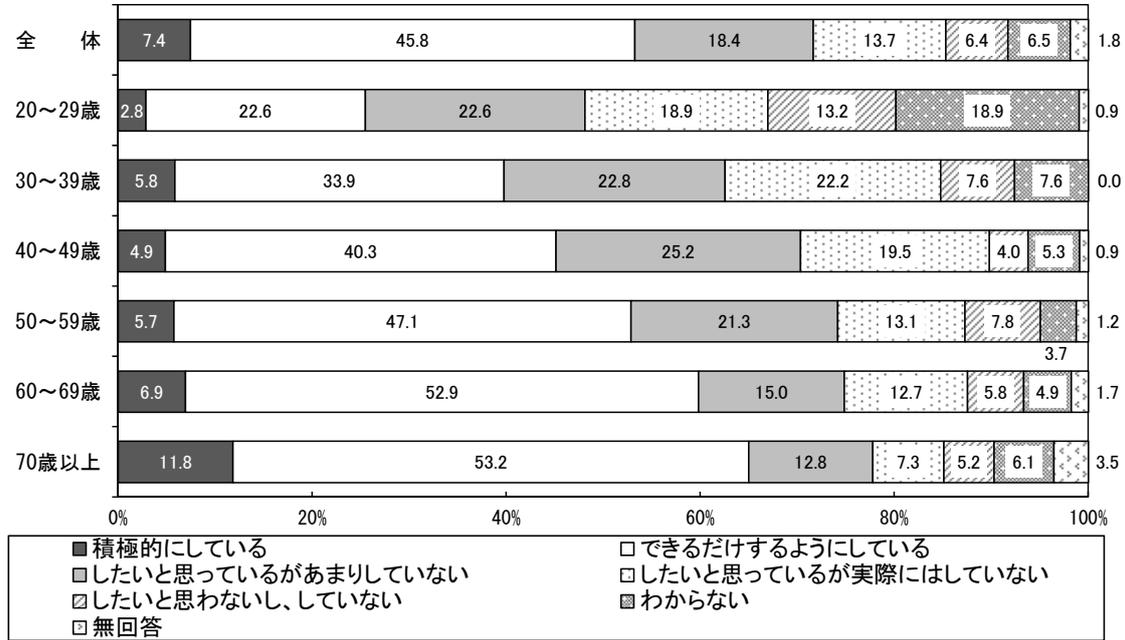
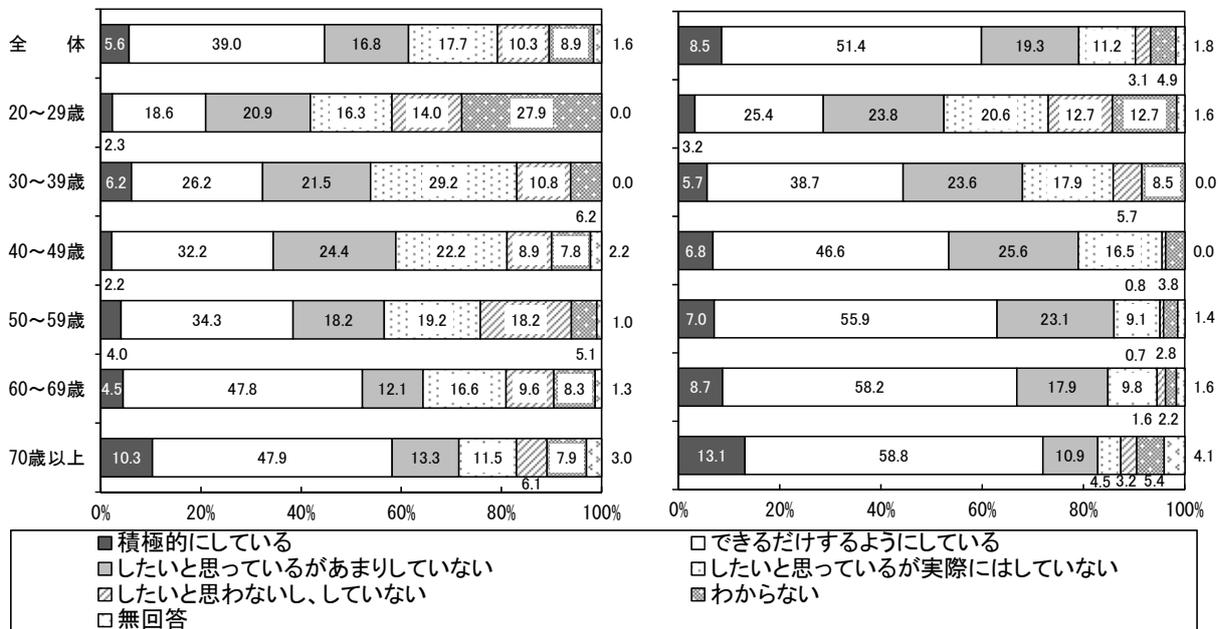


図3.3 「食育」の実践度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

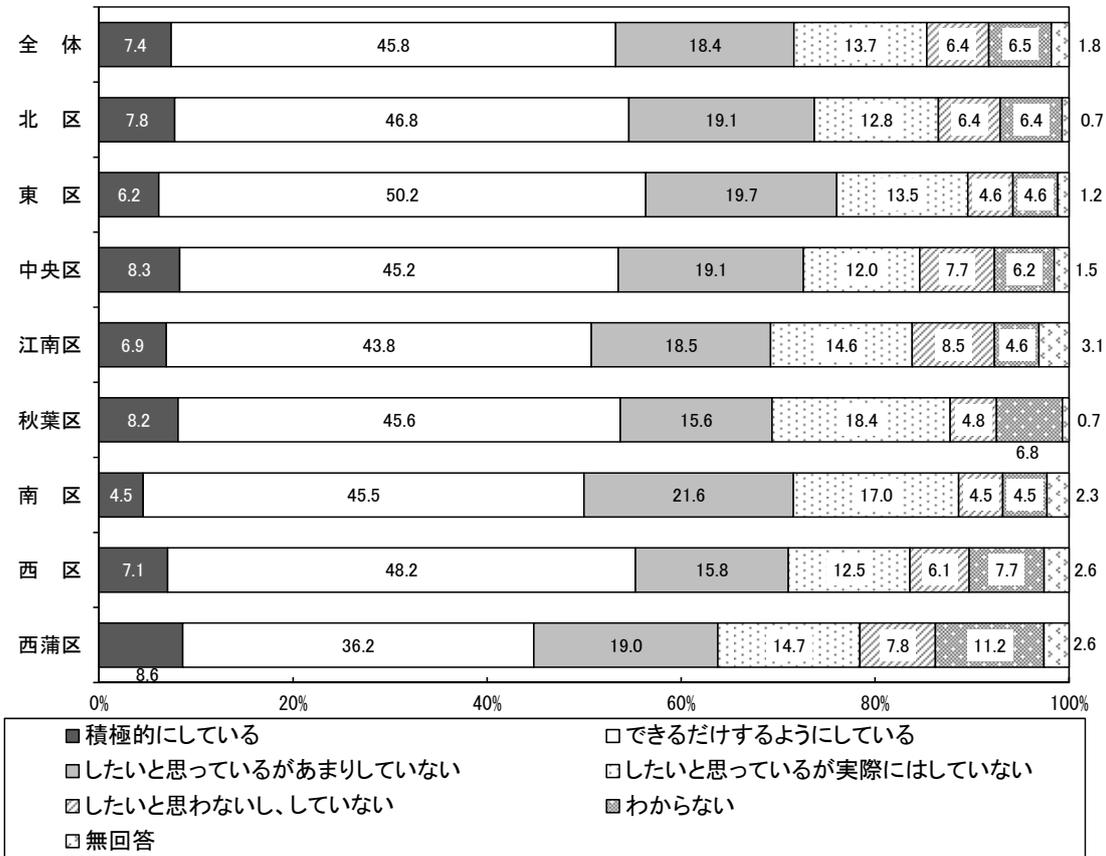
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、東区（56.4%）で最も高く、6割弱となっている。西蒲区（44.8%）では他の地区に比べ低くなっている。

図3.4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

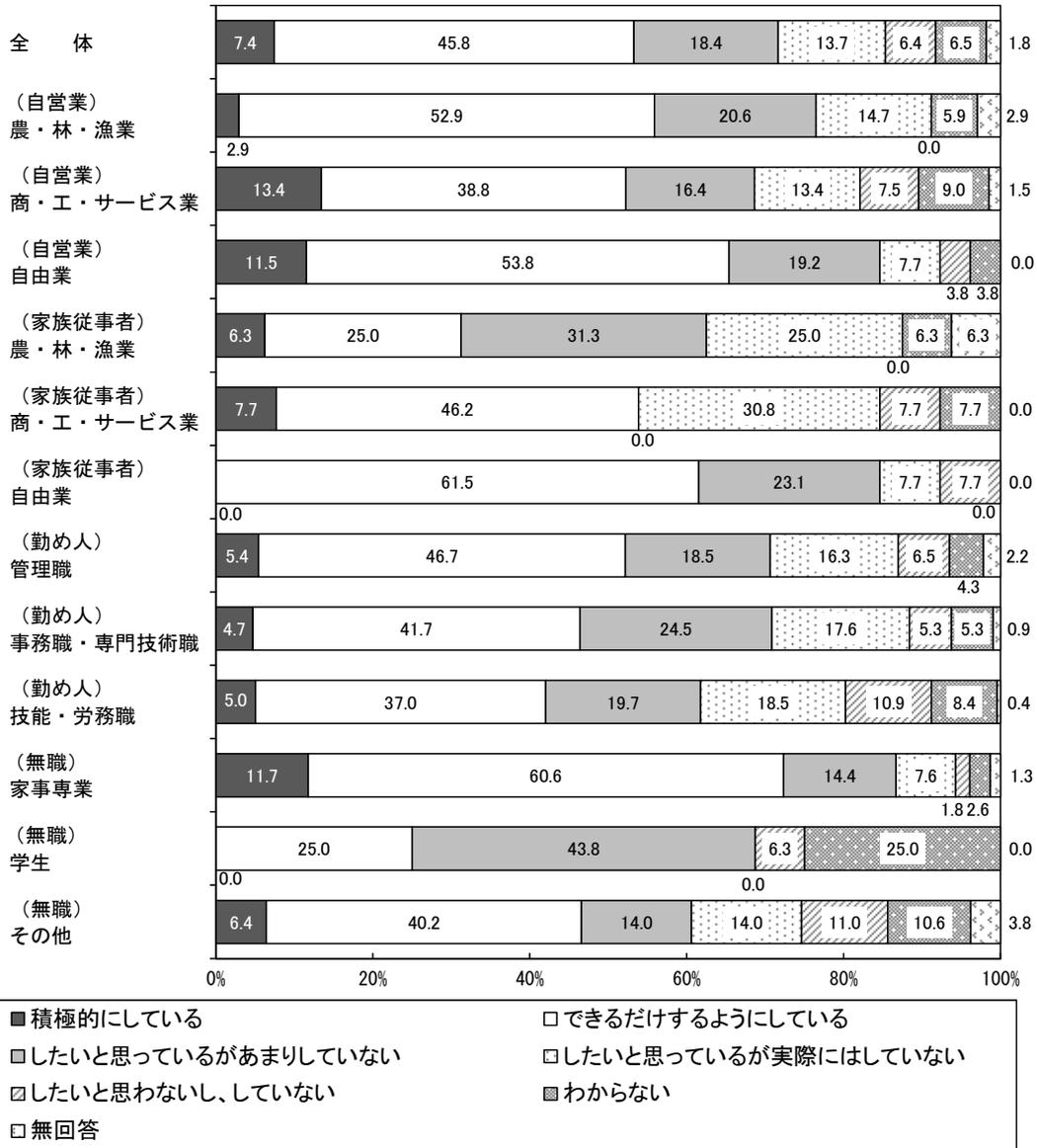
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図3.5 「食育」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

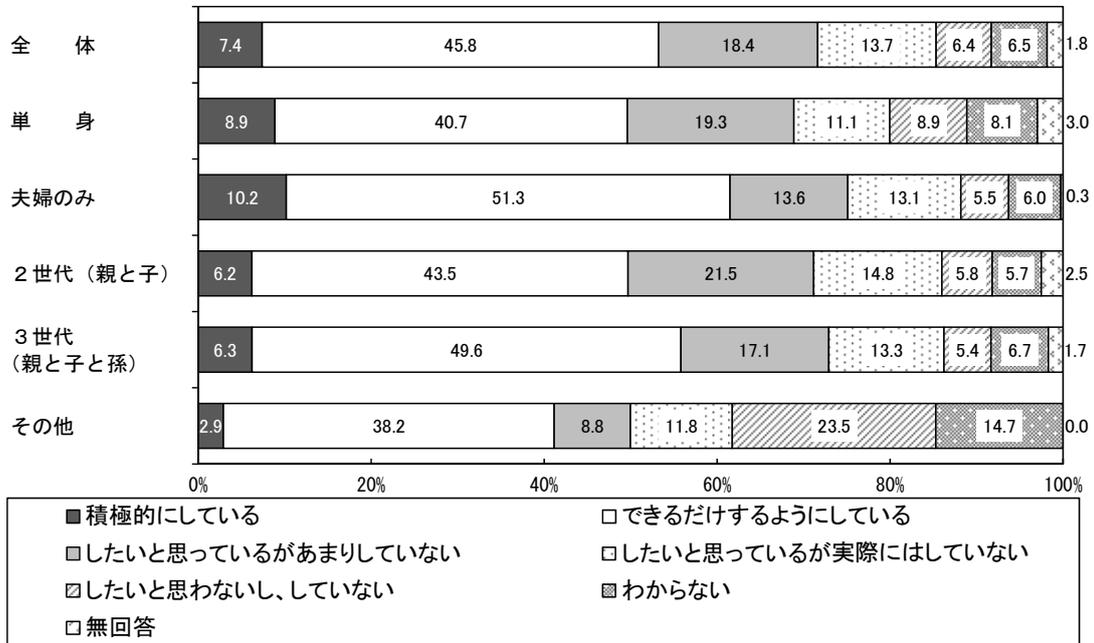
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（61.5%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.3%）でやや高くなっている。

図3.6 「食育」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(3) 食育を実践していない理由

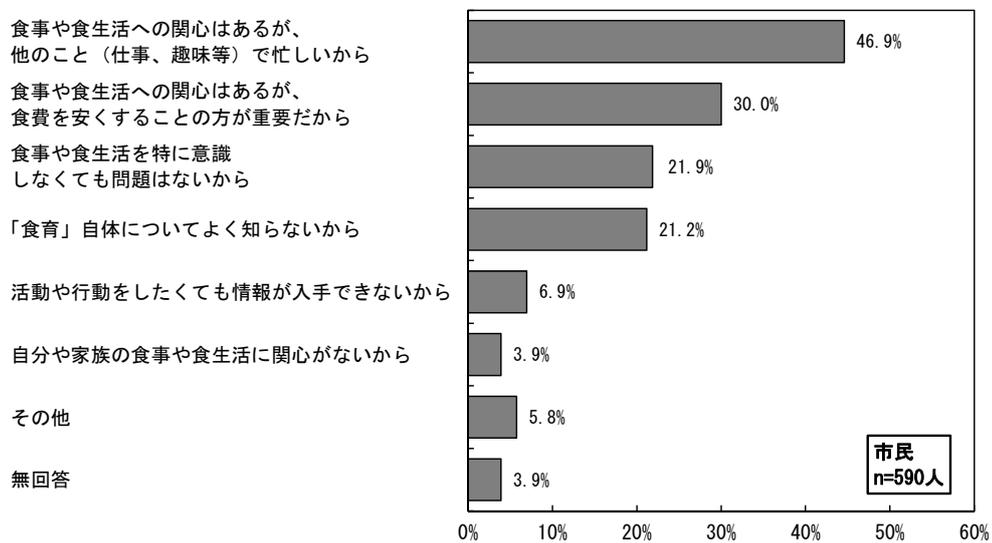
問8-1 あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が5割弱

【全体結果】

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人が5割弱（46.9%）と最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（30.0%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（21.9%）、「食育」自体についてよく知らないから」（21.2%）、「活動や行動をしたくても情報が入手できないから」（6.9%）、と続いている。

図4.1 食育を実践していない理由



全体	他の食事や食生活への関心はあるが、仕事、趣味等で忙しいから	食事や食生活を安くすることの方が重要だが、食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
590	263	177	129	125	41	23	34	23

(人)

【性別・年齢別】

50歳代以下では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。60歳代以上では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」と回答した人が最も多くなっている。

性別では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（男性41.7%、女性49.1%）、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（男性23.4%、女性36.5%）の割合は女性の方が高く、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（男性26.3%、女性16.5%）、「食育」自体についてよく知らないから」（男性25.5%、女性17.5%）の割合は男性の方が高くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	他食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をできないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	590	44.6	30.0	21.9	21.2	6.9	3.9	5.8	3.9
20～29歳	58	55.2	31.0	15.5	24.1	5.2	5.2	3.4	1.7
30～39歳	90	55.6	27.8	10.0	33.3	10.0	5.6	3.3	0.0
40～49歳	110	66.4	30.9	14.5	16.4	5.5	2.7	2.7	0.9
50～59歳	103	49.5	35.0	17.5	22.3	7.8	1.9	5.8	1.0
60～69歳	116	31.9	31.9	33.6	18.1	8.6	6.0	7.8	1.7
70歳以上	107	15.0	21.5	35.5	17.8	3.7	2.8	10.3	15.9
年齢不明	6	66.7	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7

対象者：人／回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	他の食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしなくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	278	41.7	23.4	26.3	25.5	6.1	5.4	4.0	2.2
20～29歳	22	50.0	22.7	13.6	31.8	4.5	4.5	4.5	0.0
30～39歳	40	50.0	20.0	12.5	40.0	7.5	10.0	2.5	0.0
40～49歳	50	64.0	20.0	22.0	22.0	8.0	6.0	0.0	0.0
50～59歳	55	49.1	27.3	14.5	30.9	1.8	1.8	9.1	0.0
60～69歳	60	25.0	30.0	35.0	21.7	10.0	5.0	3.3	1.7
70歳以上	51	21.6	17.6	49.0	13.7	3.9	5.9	3.9	9.8
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	他の食事や食生活への関心はあるが、（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしなくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	285	49.1	36.5	16.5	17.5	8.1	2.8	7.7	4.9
20～29歳	36	58.3	36.1	16.7	19.4	5.6	5.6	2.8	2.8
30～39歳	50	60.0	34.0	8.0	28.0	12.0	2.0	4.0	0.0
40～49歳	57	68.4	40.4	8.8	12.3	3.5	0.0	5.3	1.8
50～59歳	47	51.1	44.7	19.1	12.8	14.9	2.1	2.1	2.1
60～69歳	54	40.7	35.2	29.6	14.8	7.4	7.4	13.0	1.9
70歳以上	41	9.8	26.8	17.1	19.5	4.9	0.0	19.5	24.4
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

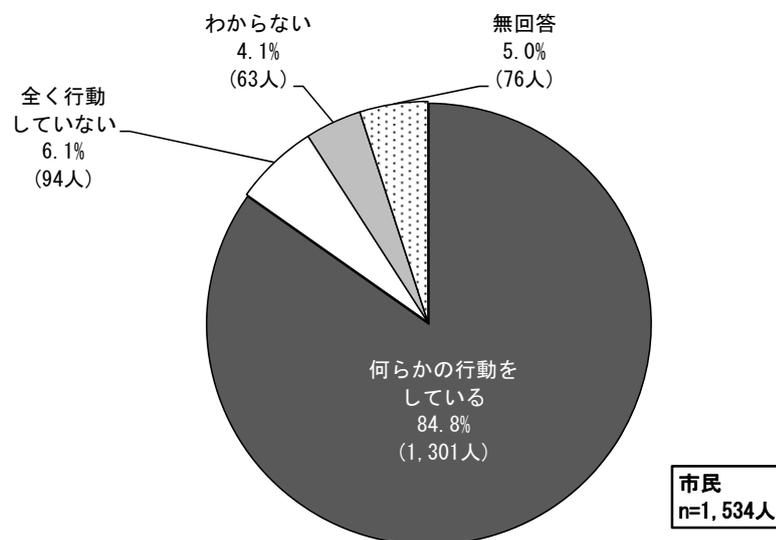
(4) 食べ物を無駄にしないための行動

問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (○は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

【全体結果】

食べ物を無駄にしないための行動については、「何らかの行動をしている」(84.8%)と回答した人が最も多く、以下「全く行動していない」(6.1%)、「わからない」(4.1%)と続いている。



【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、30歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 5.2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

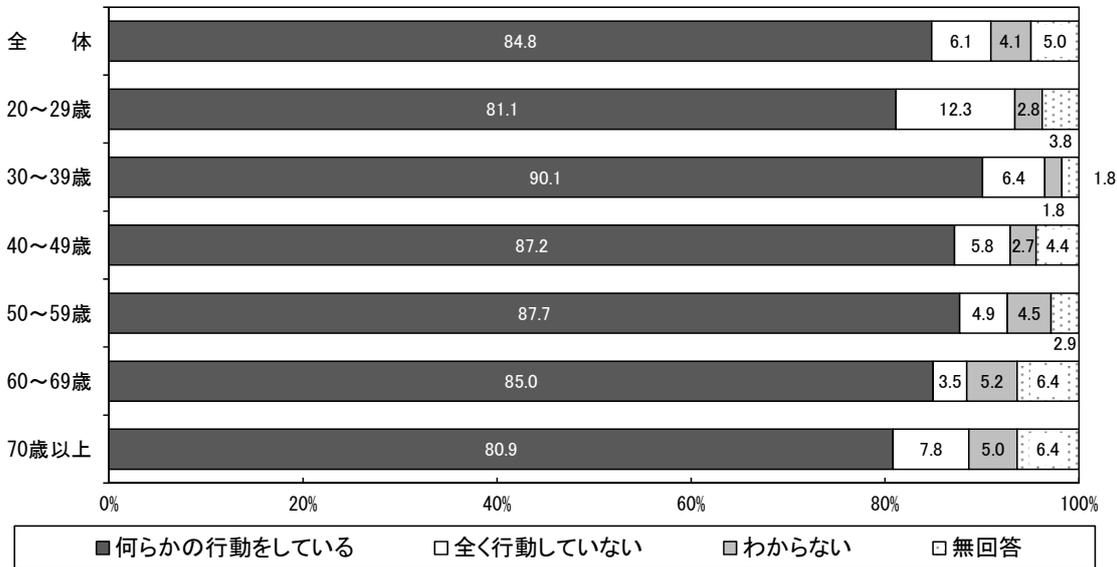
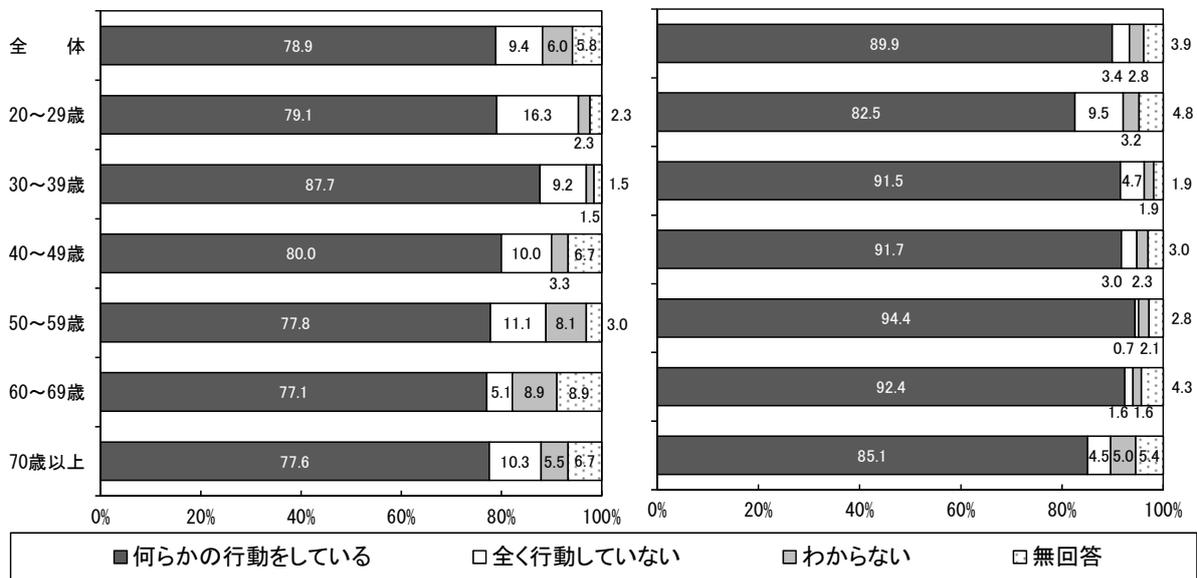


図 5.3 食べ物を無駄にしないための行動
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男 性	620	43	65	90	99	157	165	1
女 性	851	63	106	133	143	184	221	1

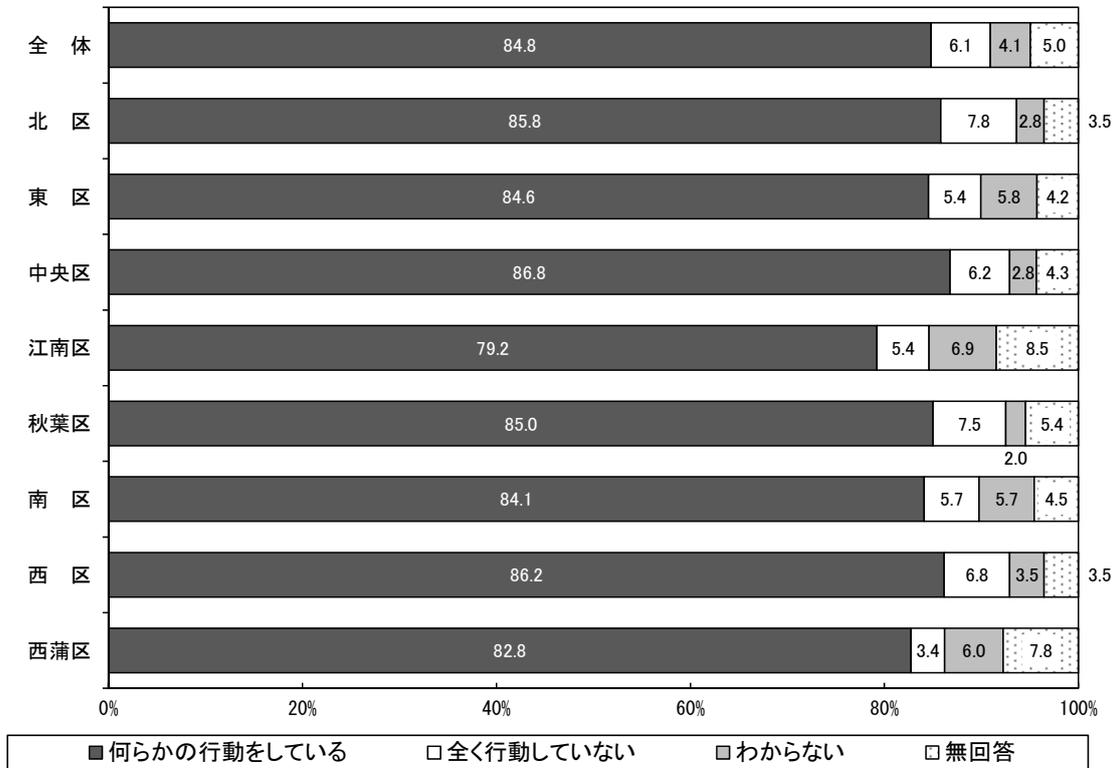
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、中央区（86.8%）で最も高く、9割弱となっている。江南区（79.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 5.4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

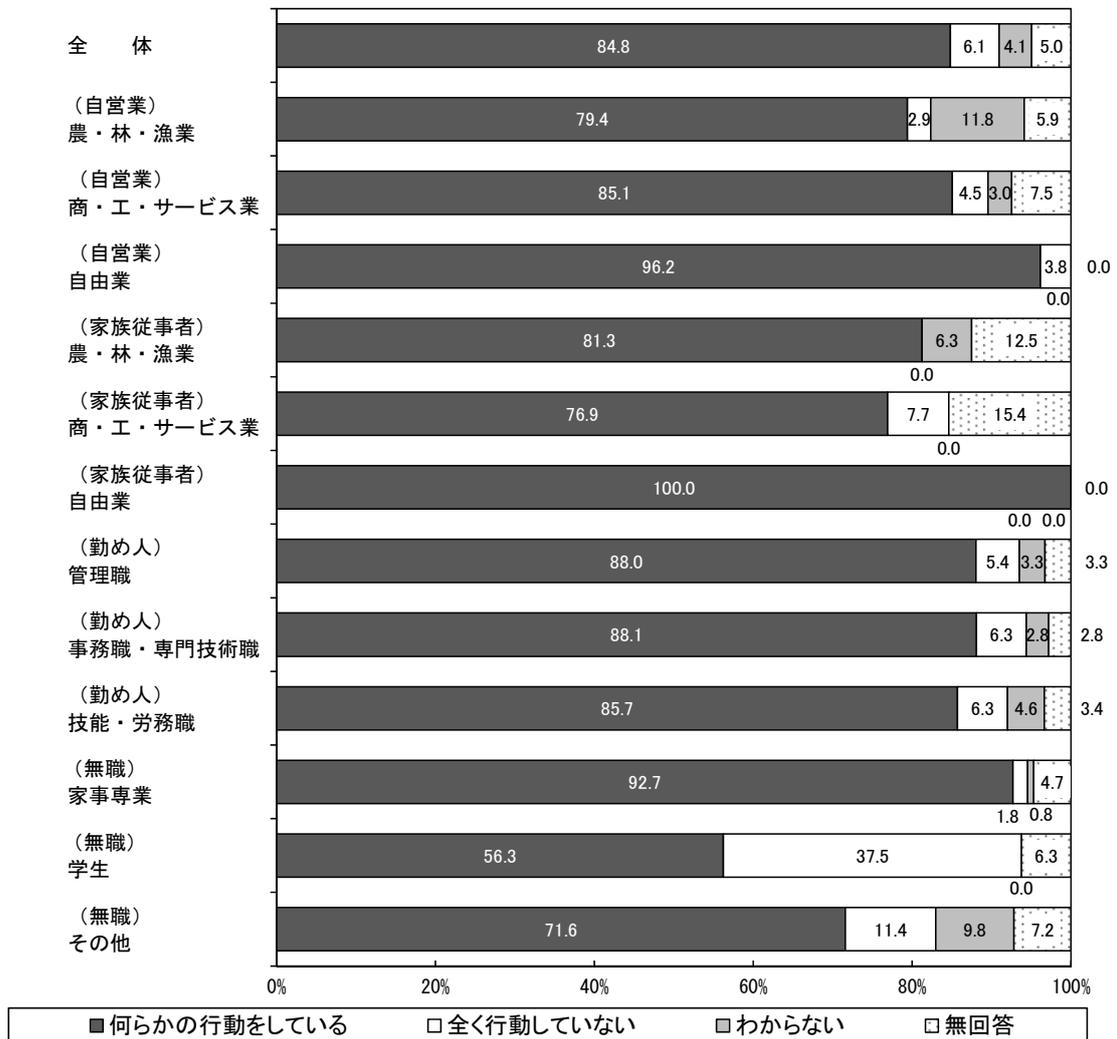
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
1,534	34	67	26	16	13	13		
		勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
	92	319	238	383	16	264	53	

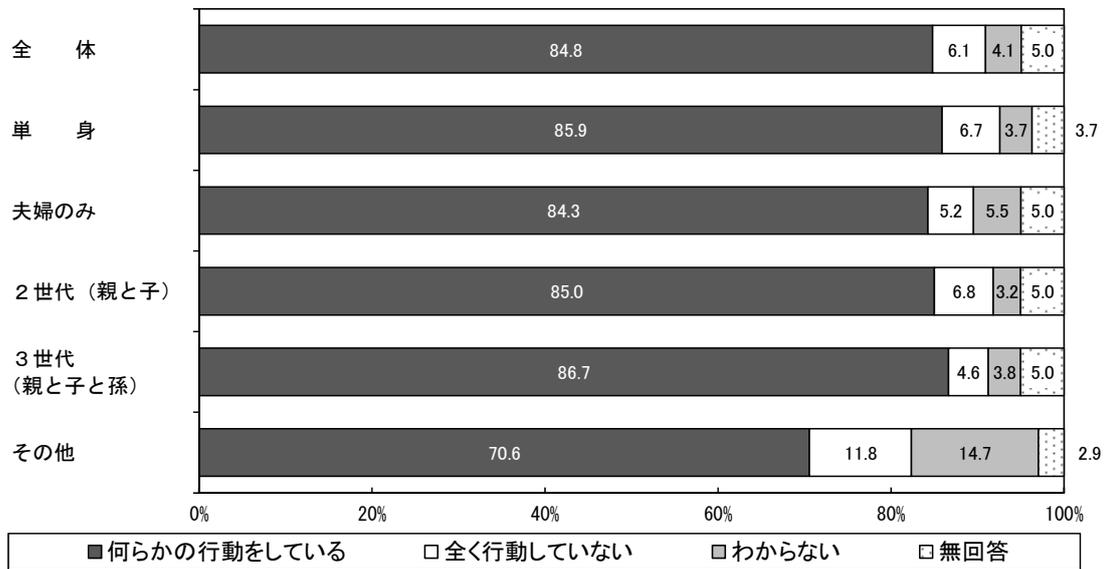
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「何らかの行動をしている」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 5.6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(5) 伝統的な料理や作法の大切さ

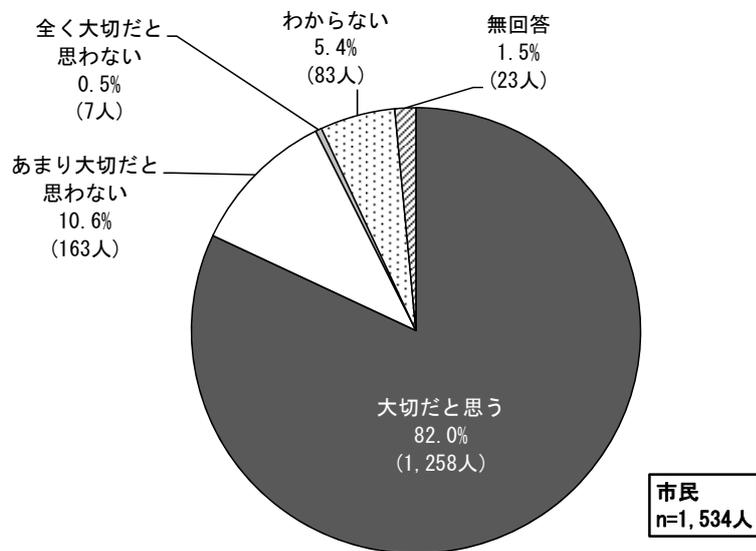
問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。
(○は1つだけ)

8割強が「大切だと思う」と回答

【全体結果】

伝統的な料理や作法の大切さについては、「大切だと思う」(82.0%)と回答した人が最も多く、以下「あまり大切だと思わない」(10.6%)、「わからない」(5.4%)、「全く大切だと思わない」(0.5%)と続いている。

図6.1 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、40歳代（87.6%）で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。

性別では、「大切だと思う」割合は、30歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では女性の方が男性よりも高くなっている。

図 6.2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

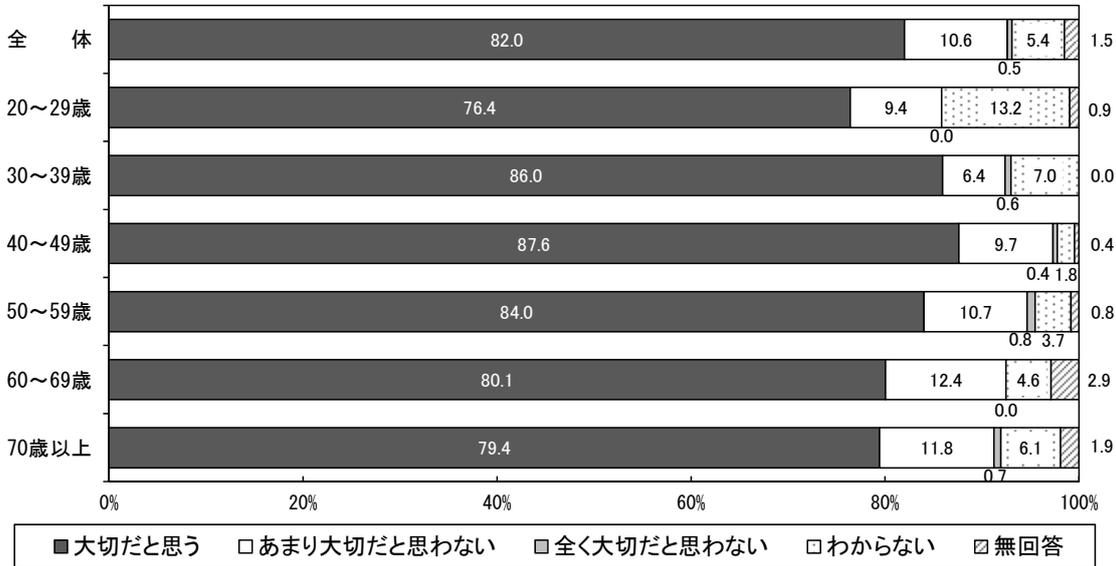
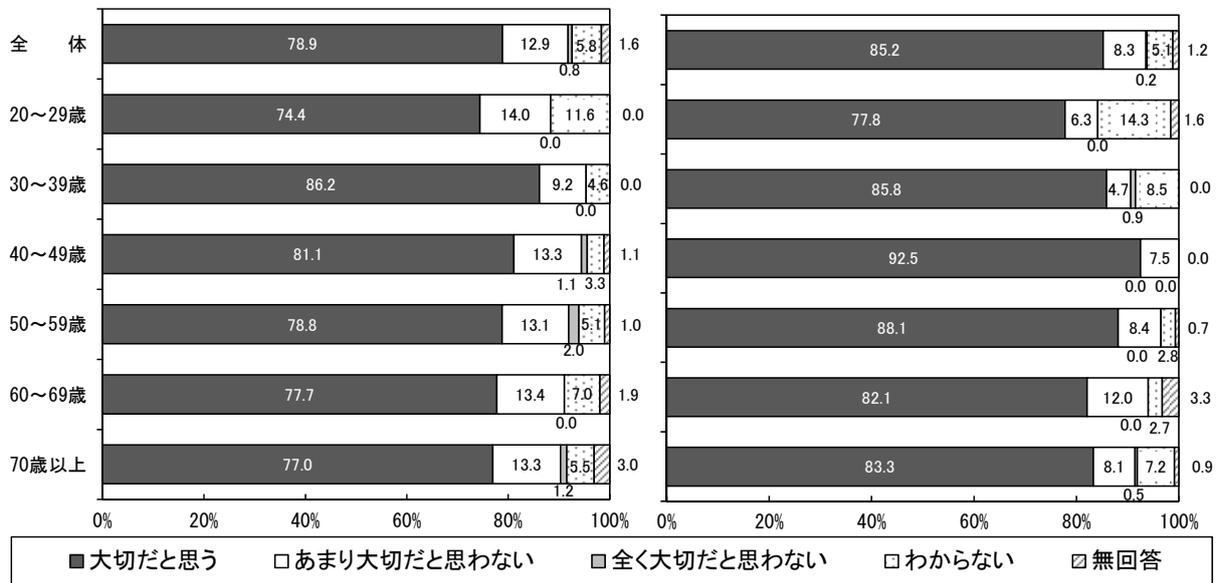


図 6.3 伝統的な料理や作法の大切さ
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

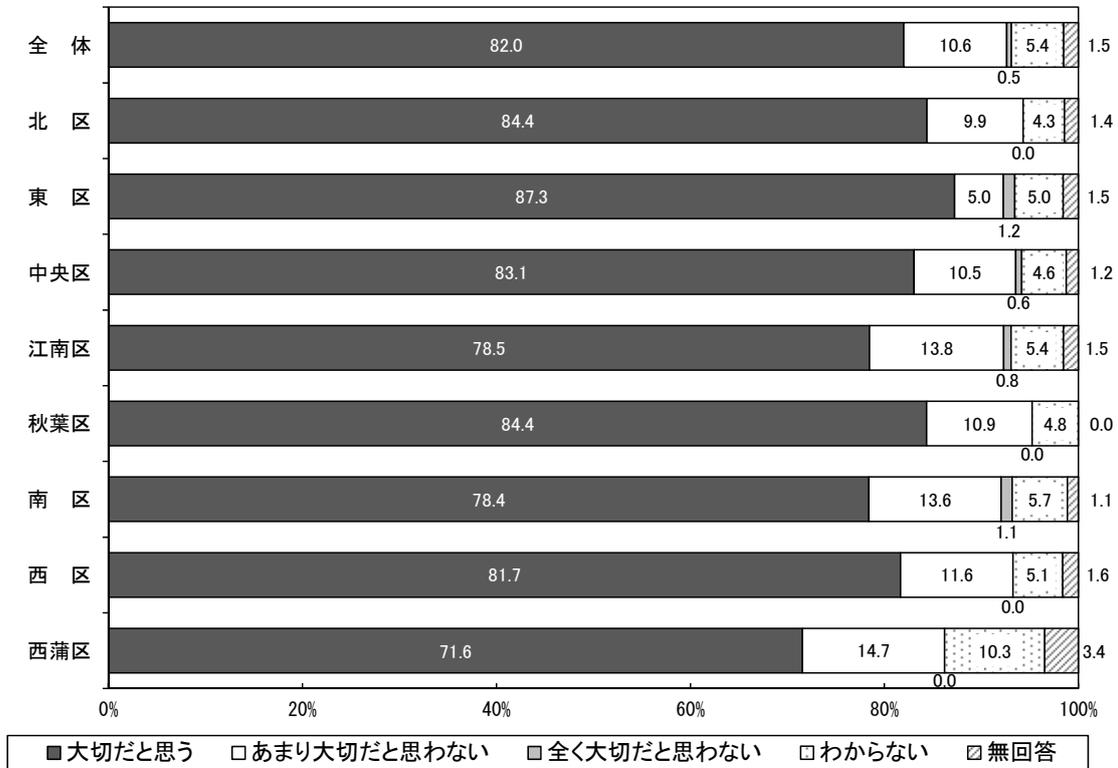
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、東区(87.3%)で最も高く、9割弱となっている。西蒲区(71.6%)では他の地区に比べ低くなっている。

図 6.4 伝統的な料理や作法の大切さ(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

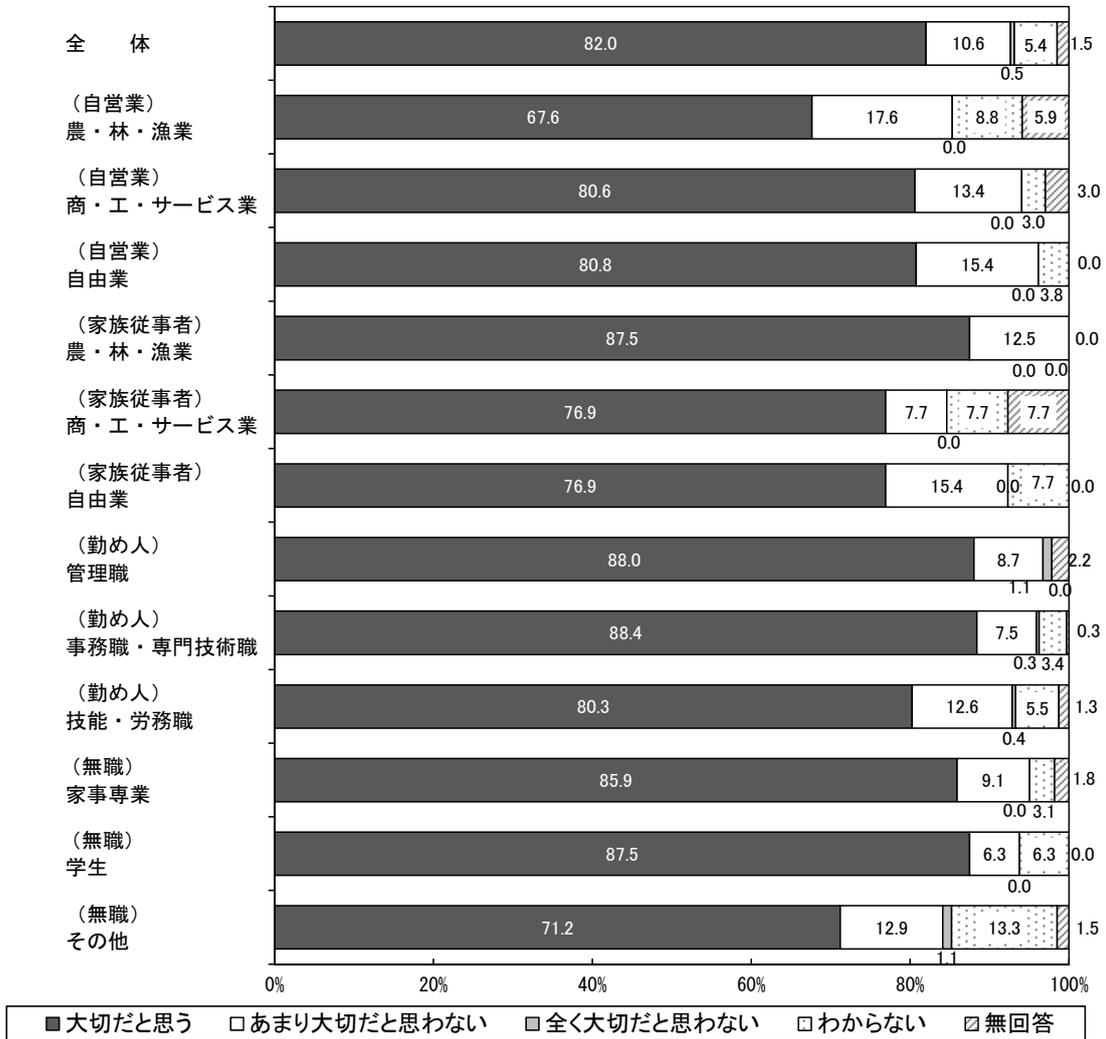
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6.5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人		無職				無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

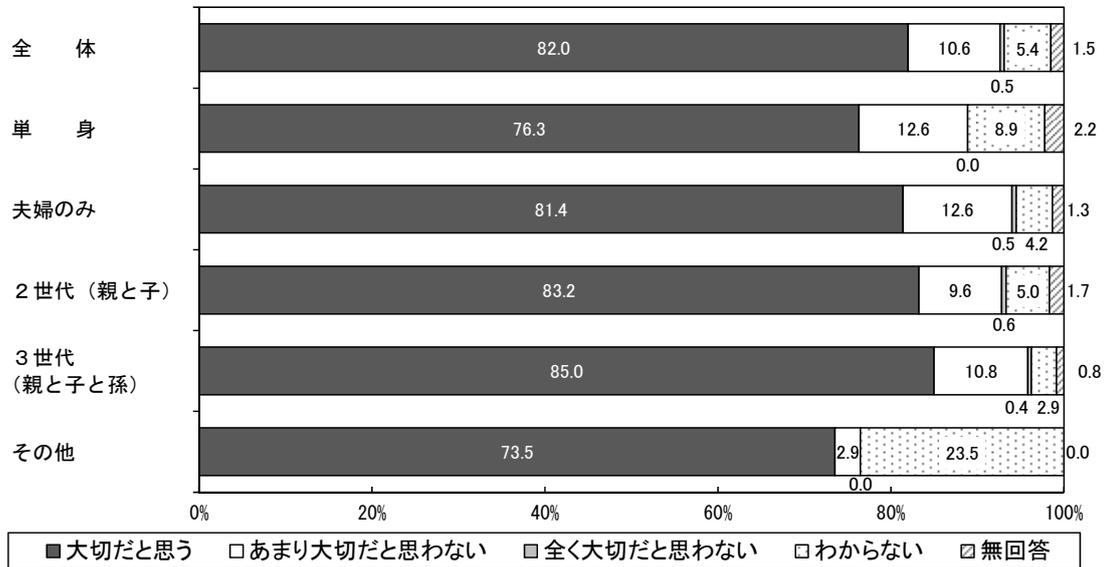
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「大切だと思う」と回答した人の割合が最も高くなっているが、単身（76.3%）とその他（73.5%）でやや低くなっている。

図 6.6 伝統的な料理や作法の大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

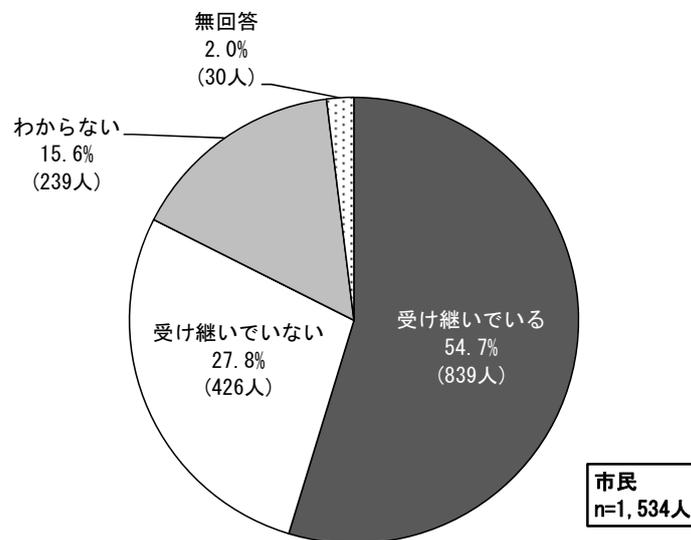
問 11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(○は1つだけ)

5割強が「受け継いでいる」と回答

【全体結果】

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいるかについては、「受け継いでいる」(54.7%)と回答した人が最も多く、以下「受け継いでいない」(27.8%)、「わからない」(15.6%)と続いている。

図 7.1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、40歳代以上で5割を上回っている。一方、「受け継いでいない」は30歳代と40歳代で3割強、「わからない」は20歳代で2割強となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 7.2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

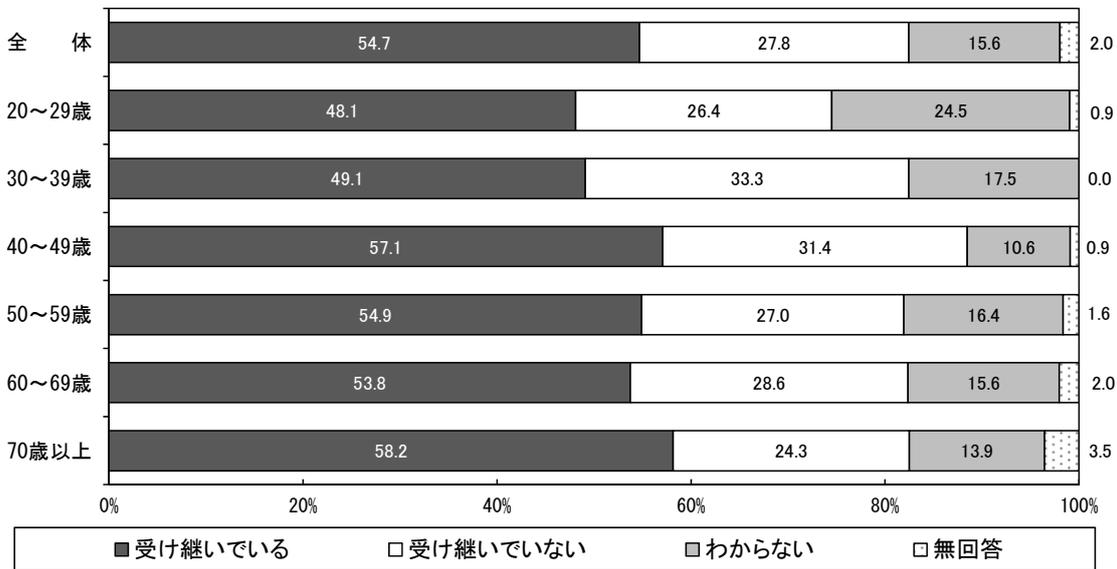
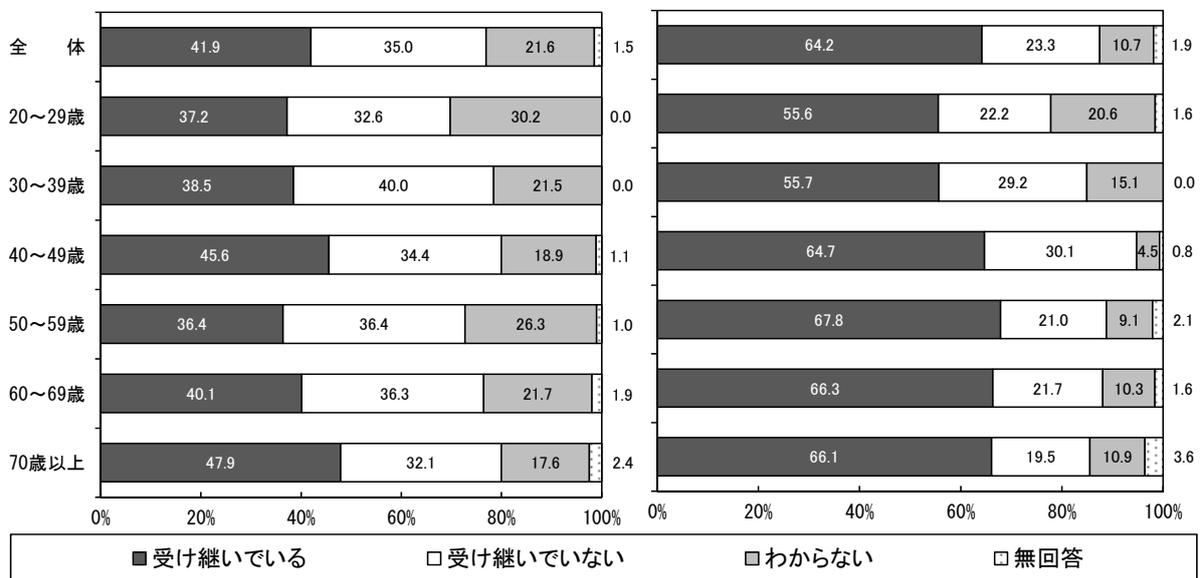


図 7.3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

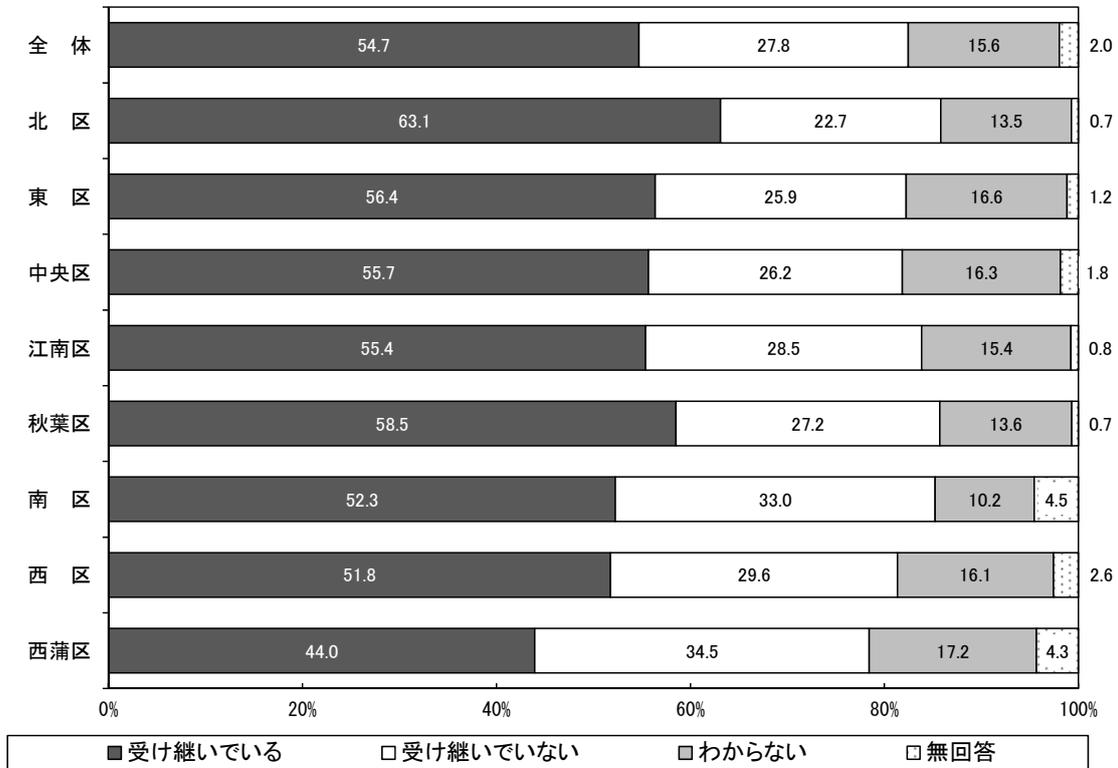
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、北区(63.1%)で最も高く、6割強となっている。西蒲区(44.0%)では他の地区に比べ低くなっている。

図7.4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

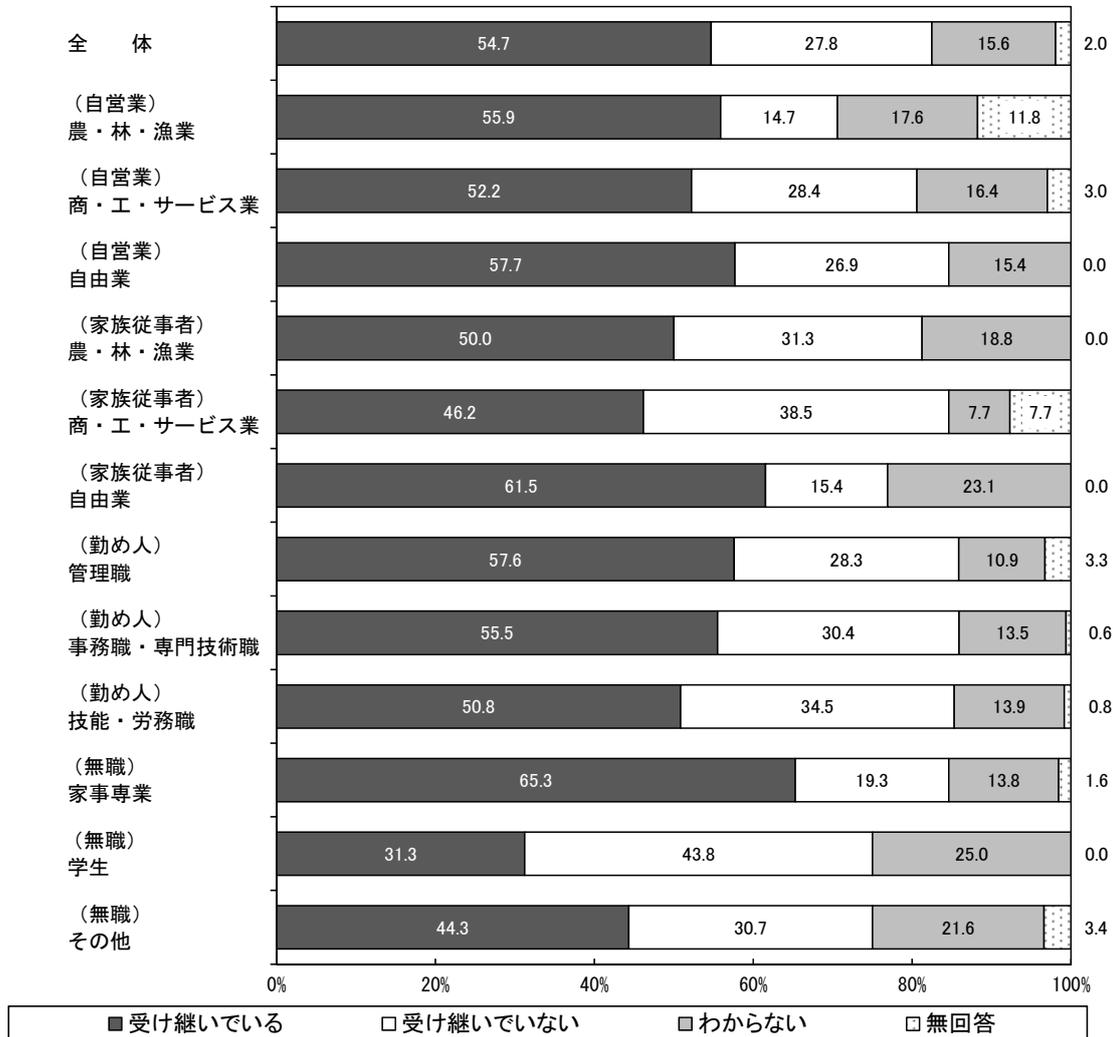
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 7.5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

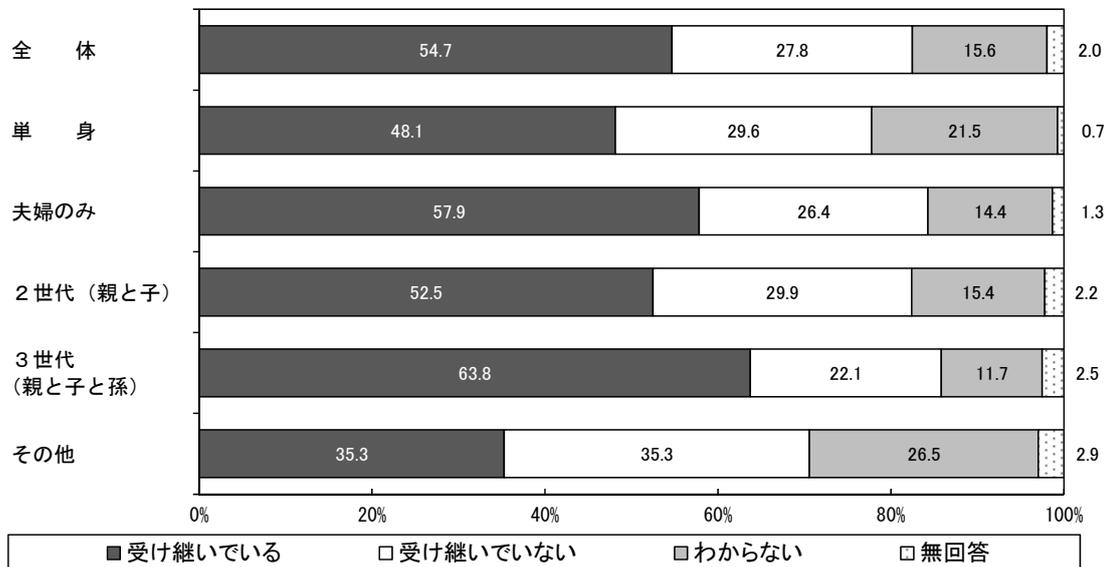
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、3世代（63.8%）で最も高くなっている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、単身（21.5%）とその他（26.5%）でやや高くなっている。

図 7.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

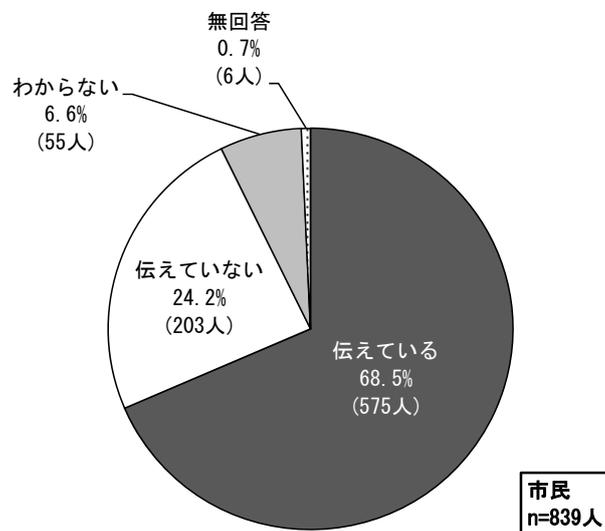
問 11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。（〇は1つだけ）

7割弱が「伝えている」と回答

【全体結果】

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えているかについては、「伝えている」（68.5%）と回答した人が最も多く、以下「伝えていない」（24.2%）、「わからない」（6.6%）と続いている。

図 8.1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなり、50歳代（78.4%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代（56.9%）で6割弱と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、50歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。また、「伝えていない」は20歳代で男女ともに6割弱となっている。

図 8.2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

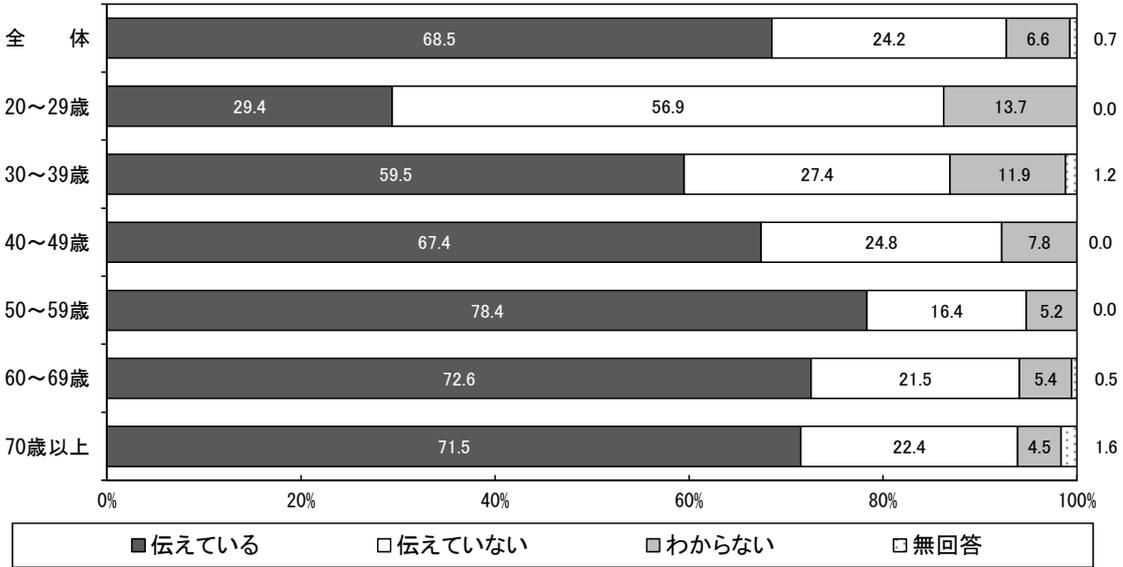
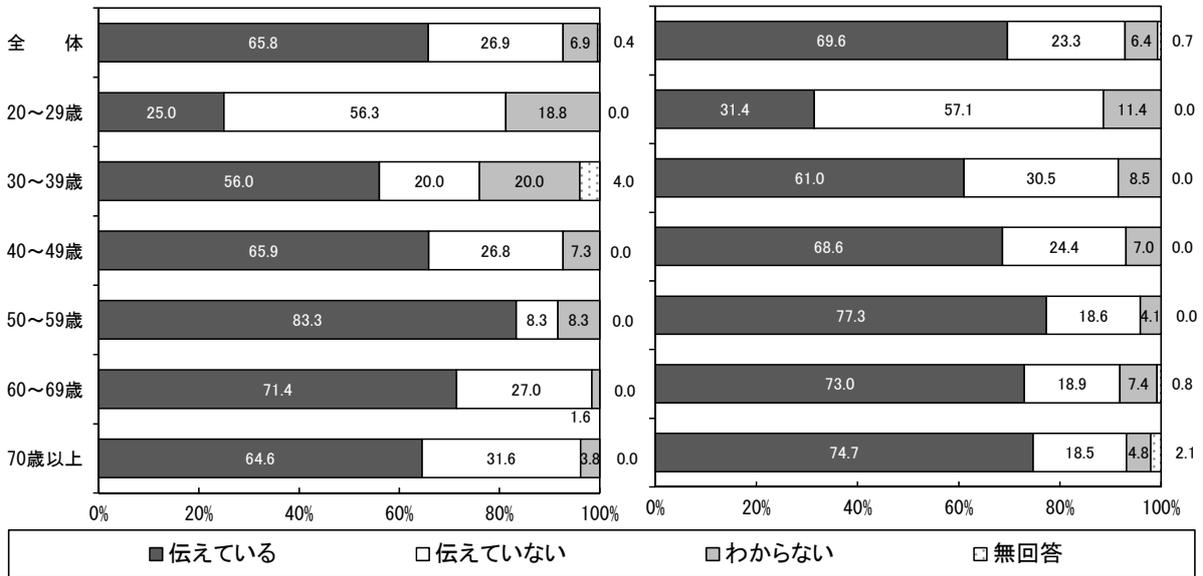


図 8.3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・男性）
（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	839	51	84	129	134	186	246	9
男性	260	16	25	41	36	63	79	0
女性	546	35	59	86	97	122	146	1

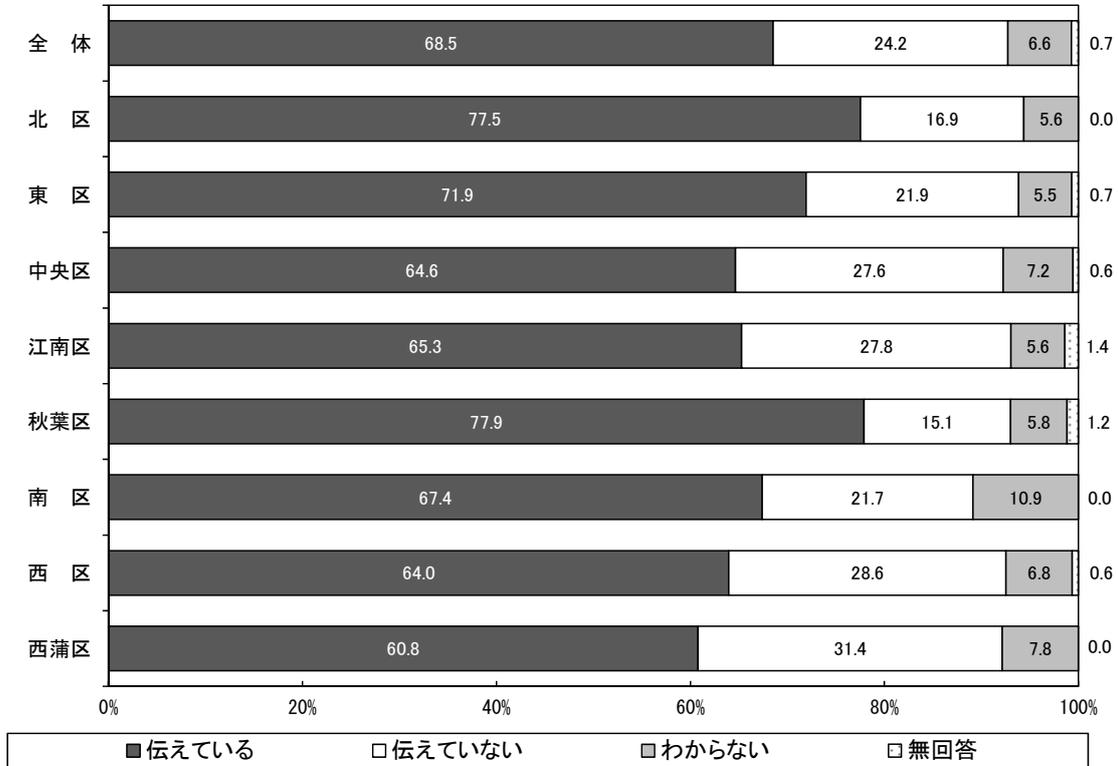
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、秋葉区（77.9%）で最も高く、次いで北区（77.5%）となっており、この2区で8割弱となっている。一方、「伝えていない」は西蒲区（31.4%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 8.4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
839	89	146	181	72	86	46	161	51	7

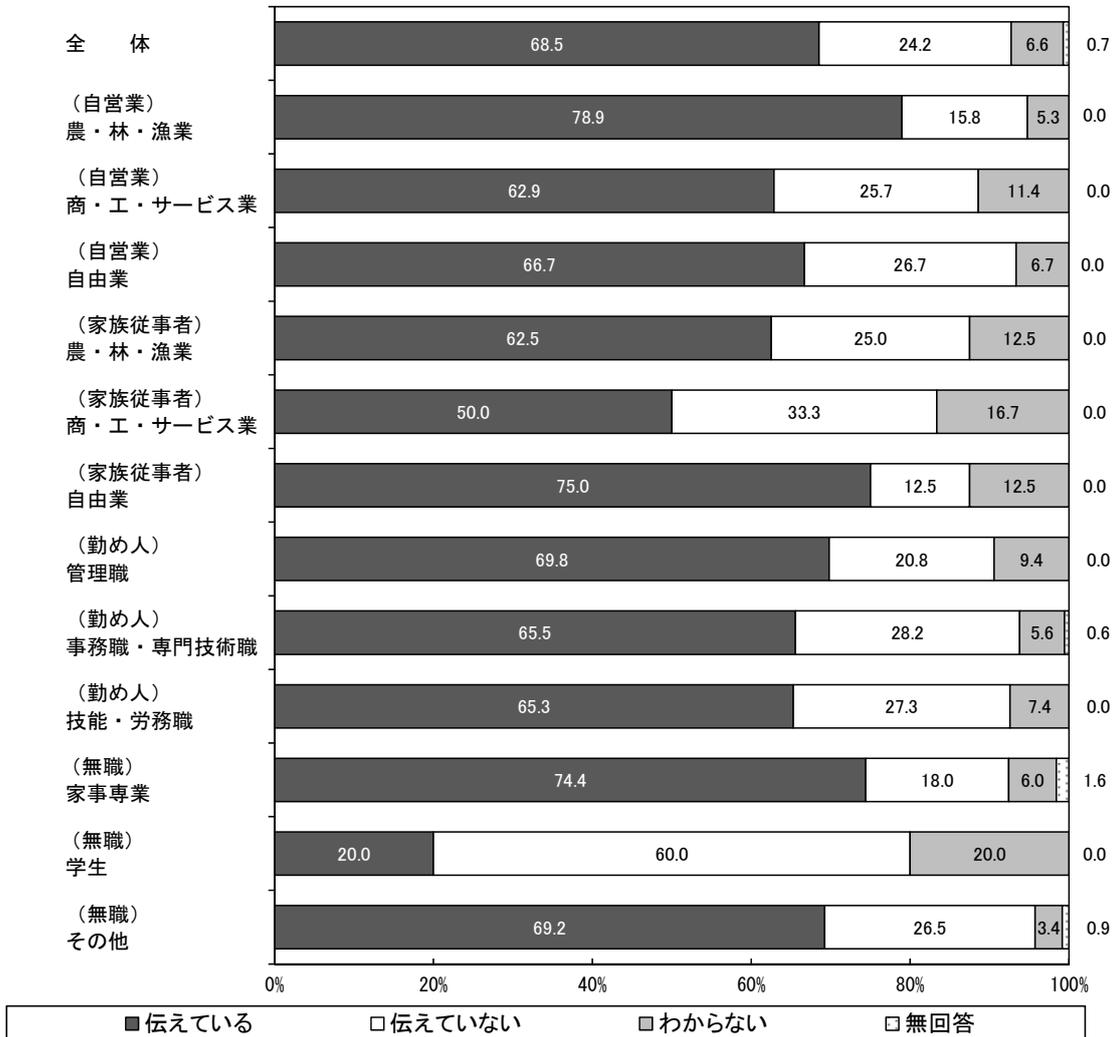
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図8.5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
839	19	35	15	8	6	8	
勤め人			無職			無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
53	177	121	250	5	117	25	

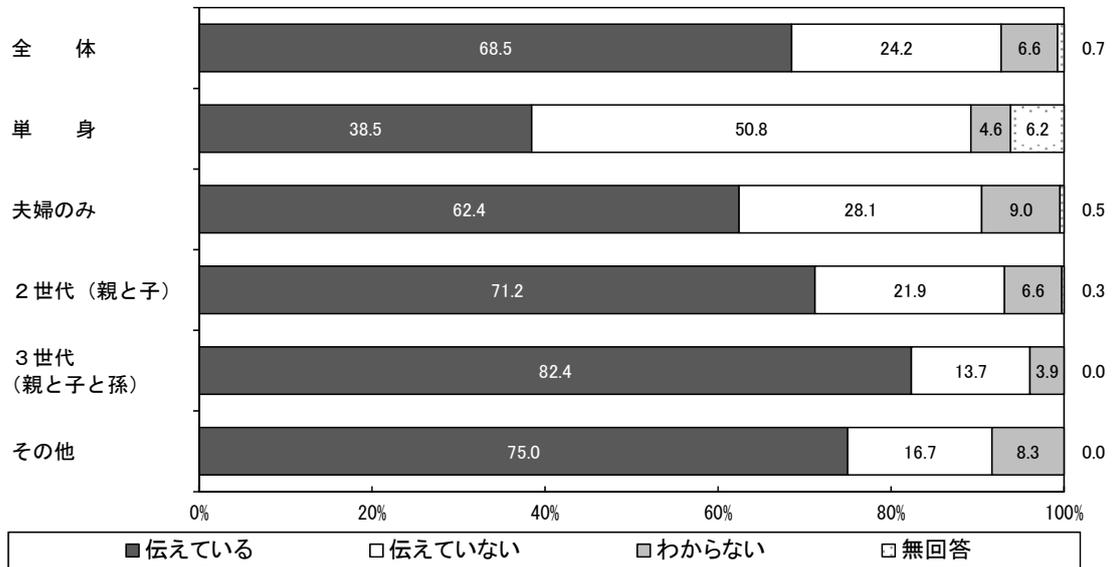
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、3世代（82.4%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（50.8%）で最も高くなっている。

図 8.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
839	65	221	379	153	12	9

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

3 日ごろの食生活の状況

(1) 健全な食生活実践のために参考にしている指針等

問12 あなたは、日ごろの健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。
以下の説明を読んでお答えください。(○はいくつでも)

【食事バランスガイド】

1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの望ましい食事のとり方や
おおよその量を、「コマのイラスト」で示したもの。

【食生活指針】

「主食、主菜、副菜を基本に、食事バランスを」「ごはんなどの穀類をしっかり」と
等、10項目からなる望ましい食生活を実践するための指針。

【日本人の食事摂取基準】

1日の必要なエネルギー量や栄養素の摂取量の目安を示したもの。

【六つの基礎食品】

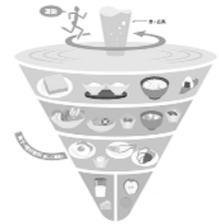
食品を体内での主な働きにより6つ(1～6群)に分類したもの。

- (1群) 魚・肉・卵・大豆
- (2群) 牛乳・乳製品、小魚
- (3群) 緑黄色野菜
- (4群) その他の野菜・果物
- (5群) ご飯・パン・めん・いも
- (6群) 油脂類

【3色分類】

食品を体内での主な働きにより3つ(赤・緑・黄)に分類したもの

- (赤) 魚・肉・卵・大豆、牛乳・乳製品
- (緑) 野菜・果物
- (黄) ご飯・パン・めん、油



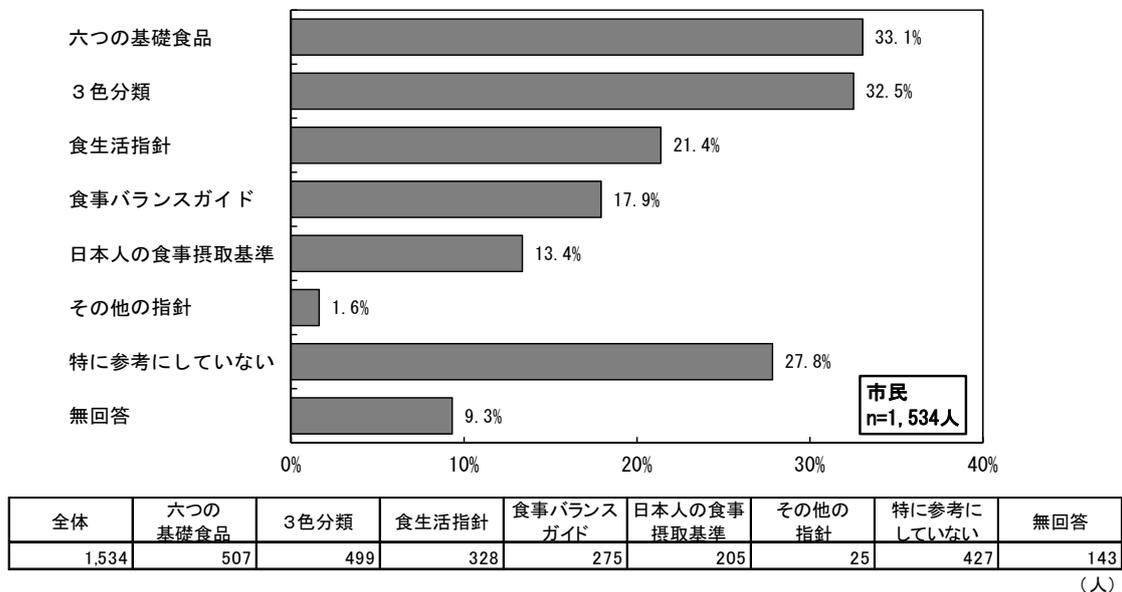
6割強が何らかの指針を参考にしていると回答

【全体結果】

「特に参考にしていない」(27.8%)、「無回答」(9.3%)を除いた、何らかの指針を参考にしていると回答した人の割合は6割強(62.9%)となっている。

その中で、「六つの基礎食品」を参考にしていると回答した人の割合が3割強(33.1%)で最も高く、以下「3色分類」(32.5%)、「食生活指針」(21.4%)と続いている。

図9.1 健全な食生活実践のために参考にしている指針等



【性別・年齢別】

20歳代から40歳代までは「特に参考にしていない」と回答した人の割合が最も高く、50歳代以上では「六つの基礎食品」が最も高くなっている。

性別では、「六つの基礎食品」（男性24.2%、女性40.8%）と「3色分類」（男性24.8%、女性39.4%）で男性より女性の方が参考になっている割合が10ポイント以上高くなっている。一方、「特に参考にしていない」（男性40.5%、女性18.7%）は、男性の方が女性より20ポイント以上高くなっている。

表 2.1 健全な食生活実践のために参考になっている指針等（年齢別・全体）

	対象者	六つの基礎食品	3色分類	食生活指針	食事バランスガイド	日本人の食事摂取基準	その他の指針	特に参考にしていない	無回答
計	1,534	33.1	32.5	21.4	17.9	13.4	1.6	27.8	9.3
20～29歳	106	22.6	28.3	11.3	11.3	16.0	0.0	42.5	2.8
30～39歳	171	25.7	36.3	17.5	14.0	10.5	1.2	35.1	0.6
40～49歳	226	29.2	27.0	25.2	15.5	13.7	2.2	33.6	3.1
50～59歳	244	37.7	37.3	27.0	18.9	13.9	1.2	26.2	4.9
60～69歳	346	41.3	38.7	22.3	20.8	16.8	1.4	23.7	7.5
70歳以上	423	31.7	27.9	19.9	19.6	10.4	2.1	22.2	21.3
年齢不明	18	22.2	16.7	11.1	16.7	16.7	5.6	33.3	22.2

対象者：人／回答：%

表 2.2 健全な食生活実践のために参考になっている指針等（年齢別・男性）

	対象者	六つの基礎食品	3色分類	食生活指針	食事バランスガイド	日本人の食事摂取基準	その他の指針	特に参考にしていない	無回答
計	620	24.2	24.8	16.6	16.6	13.1	1.5	40.5	8.1
20～29歳	43	14.0	18.6	4.7	14.0	11.6	0.0	55.8	4.7
30～39歳	65	16.9	20.0	10.8	13.8	10.8	3.1	44.6	1.5
40～49歳	90	16.7	15.6	18.9	13.3	14.4	2.2	50.0	3.3
50～59歳	99	18.2	28.3	16.2	14.1	10.1	0.0	46.5	5.1
60～69歳	157	34.4	31.2	18.5	20.4	19.1	1.3	34.4	8.3
70歳以上	165	27.9	25.5	19.4	18.2	9.7	1.8	31.5	15.8
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 2.3 健全な食生活実践のために参考になっている指針等（年齢別・女性）

	対象者	六つの基礎食品	3色分類	食生活指針	食事バランスガイド	日本人の食事摂取基準	その他の指針	特に参考にしていない	無回答
計	851	40.8	39.4	25.0	18.8	13.5	1.6	18.7	8.7
20～29歳	63	28.6	34.9	15.9	9.5	19.0	0.0	33.3	1.6
30～39歳	106	31.1	46.2	21.7	14.2	10.4	0.0	29.2	0.0
40～49歳	133	38.3	34.6	30.1	17.3	13.5	2.3	22.6	2.3
50～59歳	143	51.7	43.4	34.3	21.0	16.8	2.1	12.6	4.9
60～69歳	184	48.4	46.2	26.1	21.2	15.2	1.6	13.6	6.5
70歳以上	221	37.1	32.1	19.5	21.3	10.0	2.3	15.4	22.6
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

対象者：人／回答：%

【地区別】

各地区とも、「六つの基礎食品」「3色分類」を回答した人が多くなっている。一方、「特に参考にしていない」の割合は、最も高い南区（30.7%）で3割強、最も低い中央区（25.8%）で3割弱となっている。

表 2.4 健全な食生活実践のために参考にしている指針等（地区別）

	対象者	六つの基礎食品	3色分類	食生活指針	食事バランスガイド	日本人の食事摂取基準	その他の指針	特に参考にしていない	無回答
計	1,534	33.1	32.5	21.4	17.9	13.4	1.6	27.8	9.3
北 区	141	29.8	34.8	23.4	13.5	12.1	2.8	27.7	9.2
東 区	259	33.2	34.7	22.4	17.8	13.5	1.9	26.3	8.9
中央区	325	32.3	35.7	23.4	19.1	14.5	2.2	25.8	8.9
江南区	130	30.8	33.8	17.7	20.0	15.4	0.8	30.0	6.9
秋葉区	147	35.4	30.6	17.0	17.0	15.0	0.0	29.9	8.2
南 区	88	37.5	28.4	21.6	12.5	12.5	0.0	30.7	9.1
西 区	311	35.7	31.5	23.2	21.5	12.5	1.3	28.0	10.3
西蒲区	116	30.2	25.0	17.2	14.7	10.3	2.6	28.4	10.3
地区不明	17	17.6	17.6	11.8	11.8	11.8	5.9	35.3	29.4

対象者:人/回答:%

(2) 「地産地消」の実践度

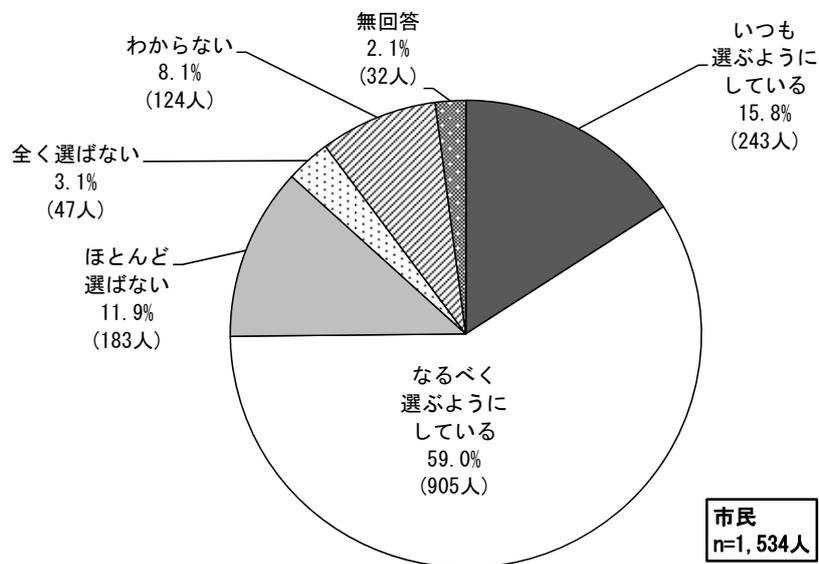
問13 あなたは食材を選ぶ際に、身近な場所でとれたもの選ぶようになっていますか。
(○は1つだけ)

7割強が「いつも選ぶようになっている」「なるべく選ぶようになっている」と回答

【全体結果】

「いつも選ぶようになっている」(15.8%)、「なるべく選ぶようになっている」(59.0%)を合わせると、7割強(74.8%)の人が食材を選ぶ際に身近な場所でとれたもの選ぶ、いわゆる「地産地消」を実践している。

図10.1 「地産地消」の実践度



【性別・年齢別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、20歳代で4割台、30歳代で6割台、40歳代と70歳以上で7割台、50歳代と60歳代8割台と、60歳代までは年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

一方、20歳代では「ほとんど選ばない」、「全く選ばない」の割合が比較的高く、地産地消を実践していない人が3割台となっている。

性別では、各年代とも、女性の方が男性よりも地産地消の実践度は高くなっている。

図 10.2 「地産地消」の実践度（年齢別・全体）

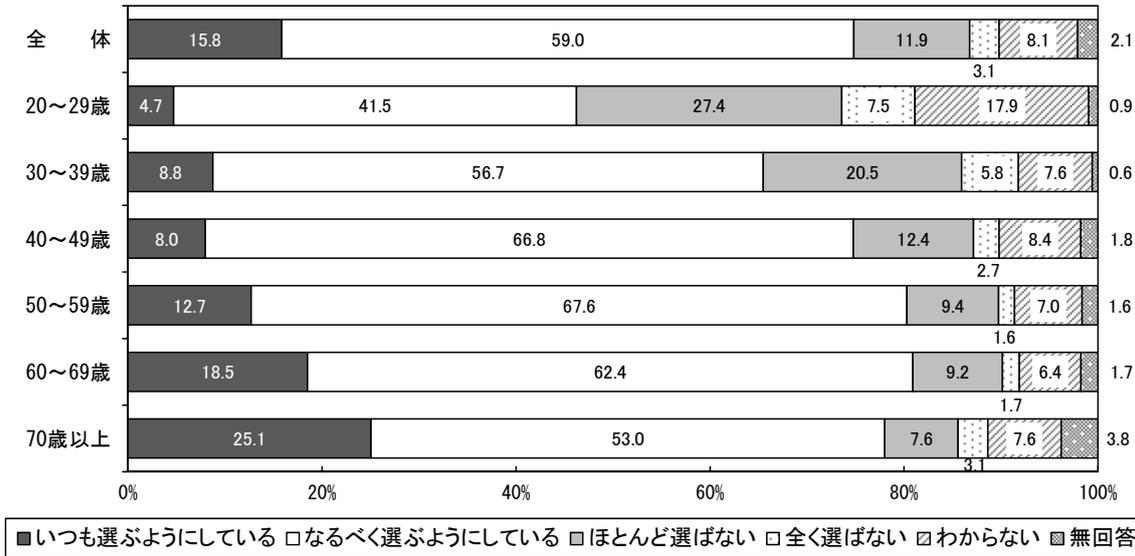
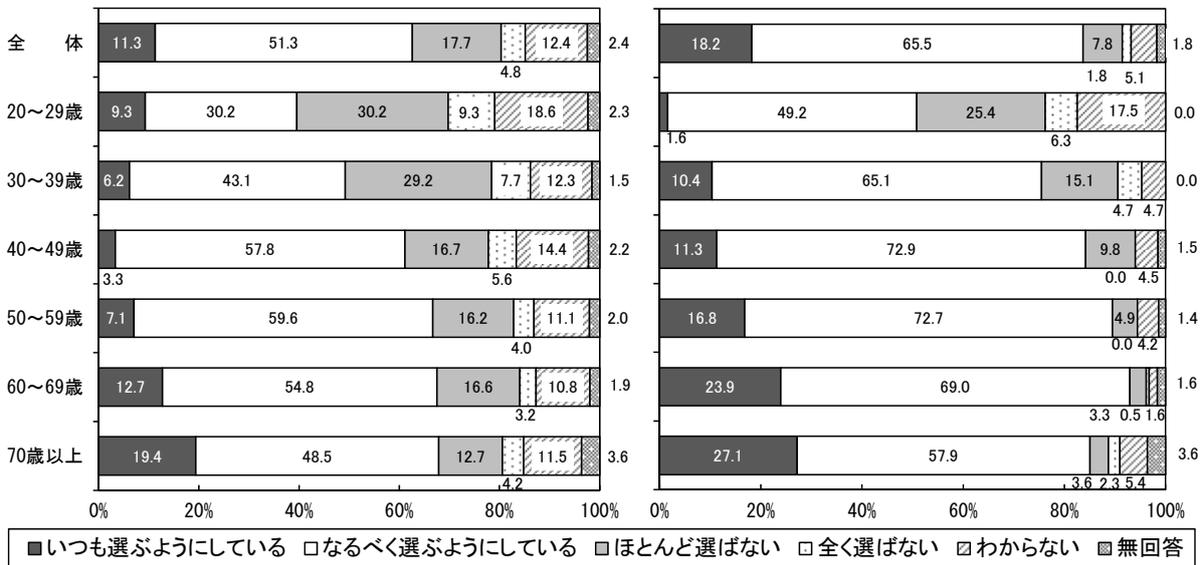


図 10.3 「地産地消」の実践度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

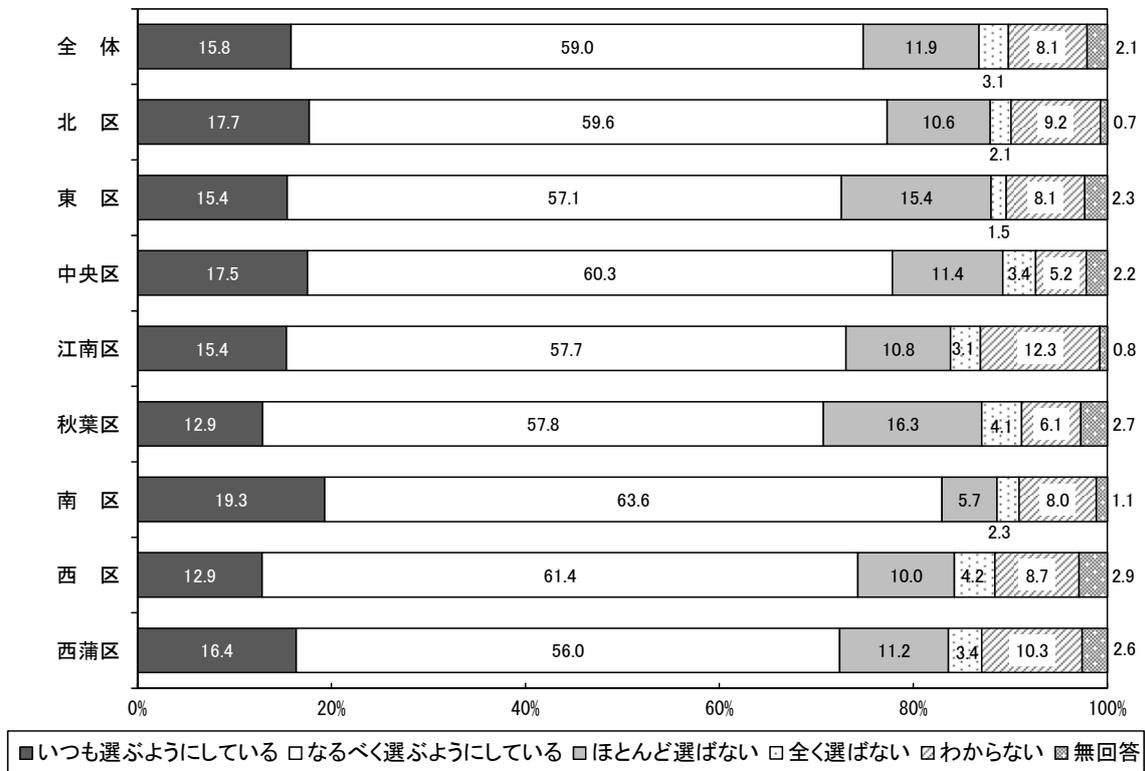
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、南区(82.9%)で最も高く、唯一8割を上回っている。

図 10.4 「地産地消」の実践度(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

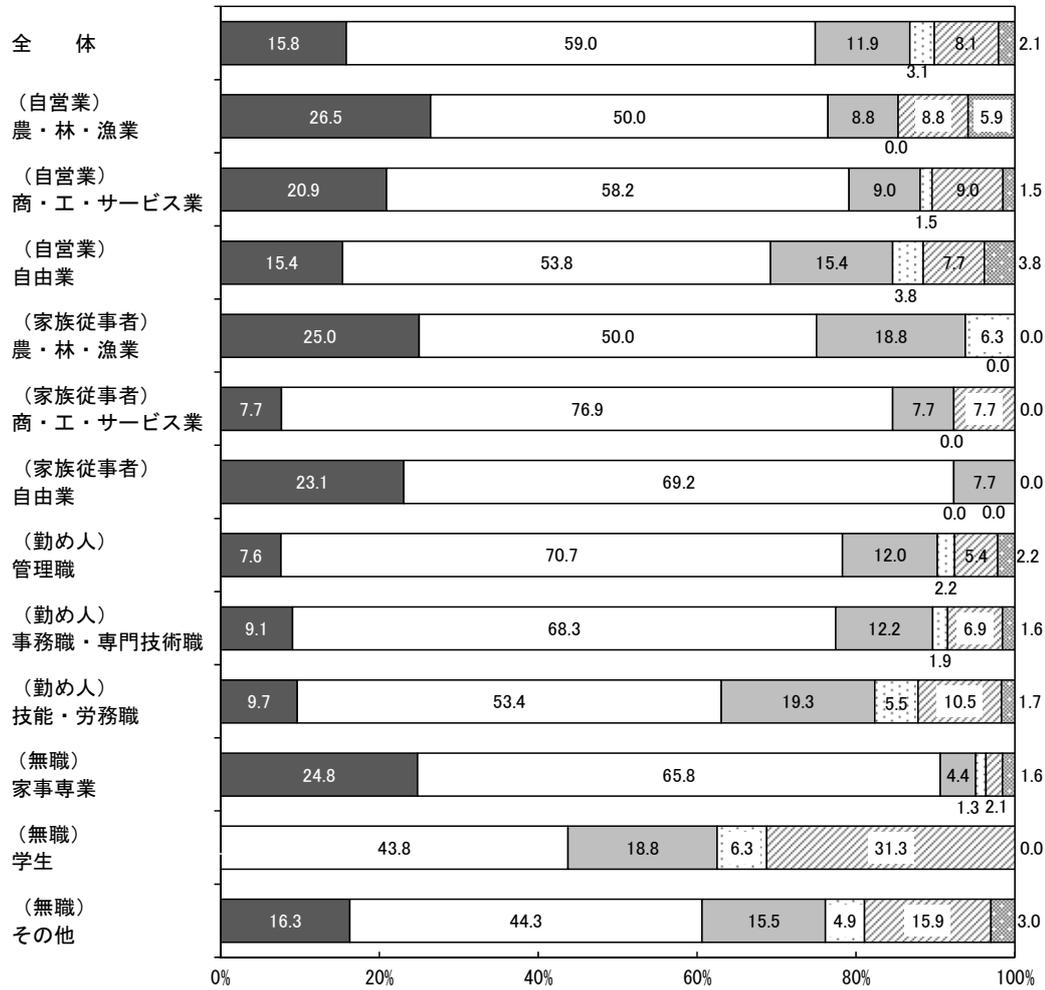
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 10.5 「地産地消」の実践度（職業別）



■いつも選ぶようにしている □なるべく選ぶようにしている □ほとんど選ばない □全く選ばない □わからない □無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

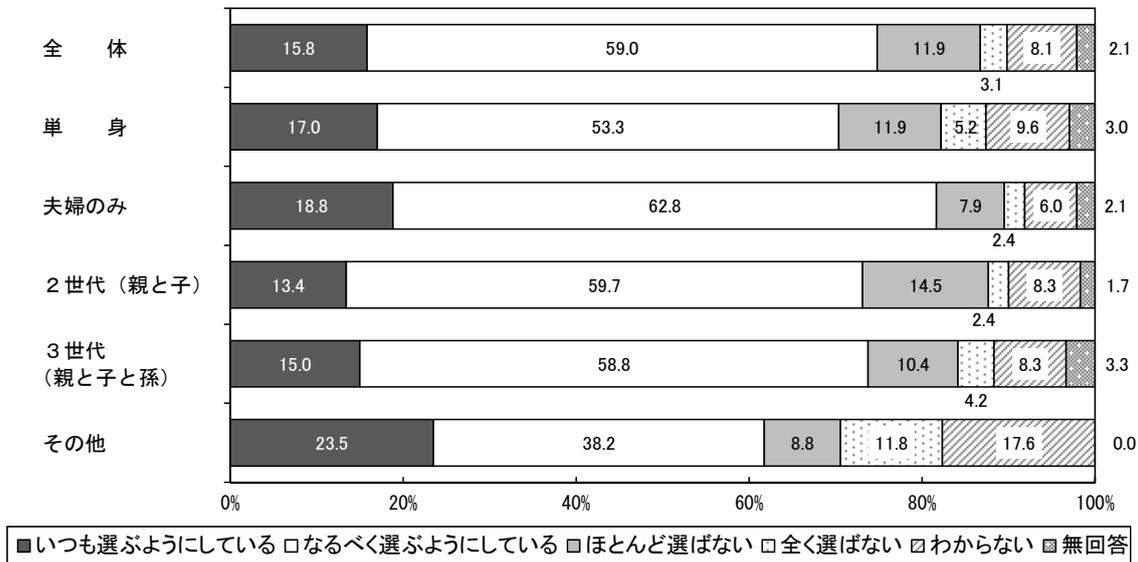
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、夫婦のみ（81.6%）で最も高くなっている。

図 10.6 「地産地消」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(3) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数

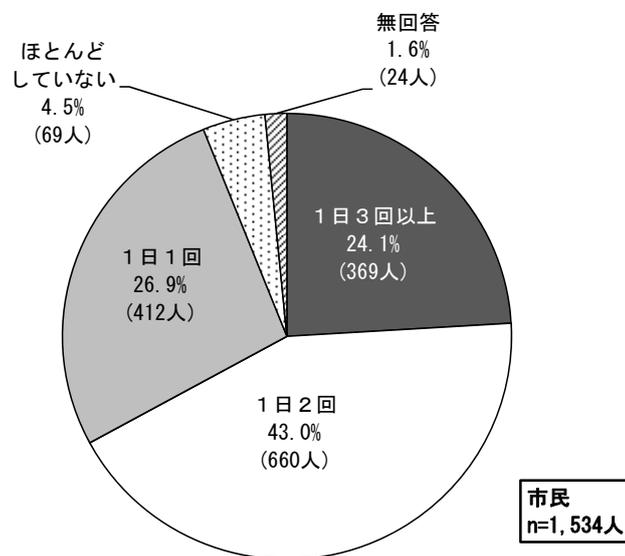
問 14 あなたは日ごろ、主食（ごはん、パン、麺）・主菜（肉、魚、卵、大豆・大豆製品）・副菜（野菜、海藻、きのこ、いも）のそろった食事を、1日に何回していますか。（○は1つだけ）

7割弱が「1日2回」以上と回答

【全体結果】

「1日3回以上」(24.1%)、「1日2回」(43.0%)を合わせると、7割弱(67.1%)の人がバランスのとれた食事を1日2回以上実践している。

図 11.1 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数



【性別・年齢別】

主食・主菜・副菜のそろった食事を「1日3回以上」実践している人の割合は、20歳代から40歳代で1割台、50歳代と60歳代で2割台、70歳以上（33.3%）で最も高く3割台と、年齢が上がるにつれて概ね高くなる傾向が見られる。

一方、30歳代以下では「1日1回」、「ほとんどしていない」の割合が高く、主食・主菜・副菜のそろった食事が実践できていない人が5割前後となっている。

図 11.2 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（年齢別・全体）

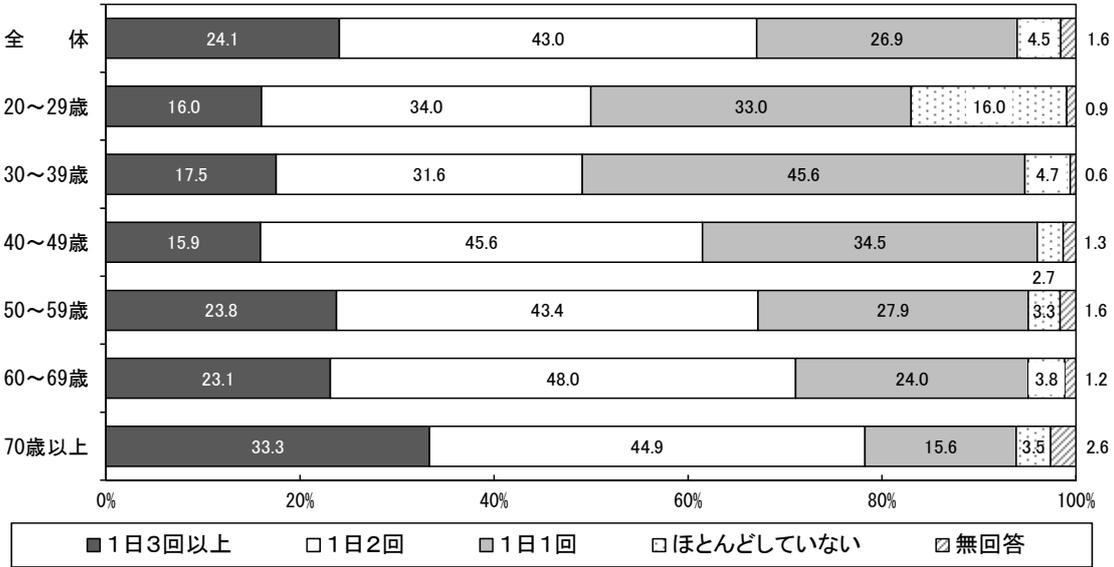
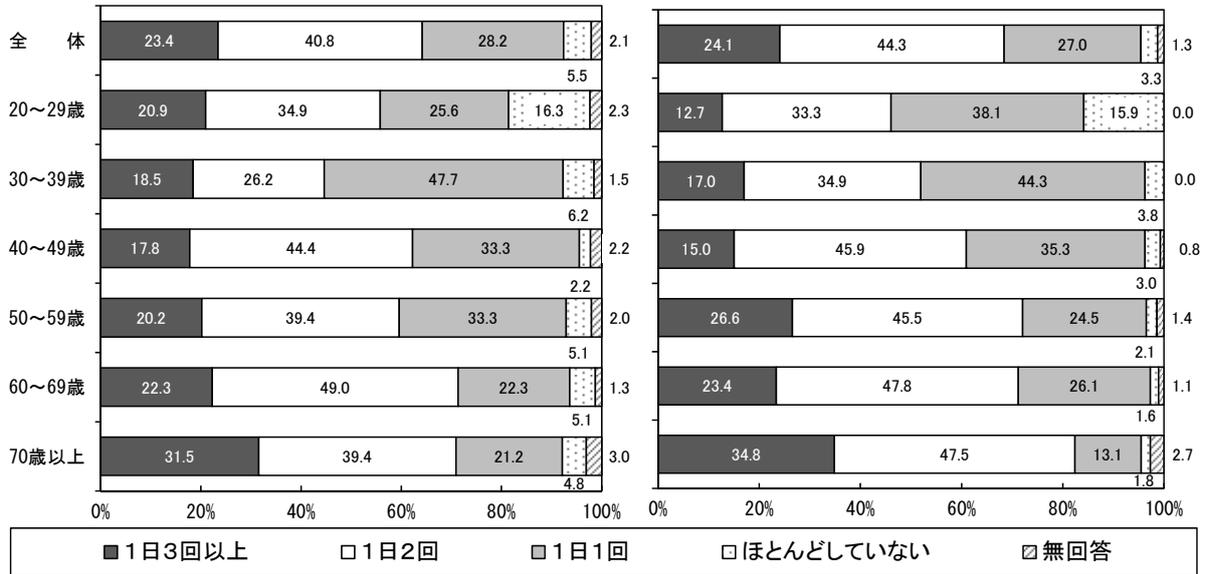


図 11.3 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

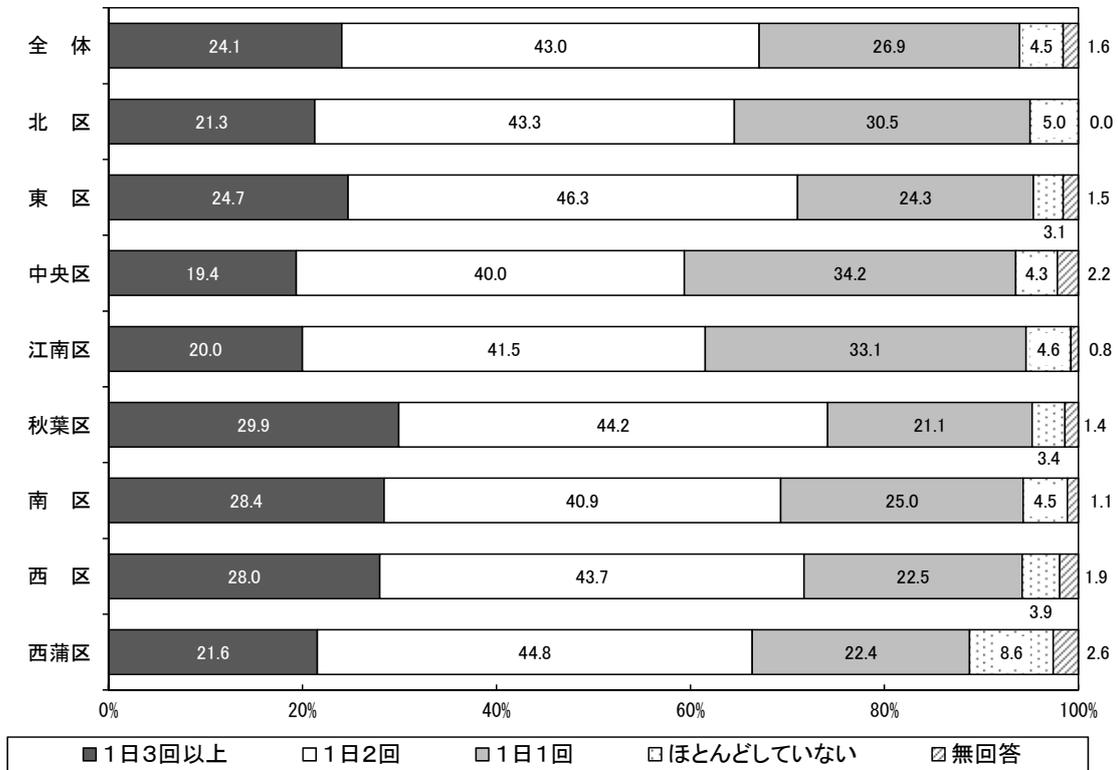
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事を1日2回以上実践している人の割合は、秋葉区(74.1%)で最も高くなっている。

図 11.4 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

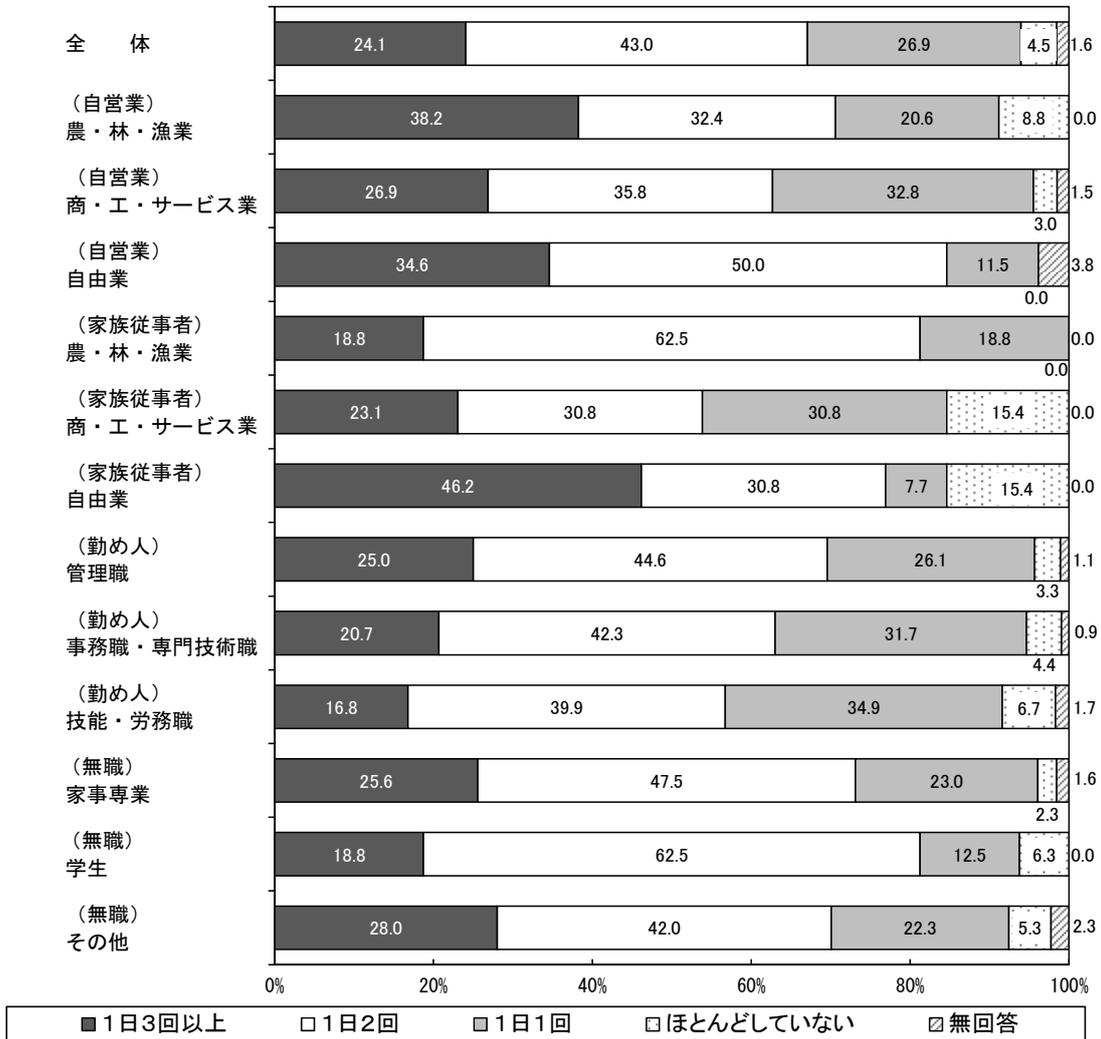
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 11.5 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人			無職			無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

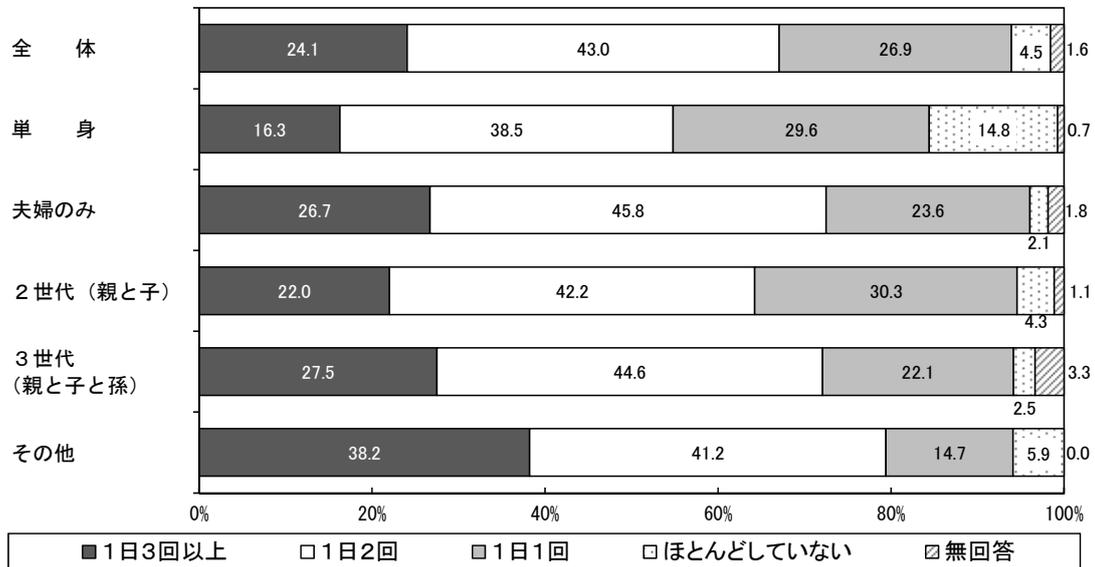
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「1日3回以上」「1日2回」と回答した人の割合は、その他（79.4%）で最も高くなっている。一方、「ほとんどしていない」と回答した人の割合は、単身（14.8%）で他の家族構成に比べ高くなっている。

図 11.6 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(4) 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度

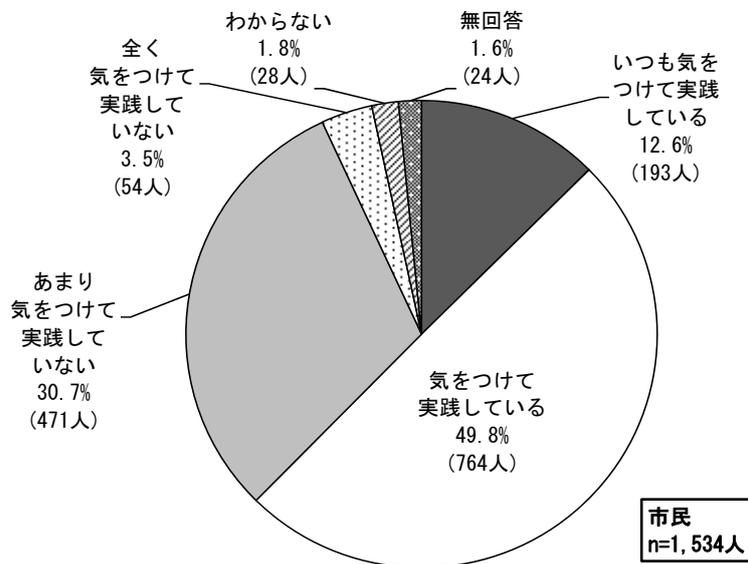
問 15 生活習慣予防や改善のために、あなたは普段から適正体重の維持や減塩、野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つだけ)

6割強が「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答

【全体結果】

「いつも気をつけて実践している」(12.6%)、「気をつけて実践している」(49.8%)を合わせると、6割強(62.4%)の人が生活習慣予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩、野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践している。

図 12.1 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度



【性別・年齢別】

「いつも気をつけて実践している」、「気をつけて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、20歳代で4割台、30歳代と40歳代で5割台、50歳代以上で6割台と推移し、70歳以上（69.7%）で最も高くなっており、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

一方、20歳代では「あまり気をつけて実践していない」、「全く気をつけて実践していない」の割合が高く、生活習慣予防や改善を意識した食生活を実践できていない人が6割弱となっている。

図 12.2 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（年齢別・全体）

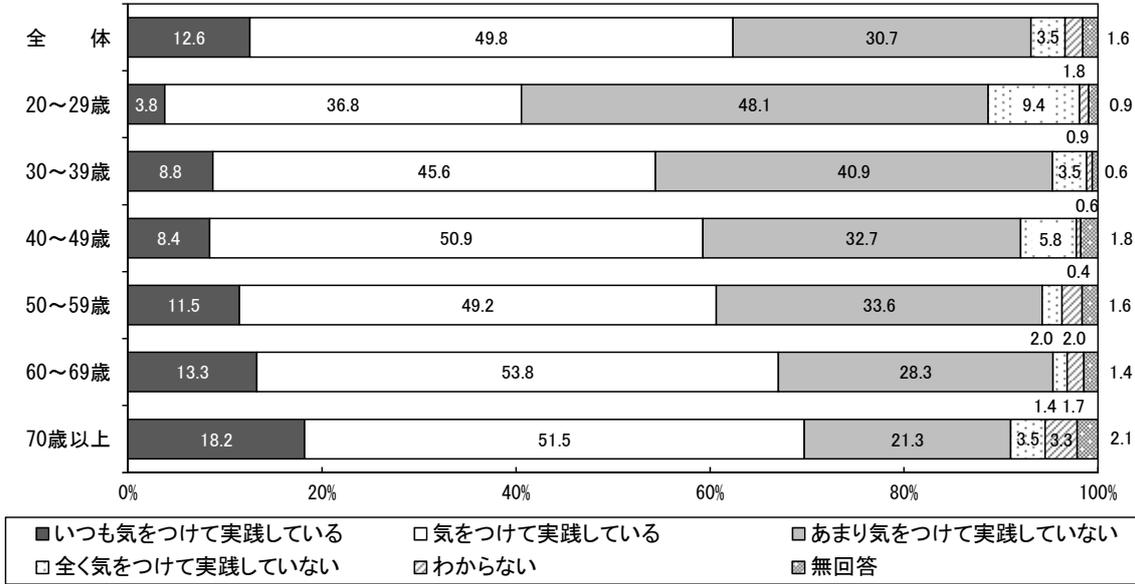
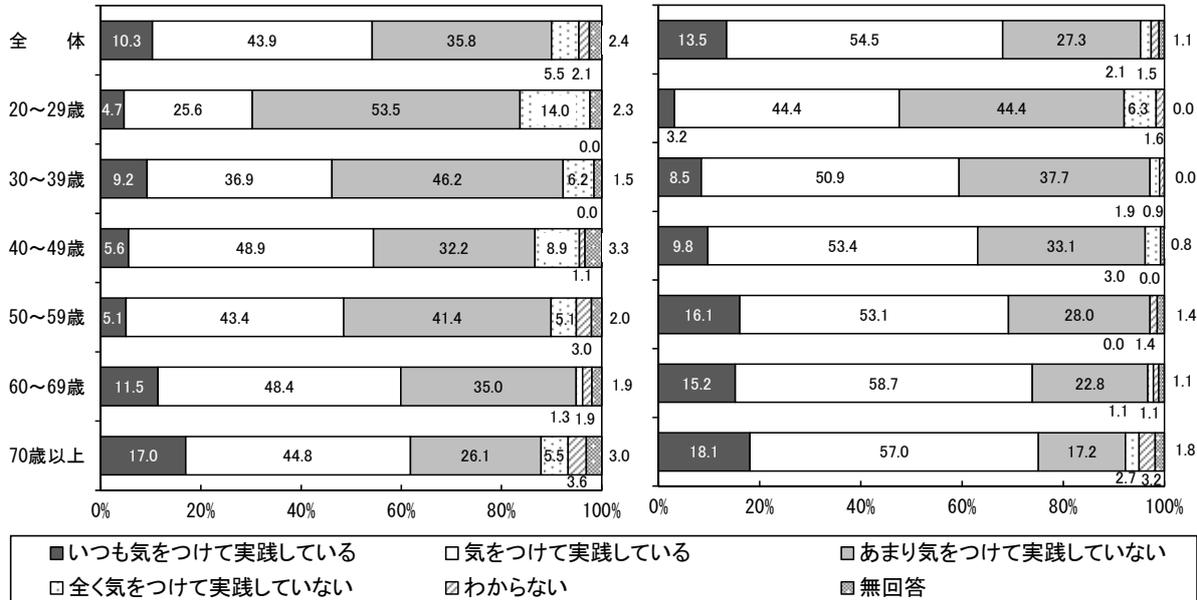


図 12.3 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

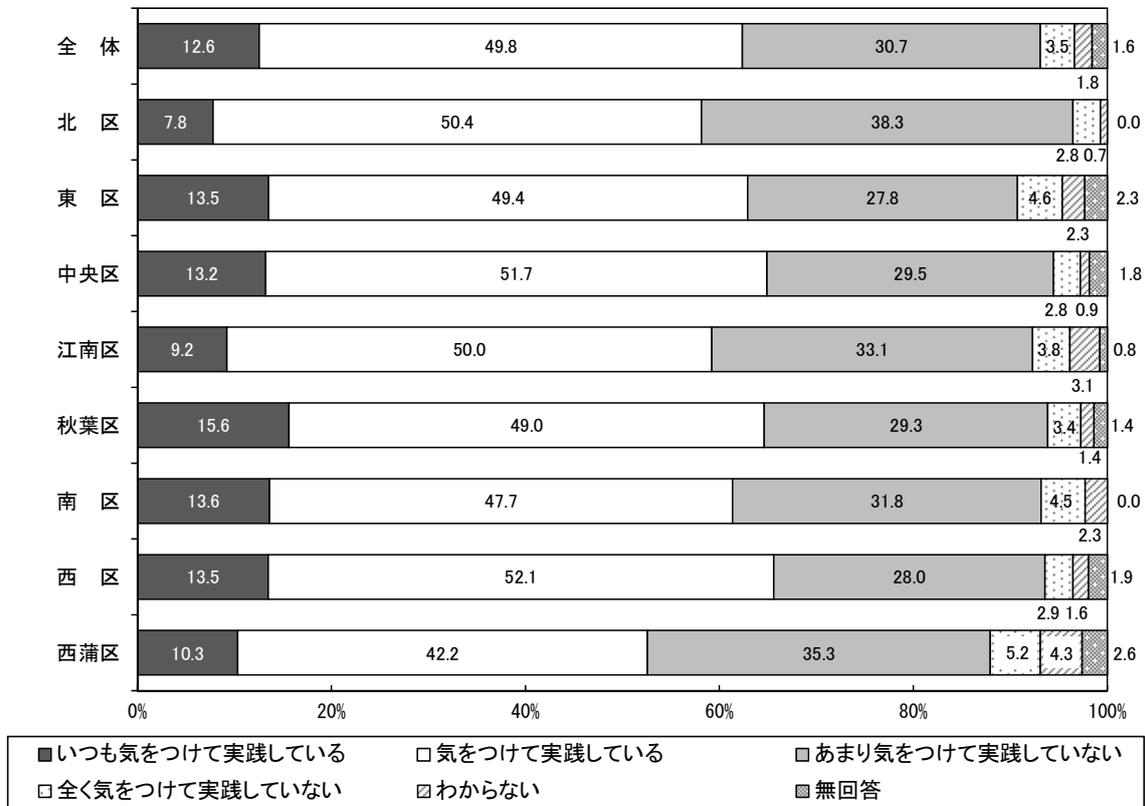
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも気をつけて実践している」、「気をつけて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、西区（65.6%）で最も高くなっている。

図 12.4 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

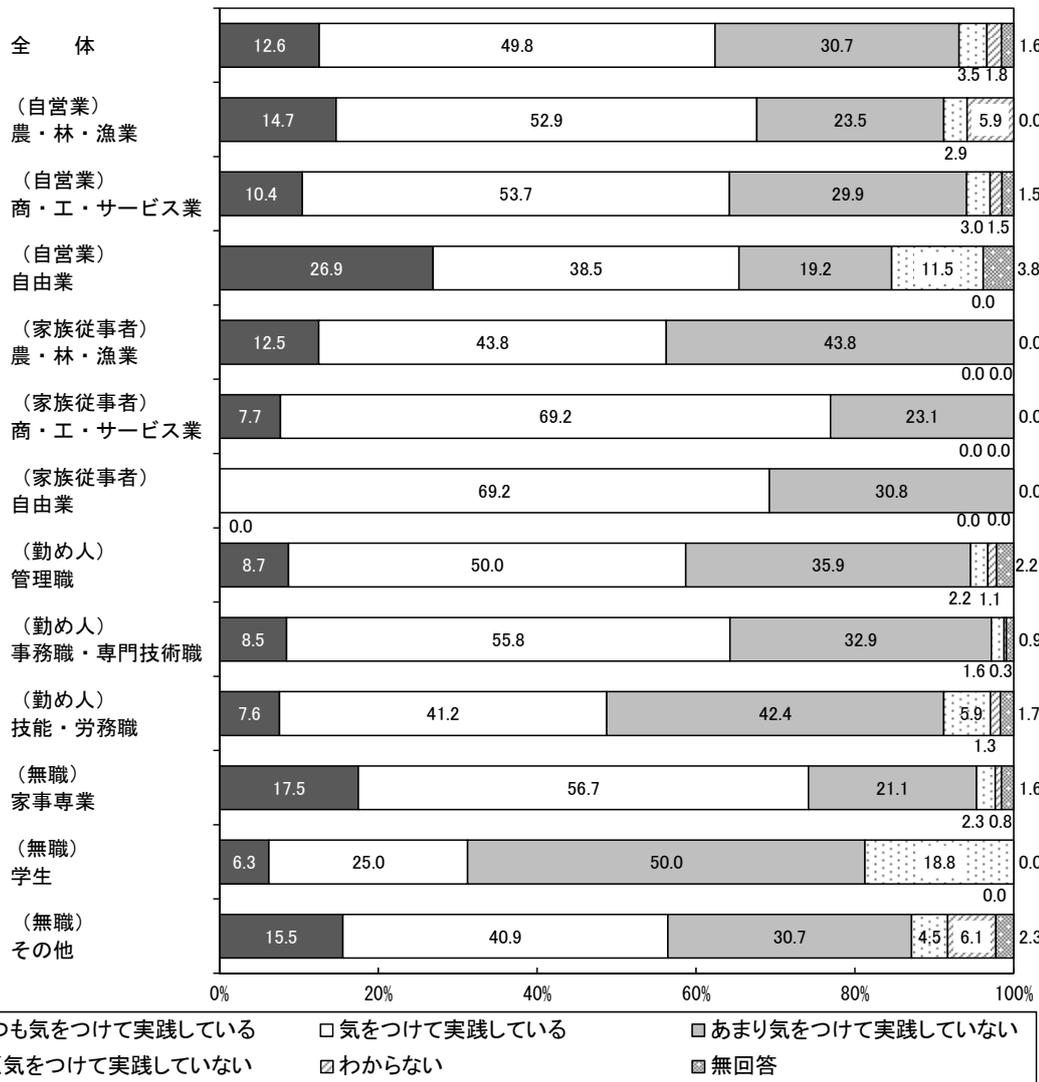
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 12.5 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

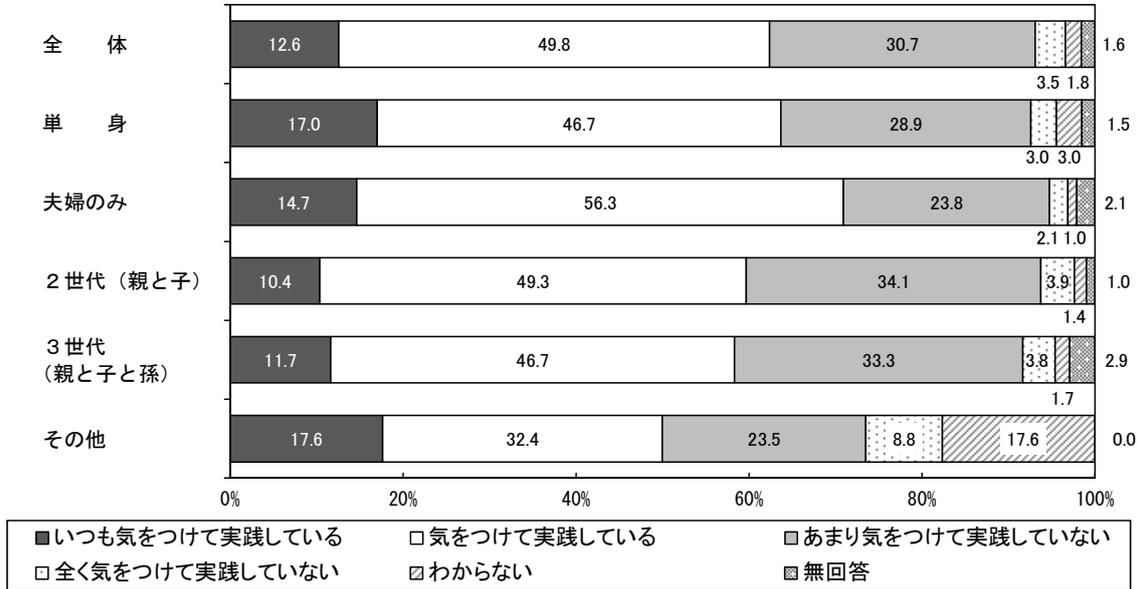
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも気をつけて実践している」、「気をつけて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、夫婦のみ（71.0%）で最も高くなっている。

図 12.6 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(5) 健康のために食事で意識していること

問16 あなたは、日ごろから健康のために次のようなことを意識して食事をしていますか。
(項目毎に○は1つだけ)

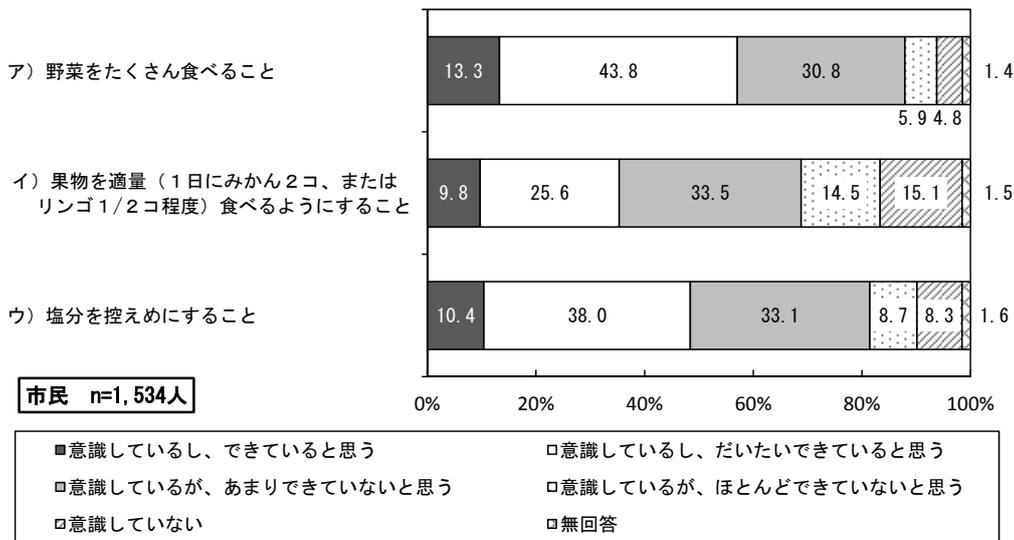
6割弱が「野菜をたくさん食べることを意識して、だいたいできている」
5割弱が「塩分を控えることに意識して、だいたいできている」

【全体結果】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」を回答した人を合わせた割合は、『ア) 野菜をたくさん食べることを意識して食事をしていますか』(57.1%)の項目が6割弱と高くなっている。

一方、「意識しているが、あまりできていないと思う」「意識しているが、ほとんどできていないと思う」と回答した人を合わせた割合は、『イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』(48.0%)で最も高く、僅差で『ウ) 塩分を控えることに意識して食事をしていますか』(41.8%)が続いている。「意識していない」の割合は、『イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』(15.1%)が2割弱で最も高くなっている。

図13.1 健康のために食事で意識していること(野菜をたくさん食べることを意識していること)



	全体	意識しているし、できていると思う	意識しているし、だいたいできていると思う	意識しているが、あまりできていないと思う	意識しているが、ほとんどできていないと思う	意識していない	無回答
ア) 野菜をたくさん食べることを意識して食事をしていますか	1,534	204	672	473	90	73	22
イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること	1,534	150	392	514	223	232	23
ウ) 塩分を控えることに意識して食事をしていますか	1,534	160	583	507	133	127	24

(人)

ア) 野菜をたくさん食べること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上(67.8%)で最も高く、20歳代(34.9%)で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 13.2 健康のために食事で意識していること（野菜をたくさん食べること）（年齢別・全体）

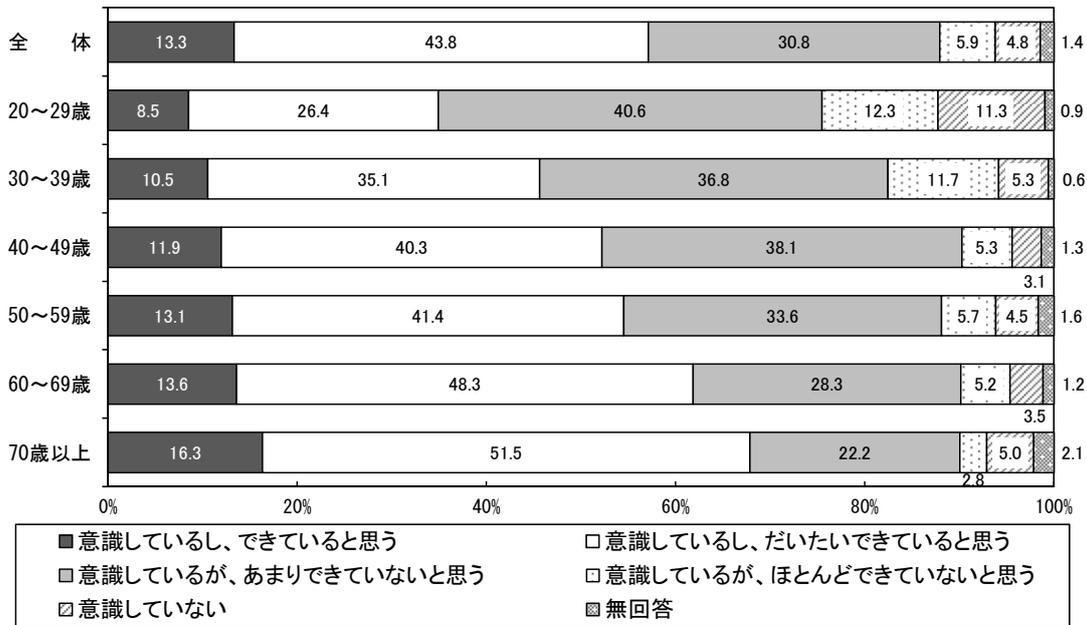
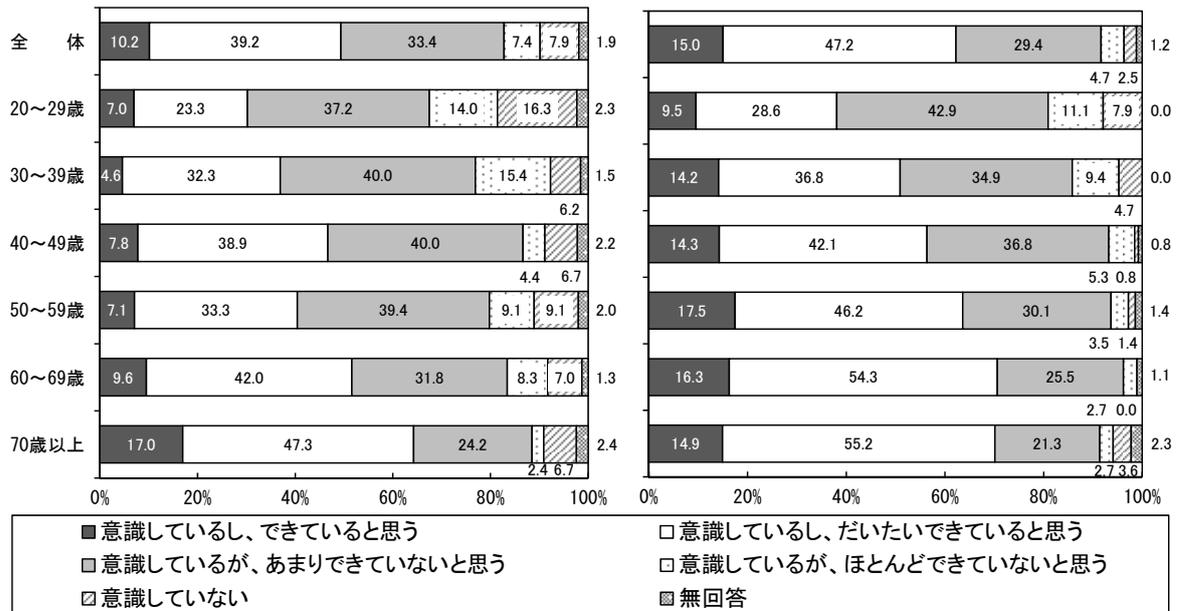


図 13.3 健康のために食事で意識していること（野菜をたくさん食べること）
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

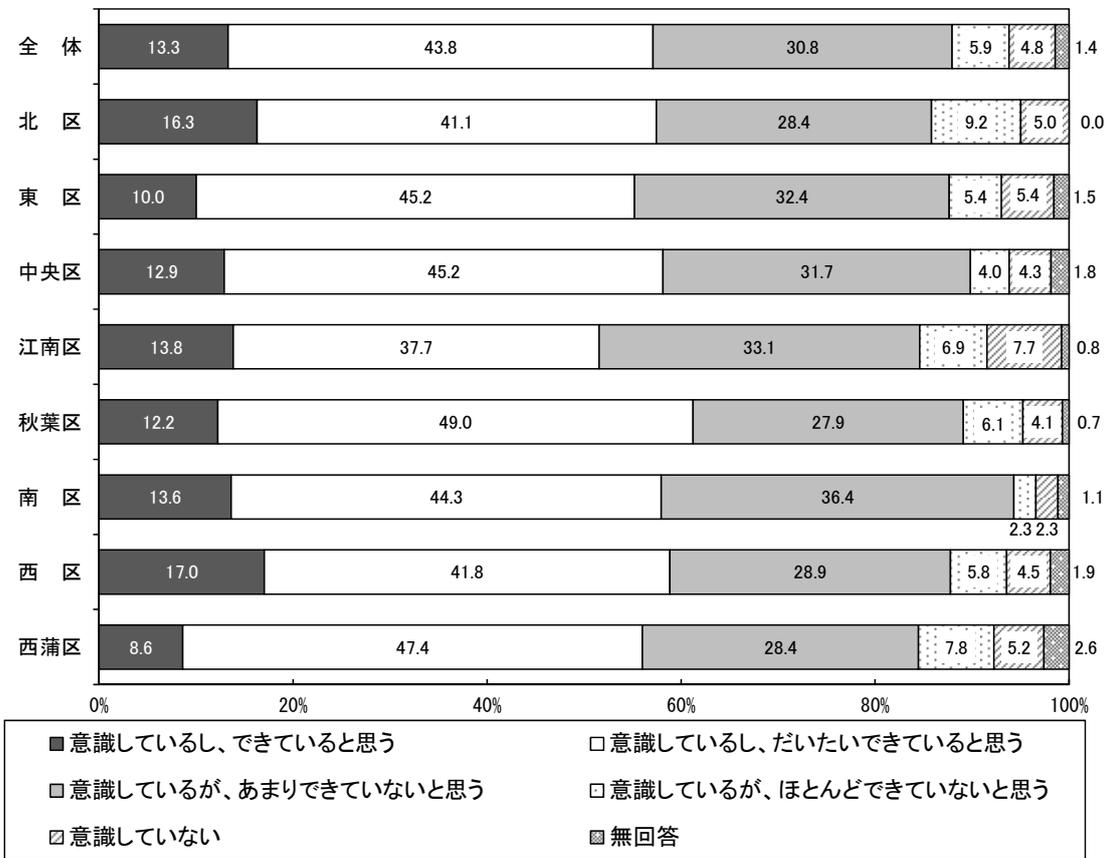
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、秋葉区（61.2%）で最も高く、江南区（51.5%）で最も低くなっている。

図 13.4 健康のために食事で意識していること（野菜をたくさん食べること）（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

イ. 果物を適量（1日にみかん2コ、またはリンゴ1／2コ程度）食べるようにすること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上（52.0%）で最も高く、20歳代（14.1%）で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 13.5 健康のために食事で意識していること（果物を適量食べるようにすること）（年齢別・全体）

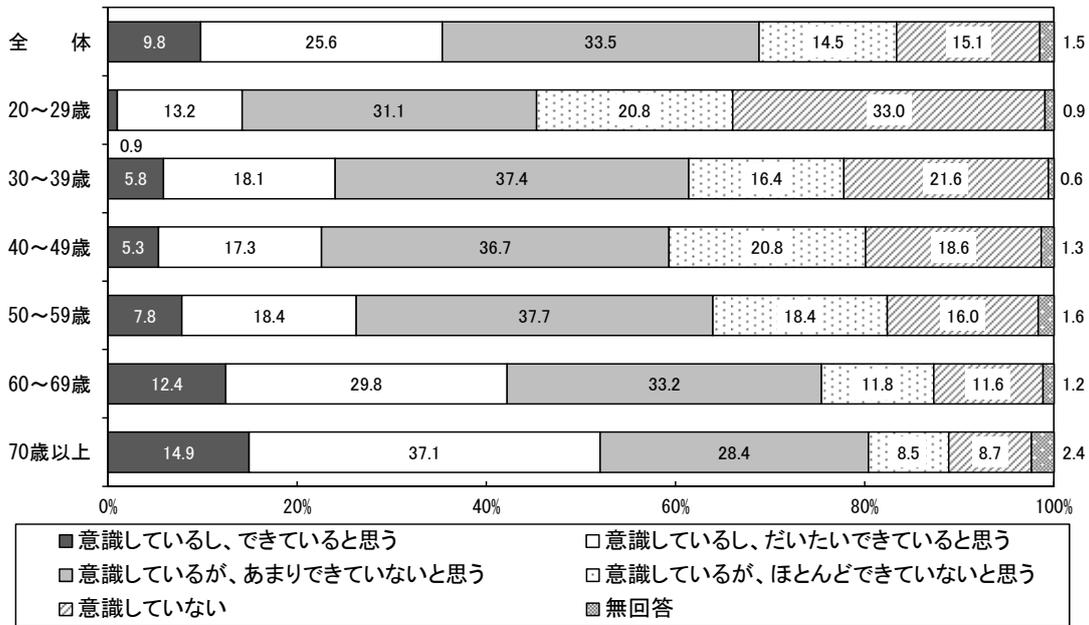
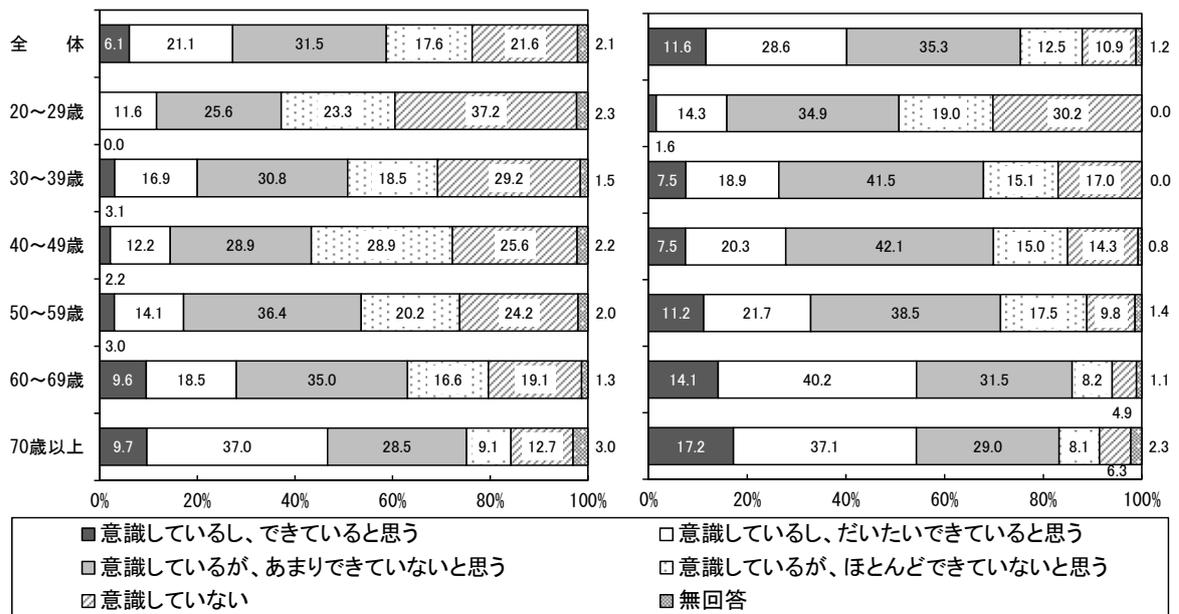


図 13.6 健康のために食事で意識していること（果物を適量食べるようにすること）（年齢別・男性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

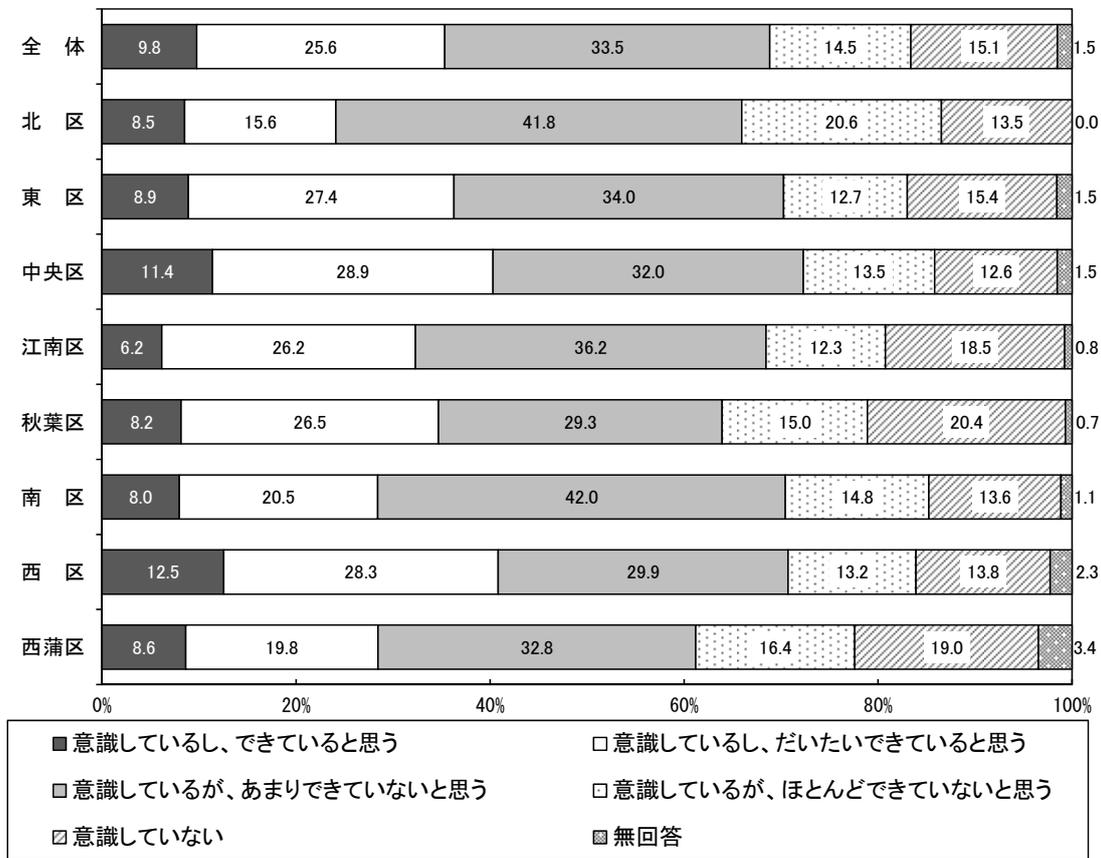
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、西区（40.8%）で最も高く、北区（24.1%）で最も低くなっている。

図 13.7 健康のために食事で意識していること（果物を適量食べるようにすること）（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

ウ. 塩分を控えめにする事

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上(62.8%)で最も高く、20歳代(24.6%)で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 13.8 健康のために食事で意識していること（塩分を控えめにする事）（年齢別・全体）

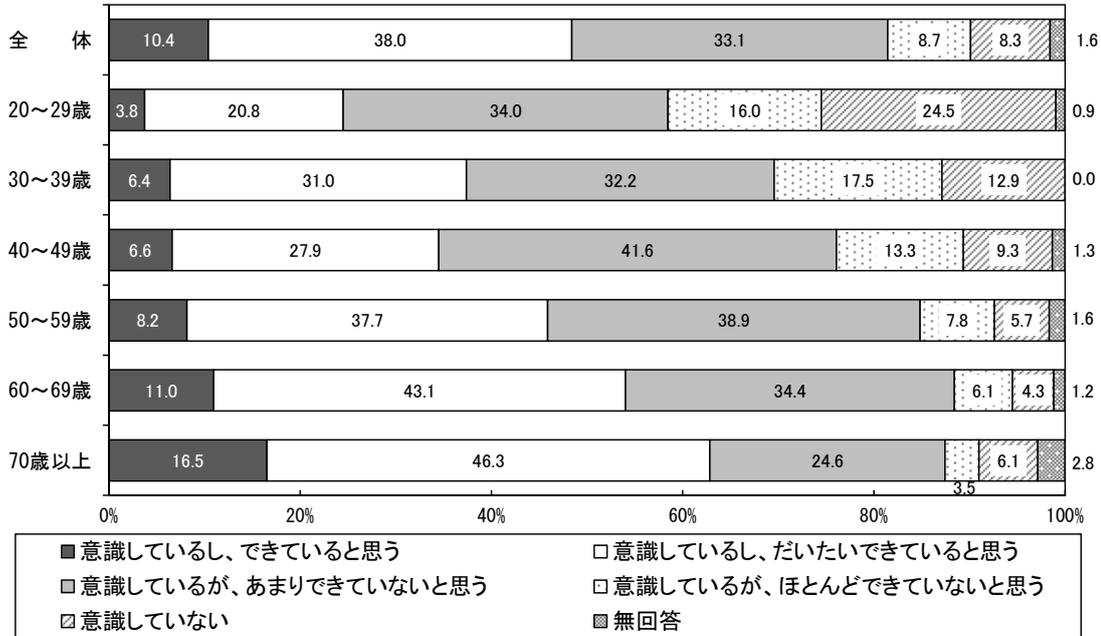
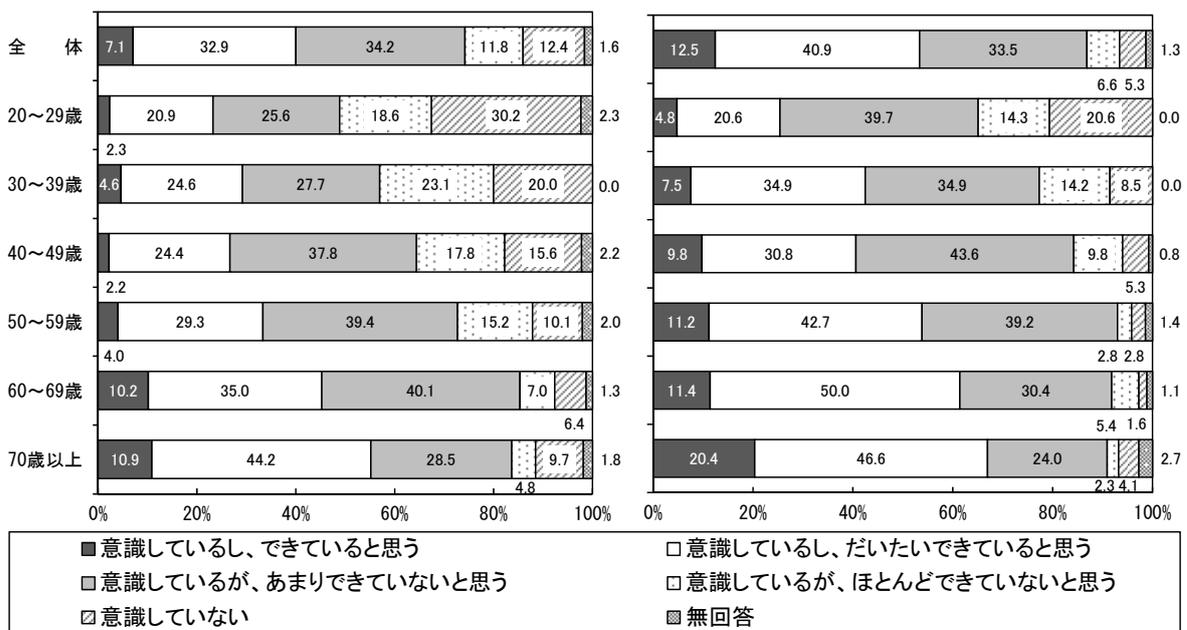


図 13.9 健康のために食事で意識していること（塩分を控えめにする事）
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

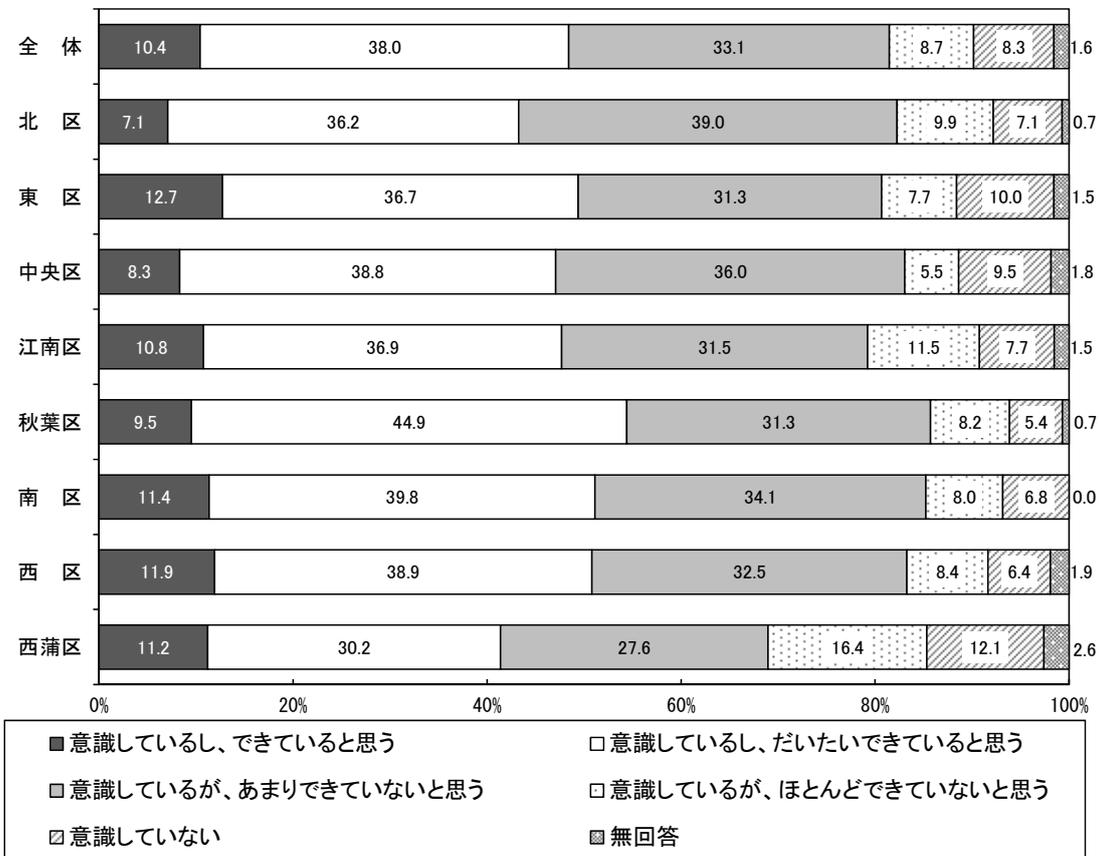
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、秋葉区（54.4%）で最も高くなっている。

図 13.10 健康のために食事で意識していること（塩分を控えめにすること）（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

(6) この1か月間の野菜・緑黄色野菜・果物の摂取頻度

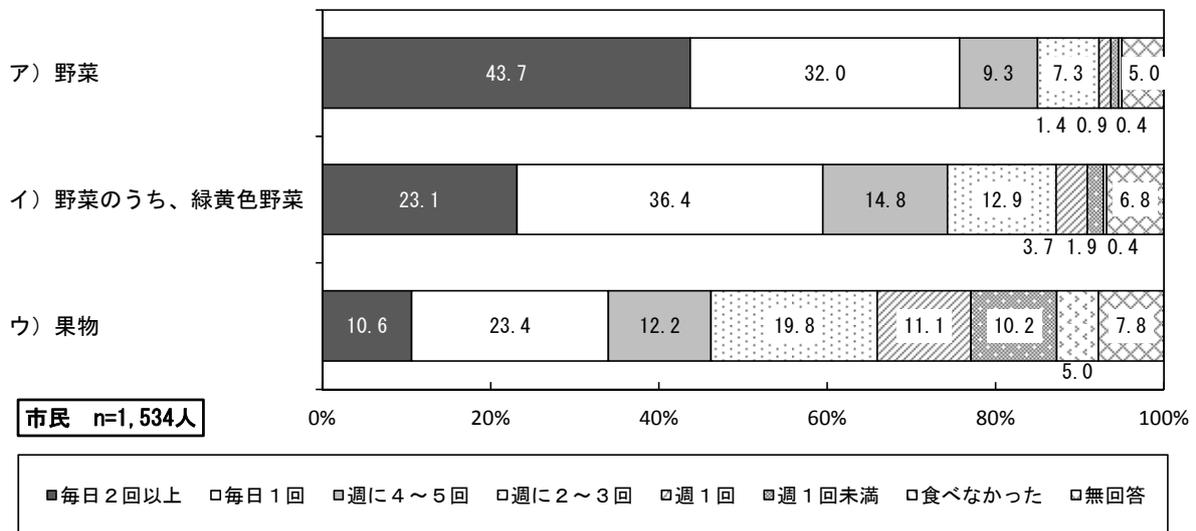
問17 あなたはこの1か月間に、以下の食べ物をどの位の頻度で食べましたか。(項目毎に○は1つだけ)

【全体結果】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、『ア)野菜』(75.7%)の項目が8割弱と最も高くなっている。

一方、「週1回」「週1回未満」「食べなかった」と回答した人を合わせた「週1回以下」の割合は、『ウ)果物』(26.3%)の項目が3割弱で最も高くなっている。

図14.1 この1か月間の野菜・緑黄色野菜・果物の摂取頻度



	全体	毎日2回以上	毎日1回	週に4~5回	週に2~3回	週1回	週1回未満	食べなかった	無回答
ア) 野菜	1,534	671	491	142	112	22	14	6	76
イ) 野菜のうち、緑黄色野菜	1,534	355	558	227	198	57	29	6	104
ウ) 果物	1,534	163	359	187	303	171	156	76	119

(人)

ア) 野菜

【性別・年齢別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、70歳以上で最も高く5割弱となっており、40歳代以下では4割を下回っている。

図 14.2 この1か月間の野菜の摂取頻度（年齢別・全体）

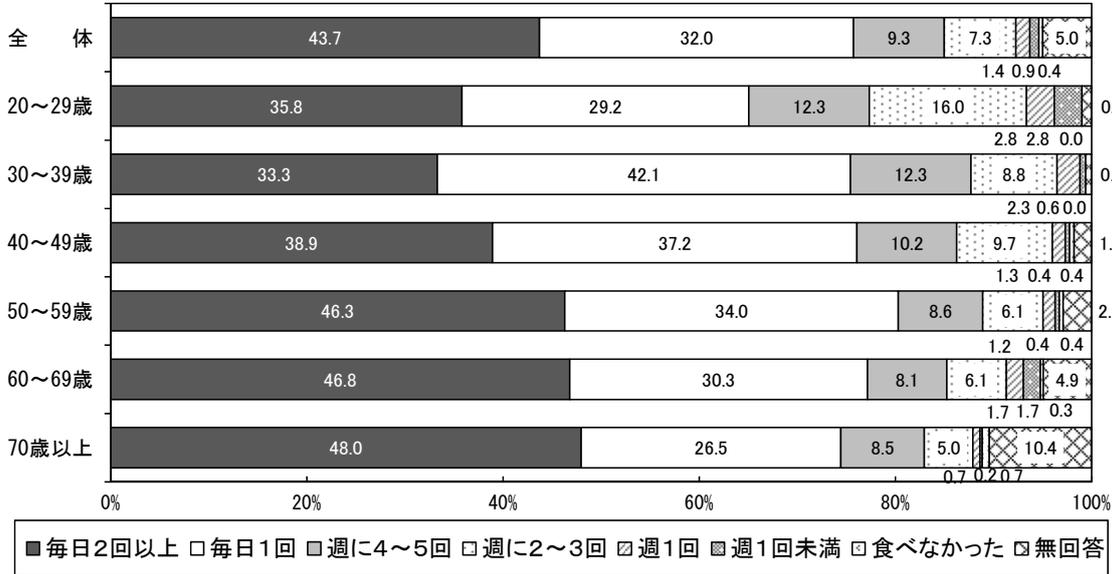
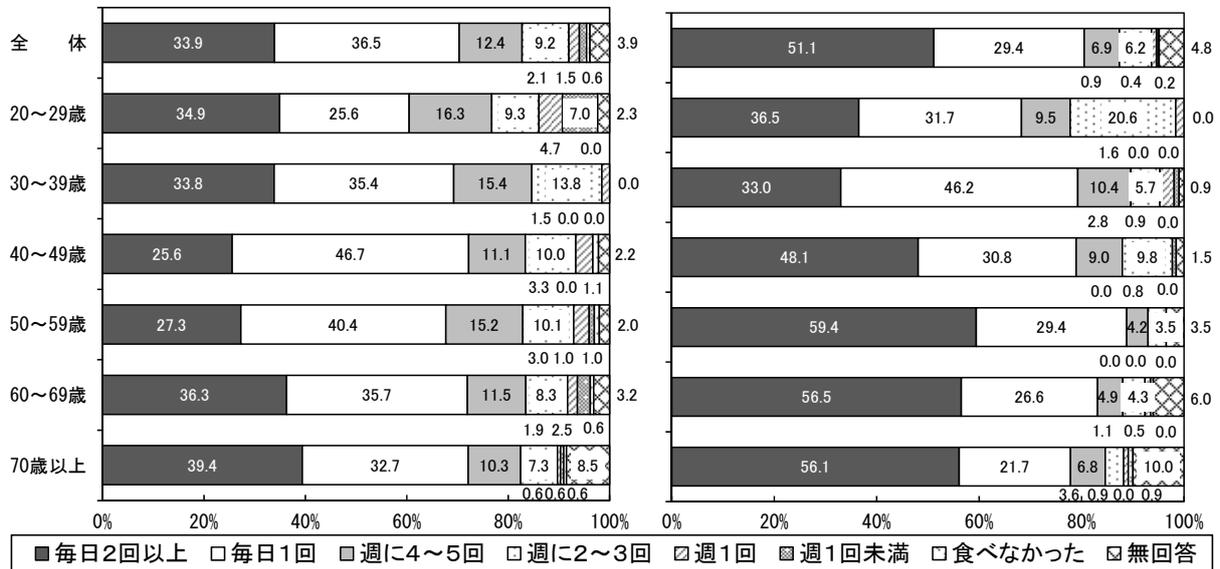


図 14.3 この1か月間の野菜の摂取頻度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

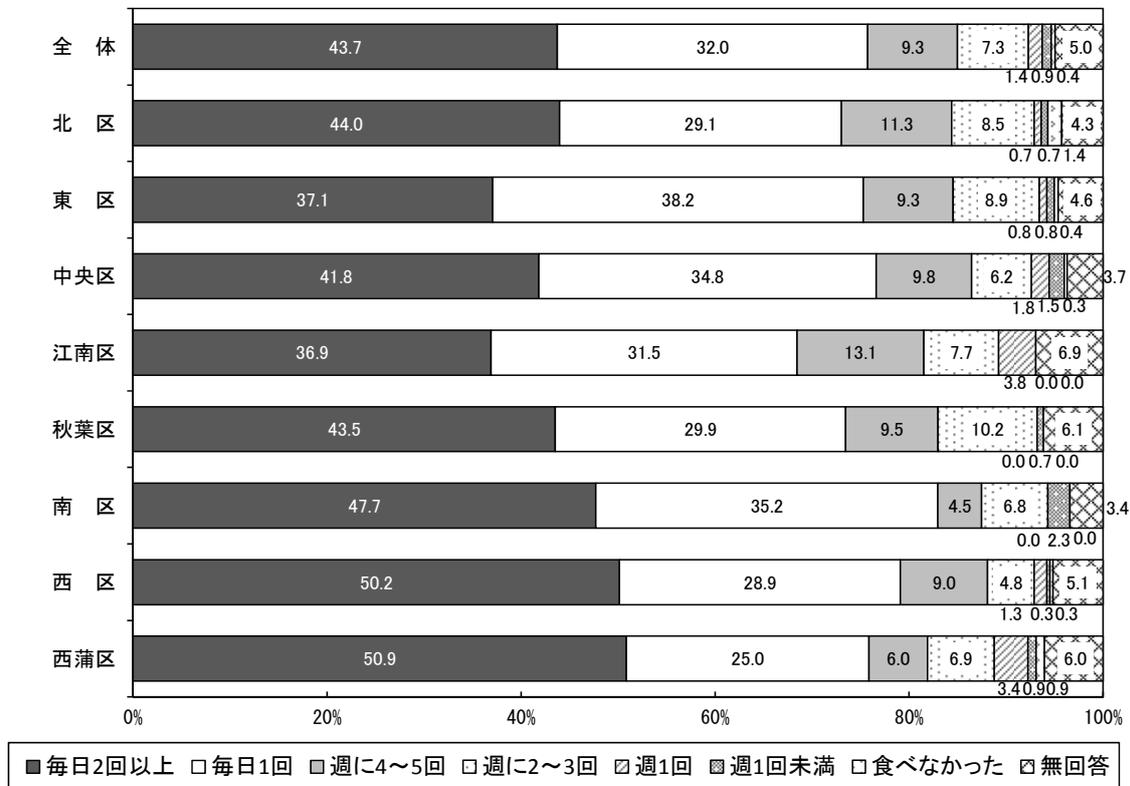
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、南区（82.9%）で最も高く、江南区（68.4%）で最も低くなっている。

図 14.4 この1か月間の野菜の摂取頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

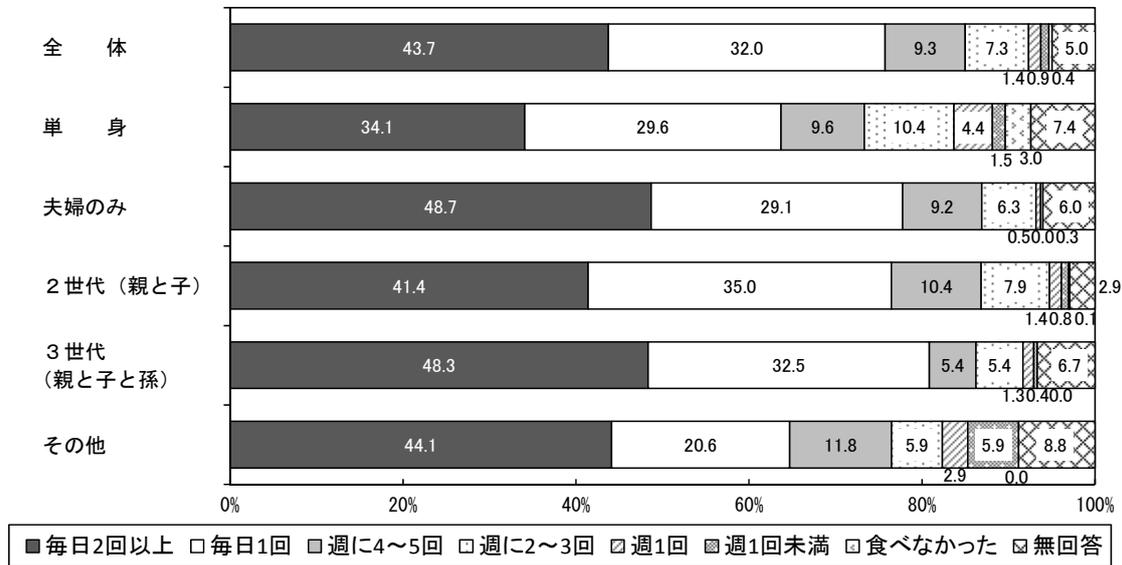
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、3世代(80.8%)で最も高くなっている。

図 14.5 この1か月間の野菜の摂取頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

イ) 野菜のうち、緑黄色野菜

【性別・年齢別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、50歳代(63.1%)、60歳代(61.0%)、70歳以上(61.3%)で6割を超えている。

性別では、30歳代以上で女性の方が男性よりも高く、50歳代女性(72.8%)では7割を超えている。

図 14.6 この1か月間の緑黄色野菜の摂取頻度（年齢別・全体）

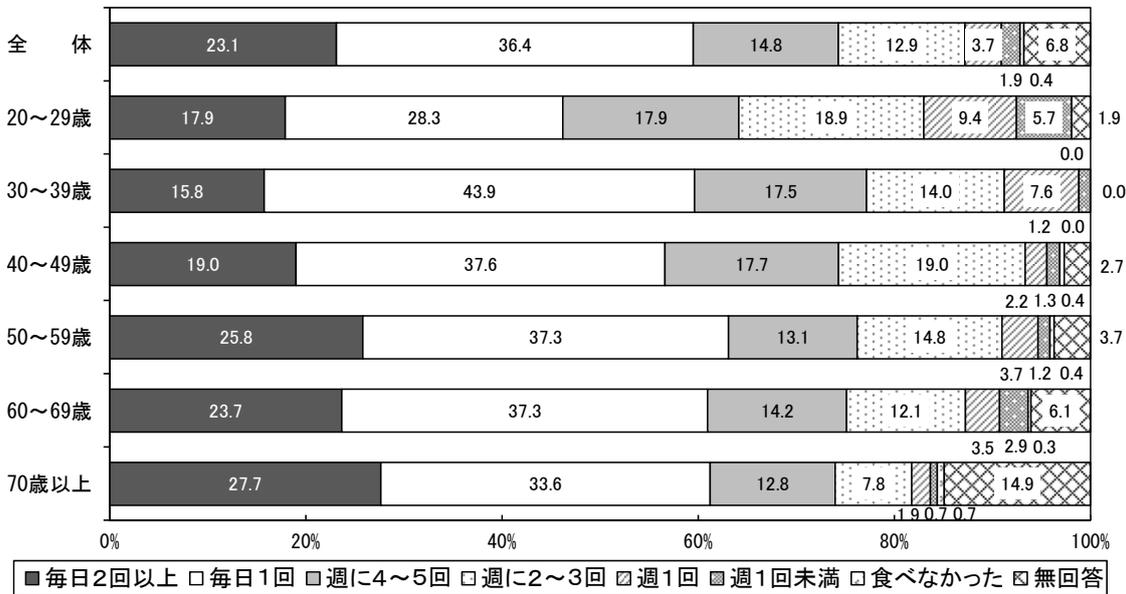
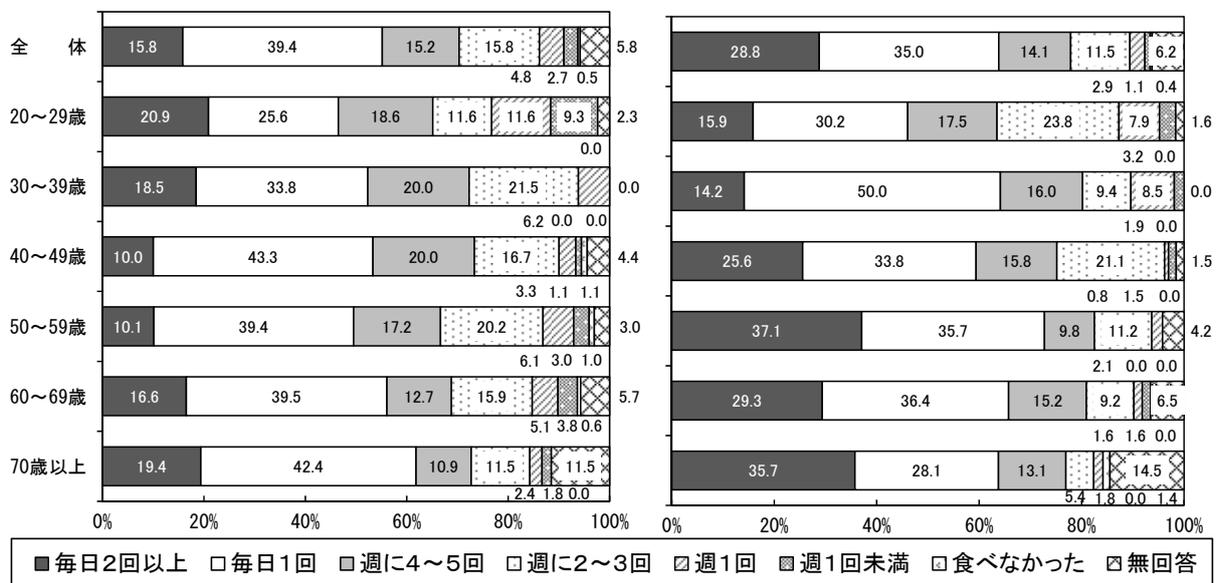


図 14.7 この1か月間の緑黄色野菜の摂取頻度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

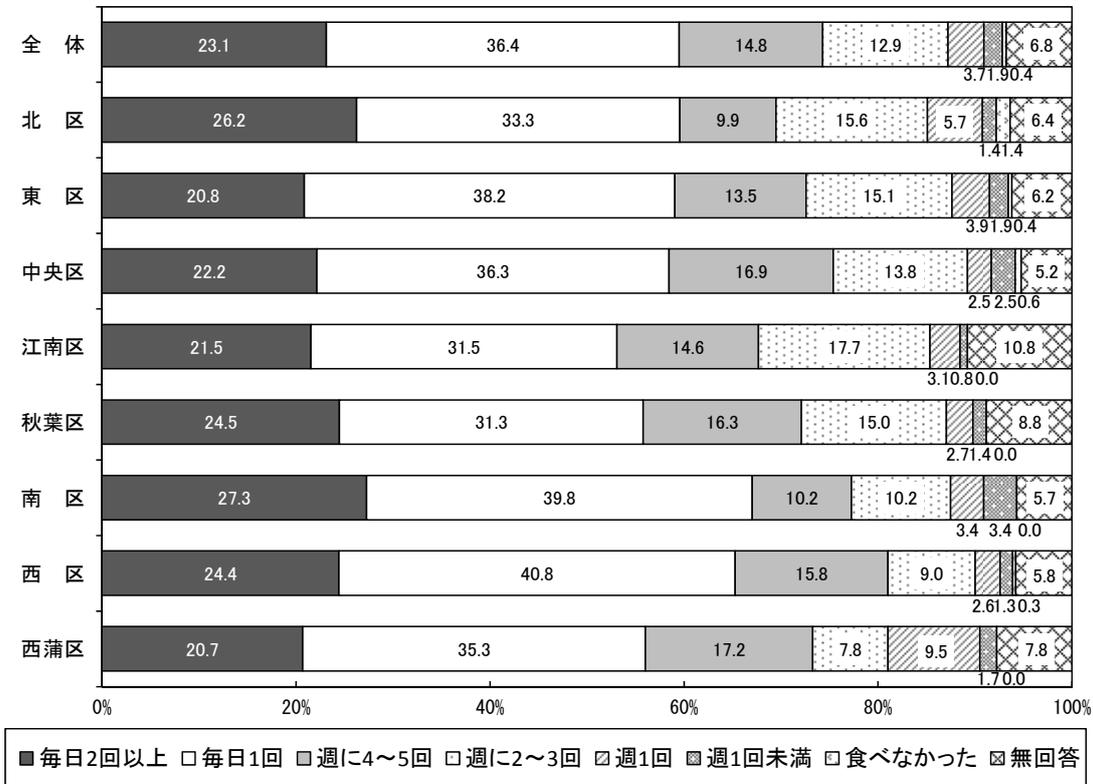
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、南区（67.1%）で最も高く、江南区（53.0%）で最も低くなっている。

図 14.8 この1か月間の緑黄色野菜の摂取頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

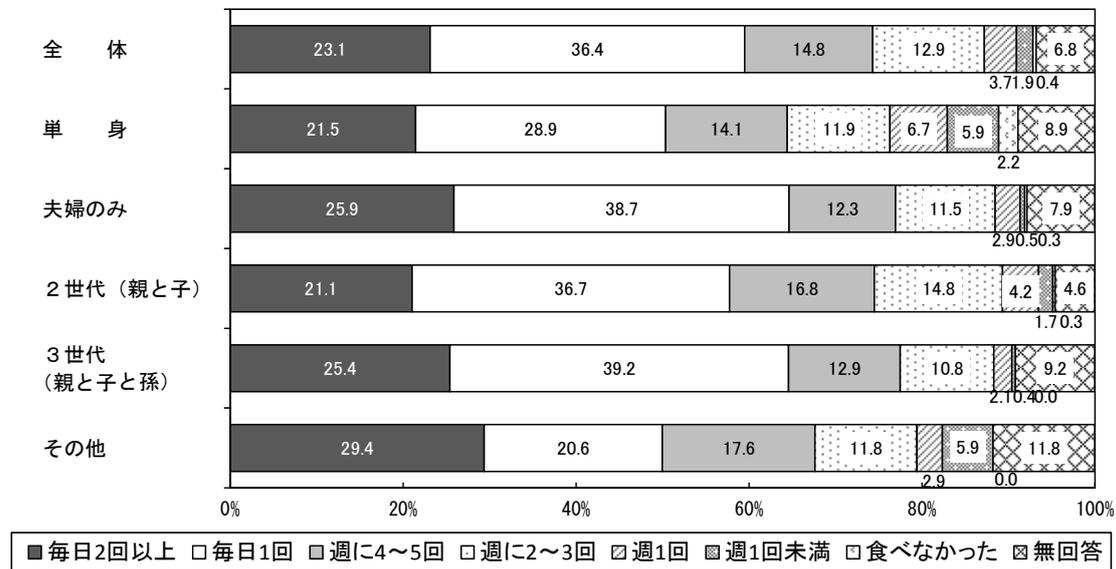
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、夫婦のみ(64.6%)で最も高く、その他(50.0%)で最も低くなっている。

図 14.9 この1か月間の緑黄色野菜の摂取頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

ウ) 果物

【性別・年齢別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、70歳以上(46.6%)が最も高く、次いで60歳代(43.7%)となっており60歳代以上で4割を超えている。

性別では、30歳代以上で女性の方が男性よりも高くなっている。

図 14.10 この1か月間の果物の摂取頻度 (年齢別・全体)

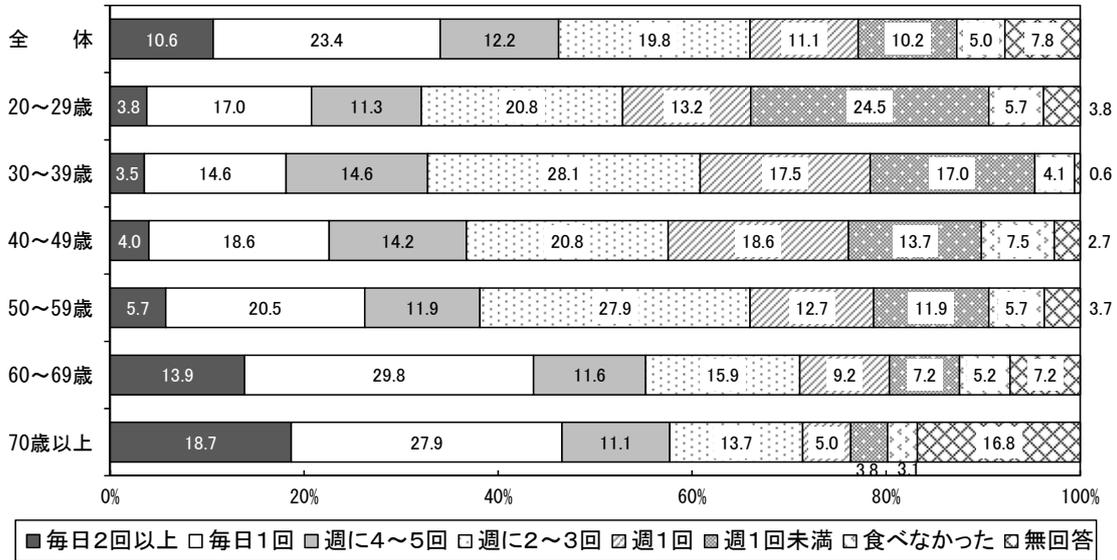
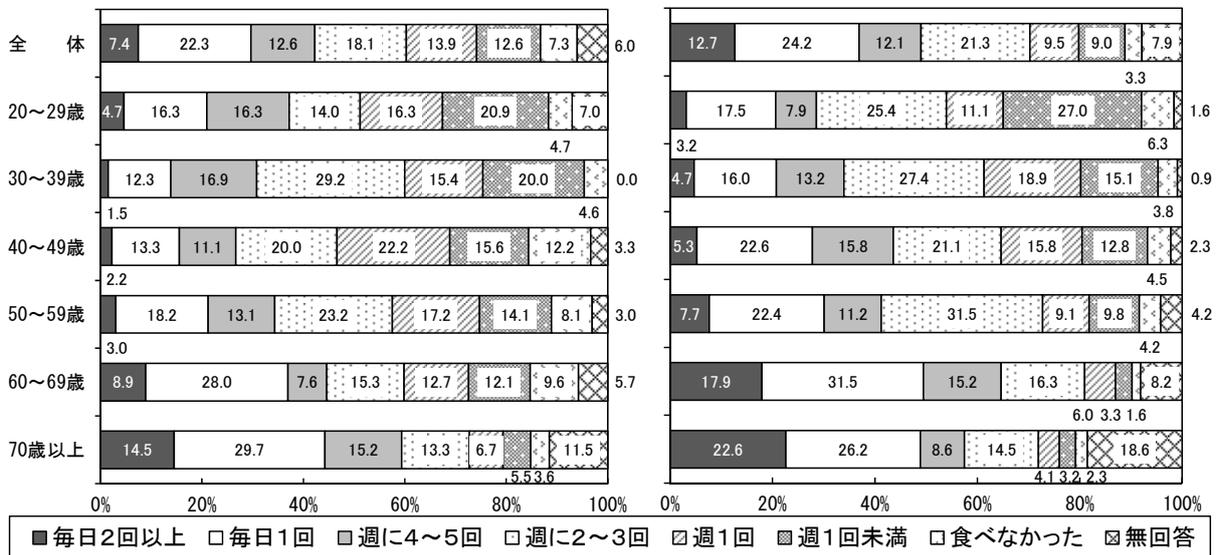


図 8.11 この1か月間の果物の摂取頻度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

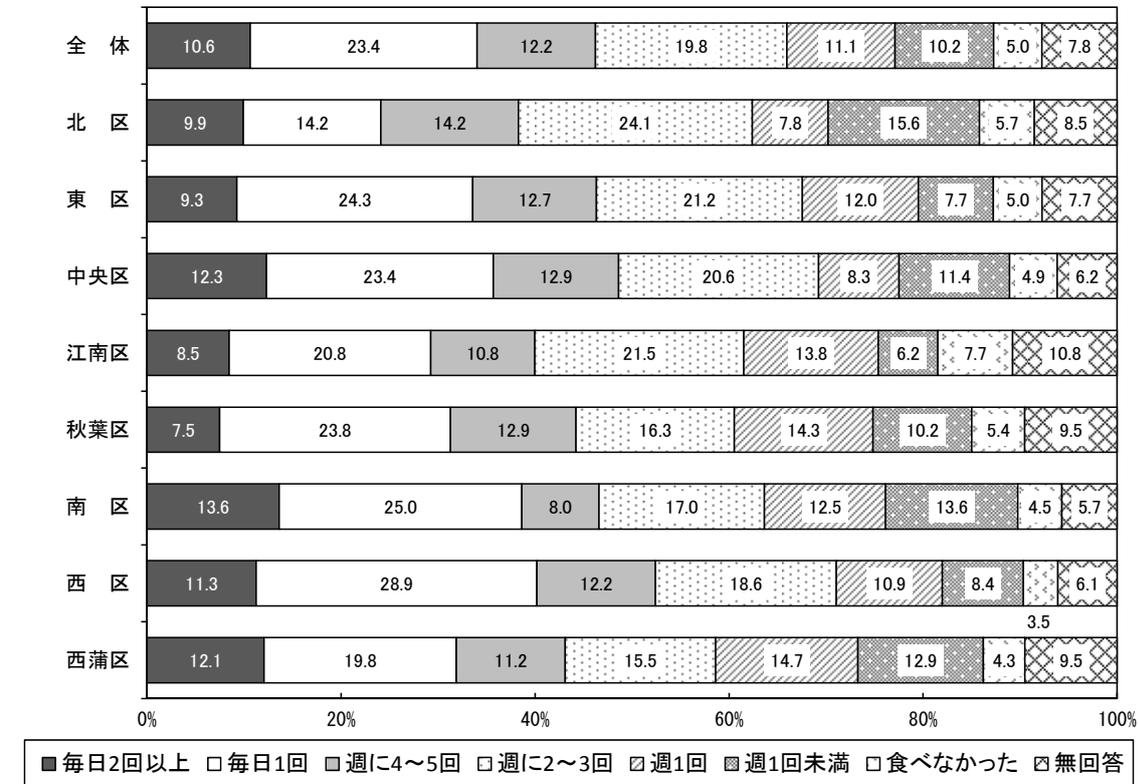
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、西区（40.2%）で最も高く、北区（24.1%）で最も低くなっている。

図 14.12 この1か月間の果物の摂取頻度（地区別）



地区	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明	
全体	1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

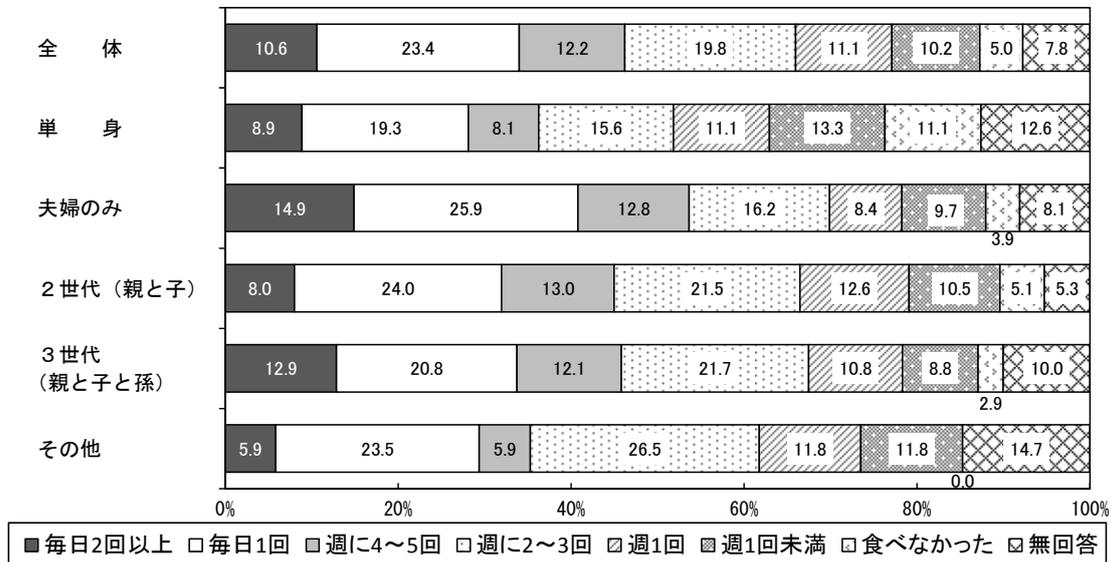
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「毎日2回以上」と「毎日1回」を合わせた「毎日1回以上」食べたと回答した人の割合は、夫婦のみ(40.8%)で最も高くなっている。

図 14.13 この1か月間の果物の摂取頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(7) 朝食の回数

問18 あなたは、日ごろ、朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

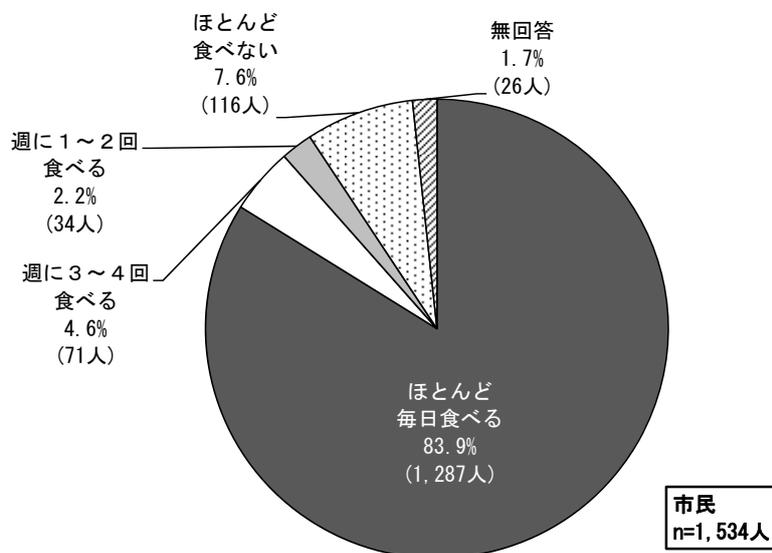
8割強が「ほとんど毎日食べる」と回答

【全体結果】

8割強 (83.9%) が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に3～4回食べる」(4.6%) を合わせると、9割強 (88.5%) の人が朝食を食べている。

一方、「週に1～2回食べる」(2.2%)、「ほとんど食べない」(7.6%) と回答した、朝食を食べない人は約1割 (9.8%) となっている。

図15.1 朝食の回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、年齢上がるにつれて朝食の回数が増える傾向が見られる。60歳代以上では、9割前後の人が朝食をほぼ毎日食べている。

一方、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、20歳代（23.6%）が最も高く、性別で見ると、20歳代では男性（25.6%）、女性（22.2%）とも2割を超え、30歳代～50歳代の男性と30歳代女性で1割を超えている。

図 15.2 朝食の回数（年齢別・全体）

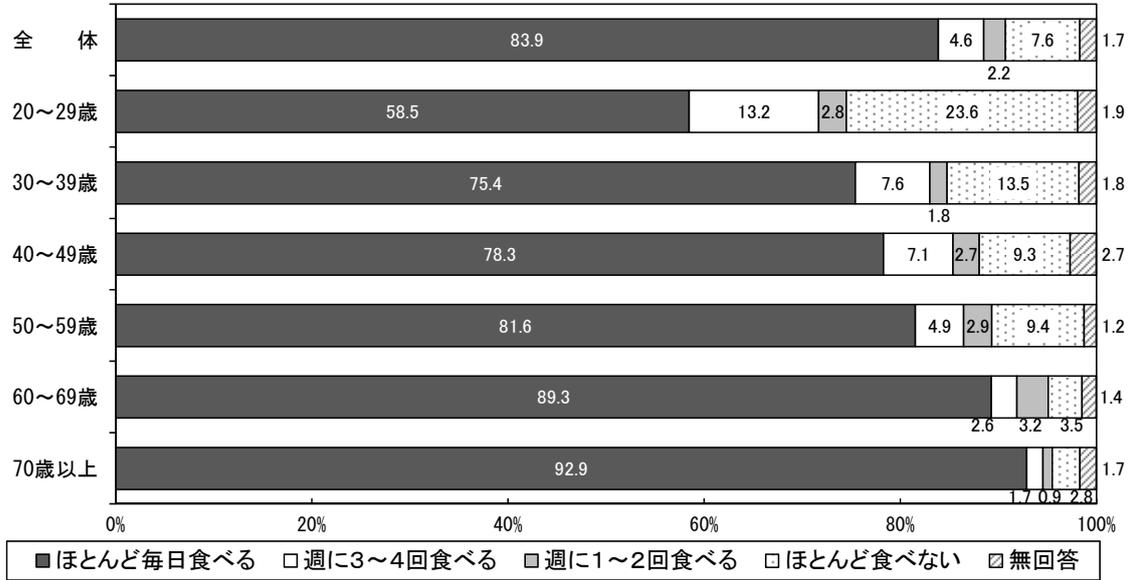
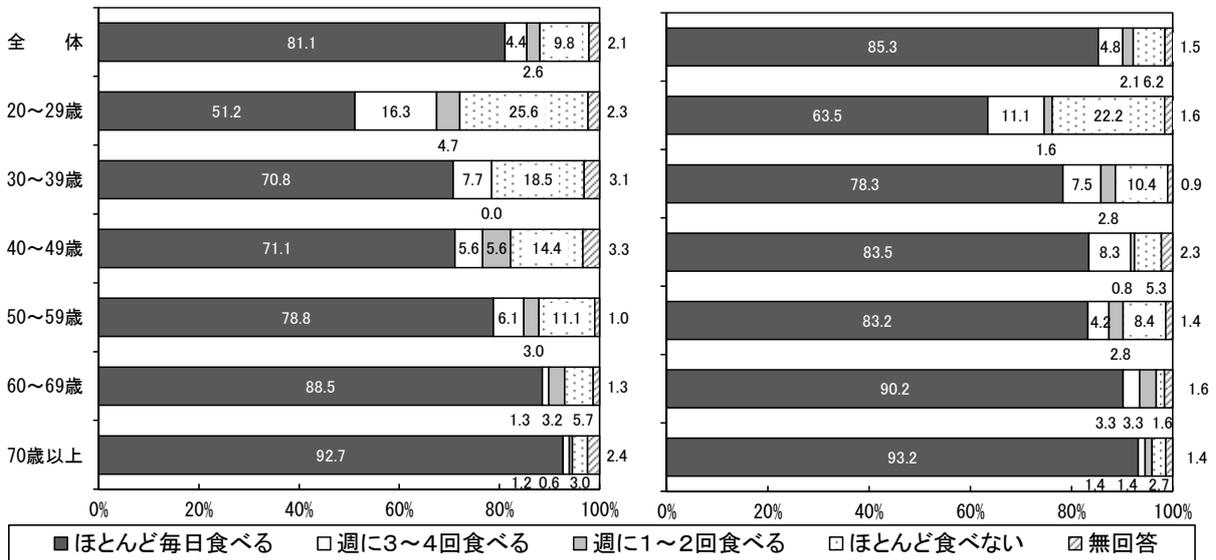


図 15.3 朝食の回数

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

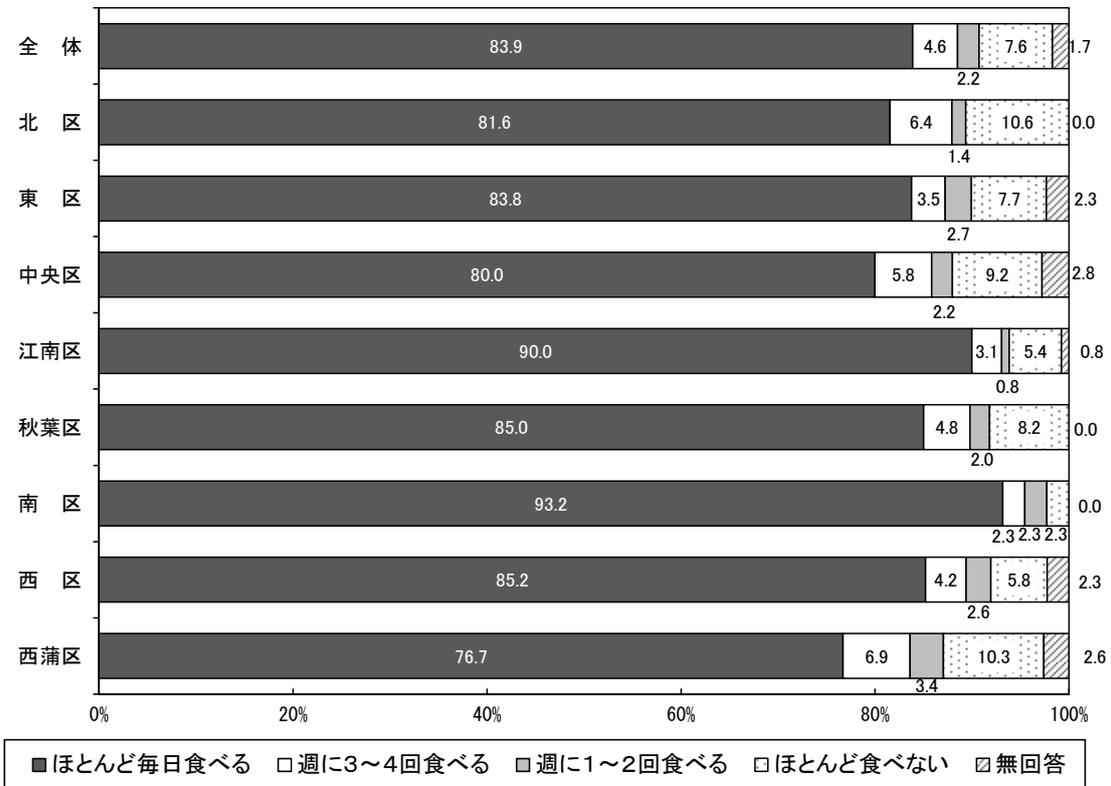
（人）

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、西蒲地区を除き8割を超えている。

図 15.4 朝食の回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

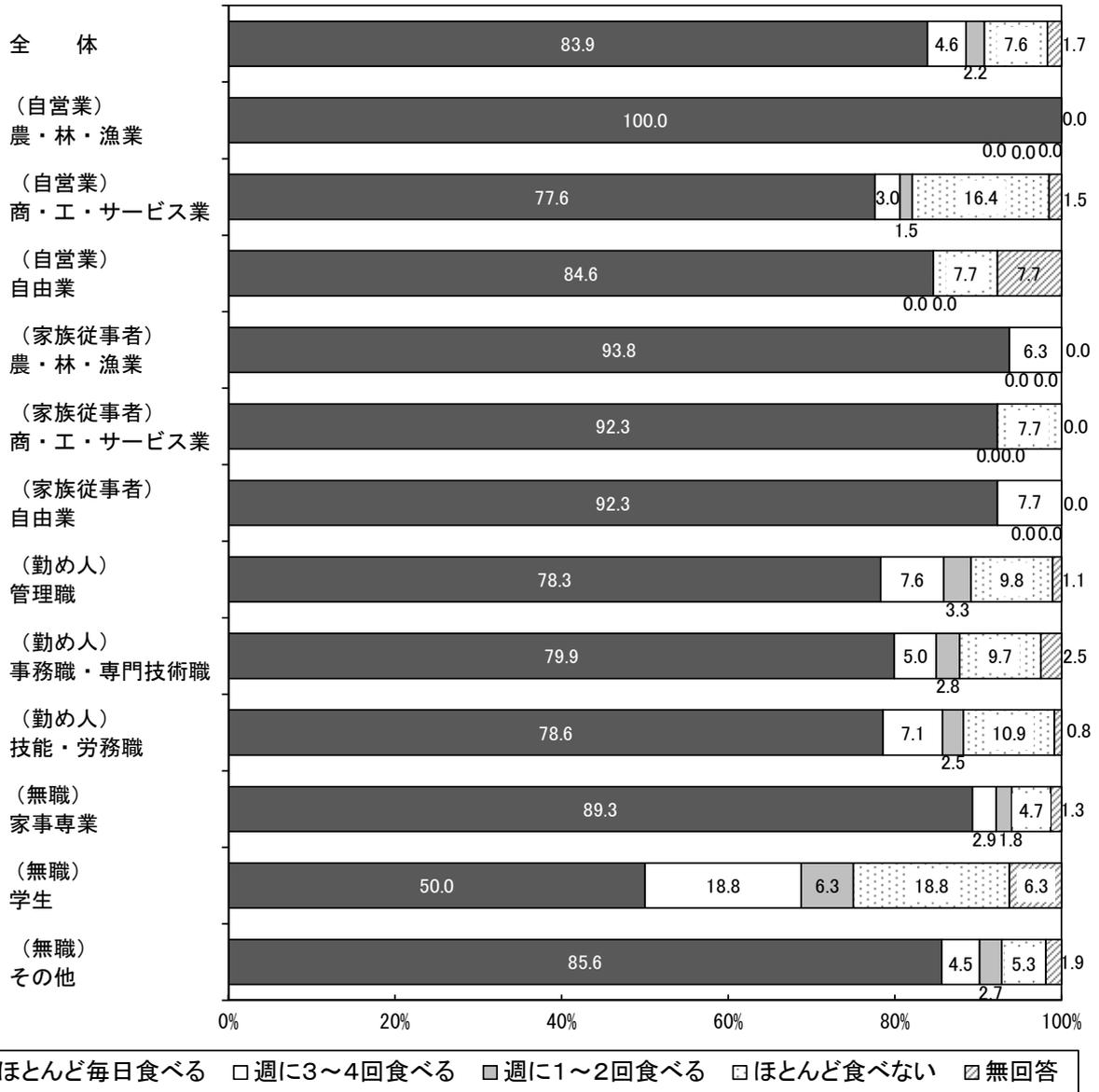
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 15.5 朝食の回数（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

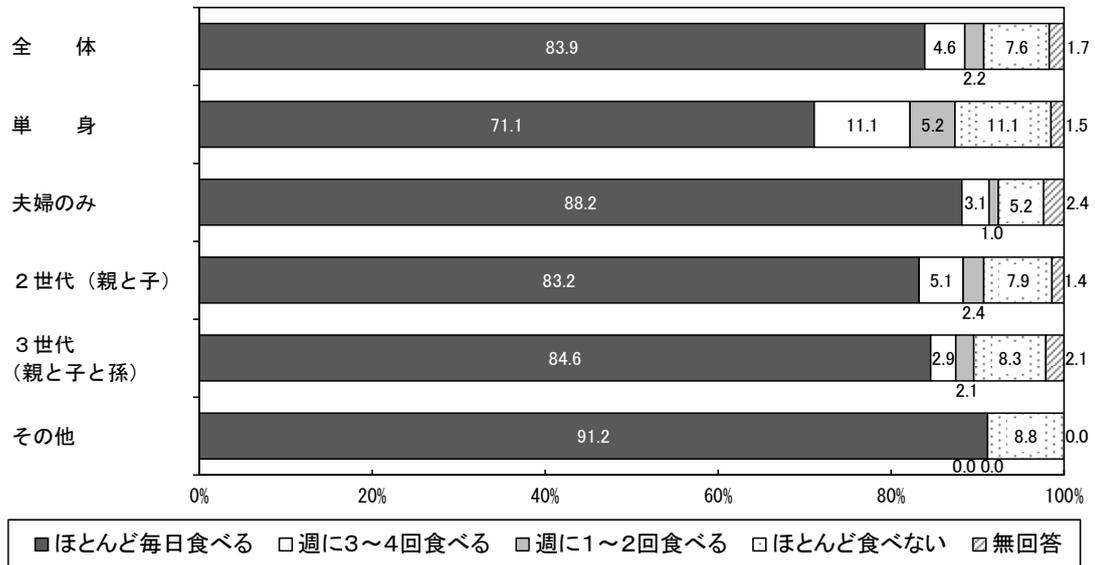
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多くなっている。
一方、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、単身（11.1%）でやや高くなっている。

図 15.6 朝食の回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(8) 朝食を食べない理由

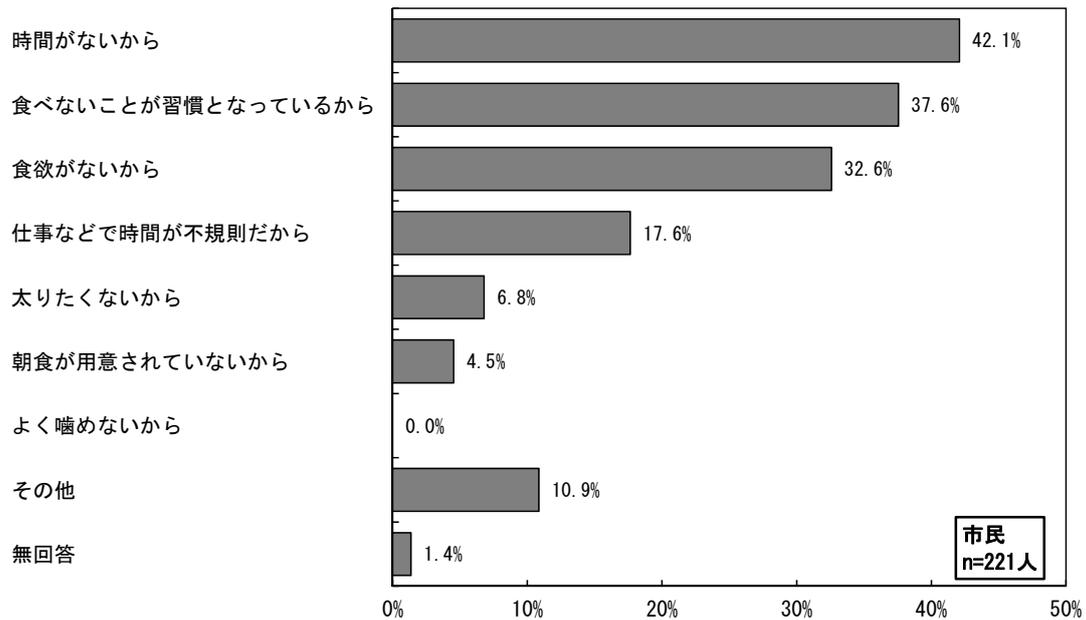
問 18-1 あなたが、朝食を食べない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「時間がないから」が4割強、「食べないことが習慣となっているから」が4割弱

【全体結果】

朝食を食べない理由については、「時間がないから」(42.1%)を回答した人が最も多く、以下「食べないことが習慣となっているから」(37.6%)、「食欲がないから」(32.6%)、「仕事などで時間が不規則だから」(17.6%)と続いている。

図 16.1 朝食を食べない理由



全体	時間がないから	食べないことが習慣となっているから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よく噛めないから	その他	無回答
221	93	83	72	39	15	10	0	24	3

(人)

【性別・年齢別】

40歳代以下は「時間がないから」と回答した人の割合が最も高く、特に30歳代以下で6割台となっている。50歳代以上では「食べないことが習慣となっているから」と回答した人の割合が最も高く、特に60歳代以上で5割台となっている。

表 3.1 朝食を食べない理由（年齢別・全体）

	対象者	時間がないから	食べないことが習慣となっているから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よく噛めないから	その他	無回答
計	221	42.1	37.6	32.6	17.6	6.8	4.5	0.0	10.9	1.4
20～29歳	42	66.7	21.4	31.0	28.6	4.8	4.8	0.0	11.9	0.0
30～39歳	39	64.1	33.3	38.5	12.8	10.3	7.7	0.0	10.3	0.0
40～49歳	43	46.5	23.3	41.9	23.3	4.7	9.3	0.0	7.0	0.0
50～59歳	42	31.0	47.6	23.8	14.3	7.1	2.4	0.0	7.1	2.4
60～69歳	32	18.8	56.3	34.4	15.6	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0
70歳以上	23	4.3	56.5	21.7	4.3	8.7	0.0	0.0	21.7	8.7
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 3.2 朝食を食べない理由（年齢別・男性）

	対象者	時間がないから	食べないことが習慣となっているから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よく噛めないから	その他	無回答
計	104	40.4	41.3	27.9	21.2	4.8	5.8	0.0	9.6	1.9
20～29歳	20	60.0	25.0	35.0	30.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0
30～39歳	17	70.6	35.3	35.3	29.4	5.9	11.8	0.0	5.9	0.0
40～49歳	23	47.8	30.4	30.4	21.7	0.0	17.4	0.0	8.7	0.0
50～59歳	20	25.0	45.0	15.0	15.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0
60～69歳	16	12.5	62.5	31.3	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0
70歳以上	8	0.0	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 3.3 朝食を食べない理由（年齢別・女性）

	対象者	時間がないから	食べないことが習慣となっているから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	太りたくないから	朝食が用意されていないから	よく噛めないから	その他	無回答
計	112	45.5	34.8	37.5	15.2	8.0	3.6	0.0	10.7	0.9
20～29歳	22	72.7	18.2	27.3	27.3	4.5	9.1	0.0	13.6	0.0
30～39歳	22	59.1	31.8	40.9	0.0	13.6	4.5	0.0	13.6	0.0
40～49歳	19	47.4	15.8	52.6	26.3	10.5	0.0	0.0	5.3	0.0
50～59歳	22	36.4	50.0	31.8	13.6	9.1	4.5	0.0	9.1	0.0
60～69歳	15	26.7	53.3	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
70歳以上	12	8.3	50.0	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	8.3
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(9) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ

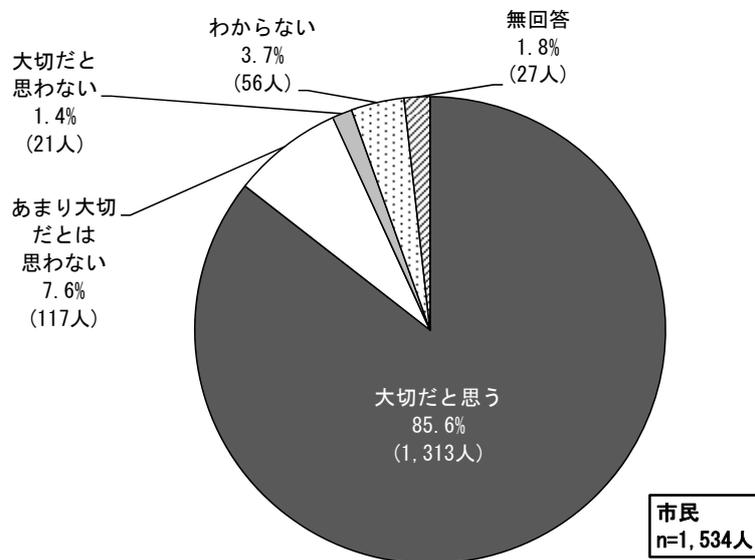
問19 あなたは地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするのは大切だと思いますか。
(○は1つだけ)

9割弱が「大切だと思う」と回答

【全体結果】

地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするものの大切さについては、「大切だと思う」(85.6%)を回答した人が最も多く、以下「あまり大切だとは思わない」(7.6%)、「わからない」(3.7%)、「大切だと思わない」(1.4%)と続いている。

図17.1 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするものの大切さ

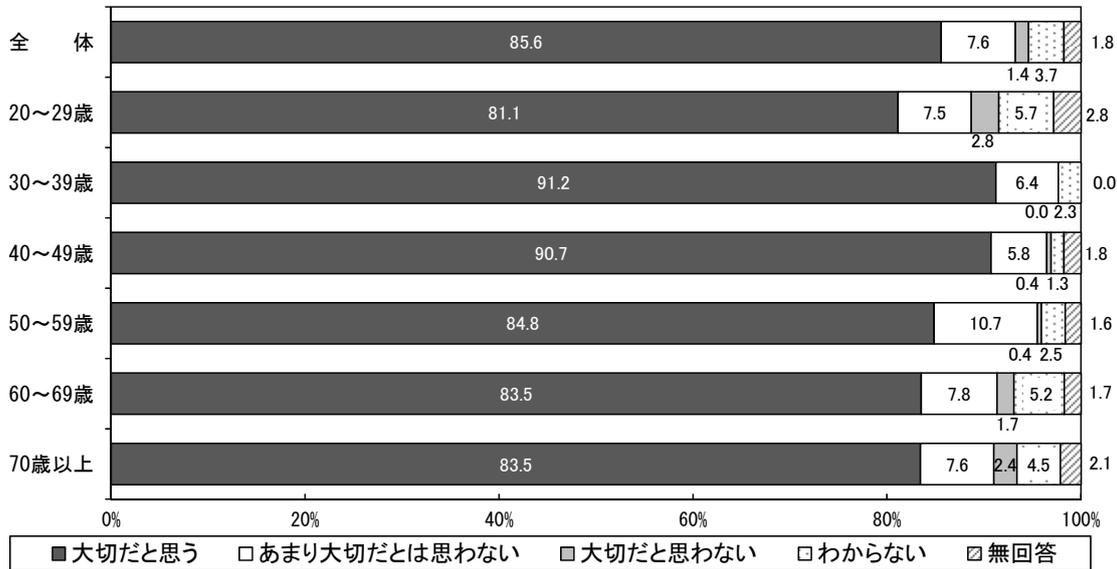
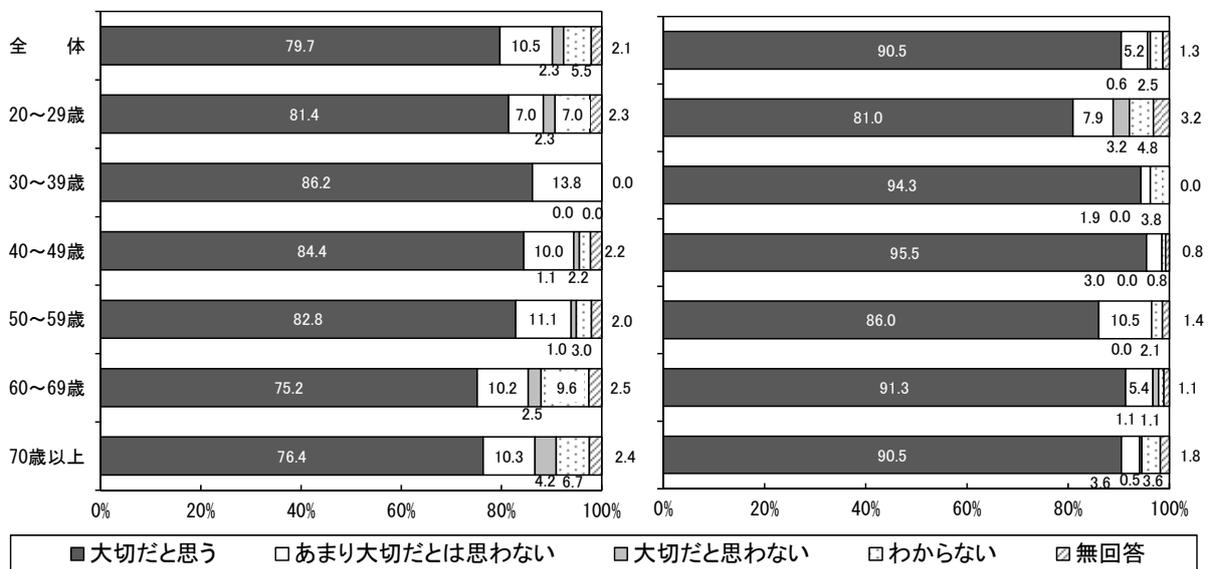


【性別・年齢別】

各年代とも、「大切だと思う」と回答した人が最も多く、30歳代（91.2%）が最も高く、20歳代（81.1%）が最も低くなっている。

性別では、「大切だと思う」割合は、20歳代では男性と女性がほぼ同率となっているが、30歳代以上で女性の方が男性よりも高くなっている。

図 17.2 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（年齢別・全体）

図 17.3 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ
(年齢別・男性) (年齢別・女性)

	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

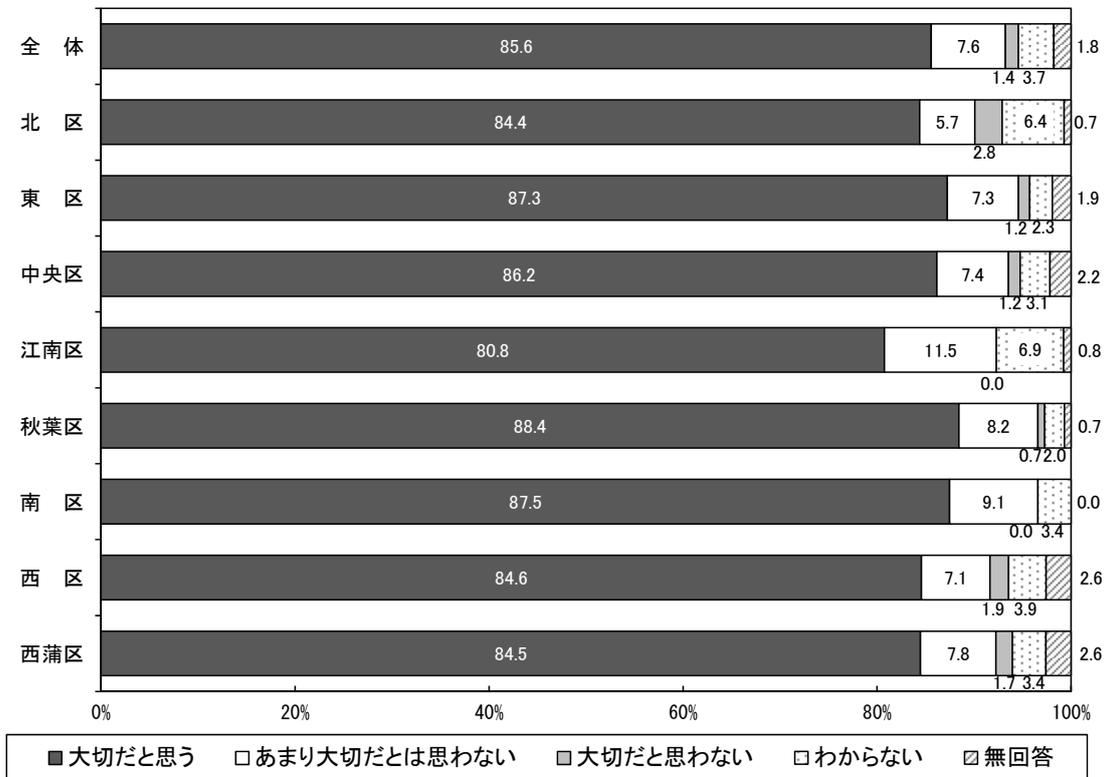
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに「大切だと思う」と回答した人が最も多く、全ての地区で8割を超えている。

図 17.4 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

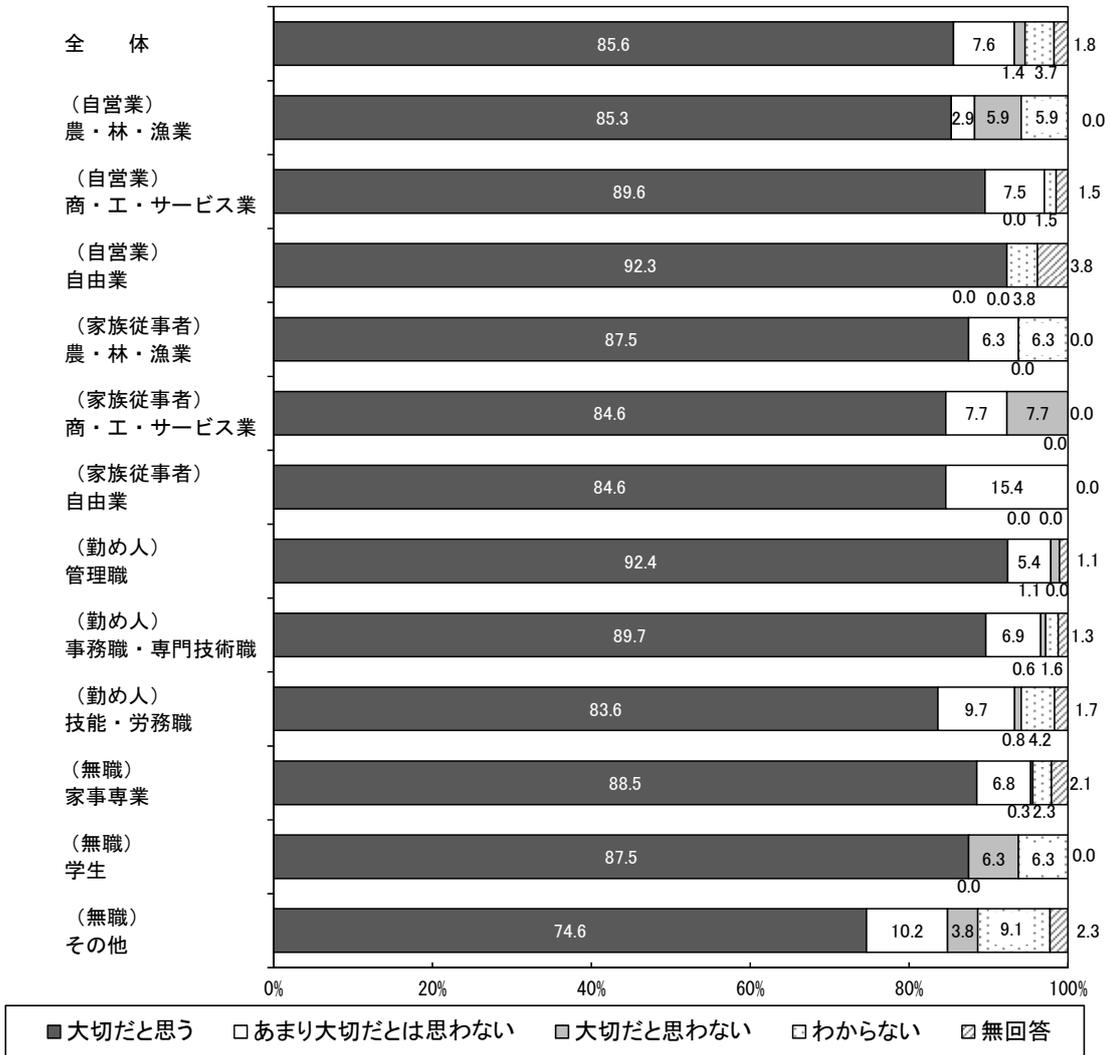
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 17.5 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
1,534	34	67	26	16	13	13		
		勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
	92	319	238	383	16	264	53	

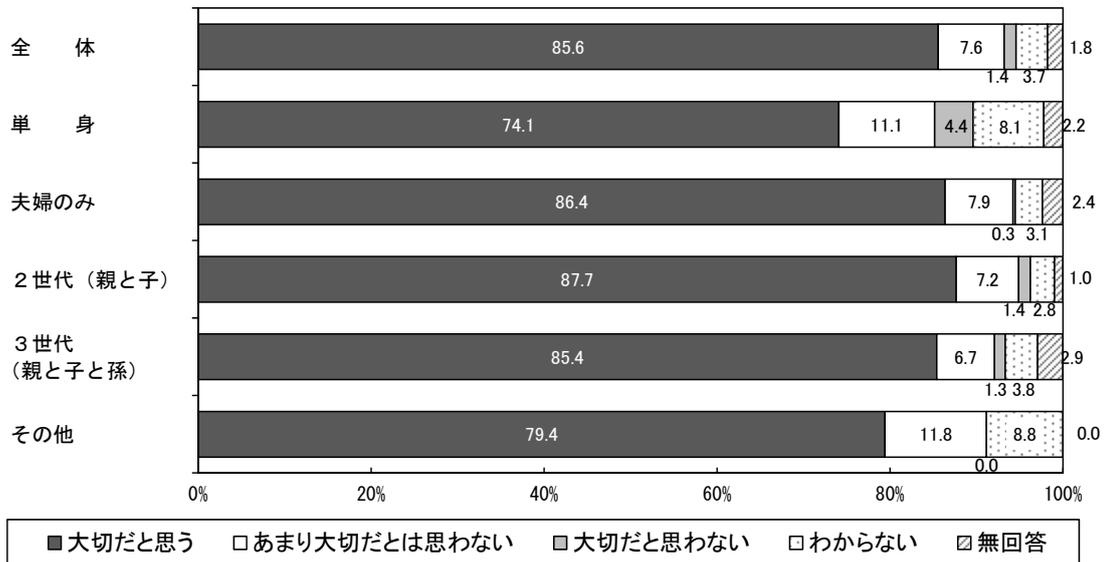
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに「大切だと思う」と回答した人が最も多くなっているが、単身（74.1%）でやや低くなっている。

図 17.6 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(10) 家族と朝食を食べる回数

問20 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

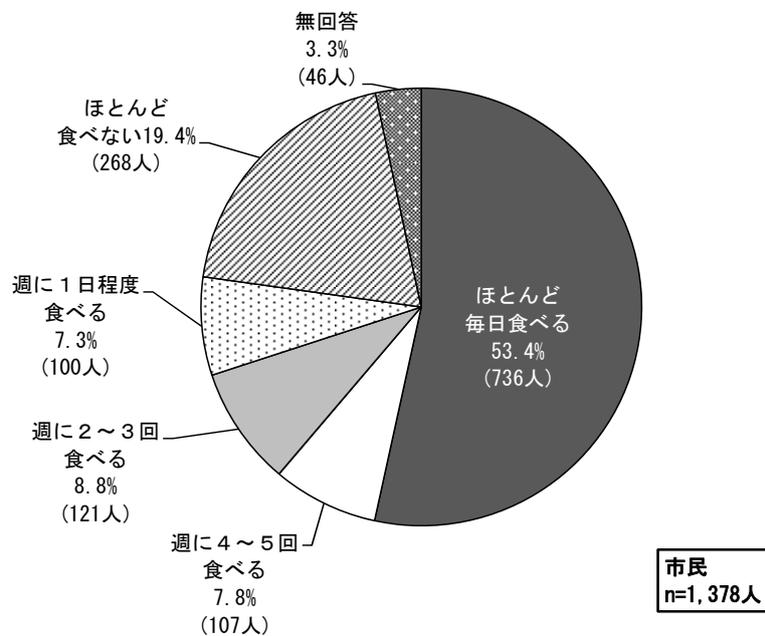
5割強が「ほとんど毎日食べる」と回答

【全体結果】

5割強 (53.4%) が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(7.8%)、「週に2～3日食べる」(8.8%)を合わせると、7割 (70.0%) の人が家族と一緒に朝食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(7.3%)、「ほとんど食べない」(19.4%)と回答した、家族と一緒に朝食を食べない人は2割強 (26.7%) となっている。

図 18.1 家族と朝食を食べる回数



【性別・年齢別】

30歳代以上では「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、70歳以上では7割を超えている。
一方、20歳代では4割弱（38.5%）の人が「ほとんど食べない」と回答している。

図 18.2 家族と朝食を食べる回数（年齢別・全体）

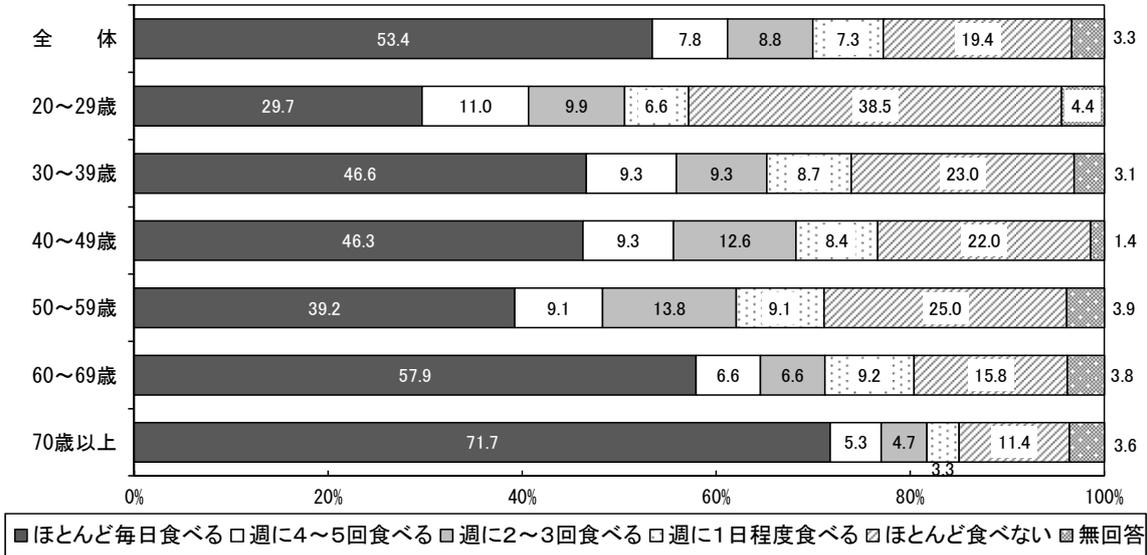
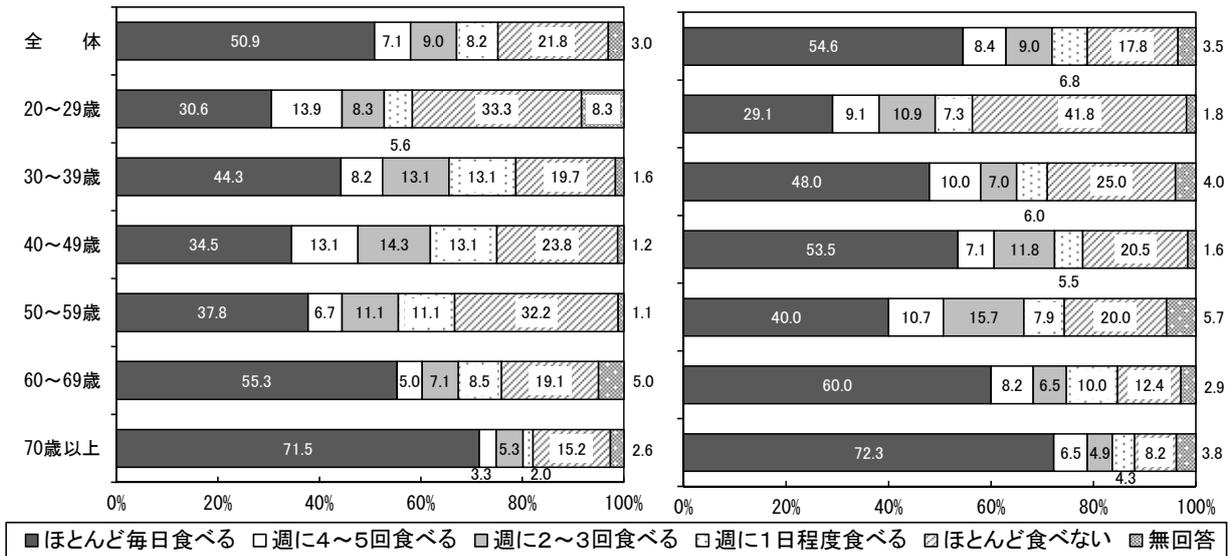


図 18.3 家族と朝食を食べる回数

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,378	91	161	214	232	316	361	3
男性	564	36	61	84	90	141	151	1
女性	777	55	100	127	140	170	184	1

(人)

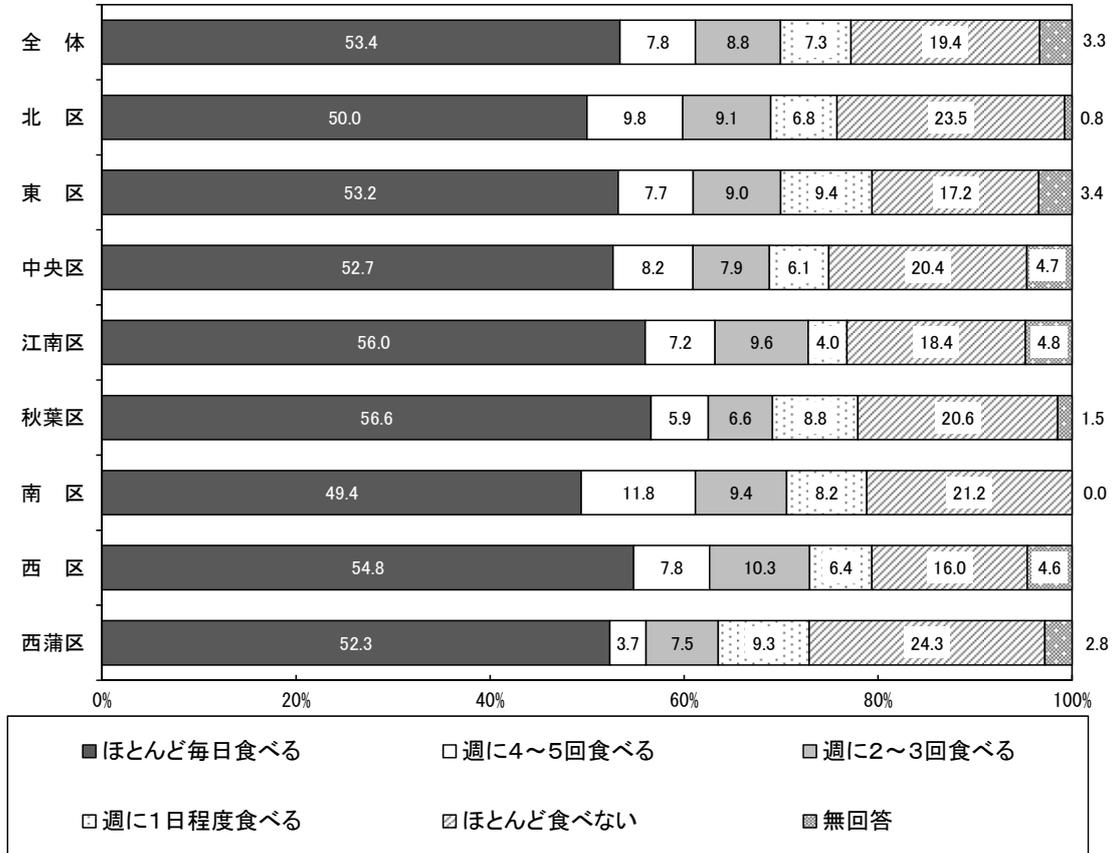
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、秋葉区（56.6%）の割合が最も高くなっている。

一方、「ほとんど食べない」の割合は、西蒲区（24.3%）が最も高くなっている。

図 18.4 家族と朝食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,378	132	233	279	125	136	85	281	107	0

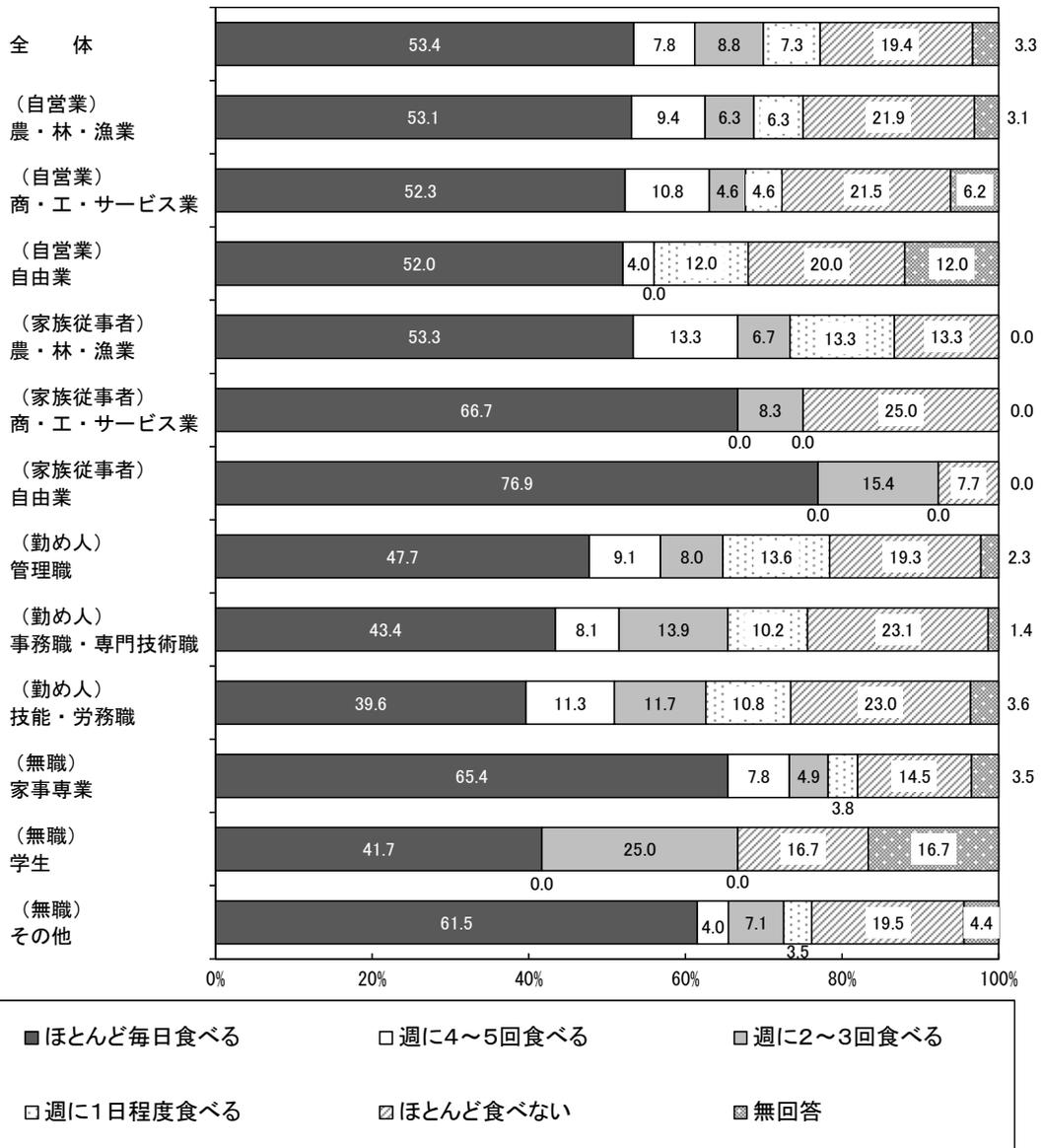
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 18.5 家族と朝食を食べる回数（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,378	32	65	25	15	12	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
88	295	222	344	12	226	29

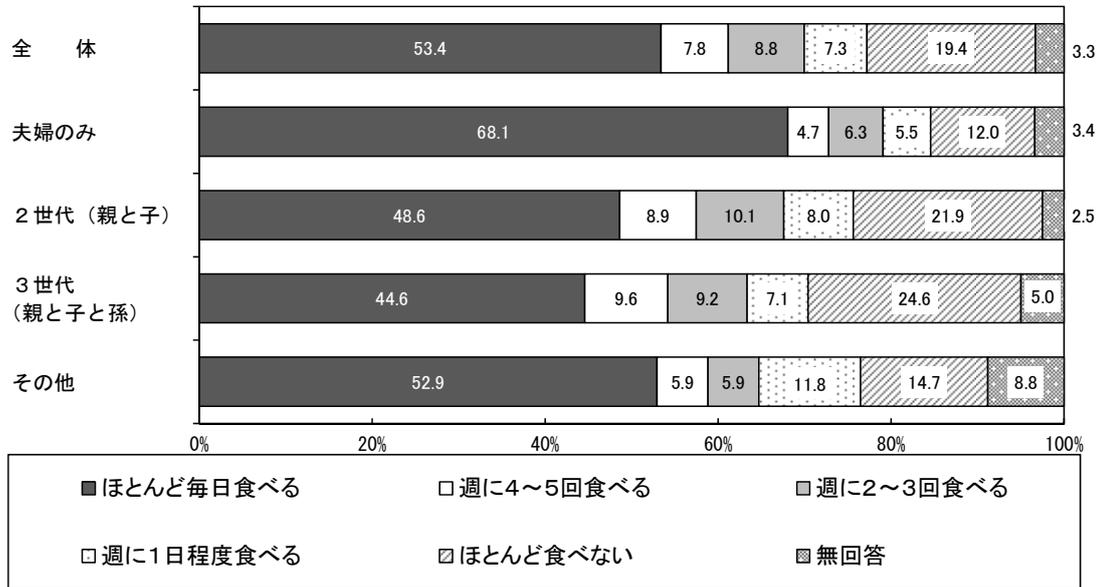
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ（68.1%）で最も高く、7割弱となっている。

図 18.6 家族と朝食を食べる回数（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,378	0	382	722	240	34	0

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(11) 家族と夕食を食べる回数

問20 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

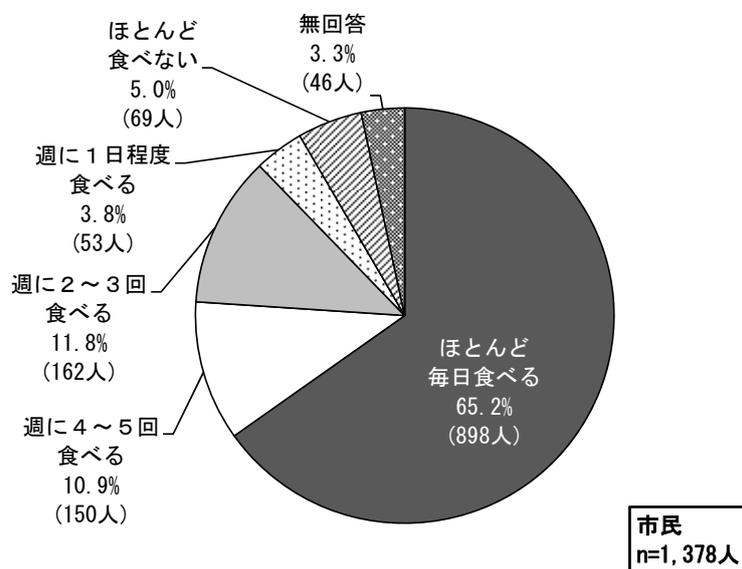
7割弱が「ほとんど毎日食べる」と回答

【全体結果】

7割弱 (65.2%) が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(10.9%)、「週に2～3日食べる」(11.8%)を合わせると、9割弱 (87.9%) の人が家族と一緒に夕食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(3.8%)、「ほとんど食べない」(5.0%)と回答した、家族と一緒に夕食を食べない人は1割弱 (8.8%) となっている。

図 19.1 家族と夕食を食べる回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、60歳代以上では7割を超えている。また、性別でみると、「ほとんど毎日食べる」の割合は、20歳代では男性の方が高く、30歳代以上では女性の方が高くなっている。

図 19.2 家族と夕食を食べる回数（年齢別・全体）

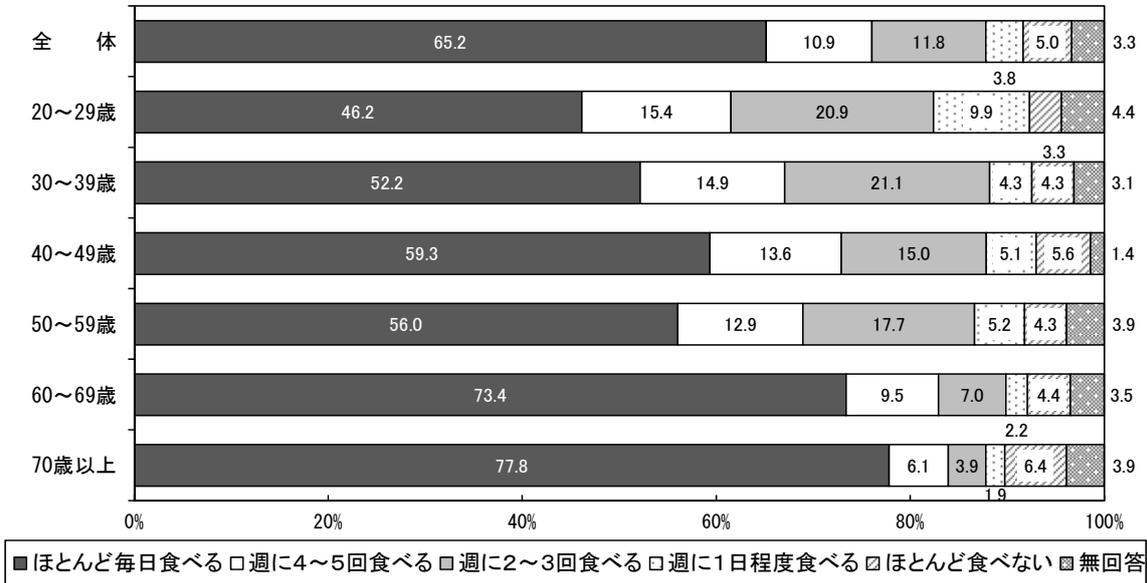
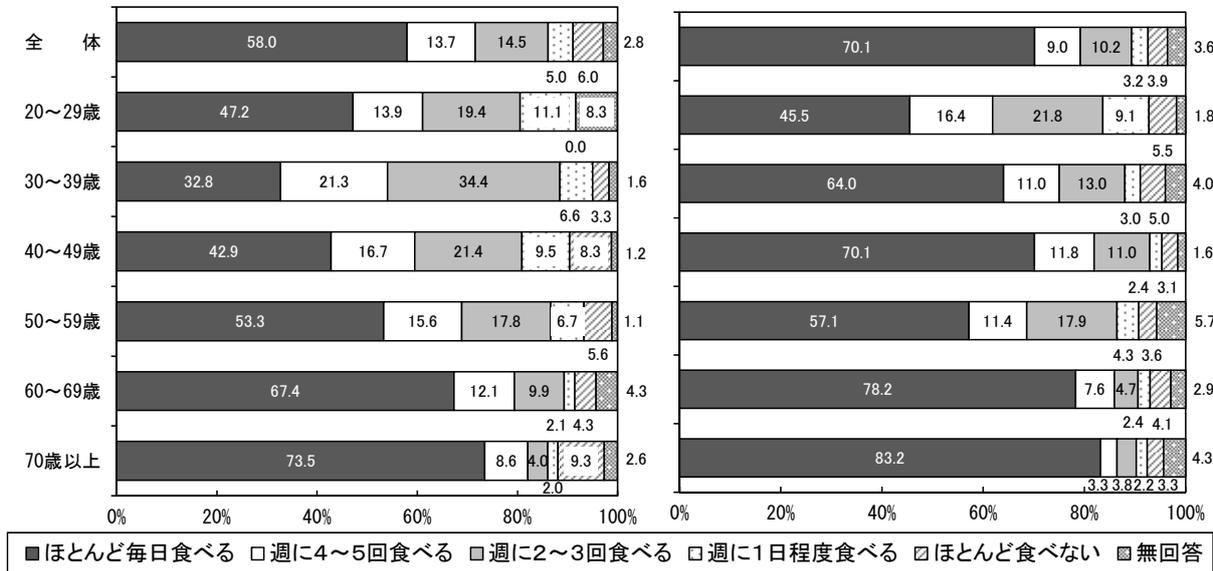


図 19.3 家族と夕食を食べる回数

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,378	91	161	214	232	316	361	3
男性	564	36	61	84	90	141	151	1
女性	777	55	100	127	140	170	184	1

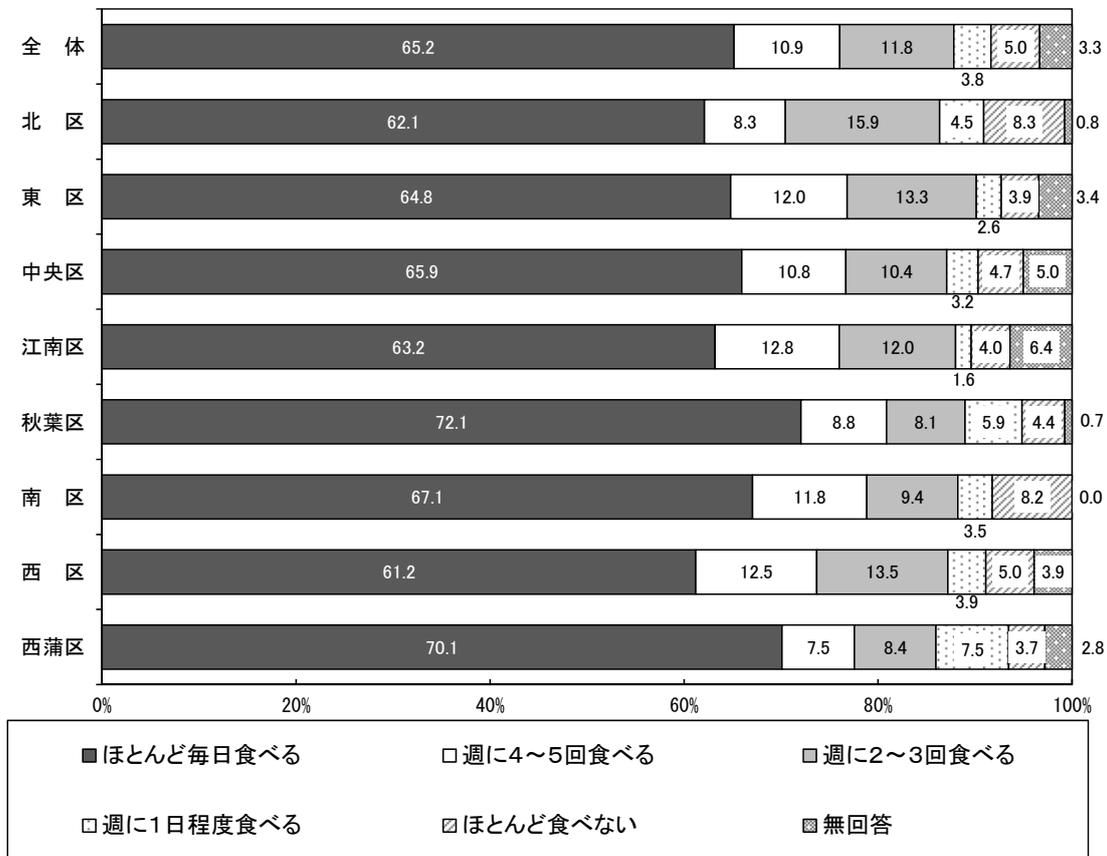
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、いずれの地区も6割を超え、秋葉区では7割強となっている。

図 19.4 家族と夕食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,378	132	233	279	125	136	85	281	107	0

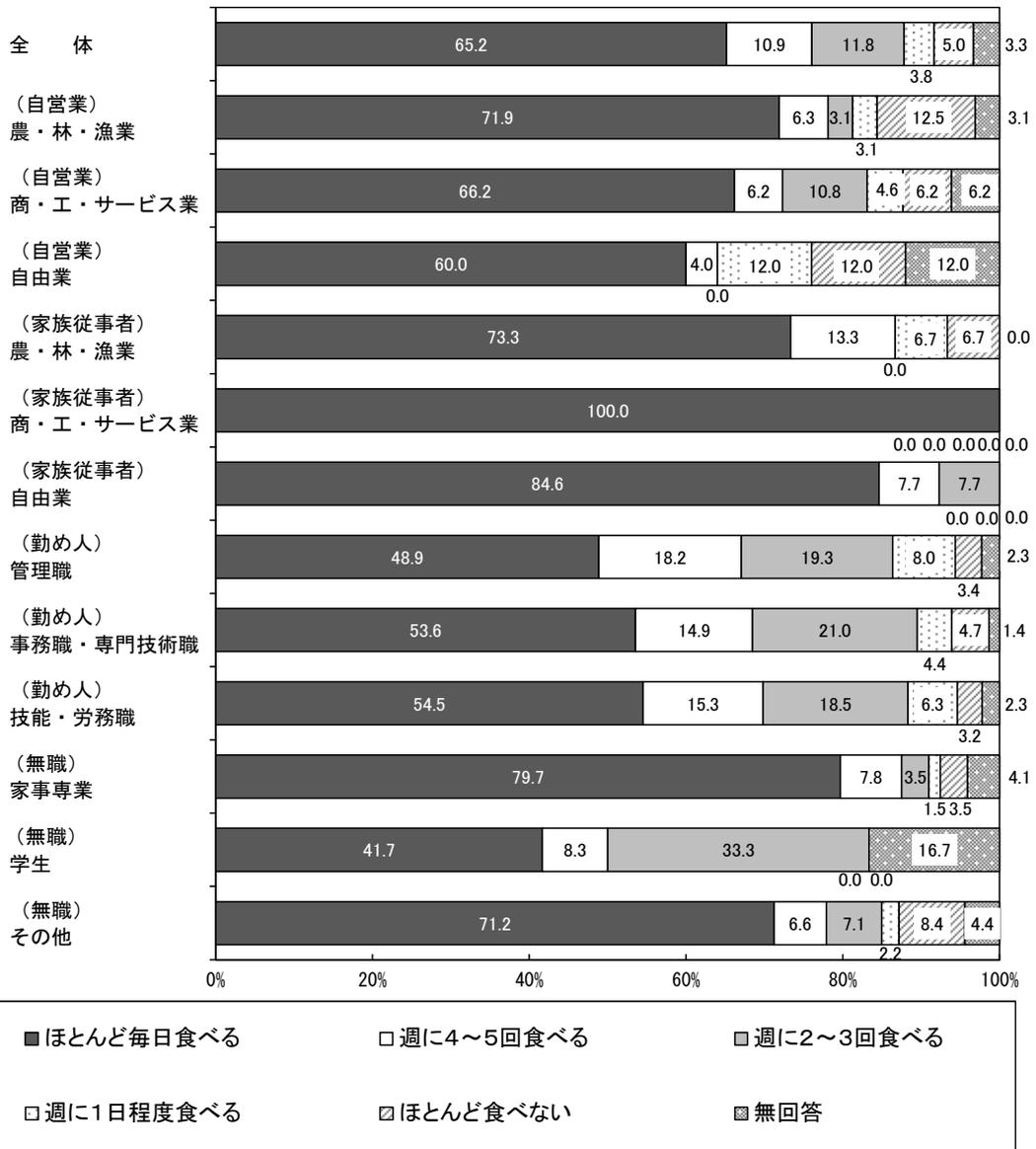
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 19.5 家族と夕食を食べる回数（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,378	32	65	25	15	12	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
88	295	222	344	12	226	29

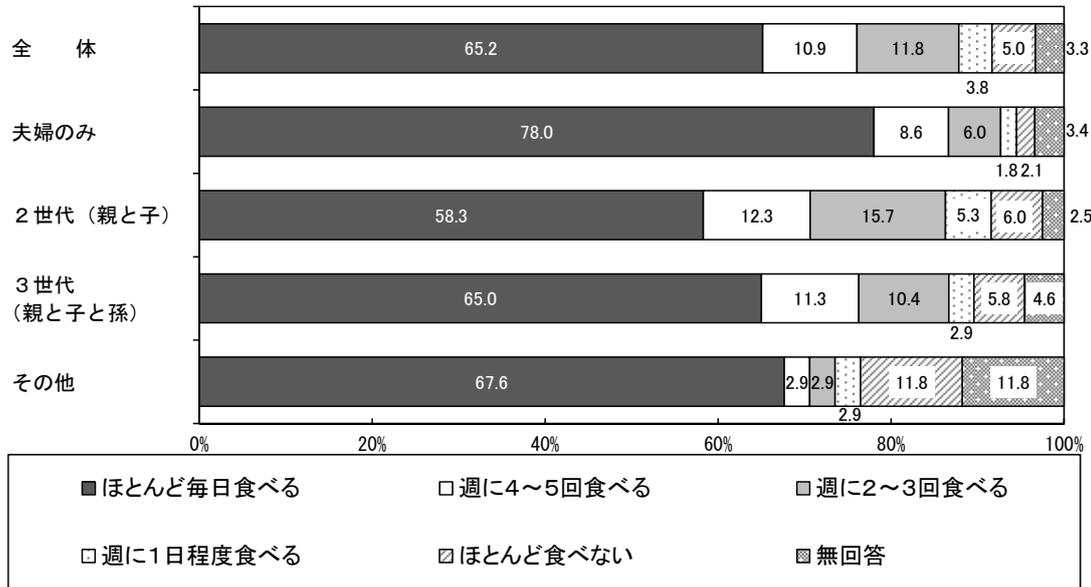
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ（78.0%）で7割を超え、最も高くなっている。

図 19.6 家族と夕食を食べる回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,378	0	382	722	240	34	0

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(12) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数

問20 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

ウ) この1週間で朝食または夕食を家族と一緒に食べた回数は何回ですか。

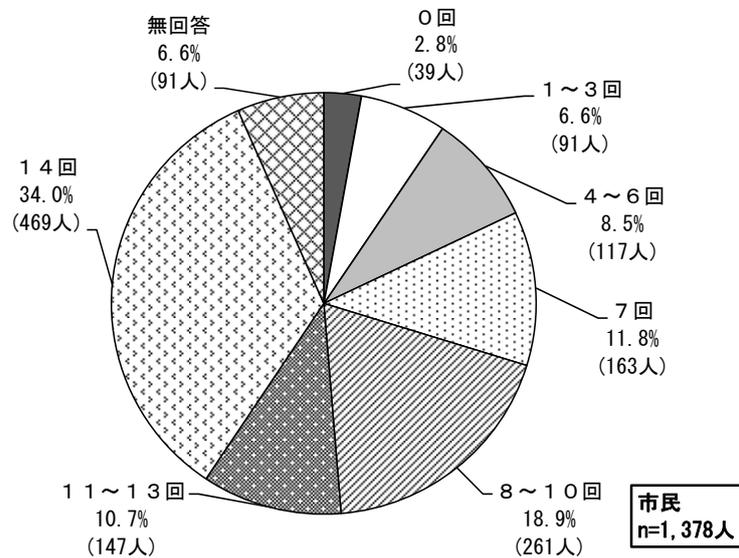
3割強が「14回(毎回)」家族と食事をしたと回答

【全体結果】

この1週間で家族と一緒に朝食または夕食を食べた回数が「14回(毎回)」(34.0%)と回答した人が最も多く、以下「8~10回」(18.9%)、「7回」(11.8%)、「11~13回」(10.7%)と続いている。

一方、「0回」(2.8%)、「1~3回」(6.8%)と回答した、家族と食べた回数が少ない人は1割弱(9.4%)となっている。

図20.1 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数



【性別・年齢別】

20歳代は「4～6回」および「8～10回」と回答した人が同率で最も多く、30歳代以上では「14回」と回答した人が最も多くなっている。また、性別でみると、「14回」の割合は30歳代～40歳代では女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

図 20.2 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（年齢別・全体）

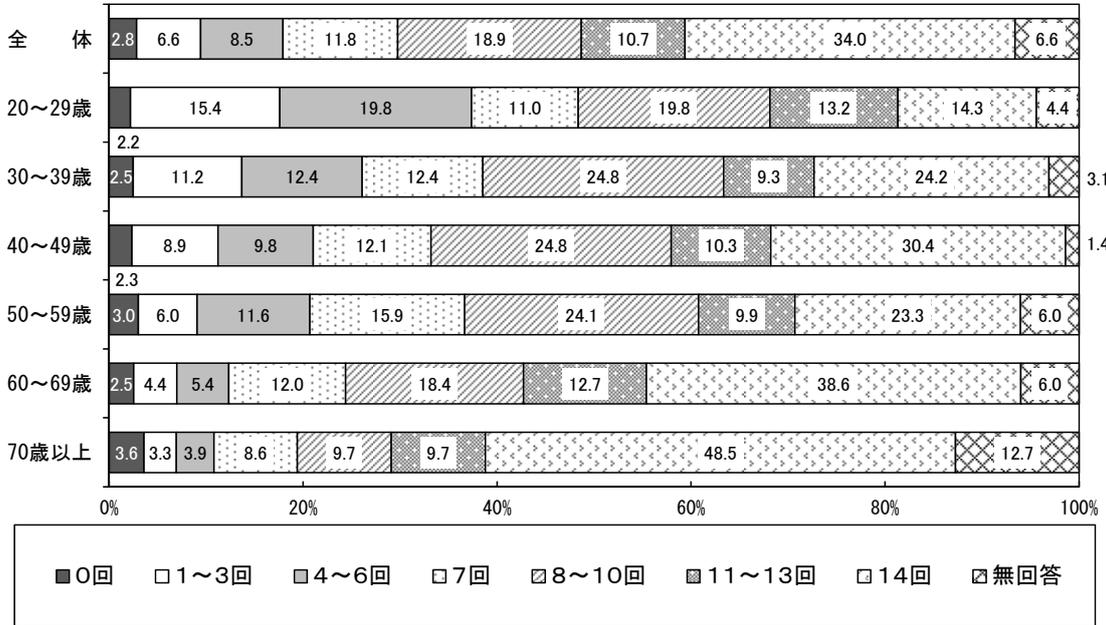
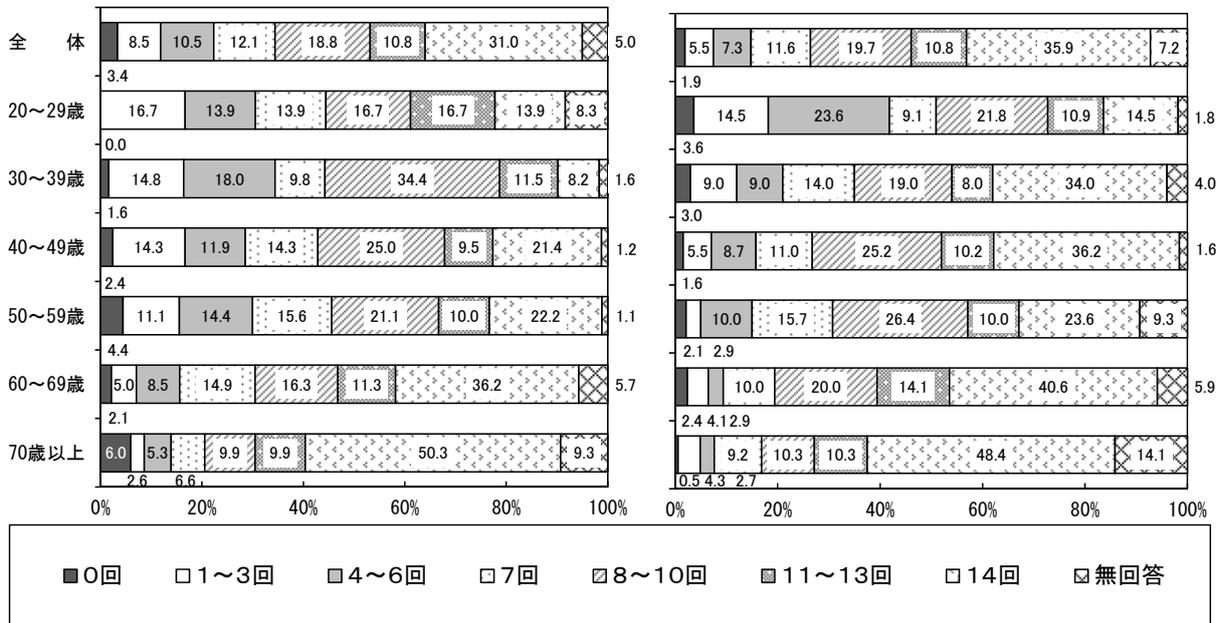


図 20.3 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,378	91	161	214	232	316	361	3
男 性	564	36	61	84	90	141	151	1
女 性	777	55	100	127	140	170	184	1

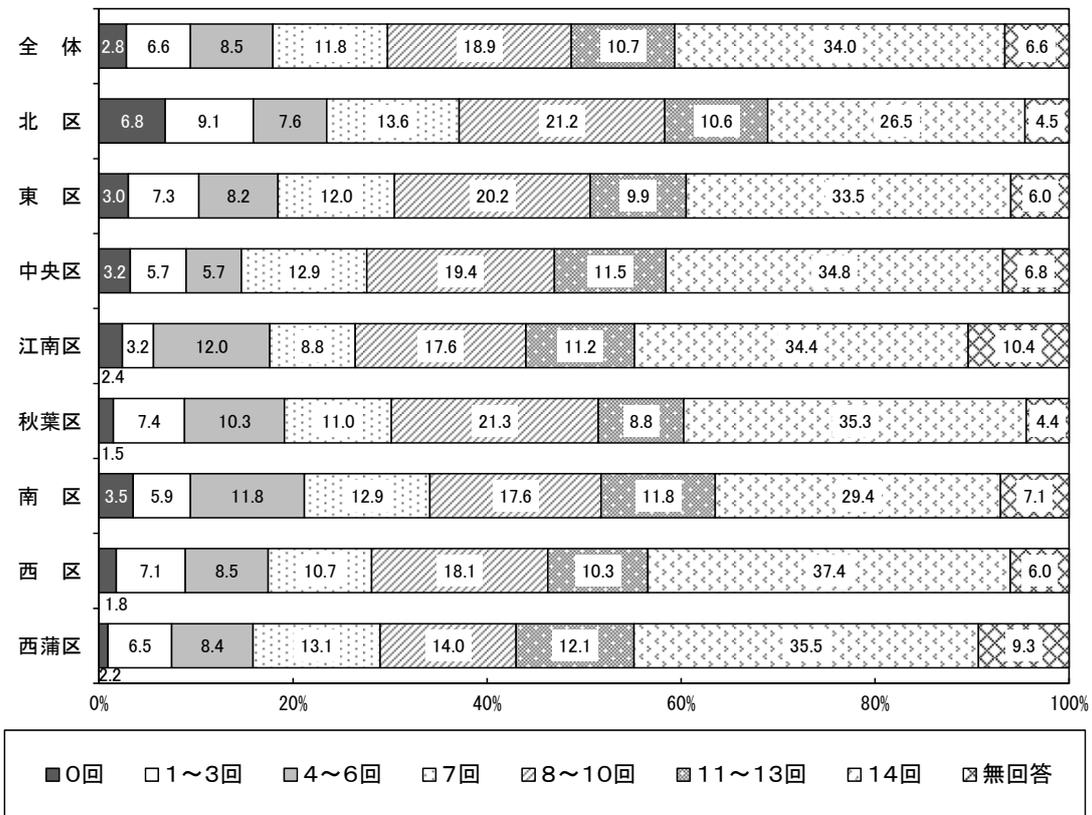
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「14回」と回答した人が最も多くなっている。

図 20.4 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,378	132	233	279	125	136	85	281	107	0

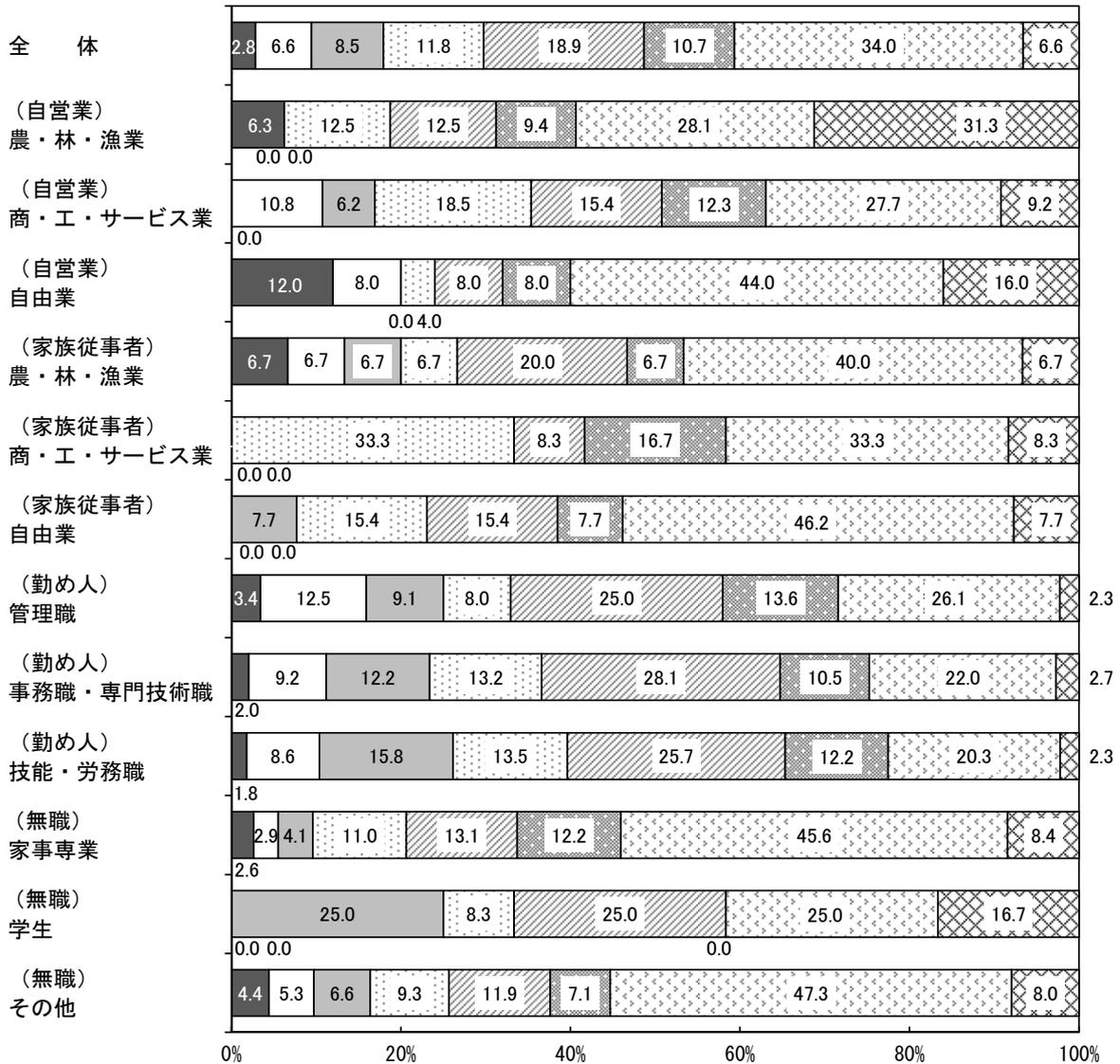
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 20.5 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,378	32	65	25	15	12	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
88	295	222	344	12	226	29

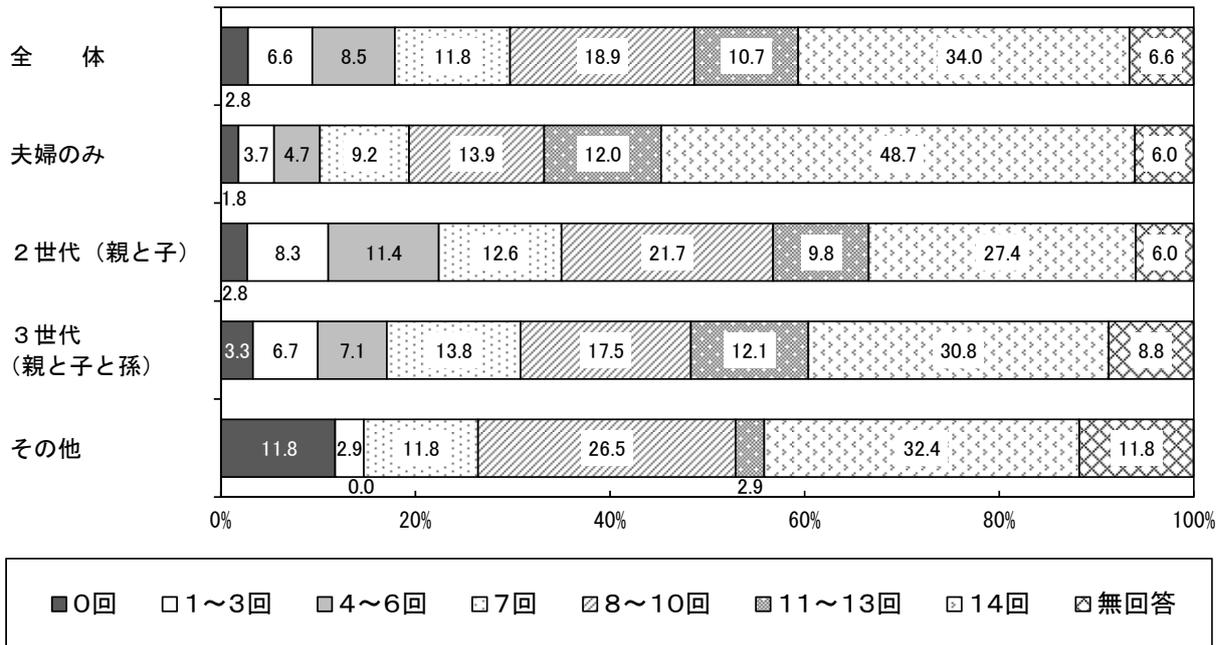
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「14回」と回答した人の割合は、夫婦のみ（48.7%）で最も高く、5割弱となっている。

図 20.6 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 （親と子）	3世代 （親と子と孫）	その他	無回答
1,378	0	382	722	240	34	0

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(13) 家族と食事を一緒に食べることの良い点

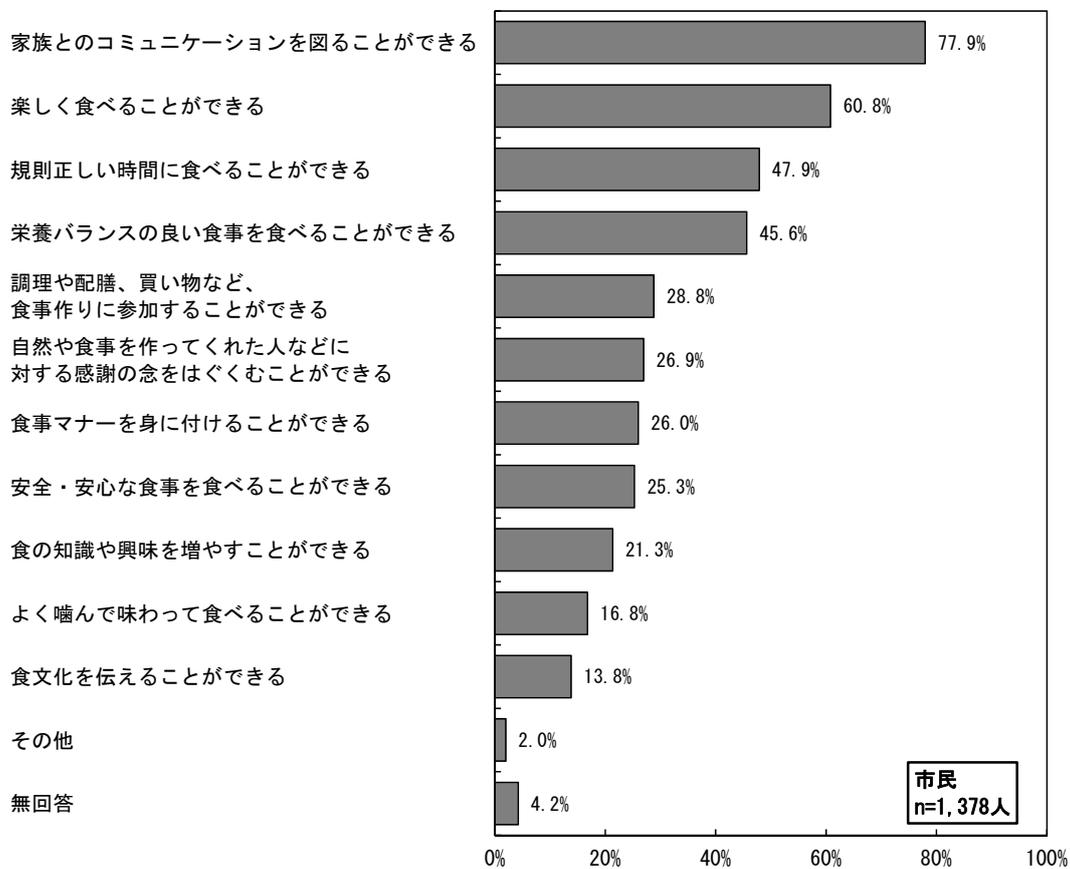
問21 食事を家族と一緒に食べることは、一人で食べるよりどのような良い点があると思いますか。
(○はいくつでも)

7割強が「家族とのコミュニケーションを図ることができる」と回答

【全体結果】

家族と食事を一緒にすることの良い点は、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」(77.9%)をあげる人が最も多くなっている。以下「楽しく食べることができる」(60.8%)、「規則正しい時間に食べることができる」(47.9%)、「栄養バランスの良い食事を食べることができる」(45.6%)と続いている。

図21.1 家族と食事を一緒に食べることの良い点



全体	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安全・安心な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
1,378	1,074	838	660	629	397	371	358	348	294	231	190	27	58

(人)

【性別・年齢別】

各年代とも、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」「楽しく食べることができる」の割合が高くなっている。60歳代以上では「規則正しい時間に食べることができる」の割合も高くなっている。

表 4.1 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・全体）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安全・安心な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	1,378	77.9	60.8	47.9	45.6	28.8	26.9	26.0	25.3	21.3	16.8	13.8	2.0	4.2
20～29歳	91	74.7	60.4	36.3	47.3	25.3	23.1	27.5	23.1	14.3	11.0	8.8	1.1	4.4
30～39歳	161	86.3	68.9	43.5	40.4	31.1	31.7	41.6	16.1	21.7	10.6	14.9	1.9	3.7
40～49歳	214	88.8	63.6	36.0	41.1	29.0	21.5	38.3	13.6	20.6	11.2	14.0	2.3	1.9
50～59歳	232	81.9	58.2	38.4	44.8	28.0	24.6	26.7	19.8	22.0	11.2	15.9	0.9	4.3
60～69歳	316	77.2	57.6	54.7	48.1	26.6	23.7	17.4	27.8	19.6	16.1	13.6	2.8	3.5
70歳以上	361	66.8	60.1	60.1	48.8	31.0	33.2	18.6	37.7	24.1	28.3	13.3	1.9	6.4
年齢不明	3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 4.2 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・男性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安全・安心な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	564	75.7	59.8	46.6	44.1	22.0	25.9	19.3	27.7	18.8	15.8	11.7	2.1	3.9
20～29歳	36	63.9	55.6	36.1	52.8	13.9	22.2	22.2	30.6	11.1	16.7	5.6	0.0	8.3
30～39歳	61	86.9	57.4	41.0	36.1	18.0	21.3	29.5	14.8	16.4	3.3	11.5	1.6	3.3
40～49歳	84	90.5	70.2	34.5	40.5	16.7	22.6	28.6	11.9	19.0	14.3	14.3	2.4	1.2
50～59歳	90	82.2	55.6	37.8	38.9	30.0	23.3	17.8	20.0	20.0	11.1	13.3	0.0	2.2
60～69歳	141	73.0	56.7	46.8	44.0	19.1	21.3	12.8	32.6	17.7	12.1	9.9	4.3	4.3
70歳以上	151	64.9	60.9	63.6	51.0	26.5	36.4	16.6	41.1	21.9	27.8	12.6	2.0	5.3
年齢不明	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 4.3 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・女性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	食事マナーを身に付けることができる	安全・安心な食事を食べることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よく噛んで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	777	80.4	61.9	48.6	47.1	34.1	27.4	31.4	23.4	23.4	17.2	15.3	1.9	3.9
20～29歳	55	81.8	63.6	36.4	43.6	32.7	23.6	30.9	18.2	16.4	7.3	10.9	1.8	1.8
30～39歳	100	86.0	76.0	45.0	43.0	39.0	38.0	49.0	17.0	25.0	15.0	17.0	2.0	4.0
40～49歳	127	88.2	59.1	37.0	41.7	37.0	20.5	44.9	14.2	22.0	9.4	13.4	2.4	2.4
50～59歳	140	81.4	60.0	37.9	47.9	27.1	25.0	32.9	18.6	23.6	11.4	17.9	1.4	5.7
60～69歳	170	81.2	58.2	62.4	51.8	32.9	26.5	21.8	24.7	21.8	19.4	17.1	1.8	2.4
70歳以上	184	70.1	60.9	58.2	49.5	36.4	30.4	20.7	37.0	26.6	29.3	13.6	2.2	5.4
年齢不明	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

(14) 家族との食事に対する意識

問22 家族との食事について伺います。(項目毎に○は1つだけ)

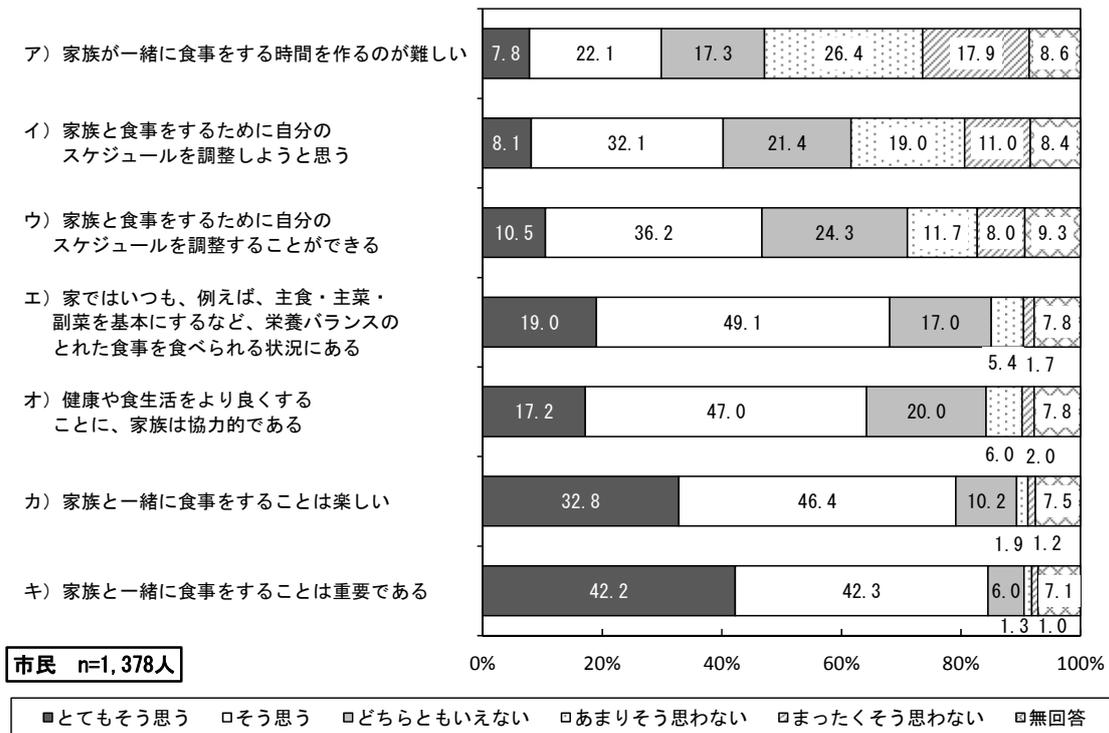
8割強が『家族と一緒に食事をすることは重要である』、
8割弱が『家族と一緒に食事をすることは楽しい』と回答

【全体結果】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人を合わせた割合は、『キ) 家族と一緒に食事をすることは重要である』(84.5%)で8割強、『カ) 家族と一緒に食事をすることは楽しい』(79.2%)で8割弱と高くなっている。

一方、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した人を合わせた割合は、『ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい』(44.3%)で4割強と高くなっている。

図 22.1 家族との食事に対する意識



	全体	とても そう思う	そう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	無回答
ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい	1,378	108	304	238	364	246	118
イ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う	1,378	112	442	295	262	151	116
ウ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる	1,378	145	499	335	161	110	128
エ) 家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある	1,378	262	676	234	75	24	107
オ) 健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である	1,378	237	648	275	83	28	107
カ) 家族と一緒に食事をするのは楽しい	1,378	452	639	140	26	17	104
キ) 家族と一緒に食事をするのは重要である	1,378	582	583	83	18	14	98

(人)

(15) 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度

問23 あなたは、食事の時の家族間の会話は大切だと思いますか。(○は1つだけ)

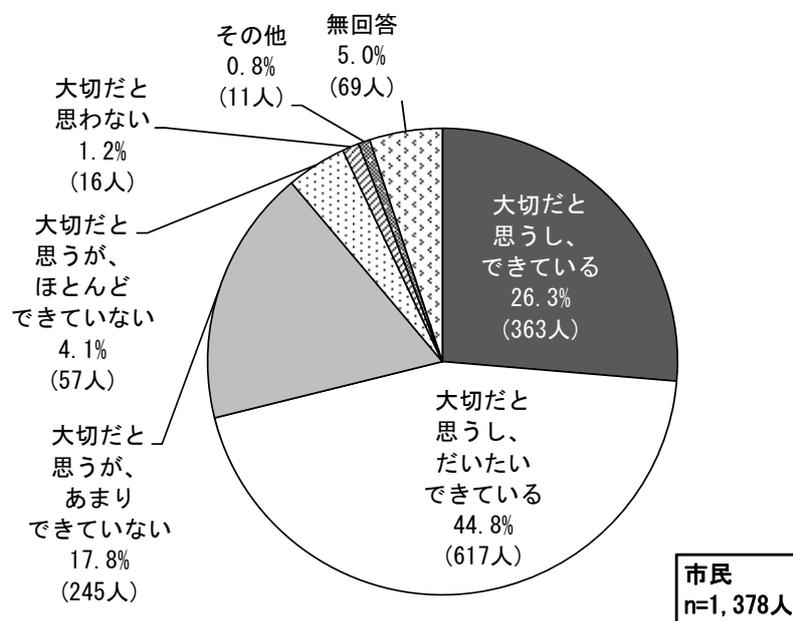
7割強が「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」と回答

【全体結果】

「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」と回答した人を合わせた割合は7割強(71.1%)となっている。

一方、「大切だと思うが、あまりできていない」「大切だと思うが、ほとんどできていない」と回答した人を合わせた割合は2割強(21.9%)となっている。

図23.1 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度



【性別・年齢別】

「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」と回答した人を合わせた割合は、20歳代（71.5%）、30歳代（73.3%）、40歳代（73.4%）、70歳以上（73.2%）で7割を超えている。

性別では、「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」を合わせた割合は、20歳代では男性の方がわずかに高く、30歳代以上では女性の方が高くなっている。

図 23.2 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度（年齢別・全体）

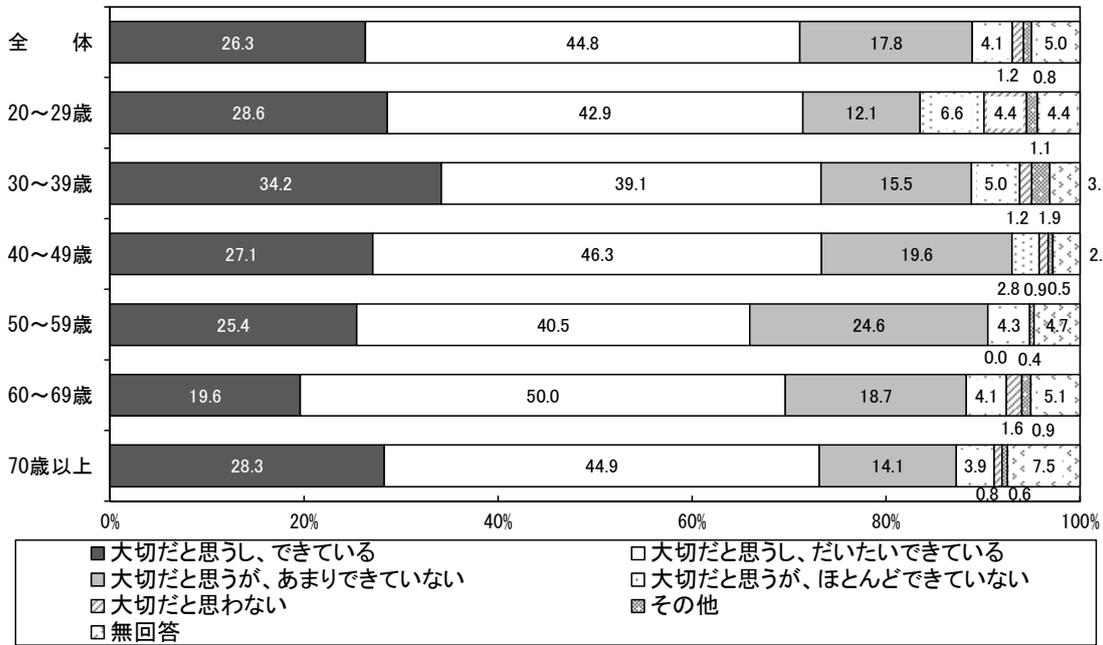
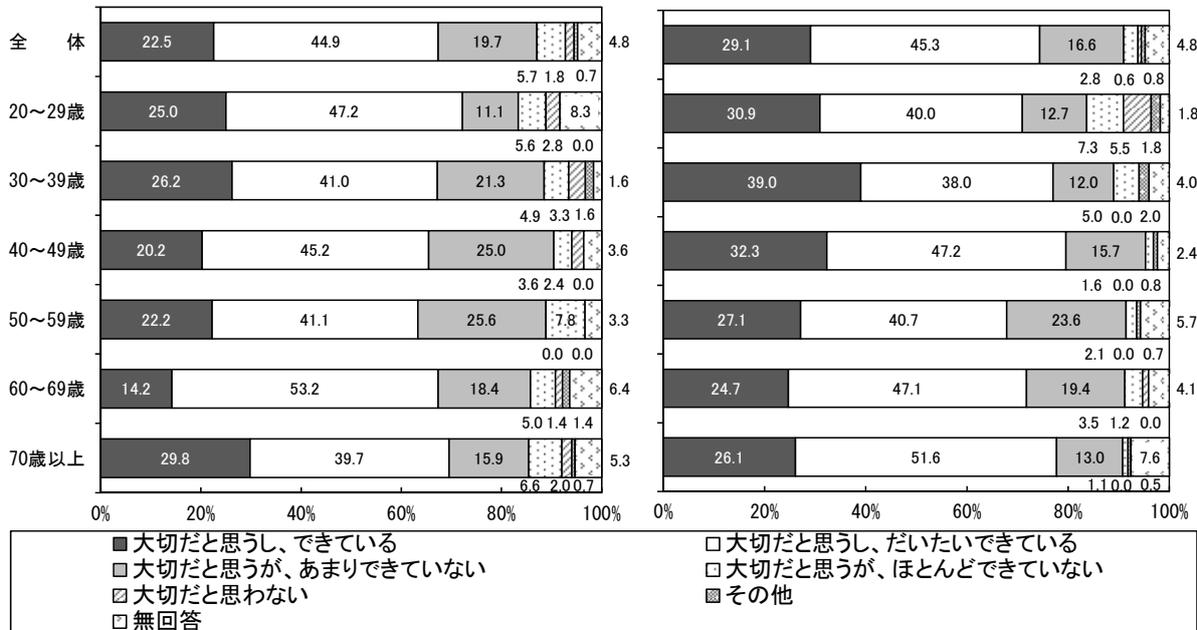


図 23.3 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度（年齢別・男性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,378	91	161	214	232	316	361	3
男性	564	36	61	84	90	141	151	1
女性	777	55	100	127	140	170	184	1

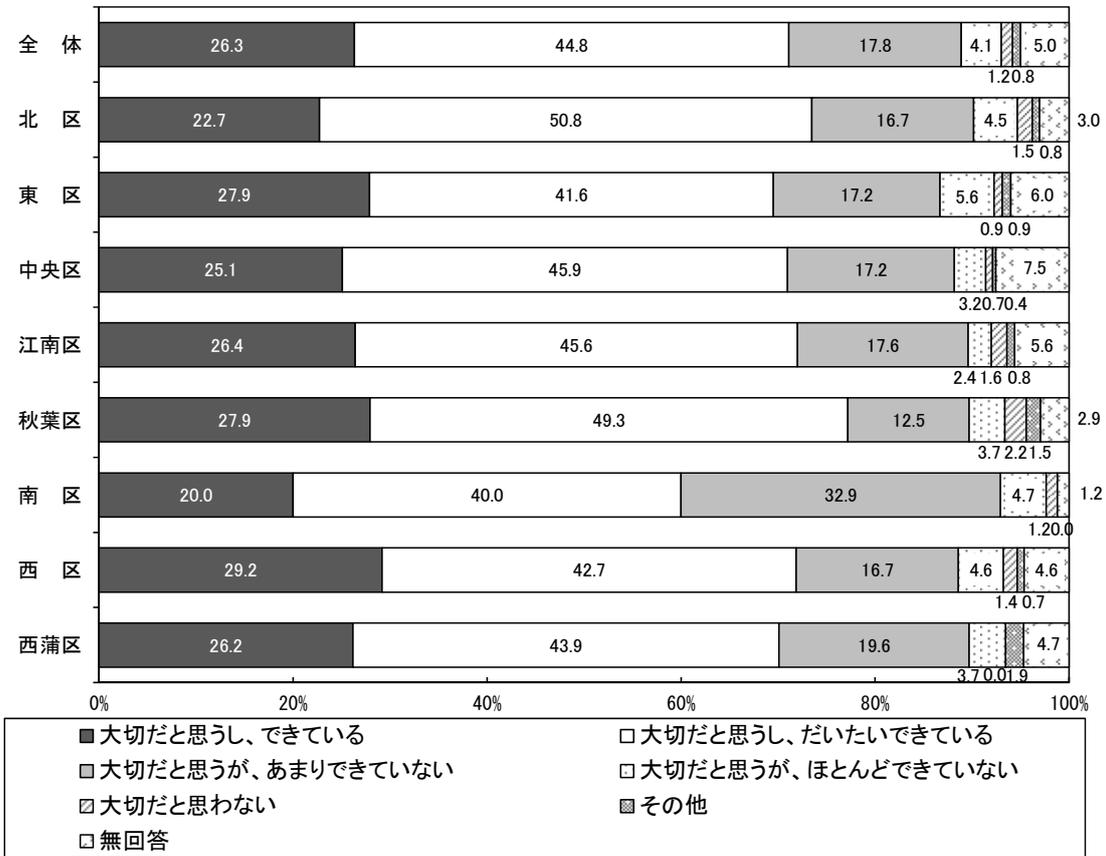
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」と回答した人を合わせた割合は、秋葉区（77.2%）で高く8割弱となっている。

図 23.4 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,378	132	233	279	125	136	85	281	107	0

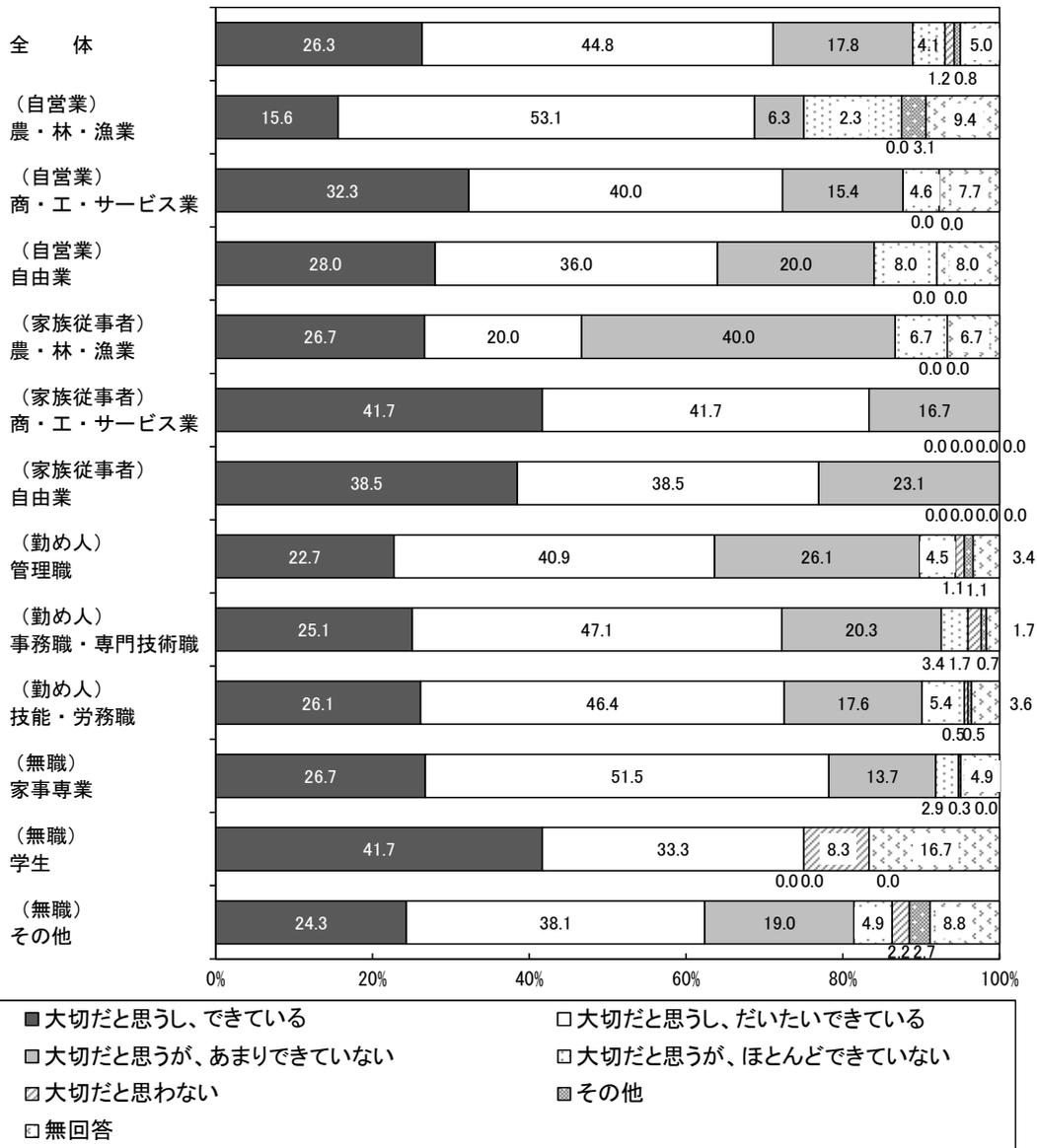
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 23.5 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,378	32	65	25	15	12	13	

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
88	295	222	344	12	226	29

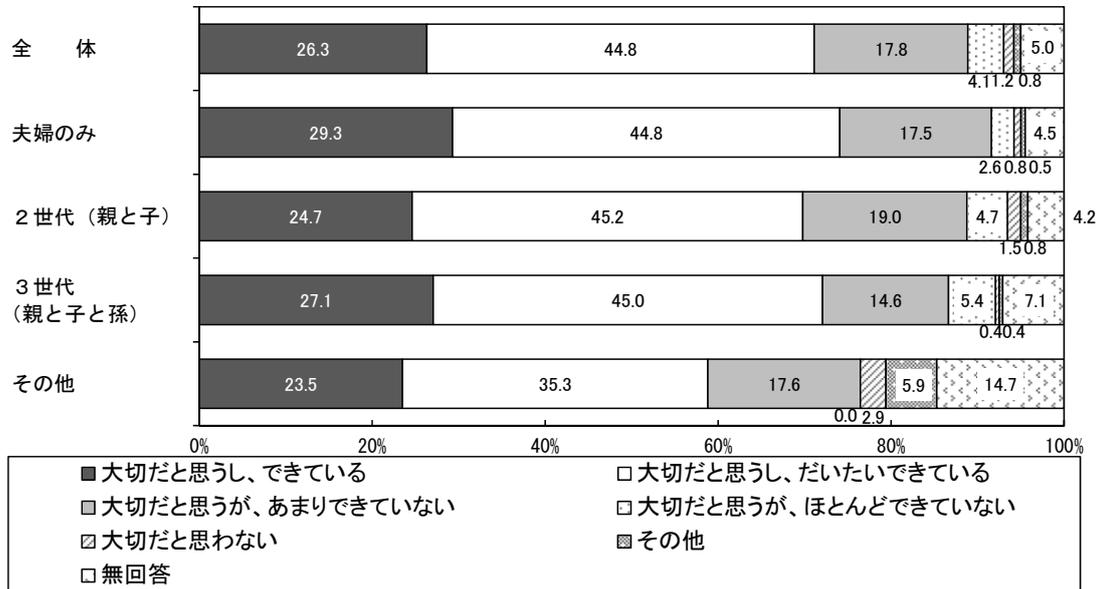
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「大切だと思うし、できている」「大切だと思うし、だいたいできている」と回答した人を合わせた割合は、夫婦のみ（74.1%）で高くなっている。

図 23.6 食事の時の家族間の会話の大切さについての認識や実践の程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,378	0	382	722	240	34	0

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(16) 食べ方への関心度

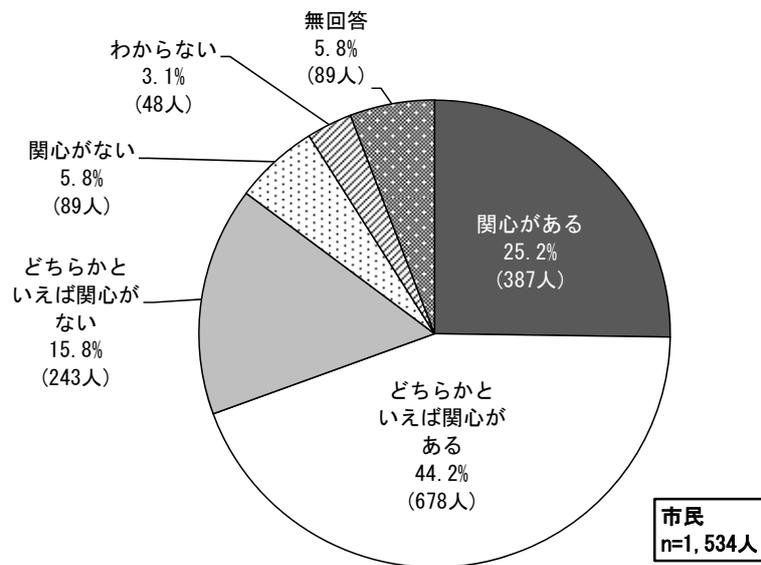
問24 あなたは、かみ方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。(○は1つだけ)

7割弱が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

【全体結果】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は7割弱(69.4%)で、一方、「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と答えた人の割合は2割強(21.6%)となっている。

図24.1 食べ方への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人を合わせた割合は、70歳以上（75.9%）で最も高く、50歳代（63.1%）で最も低くなっている。

性別では、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 24.2 食べ方への関心度（年齢別・全体）

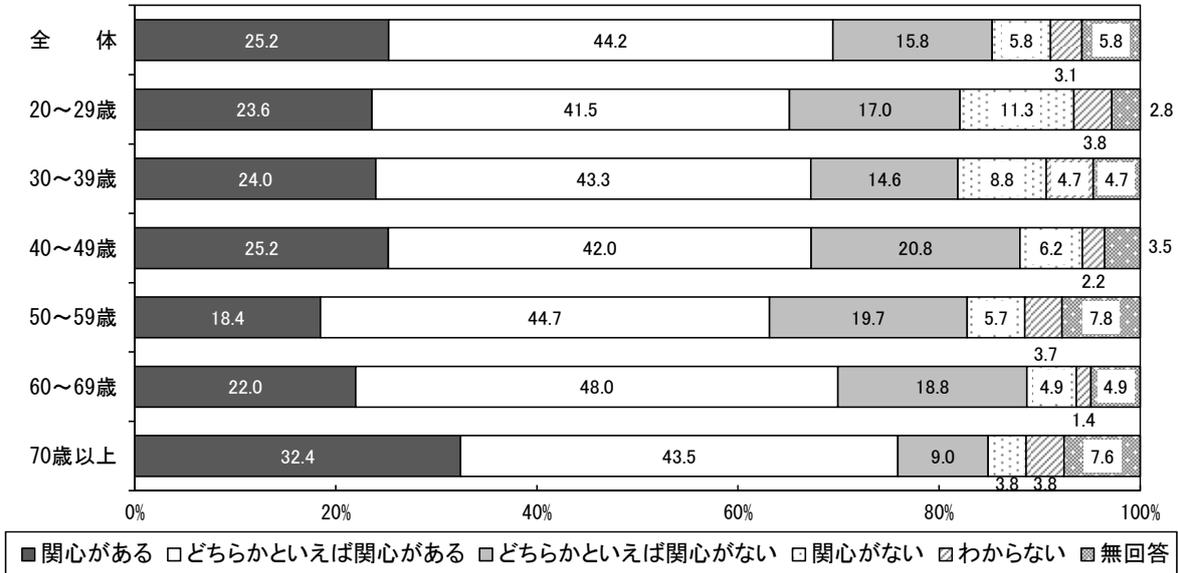
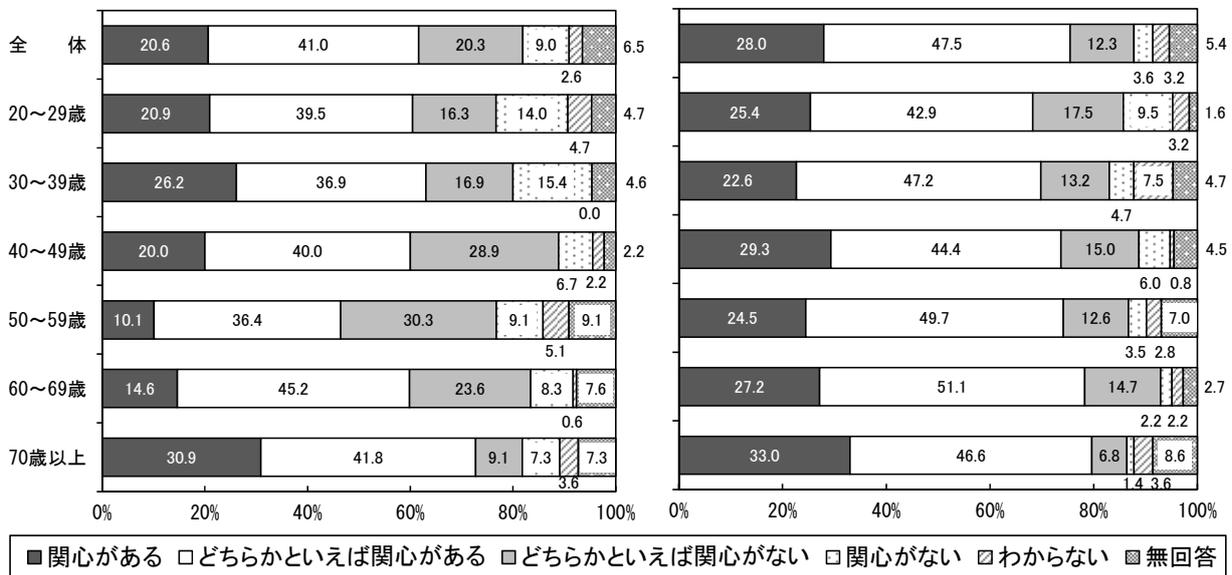


図 24.3 食べ方への関心度

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

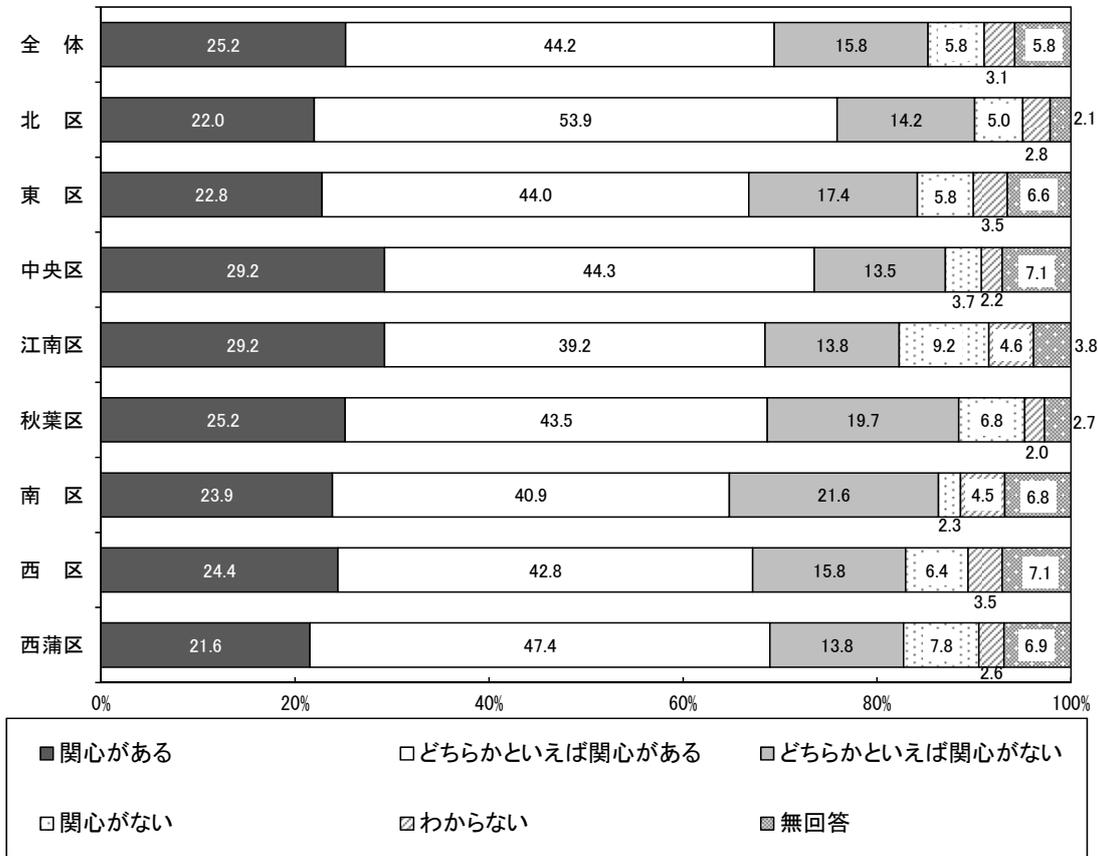
（人）

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人を合わせた割合は、北区（75.9%）で最も高く、南区（64.8%）で最も低くなっている。

図 24.4 食べ方への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

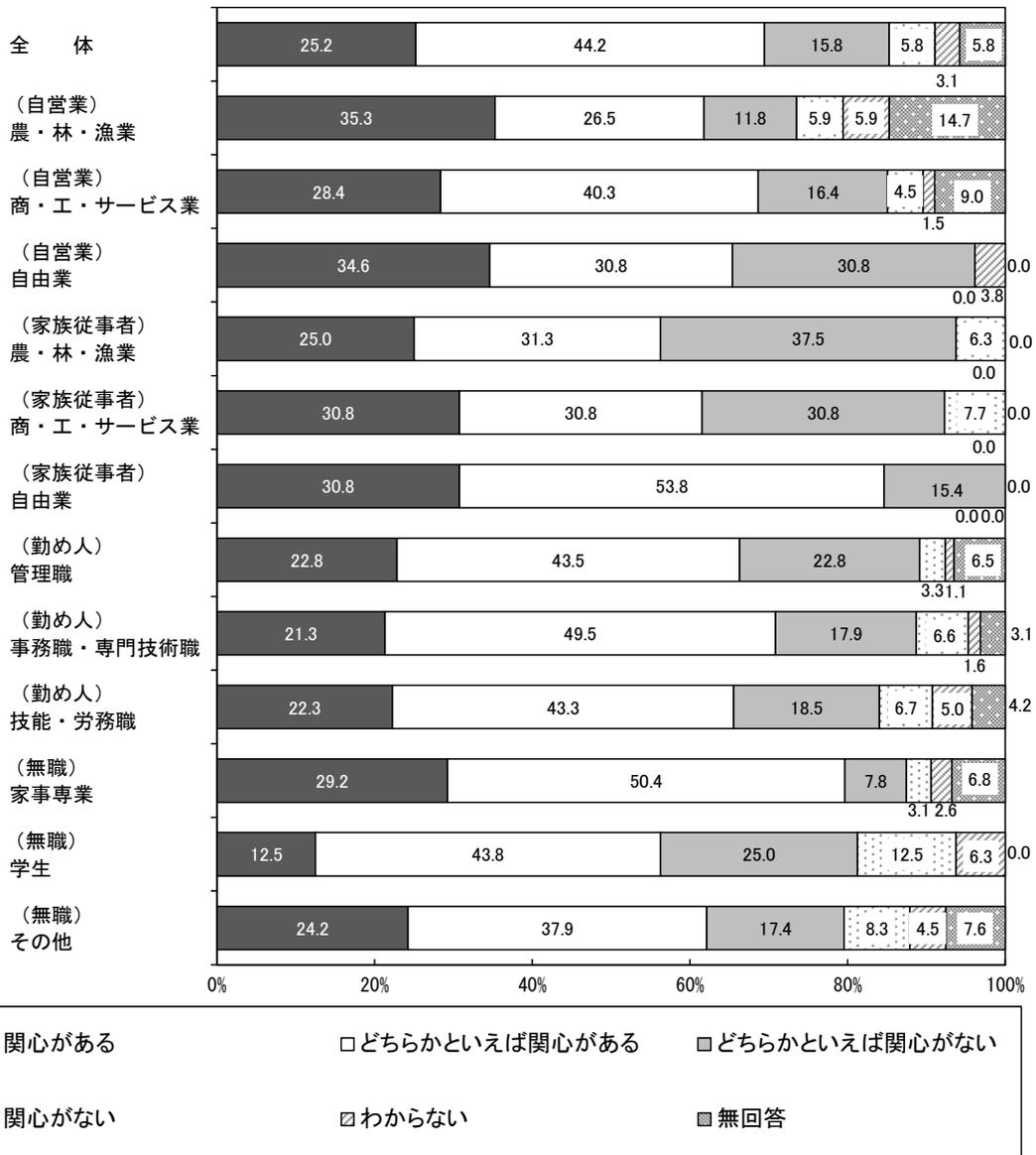
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 24.5 食べ方への関心度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

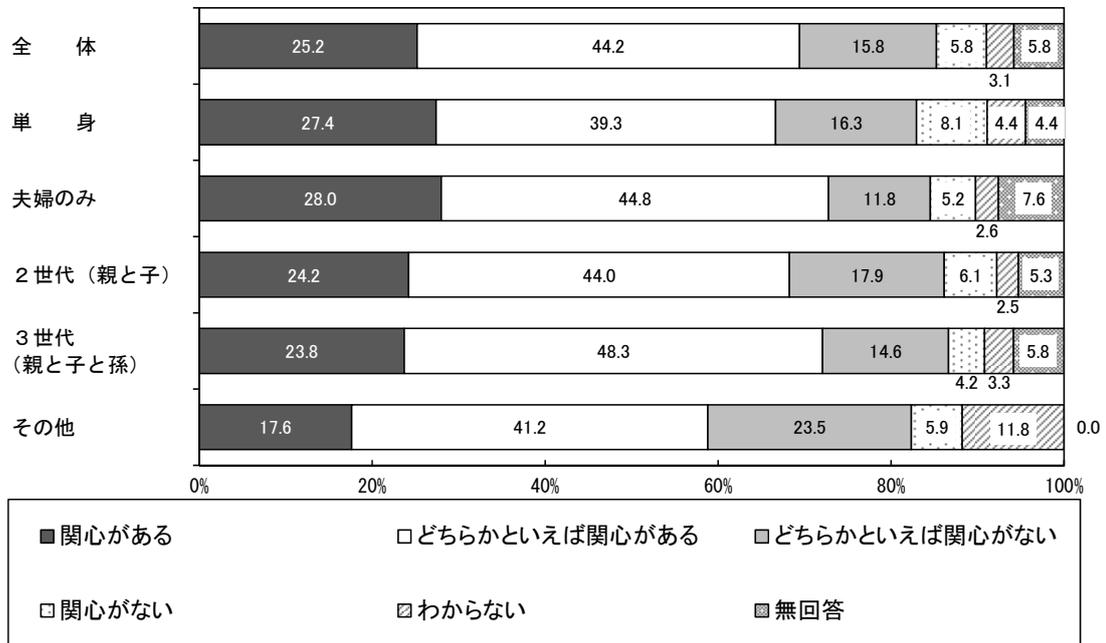
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人を合わせた割合は、夫婦のみ（72.8%）で最も高くなっている。

図 24.6 食べ方への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(17) ゆっくりよく噛んで味わって食べている頻度

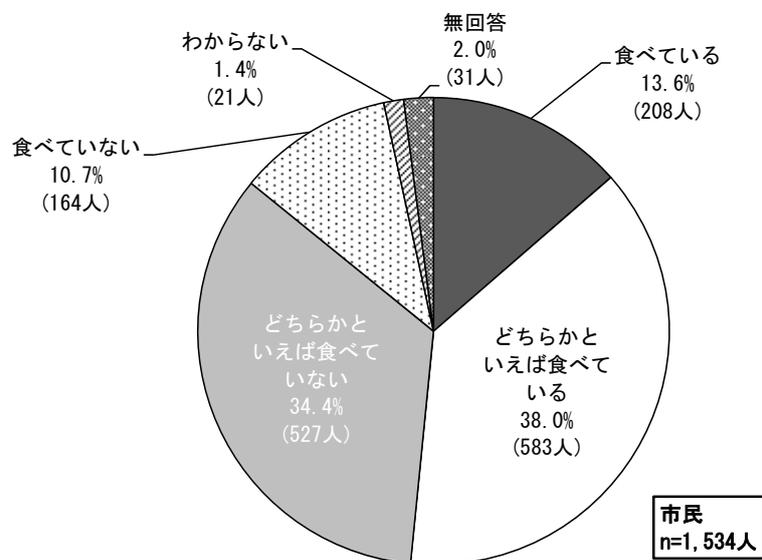
問25 あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで味わって食べていますか。(〇は1つだけ)

5割強が「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答

【全体結果】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人の割合は5割強（51.6%）で、一方、「食べていない」「どちらかといえば食べていない」と答えた人の割合は5割弱（45.1%）となっている。

図 25.1 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度



【性別・年齢別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、70歳以上（68.8%）で最も高く、40歳代（41.8%）で最も低くなっている。

性別では、「食べている」「どちらかといえば食べている」を合わせた割合は、各年代とも、女性の方が男性より高くなっている。

図 25.2 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（年齢別・全体）

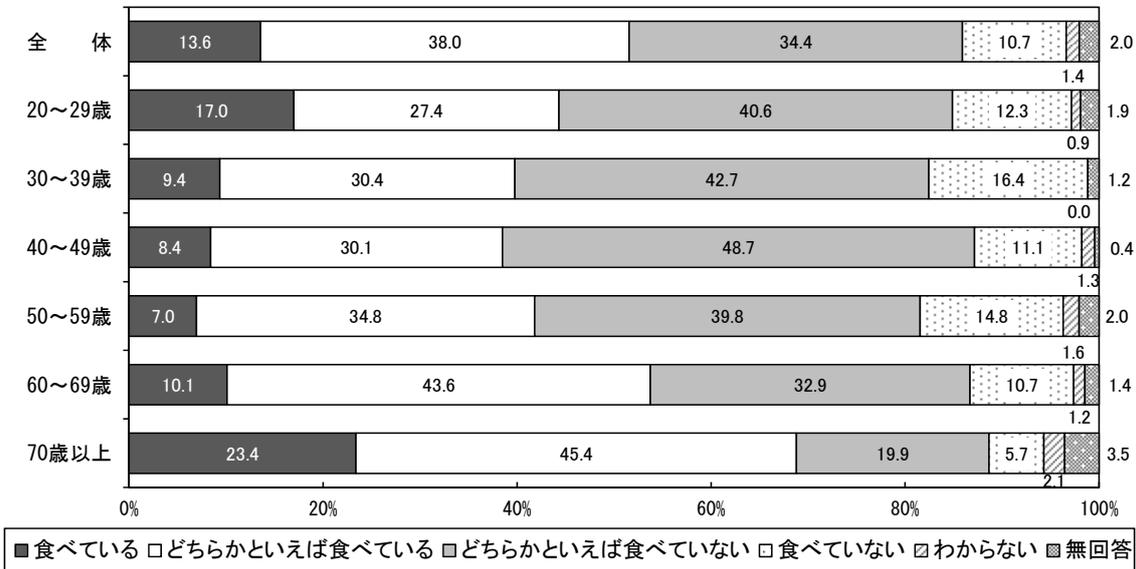
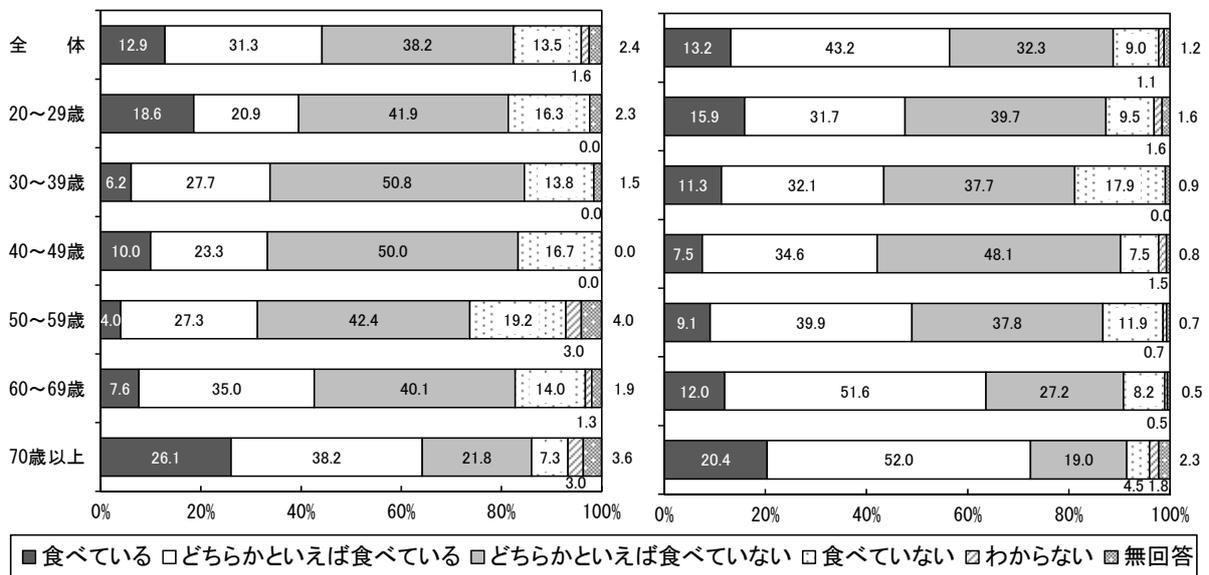


図 25.3 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

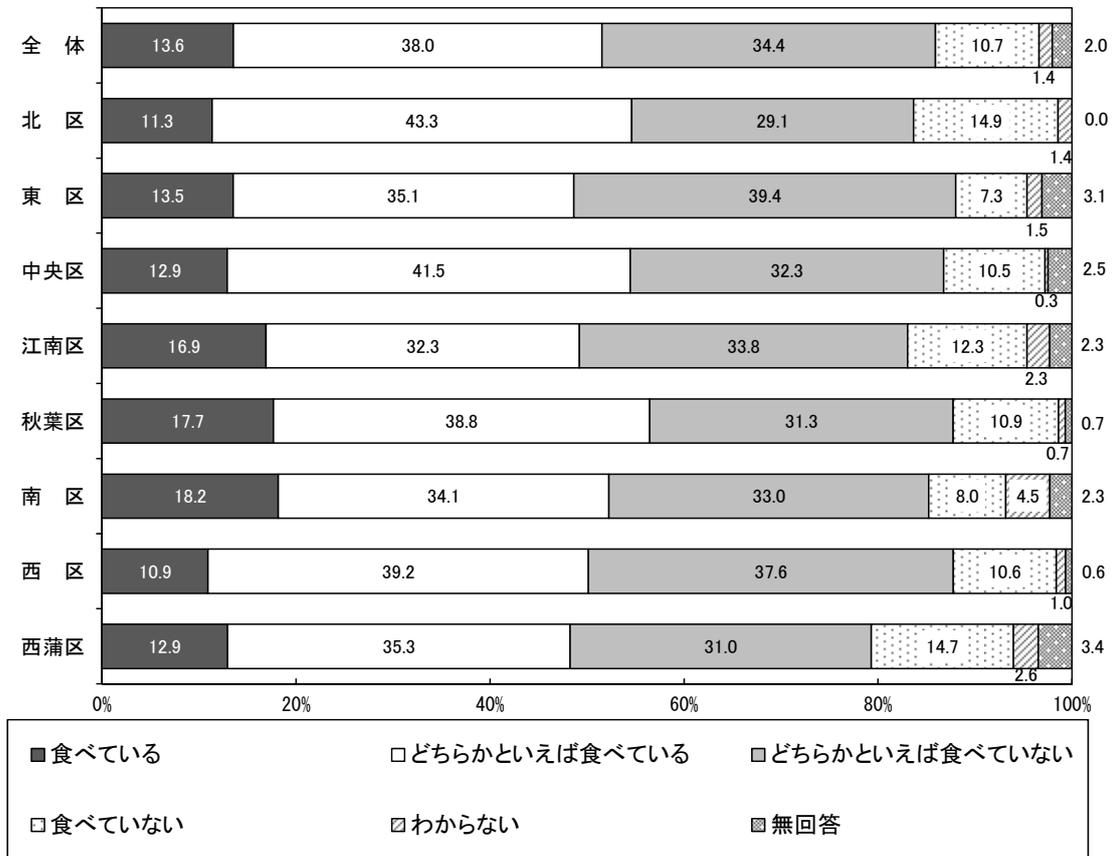
（人）

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、秋葉区（56.5%）で最も高く、西蒲区（48.2%）で最も低くなっている。

図 25.4 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

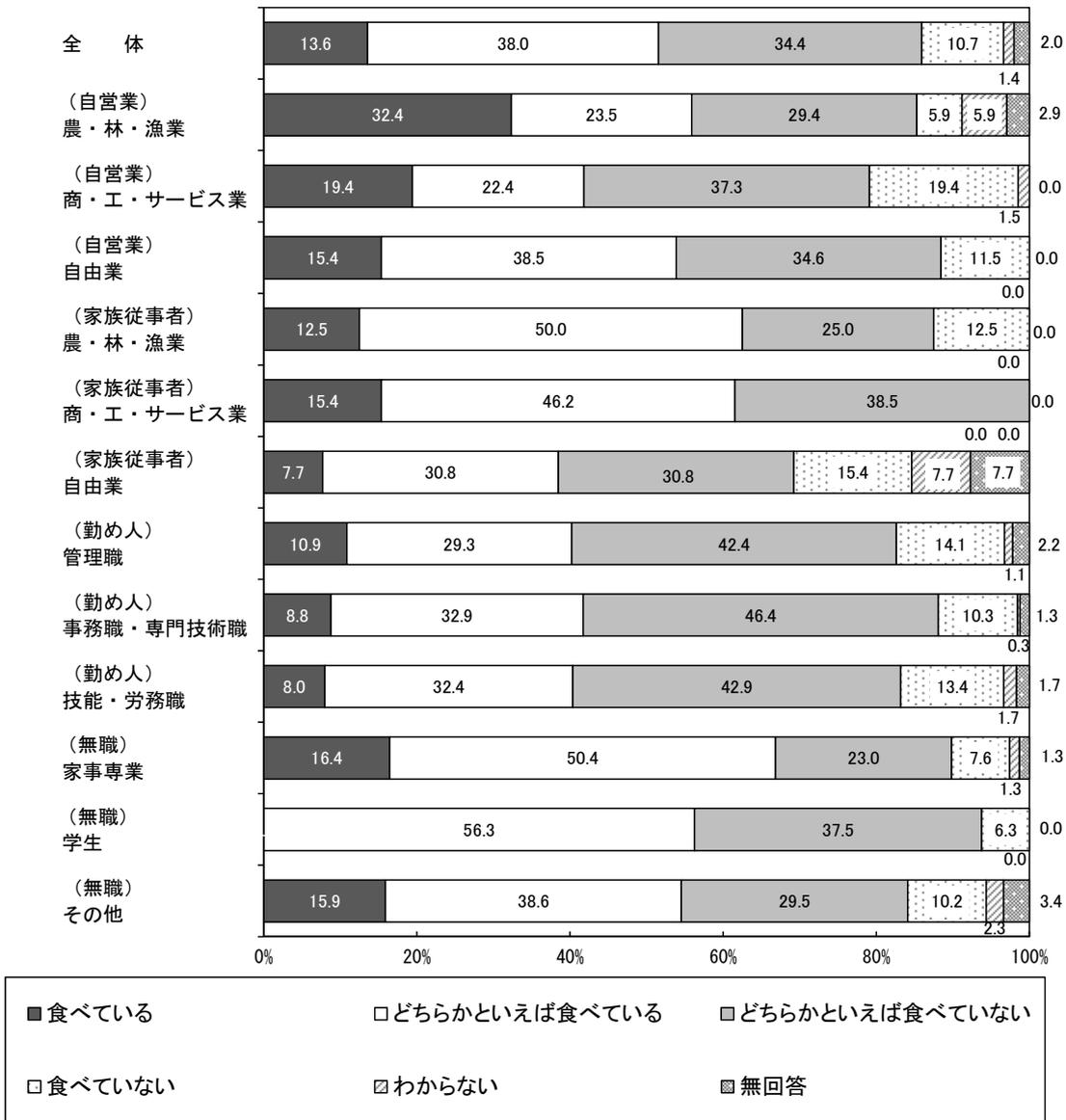
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 25.5 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

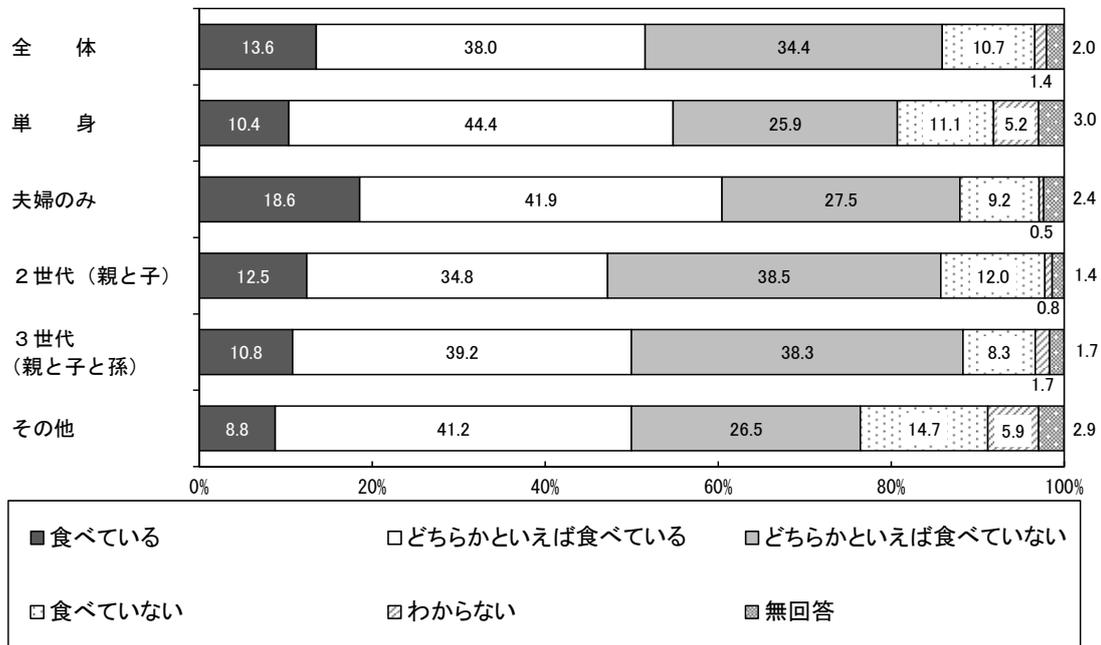
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、夫婦のみ（60.5%）で最も高くなっている。

図 25.6 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(18) かねで食べる時の状態

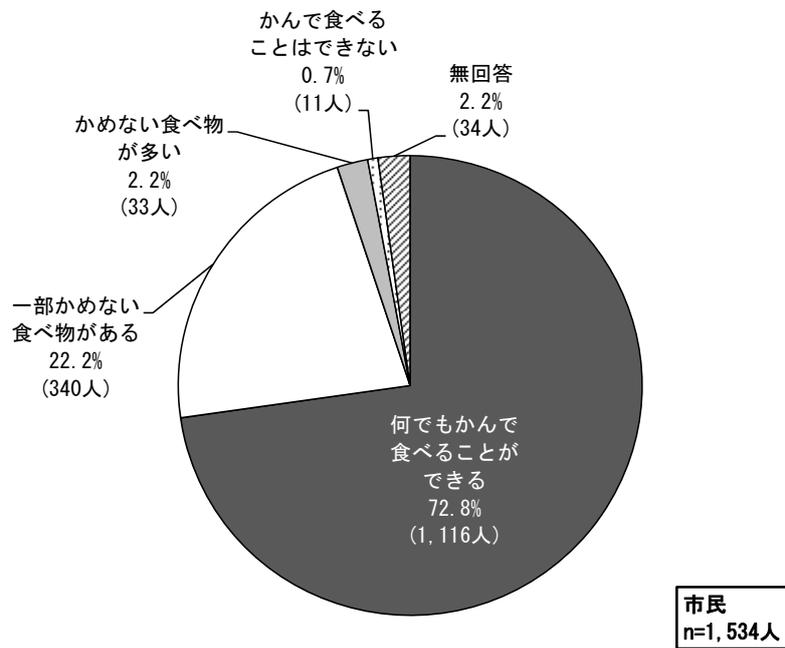
問26 かねで食べる時の状態についてあてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

7割強が「何でもかねで食べる事ができる」と回答

【全体結果】

「何でもかねで食べる事ができる」と回答した人の割合は7割強(72.8%)で、一方、「かめない食べ物が多い」(2.2%)、「かねで食べることはできない」(0.7%)と回答した人の割合は合わせて2.9%であった。

図26.1 かねで食べる時の状態



【性別・年齢別】

各年代とも、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっており、30歳代(87.7%)で最も高く、70歳以上(58.9%)で最も低くなっている。「一部かめない食べ物がある」は50歳代で約2割、60歳代で3割弱、70歳以上で3割強となっている。

図 26.2 かんで食べる時の状態 (年齢別・全体)

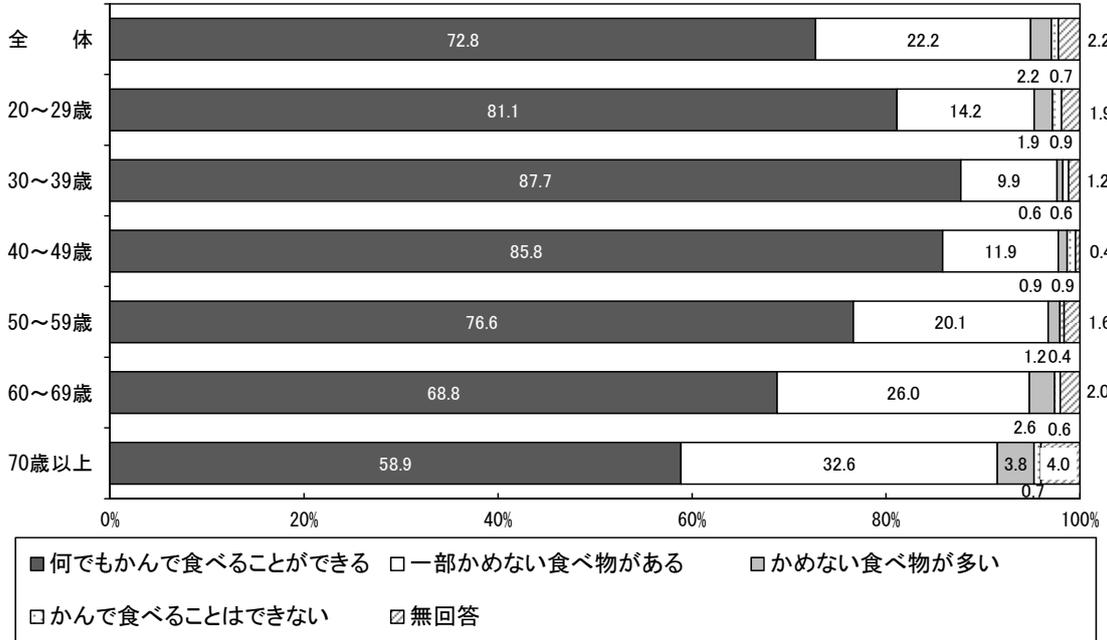
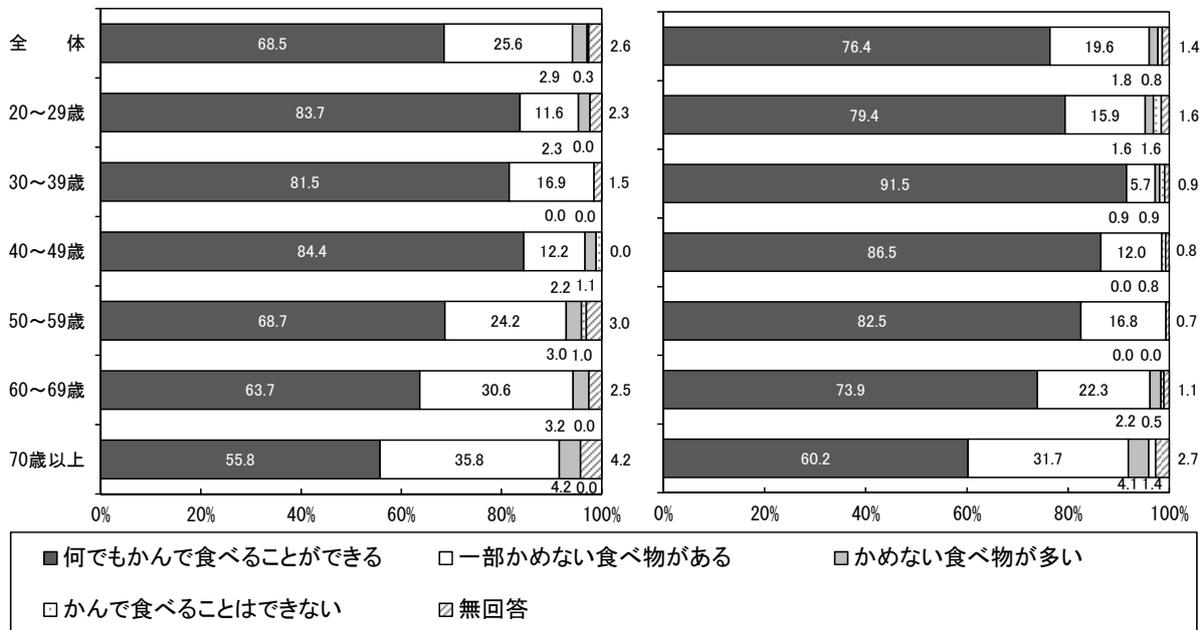


図 26.3 かんで食べる時の状態

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

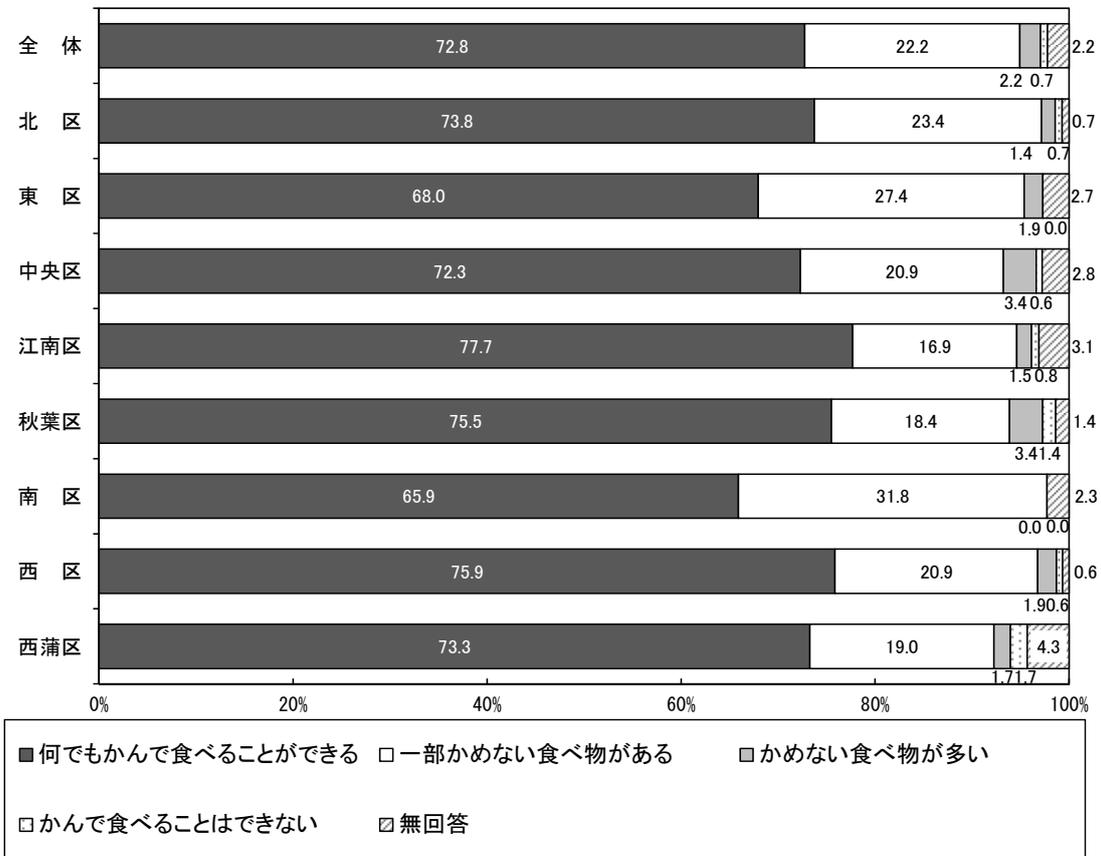
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

各地区ともに、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 26.4 かんで食べる時の状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

4 「食の安全」について

(1) 食の安全に対する関心度

問27 あなたは、食の安全に関心がありますか。(○は1つだけ)

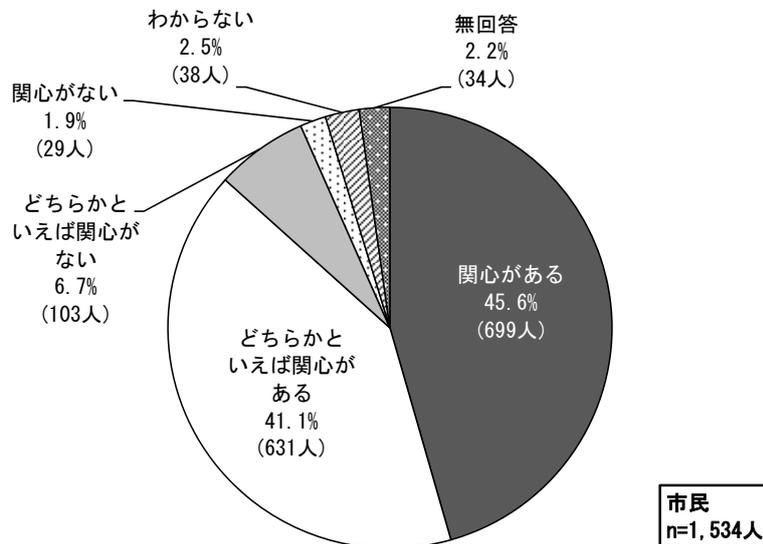
9割強が食の安全に関心があると回答

【全体結果】

「関心がある」(45.6%)、「どちらかといえば関心がある」(41.1%)を合わせた、関心がある人の割合は9割強(86.7%)となっている。

一方、「関心がない」(1.9%)、「どちらかといえば関心がない」(6.7%)を合わせた、関心がない人の割合は、1割弱(8.6%)となっている。

図27.1 食の安全に対する関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、60歳代では9割を超え、30歳代から50歳代と70歳代は8割を超えているが、20歳代は8割弱となっている。

性別では、各年代とも、60歳代以下では女性の方が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が高く、70歳以上では男女ほぼ同率となっている。

図 27.2 食の安全に対する関心度（年齢別・全体）

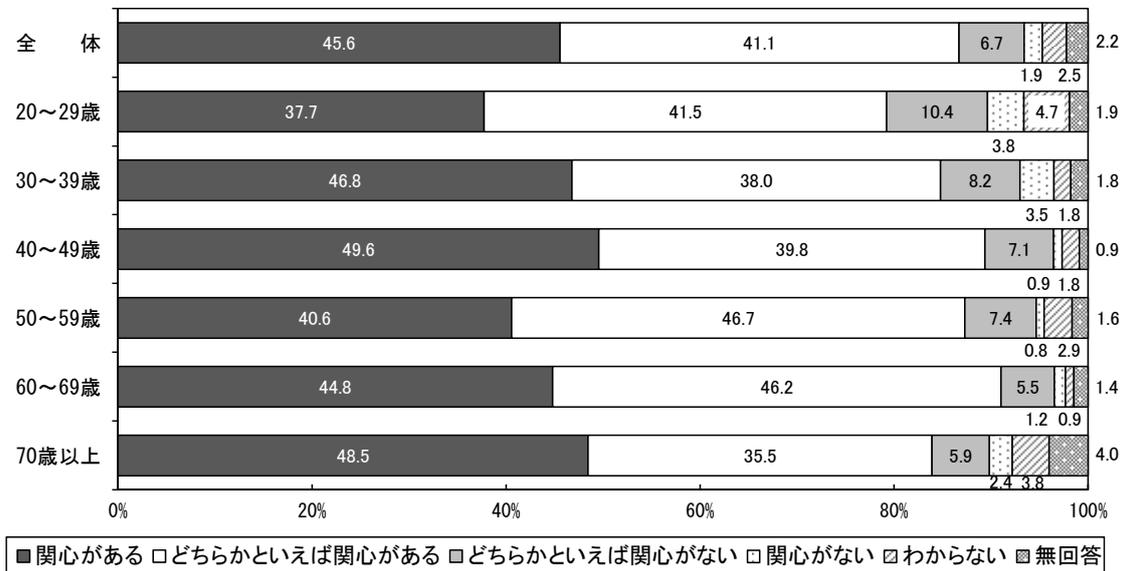
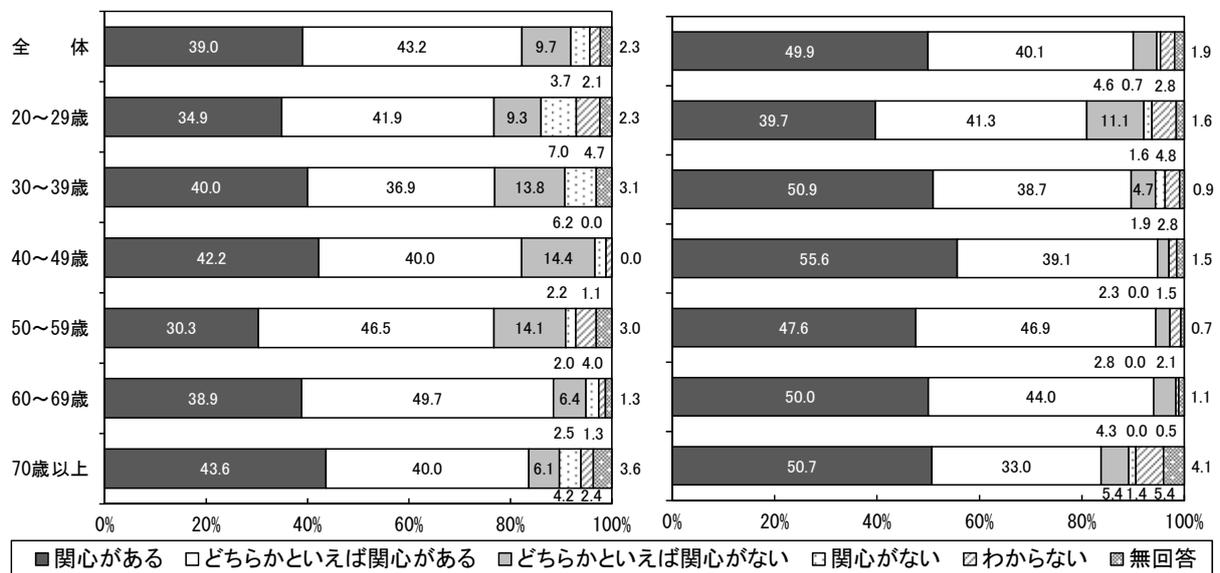


図 27.3 食の安全に対する関心度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全 体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男 性	620	43	65	90	99	157	165	1
女 性	851	63	106	133	143	184	221	1

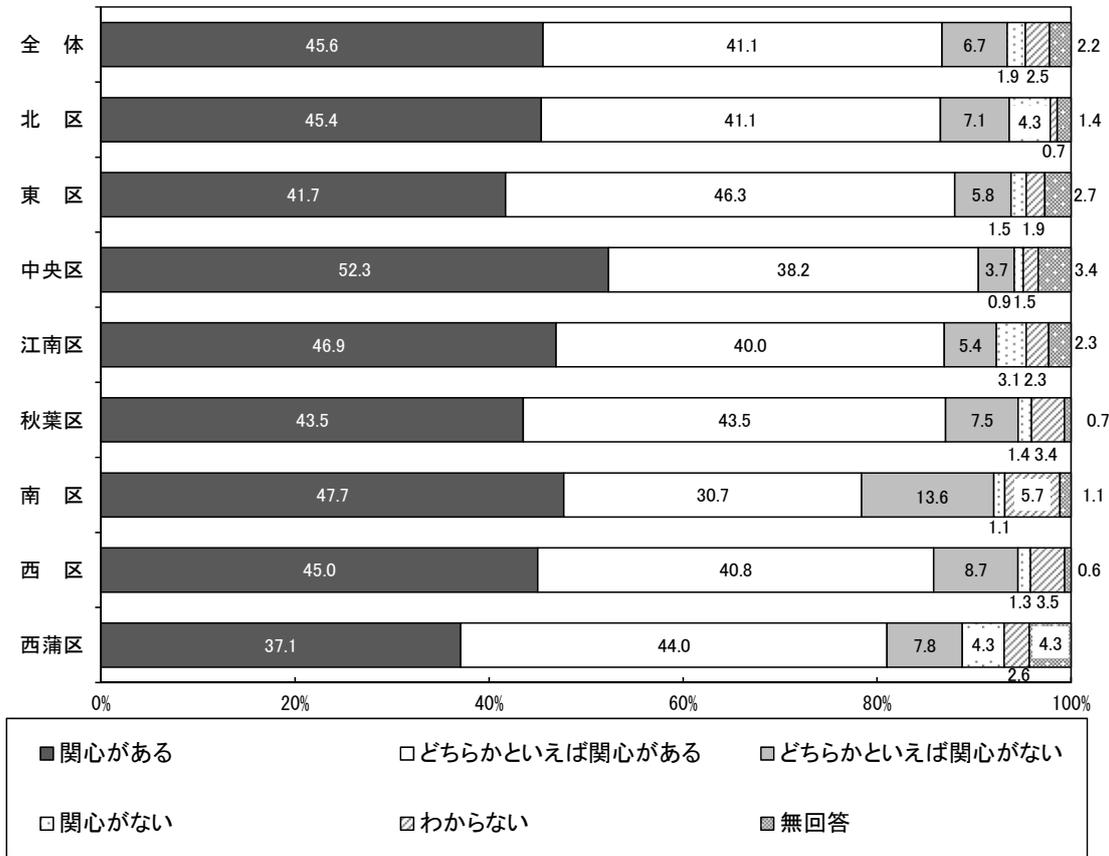
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、中央区（90.5%）で最も高くなっている。

図 27.4 食の安全に対する関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

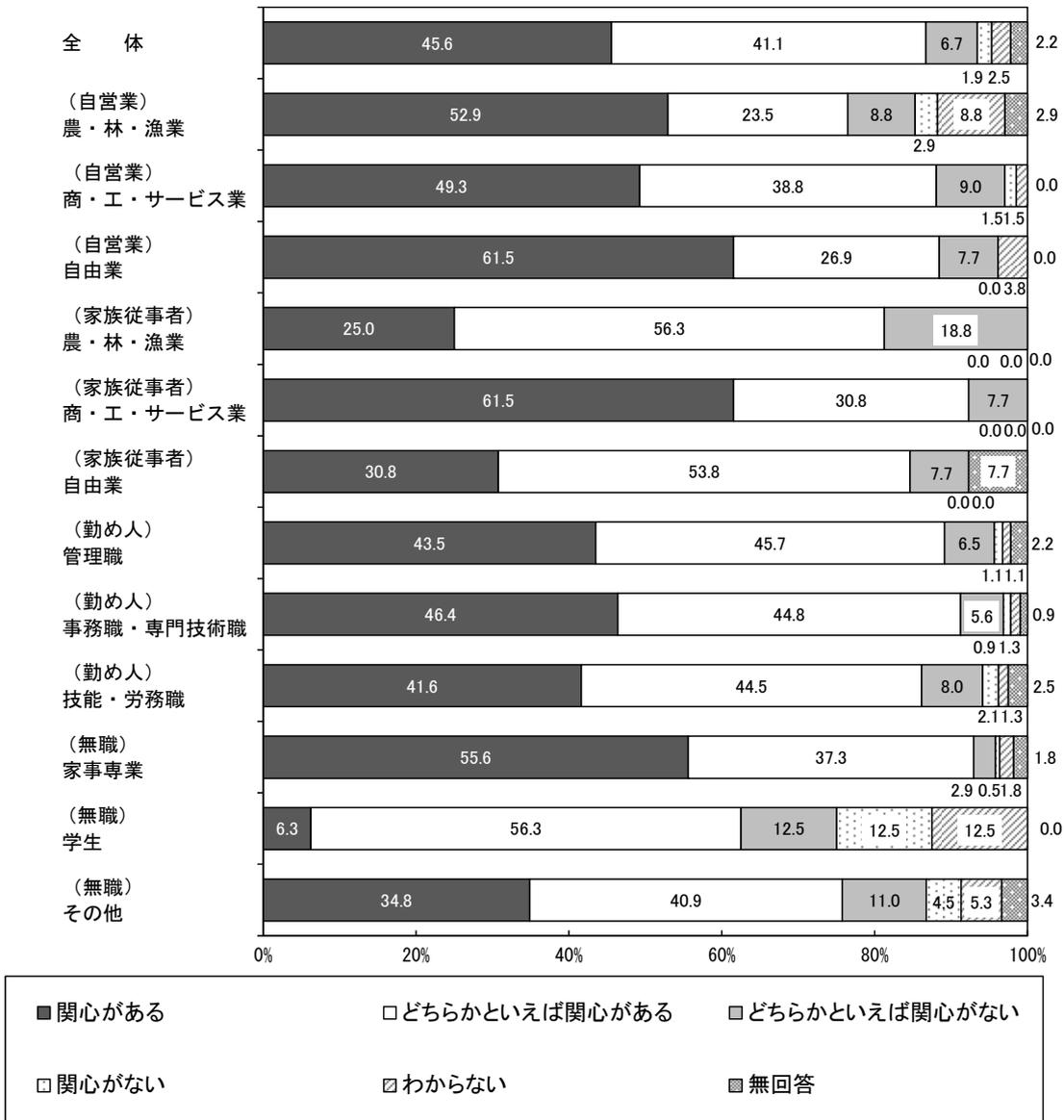
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 27.5 食の安全に対する関心度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

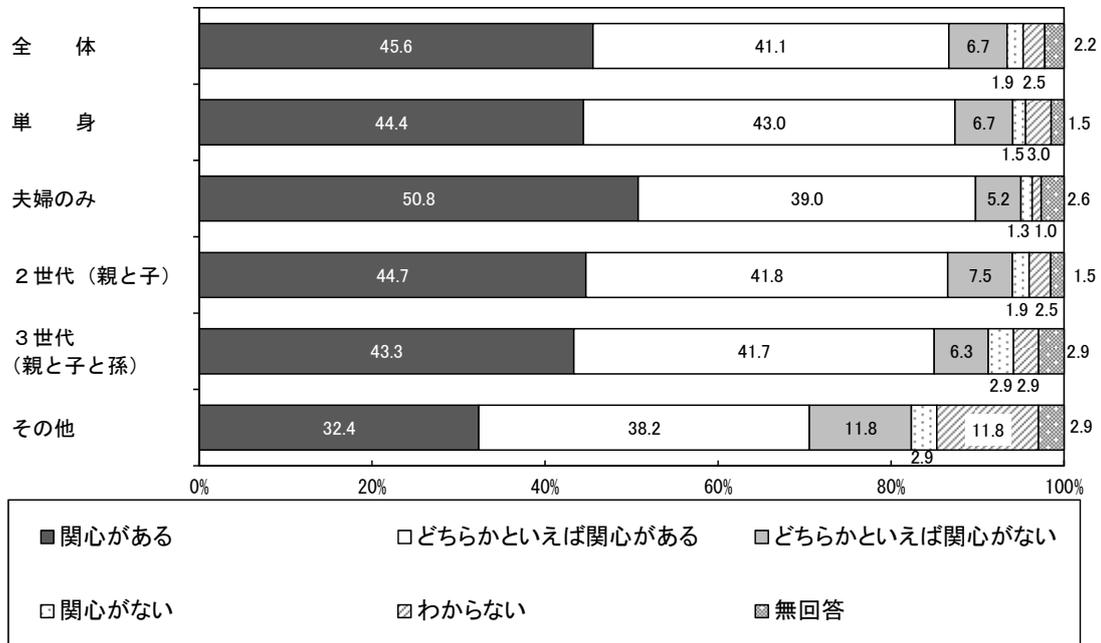
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、夫婦のみ（89.8%）で最も高くなっている。

図 27.6 食の安全に対する関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(2) 特に関心があること

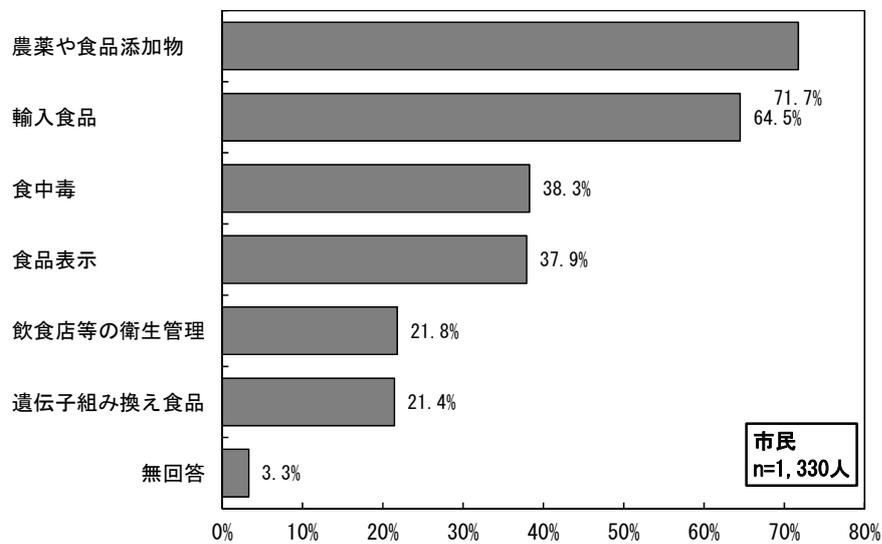
問27-1 どのようなことに関心がありますか。(〇は3つまで)

7割強が「農薬や食品添加物」と回答

【全体結果】

特に関心があることについては、「農薬や食品添加物」(71.7%)と回答した人が最も多く、以下「輸入食品」(64.5%)、「食中毒」(38.3%)、「食品表示」(37.9%)、「飲食店等の衛生管理」(21.8%)、「遺伝子組み換え食品」(21.4%)となっている。

図 28.1 特に関心があること



全体	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
1,330	954	858	509	504	290	285	44

(人)

【性別・年齢別】

各年代とも、「農薬や食品添加物」「輸入食品」の割合が高くなっている。20歳代では「食中毒」の割合も高くなっている。

表 5.1 特に関心があること（年齢別・全体）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	1,330	71.7	64.5	38.3	37.9	21.8	21.4	2.3
20～29歳	84	61.9	51.2	53.6	26.2	34.5	11.9	0.0
30～39歳	145	71.7	57.9	40.7	29.0	31.7	22.1	2.1
40～49歳	202	70.3	62.9	38.1	35.1	20.8	28.7	2.0
50～59歳	213	71.8	67.1	38.0	39.9	20.7	21.6	3.3
60～69歳	315	71.1	69.8	34.3	42.9	17.1	18.7	2.2
70歳以上	355	74.9	63.9	37.5	39.4	20.6	22.5	2.5
年齢不明	16	81.3	87.5	37.5	56.3	12.5	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 5.2 特に関心があること（年齢別・男性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	510	64.9	60.2	39.6	38.2	24.1	18.6	2.0
20～29歳	33	54.5	48.5	54.5	33.3	30.3	6.1	0.0
30～39歳	50	70.0	54.0	44.0	28.0	32.0	20.0	0.0
40～49歳	74	64.9	63.5	35.1	33.8	23.0	24.3	1.4
50～59歳	76	60.5	61.8	50.0	39.5	31.6	21.1	1.3
60～69歳	139	64.0	63.3	29.5	42.4	17.3	20.9	3.6
70歳以上	138	68.8	59.4	41.3	40.6	23.2	14.5	2.2
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 5.3 特に関心があること（年齢別・女性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	766	76.1	67.4	37.3	38.0	20.1	23.9	2.2
20～29歳	51	66.7	52.9	52.9	21.6	37.3	15.7	0.0
30～39歳	95	72.6	60.0	38.9	29.5	31.6	23.2	3.2
40～49歳	126	73.8	62.7	40.5	36.5	19.0	31.7	2.4
50～59歳	135	77.8	69.6	30.4	40.7	14.8	22.2	4.4
60～69歳	173	76.9	75.7	37.6	43.9	16.8	16.8	1.2
70歳以上	185	80.0	68.6	35.1	40.5	17.3	29.2	1.6
年齢不明	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

(3) 食の安全に関する知識を持っている程度

「食の安全に関する知識」の例

- ◆ 食品表示の見方について
(消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
 - ◆ 食中毒の予防方法について
 - ◆ 輸入食品について
 - ◆ 健康食品について
- その他、農薬使用の実態や鳥インフルエンザに関する知識など

問28 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。(○は1つだけ)

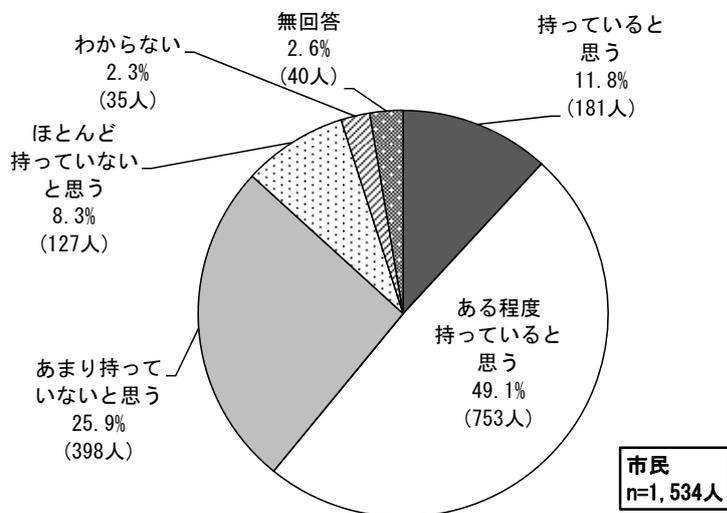
6割強が知識を持っていると回答

【全体結果】

「持っていると思う」(11.8%)、「ある程度持っていると思う」(49.1%)と回答した人を合わせた、知識を持っている人の割合は6割強(60.9%)となっている。

一方、「あまり持っていないと思う」(25.9%)、「ほとんど持っていないと思う」(8.3%)と回答した人を合わせた割合は3割強(34.2%)となっている。

図29.1 食の安全に関する知識を持っている程度



【性別・年齢別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、70歳以上で最も高く、約7割となっている。一方、「あまり持っていないと思う」「ほとんど持っていないと思う」を合わせた割合は、20歳代（58.5%）で最も高く5割を超え、30歳代（47.4%）も4割を超えている。

性別では、「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 29.2 食の安全に関する知識を持っている程度（年齢別・全体）

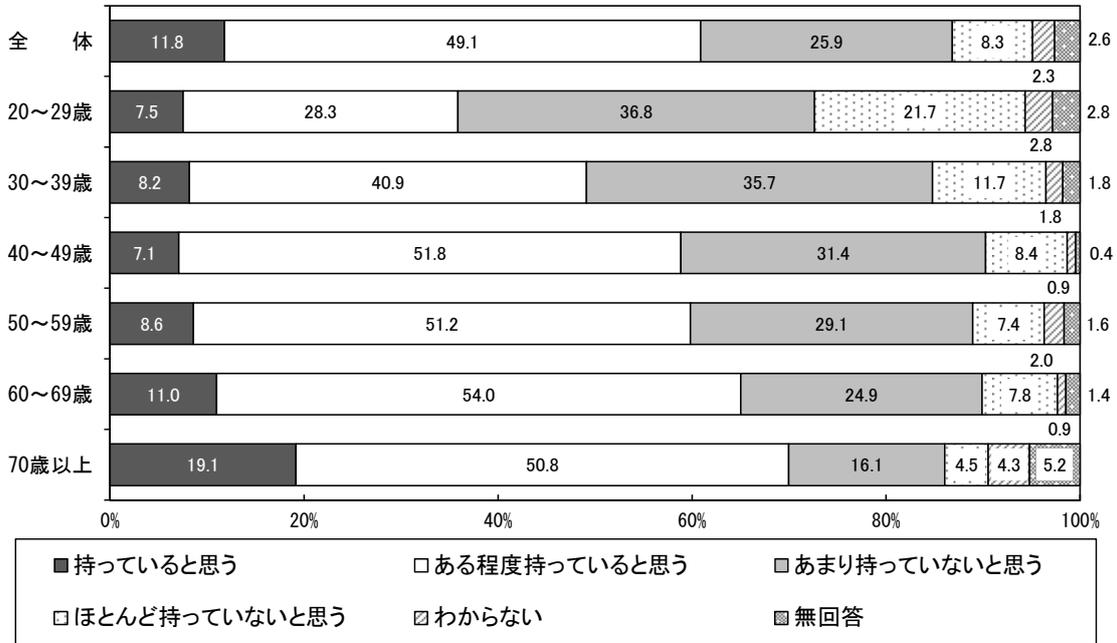
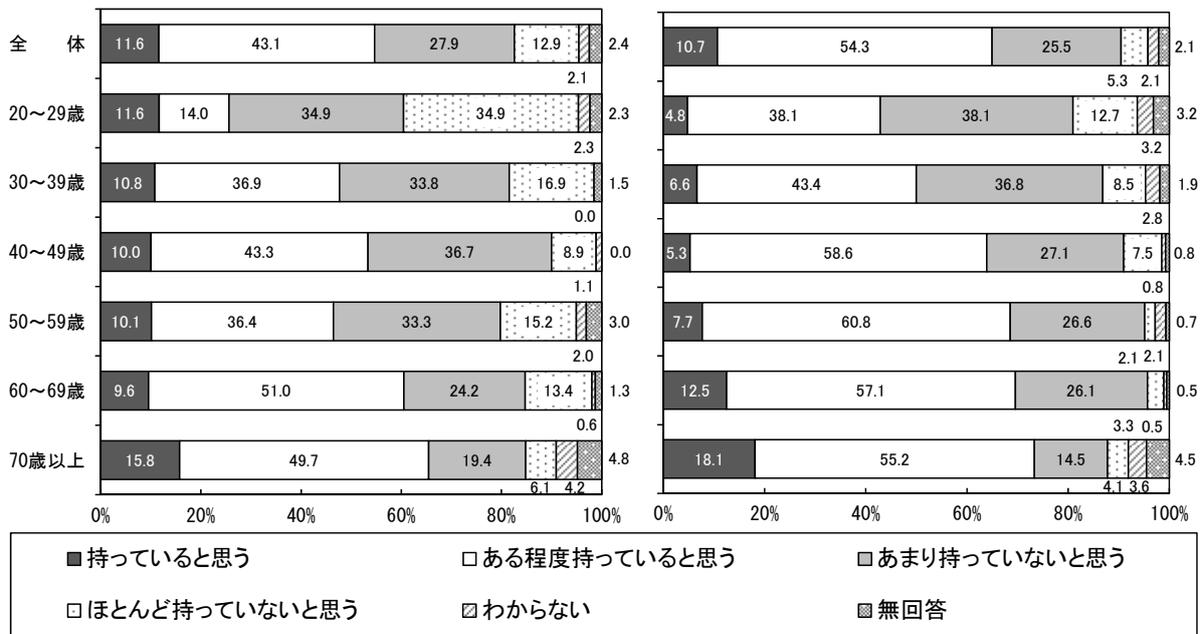


図 29.3 食の安全に関する知識を持っている程度

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

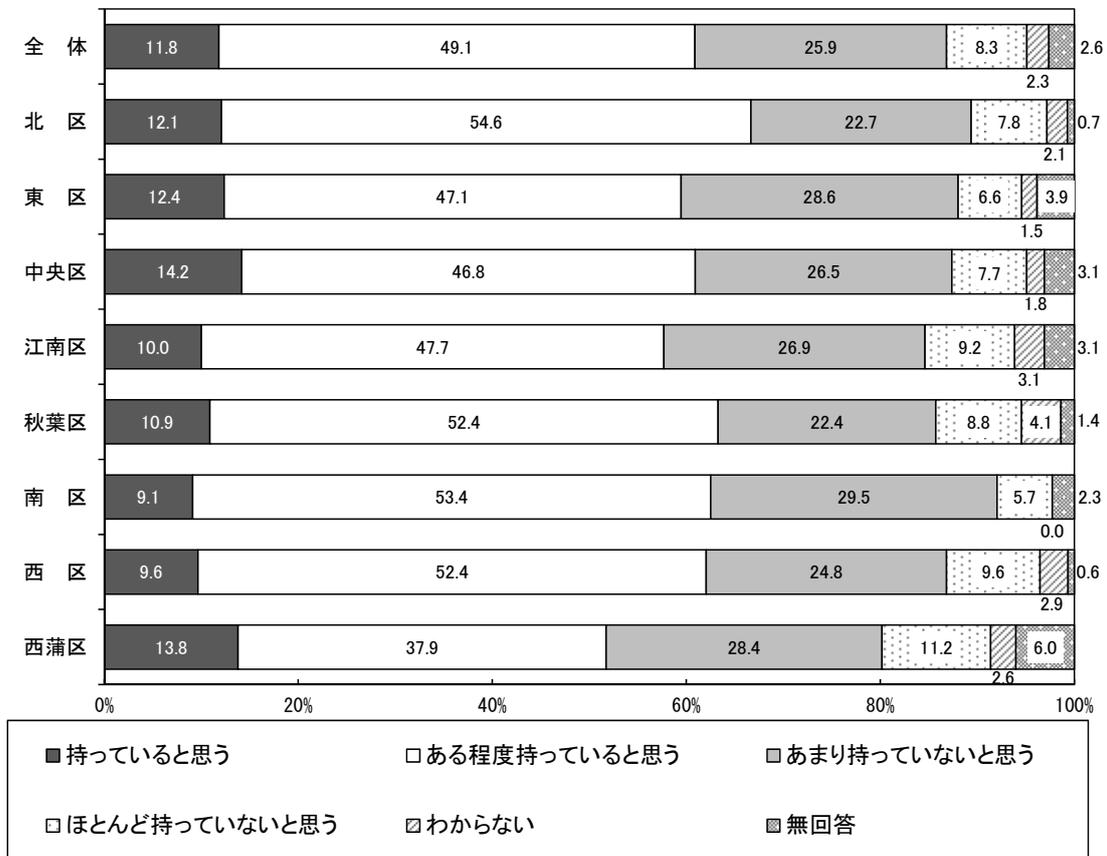
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

（人）

【地区別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、北区（66.7%）で最も高くなっている。

図 29.4 食の安全に関する知識を持っている程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

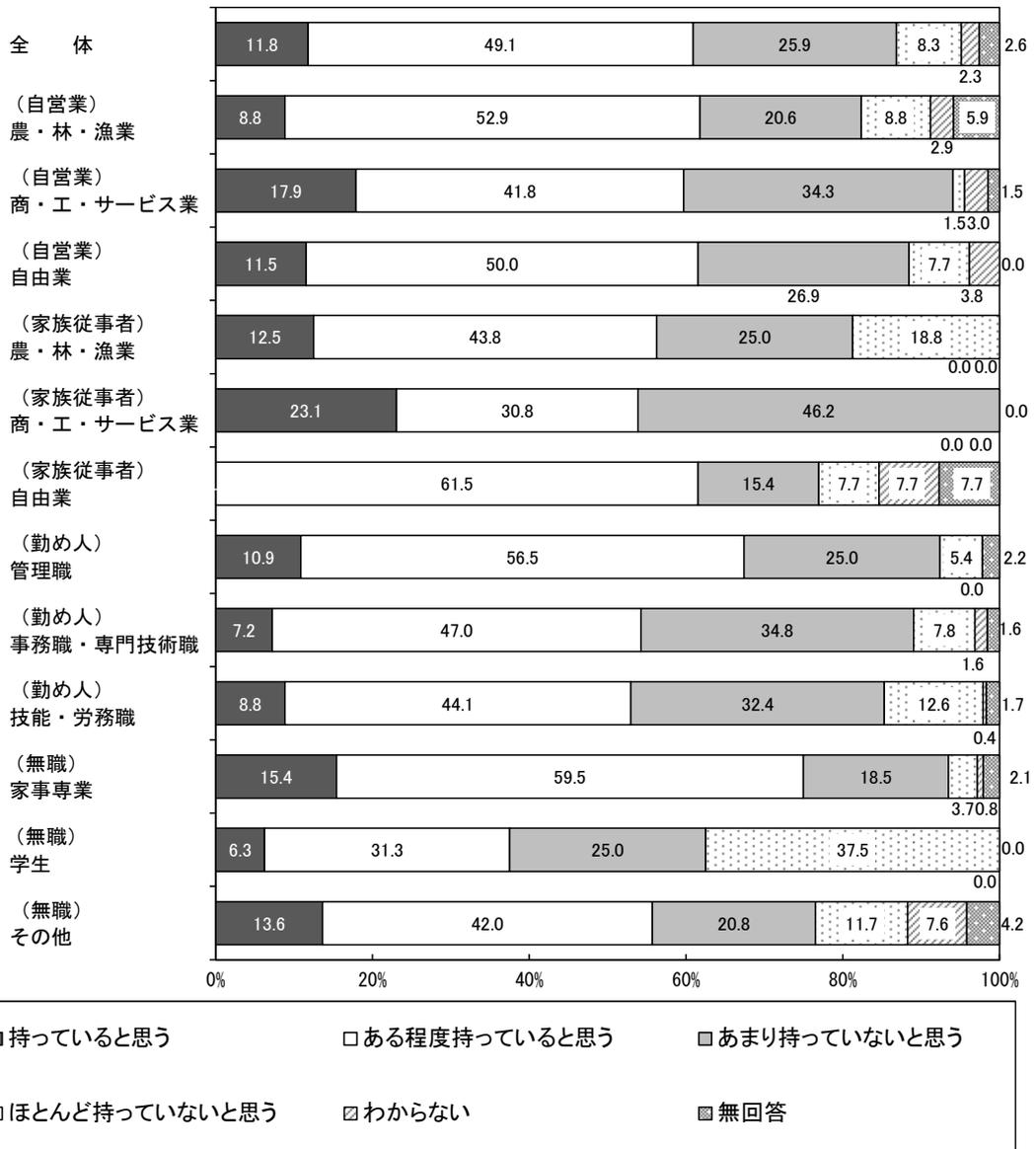
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 29.5 食の安全に関する知識を持っている程度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

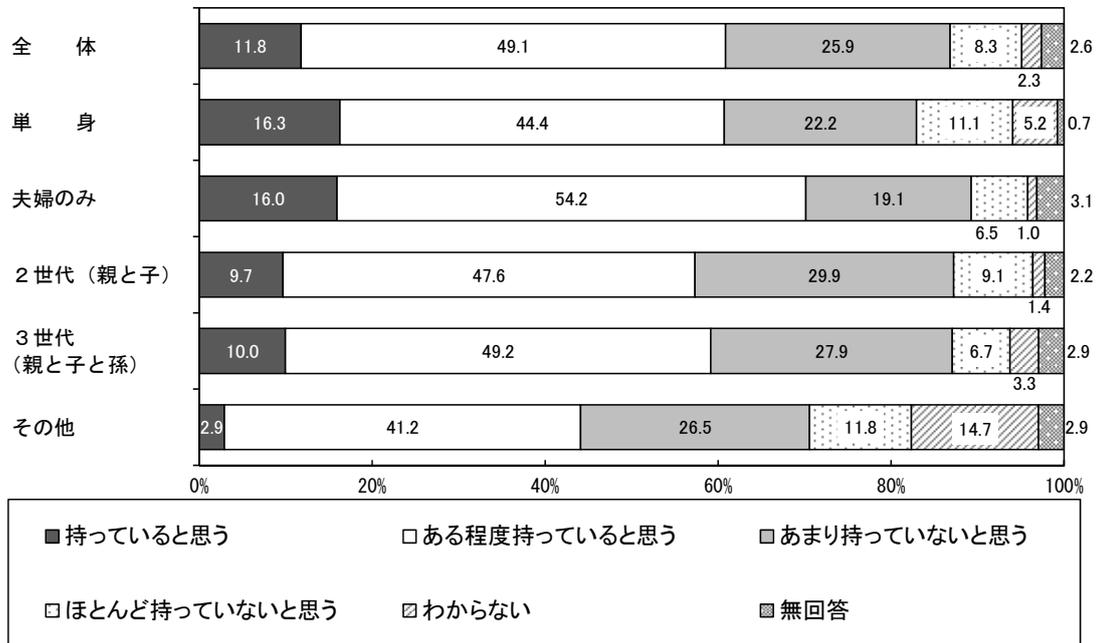
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、夫婦のみ（70.2%）で高くなっている。

図 29.6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度

問29 あなたは、安全な食生活を送ることについてどの程度判断できていますか。
(〇は1つだけ)

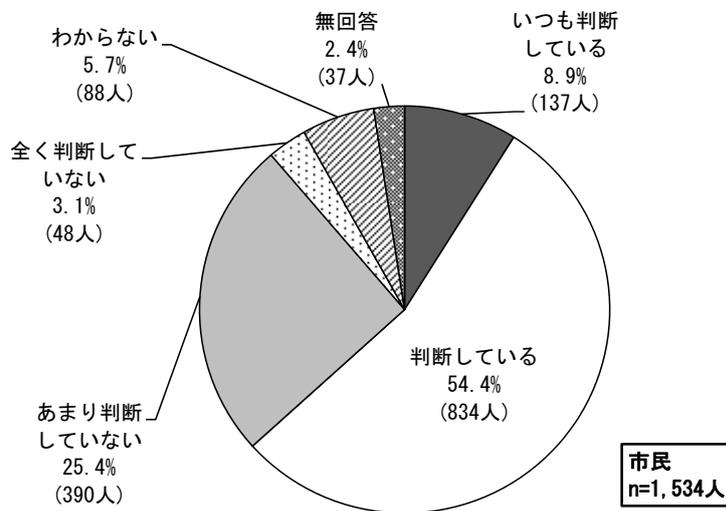
6割強が判断していると回答

【全体結果】

「いつも判断している」(8.9%)、「判断している」(54.4%)と回答した人を合わせた、判断している人の割合は6割強(63.3%)となっている。

一方、「あまり判断していない」(25.4%)、「全く判断していない」(3.1%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(28.5%)となっている。

図30.1 安全な食生活を送ることについての判断の程度



【性別・年齢別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、70歳以上で最も高く、約7割となっている。一方、「あまり判断していない」「全く判断していない」を合わせた割合は、20歳代（46.3%）で最も高く4割を超えている。

性別では、「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 30.2 安全な食生活を送ることについての判断の程度（年齢別・全体）

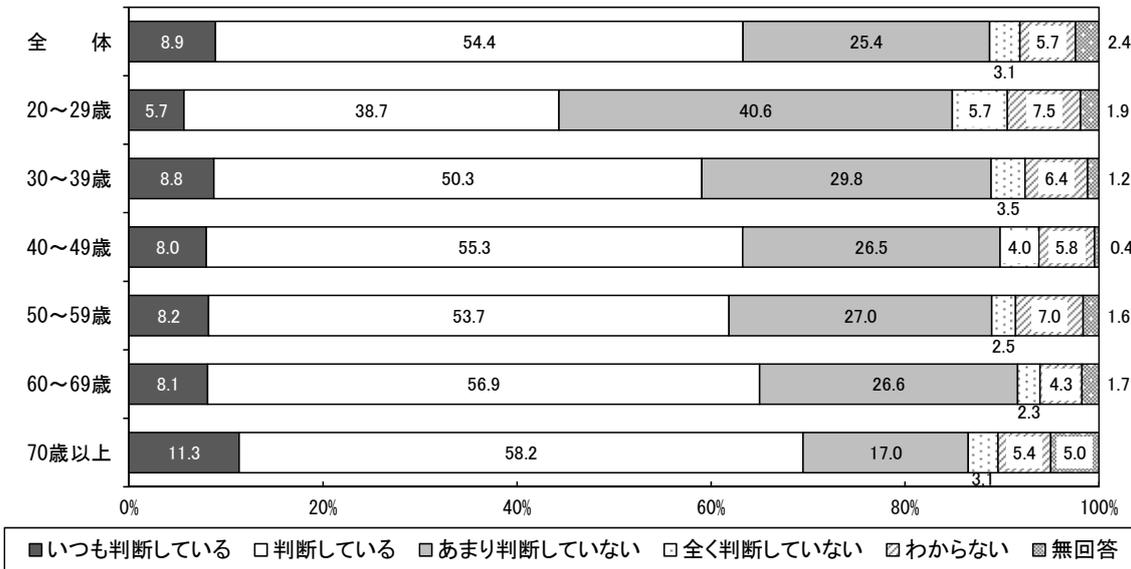
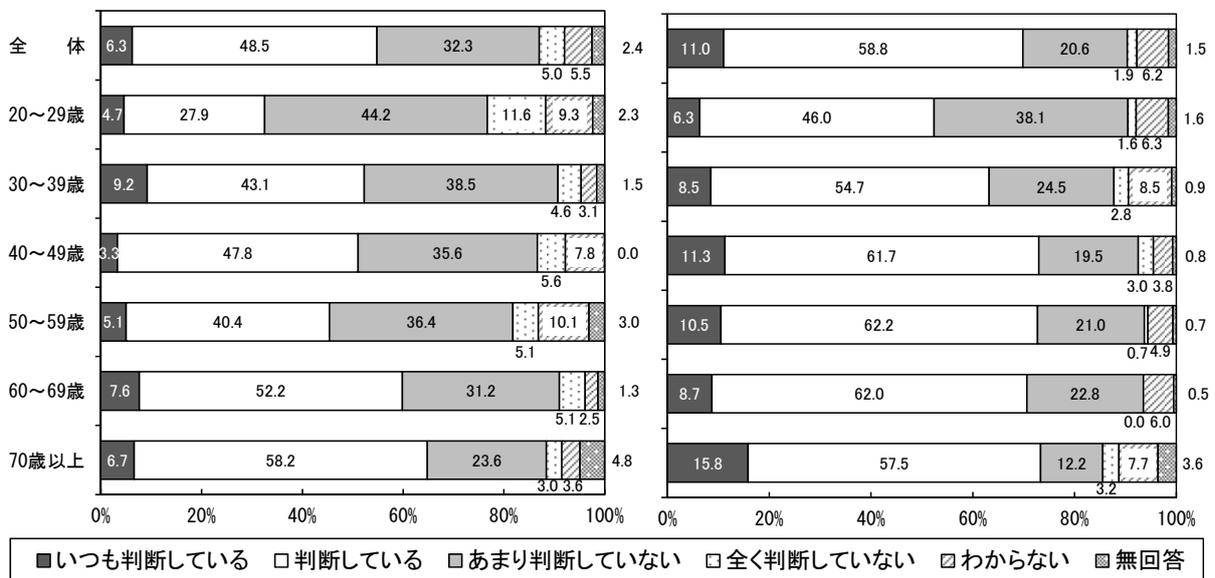


図 30.3 安全な食生活を送ることについての判断の程度
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

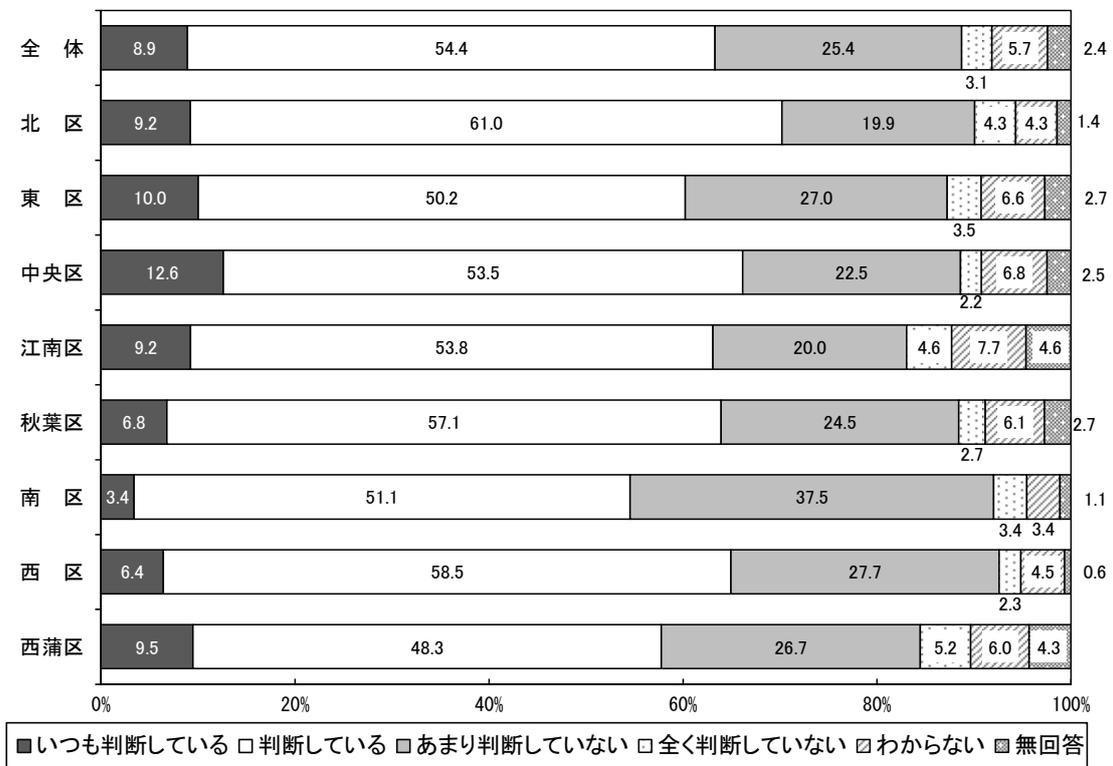
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、北区（70.2%）で最も高くなっている。

図 30.4 安全な食生活を送ることについての判断の程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

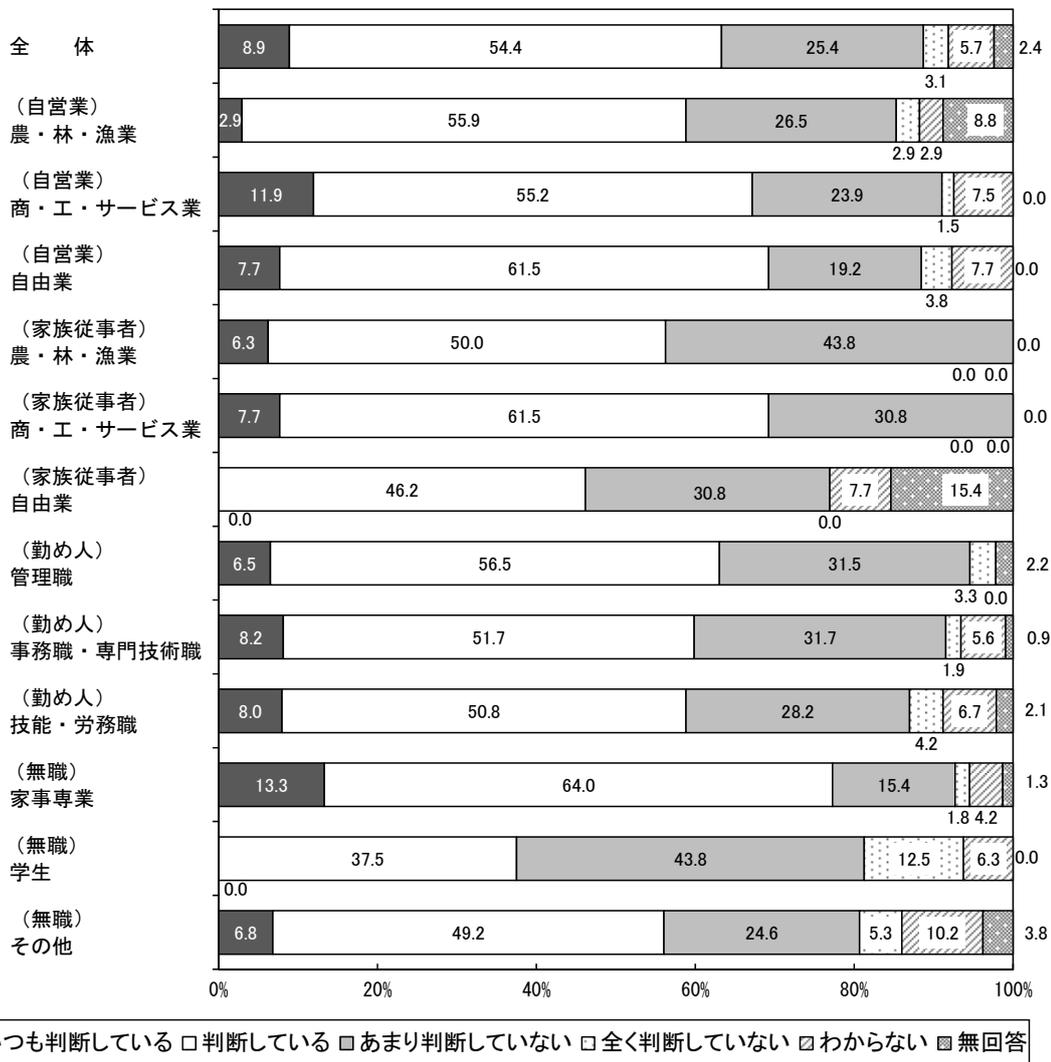
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 30.5 安全な食生活を送ることについての判断の程度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
1,534	34	67	26	16	13	13		
		勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
	92	319	238	383	16	264	53	

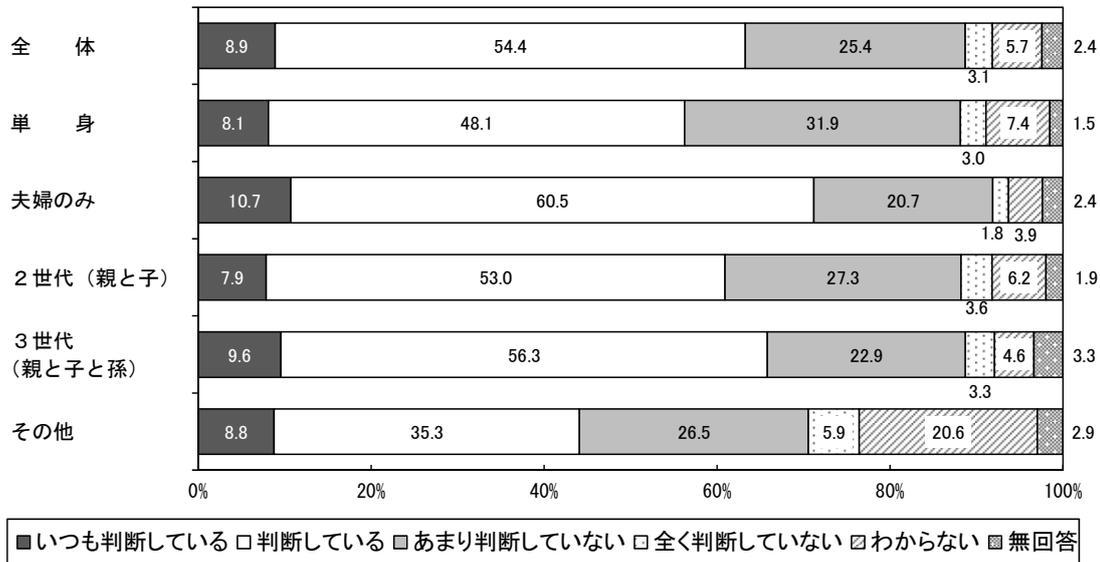
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、夫婦のみ（71.2%）で高くなっている。

図 30.6 安全な食生活を送ることについての判断の程度（家族構成別）

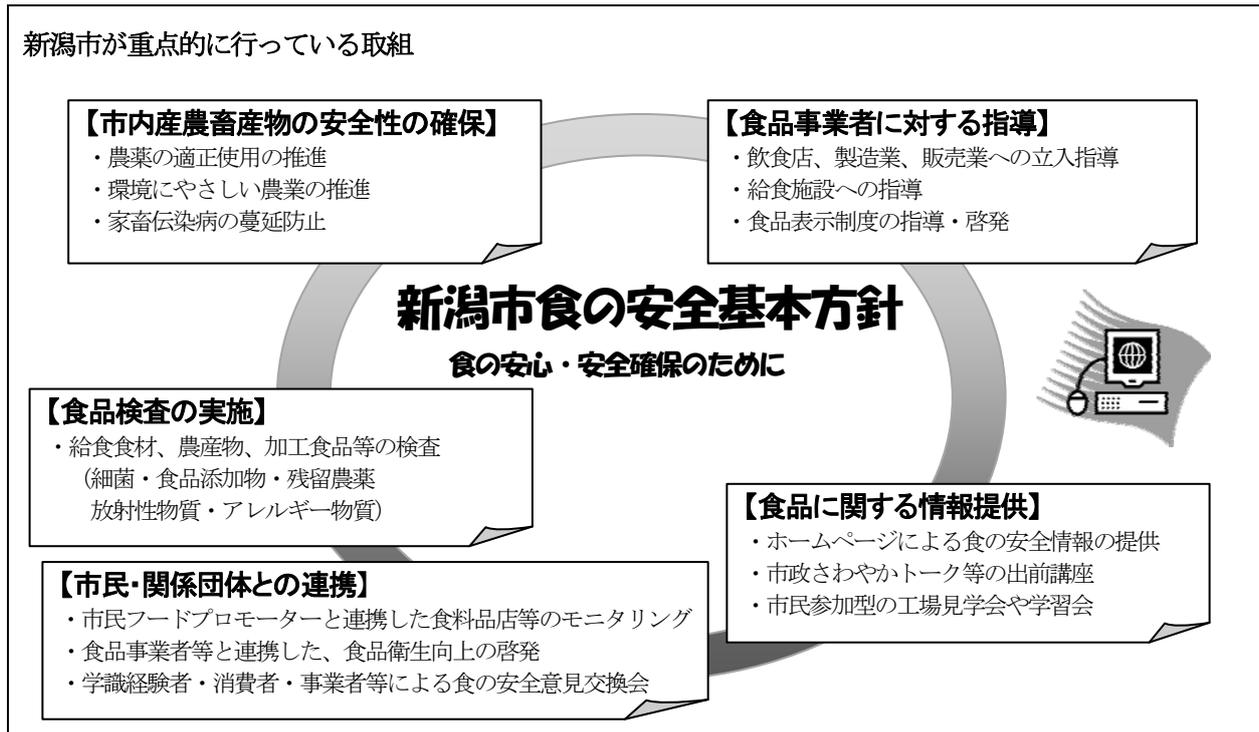


家族構成	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
全体	1,534	135	382	722	240	34
						21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



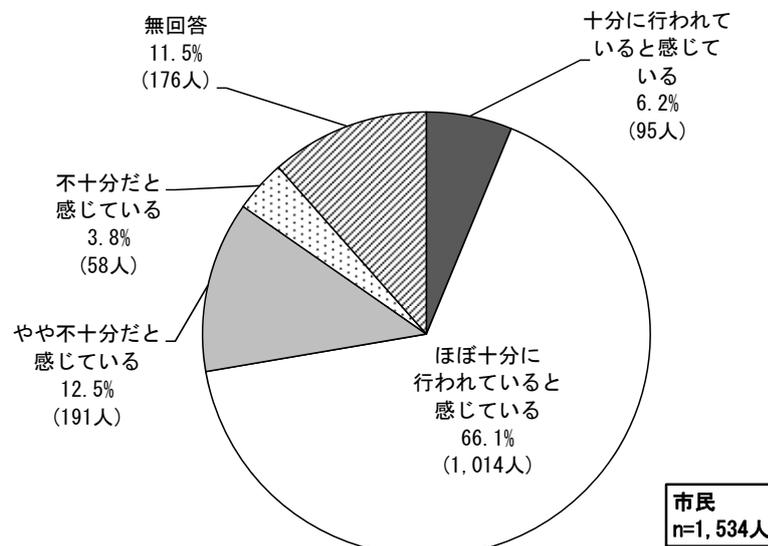
問30 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところです。あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組が、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(○は1つだけ)

7割強が十分に、もしくはほぼ十分に行われていると感じていると回答

【全体結果】

「十分に行われていると感じている」(6.2%)、「ほぼ十分に行われていると感じている」(66.1%)と回答した人を合わせた割合は7割強(72.3%)となっている。「やや不十分だと感じている」(12.5%)、「不十分だと感じている」(3.8%)と回答した人を合わせた割合は2割弱(16.3%)となっている。

図31.1 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



【性別・年齢別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人の割合は、20歳代（81.1%）で最も高く、70歳以上（66.2%）で最も低くなっている。「やや不十分だと感じている」「不十分だと感じている」と回答した人の割合は、40歳代（23.0%）で最も高くなっている。

性別では、「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、60歳代以下では女性の方が高く、70歳以上では男性の方が高くなっている。

図 31.2 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・全体）

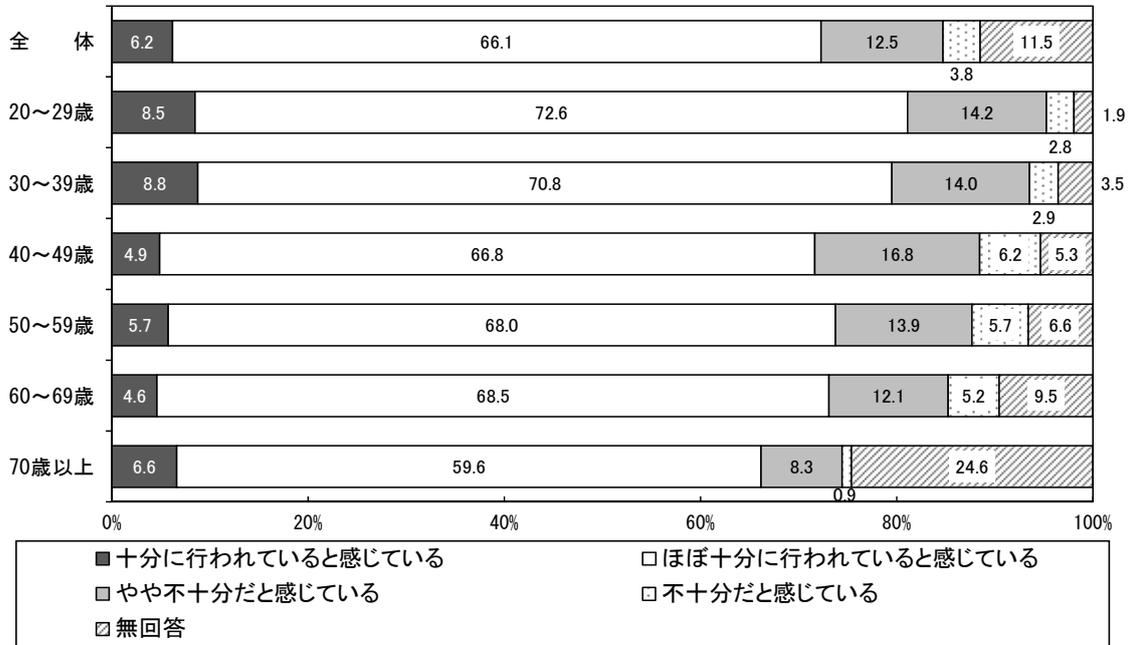
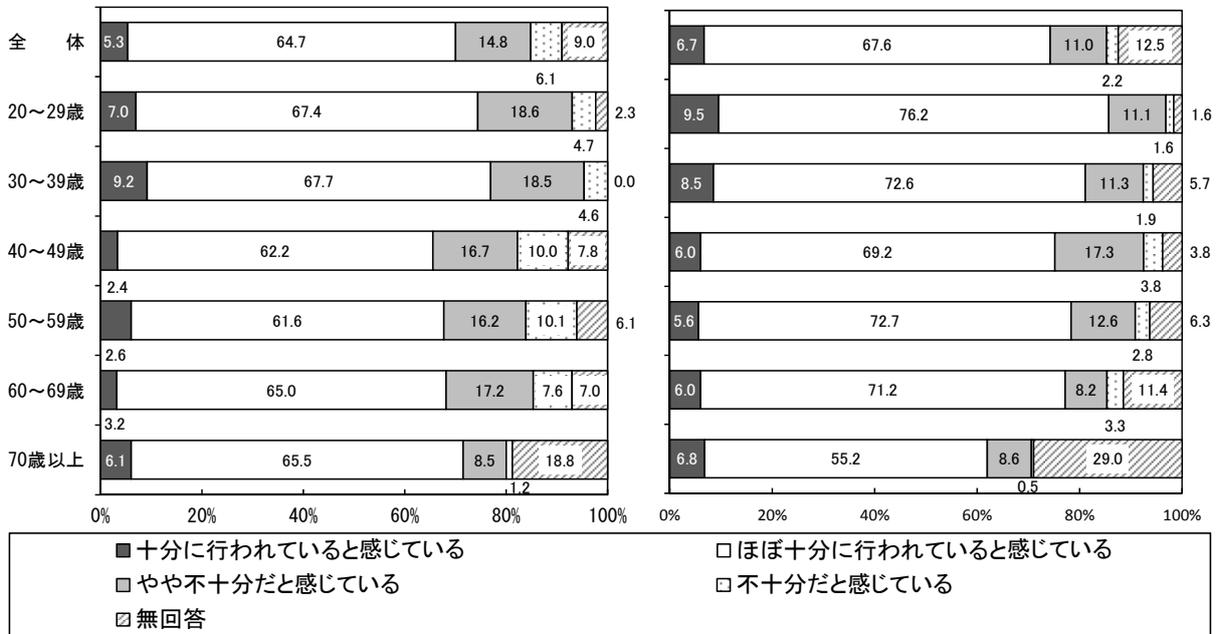


図 31.3 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・男性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

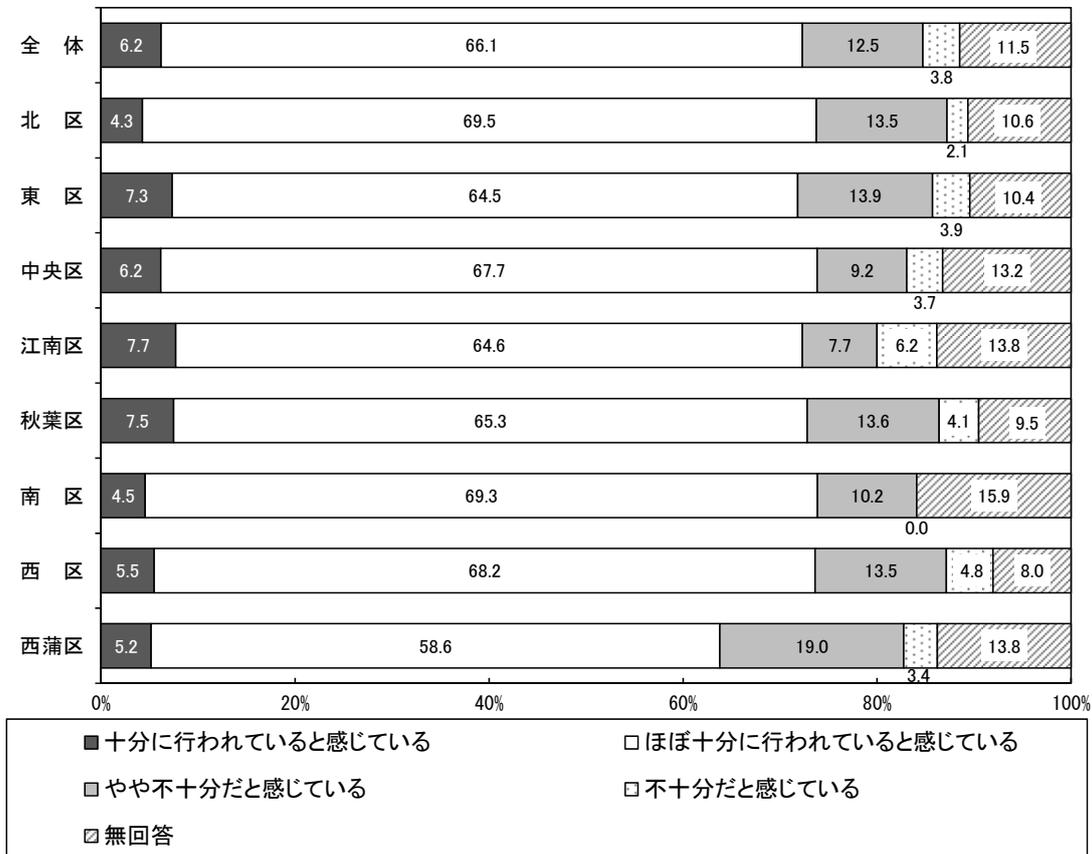
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、中央区（73.9%）、北区・南区（同率73.8%）で比較的高く、一方、最も低いのは西蒲区（63.8%）であった。

図 31.4 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

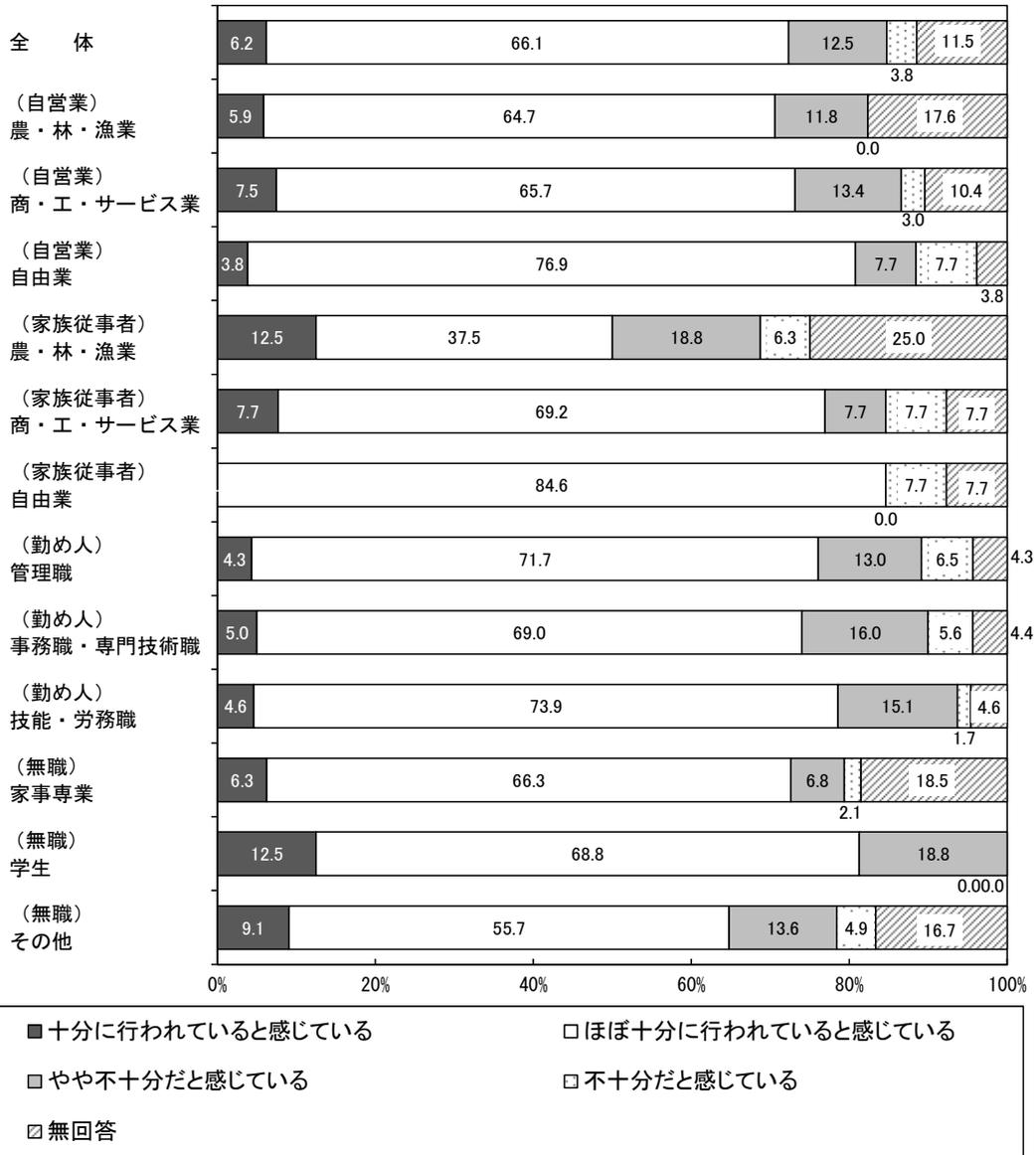
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 31.5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

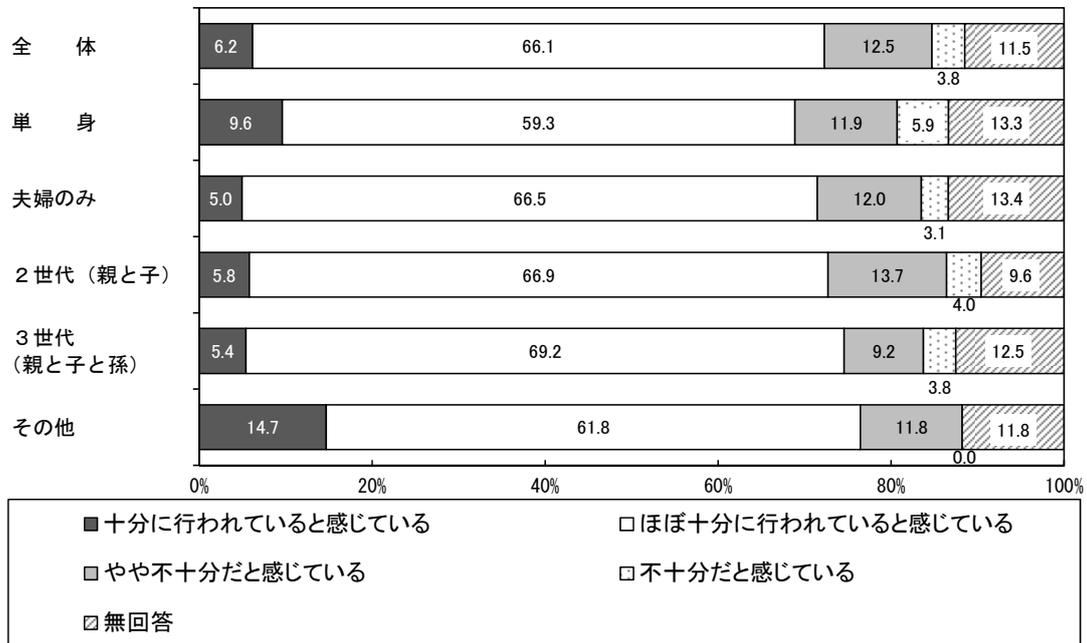
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、その他（76.5%）で最も高く、単身（68.9%）で最も低くなっている。

図 31.6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(6) 特に不十分だと感じている取組

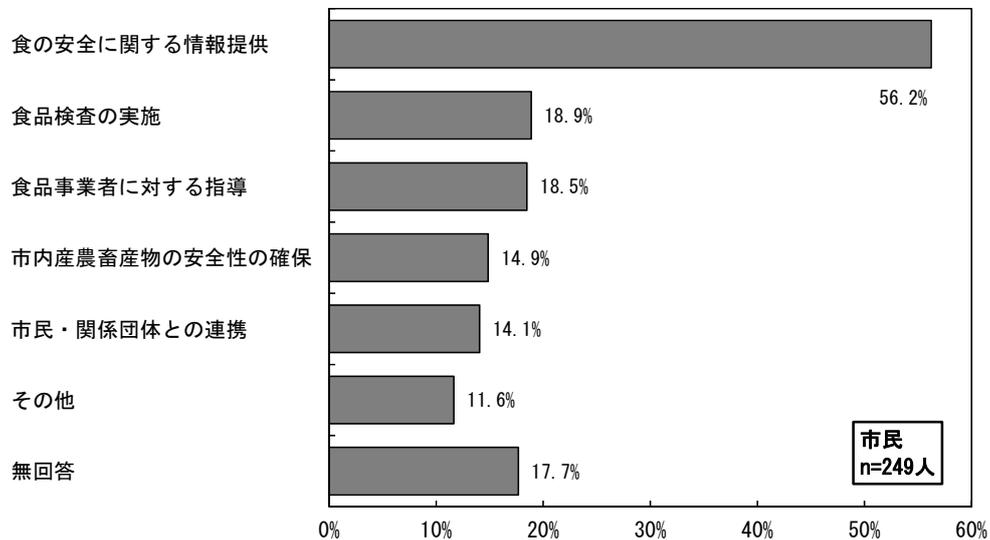
問30-1 あなたが特に不十分だと感じている取組は何ですか。(〇は3つまで)
各取組内容についての詳細は上の図をご覧ください。

6割弱が「食品に関する情報提供」と回答

【全体結果】

特に不十分だと感じている取組については、「食の安全に関する情報提供」(56.2%)と回答した人が最も多く、「その他」を除き以下「食品検査の実施」(18.9%)、「食品事業者に対する指導」(18.5%)、「市内産農畜産物の安全性の確保」(14.9%)、「市民・関係団体との連携」(14.1%)となっている。

図32.1 特に不十分だと感じている取組



全体	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
249	140	47	46	37	35	29	44

(人)

【性別・年齢別】

各年代とも、「食の安全に関する情報提供」の割合が高くなっている。

表 6.1 特に不十分だと感じている取組（年齢別・全体）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	249	56.2	18.9	18.5	14.9	14.1	11.6	17.7
20～29歳	18	44.4	27.8	16.7	11.1	16.7	11.1	11.1
30～39歳	29	34.5	13.8	6.9	6.9	27.6	31.0	17.2
40～49歳	52	51.9	26.9	19.2	15.4	19.2	17.3	13.5
50～59歳	48	66.7	10.4	22.9	22.9	10.4	10.4	8.3
60～69歳	60	70.0	15.0	16.7	15.0	8.3	6.7	21.7
70歳以上	39	48.7	23.1	23.1	12.8	10.3	0.0	30.8
年齢不明	3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3

対象者：人／回答：%

表 6.2 特に不十分だと感じている取組（年齢別・男性）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	130	57.7	16.2	21.5	17.7	17.7	13.8	13.8
20～29歳	10	30.0	10.0	20.0	10.0	30.0	10.0	20.0
30～39歳	15	33.3	20.0	6.7	13.3	33.3	40.0	13.3
40～49歳	24	50.0	25.0	29.2	16.7	20.8	12.5	16.7
50～59歳	26	61.5	15.4	26.9	30.8	15.4	19.2	0.0
60～69歳	39	74.4	10.3	17.9	12.8	10.3	7.7	20.5
70歳以上	16	62.5	18.8	25.0	18.8	12.5	0.0	12.5
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 6.3 特に不十分だと感じている取組（年齢別・女性）

	対象者	食の安全に関する情報提供	食品検査の実施	食品事業者に対する指導	市内産農畜産物の安全性の確保	市民・関係団体との連携	その他	無回答
計	113	54.9	22.1	15.0	12.4	10.6	9.7	20.4
20～29歳	8	62.5	50.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
30～39歳	14	35.7	7.1	7.1	0.0	21.4	21.4	21.4
40～49歳	28	53.6	28.6	10.7	14.3	17.9	21.4	10.7
50～59歳	22	72.7	4.5	18.2	13.6	4.5	0.0	18.2
60～69歳	21	61.9	23.8	14.3	19.0	4.8	4.8	23.8
70歳以上	20	40.0	30.0	25.0	10.0	10.0	0.0	40.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(7) 食の安全に関して必要としている情報

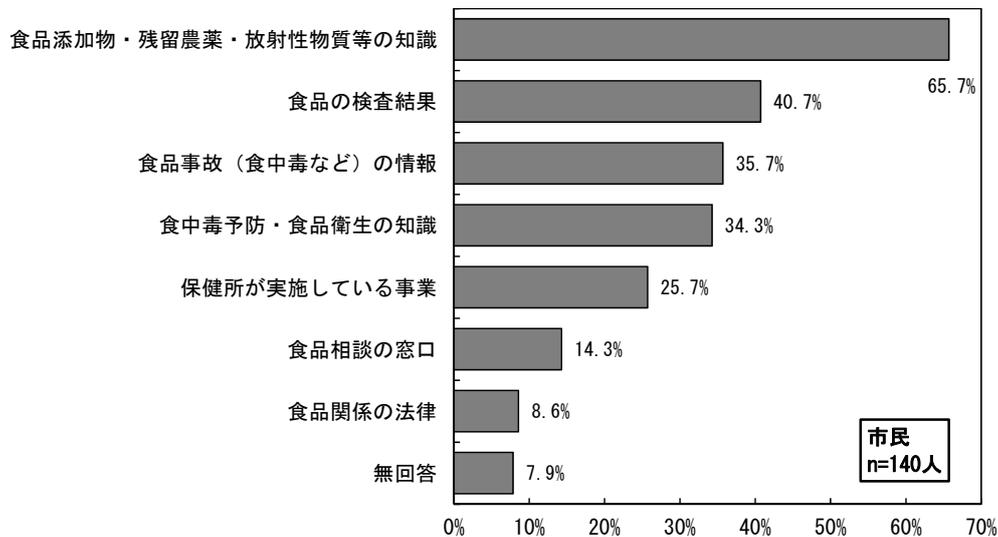
問30-2 どのような情報が必要ですか。(〇は3つまで)

7割弱が「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」と回答

【全体結果】

食の安全に関する情報提供が特に不十分だと感じている人が必要としている情報については、「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」(65.7%)と回答した人が最も多く、以下「食品の検査結果」(40.7%)、「食品事故(食中毒など)の情報」(35.7%)となっている。

図 33.1 食の安全に関して必要としている情報



全体	食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識	食品の検査結果	食品事故(食中毒など)の情報	食中毒予防・食品衛生の知識	保健所が実施している事業	食品相談の窓口	食品関係の法律	無回答
140	92	57	50	48	36	20	12	11

(人)

【性別・年齢別】

20歳代では「食品の検査結果」「食中毒予防・食品衛生の知識」が同率で最も高く、30歳代以上では「食品添加物・残留農薬・放射性物質等の知識」と回答した人の割合が最も高くなっている。

表 8.1 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・全体）

	対象者	食品添加物・ 残留農薬・ 放射性物質 等の知識	食品の検査 結果	食品事故 (食中毒な ど)の情報	食中毒予防・ 食品衛生の 知識	保健所が実 施している 事業	食品相談の 窓口	食品関係の 法律	無回答
計	140	65.7	40.7	35.7	34.3	25.7	14.3	8.6	7.9
20～29歳	8	37.5	50.0	25.0	50.0	25.0	12.5	0.0	12.5
30～39歳	10	50.0	30.0	40.0	30.0	30.0	10.0	10.0	30.0
40～49歳	27	70.4	33.3	44.4	22.2	25.9	18.5	18.5	3.7
50～59歳	32	84.4	59.4	34.4	34.4	28.1	15.6	3.1	0.0
60～69歳	42	57.1	35.7	33.3	35.7	28.6	14.3	9.5	7.1
70歳以上	19	63.2	26.3	36.8	42.1	15.8	10.5	5.3	15.8
年齢不明	2	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 8.2 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・男性）

	対象者	食品添加物・ 残留農薬・ 放射性物質 等の知識	食品の検査 結果	食品事故 (食中毒な ど)の情報	食中毒予防・ 食品衛生の 知識	保健所が実 施している 事業	食品相談の 窓口	食品関係の 法律	無回答
計	75	61.3	36.0	38.7	41.3	24.0	10.7	12.0	9.3
20～29歳	3	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3
30～39歳	5	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0
40～49歳	12	75.0	33.3	50.0	25.0	16.7	16.7	25.0	8.3
50～59歳	16	68.8	50.0	43.8	56.3	25.0	6.3	6.3	0.0
60～69歳	29	55.2	34.5	34.5	37.9	31.0	13.8	10.3	6.9
70歳以上	10	80.0	30.0	30.0	40.0	10.0	10.0	10.0	10.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

表 8.3 食の安全に関して必要としている情報（年齢別・女性）

	対象者	食品添加物・ 残留農薬・ 放射性物質 等の知識	食品の検査 結果	食品事故 (食中毒な ど)の情報	食中毒予防・ 食品衛生の 知識	保健所が実 施している 事業	食品相談の 窓口	食品関係の 法律	無回答
計	62	69.4	45.2	32.3	24.2	29.0	19.4	4.8	6.5
20～29歳	5	60.0	60.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
30～39歳	5	60.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0
40～49歳	15	66.7	33.3	40.0	20.0	33.3	20.0	13.3	0.0
50～59歳	16	100.0	68.8	25.0	12.5	31.3	25.0	0.0	0.0
60～69歳	13	61.5	38.5	30.8	30.8	23.1	15.4	7.7	7.7
70歳以上	8	37.5	25.0	37.5	37.5	25.0	12.5	0.0	25.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

5 健康づくりに対する意識や状況

(1) 自身の現在の健康状態

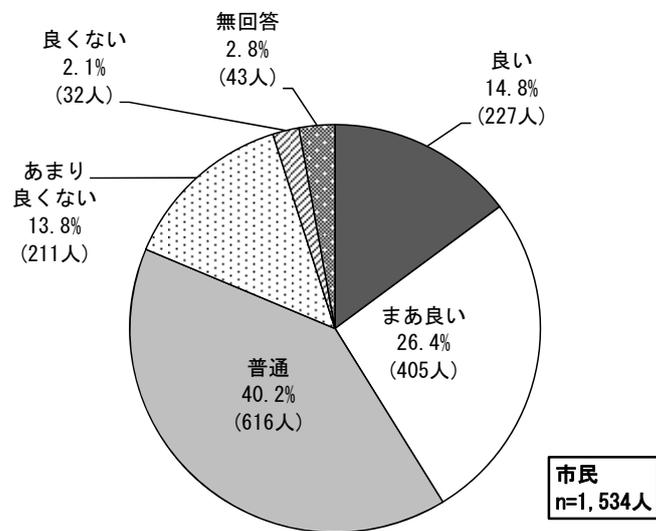
問31 あなたはご自身の現在の健康状態をどのように考えていますか。(○は1つだけ)

4割強が「良い」「まあ良い」と回答

【全体結果】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は4割強（41.2%）となっている。
一方、「あまり良くない」「良くない」と回答した人を合わせた割合は2割弱（15.9%）となっている。

図 34.1 自身の現在の健康状態



【性別・年齢別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、30歳代(54.4%)が最も高く、5割強となっている。一方、「あまり良くない」「良くない」と回答した人を合わせた割合は、70歳以上(18.2%)が最も高くなっている。

図 34.2 自身の現在の健康状態 (年齢別・全体)

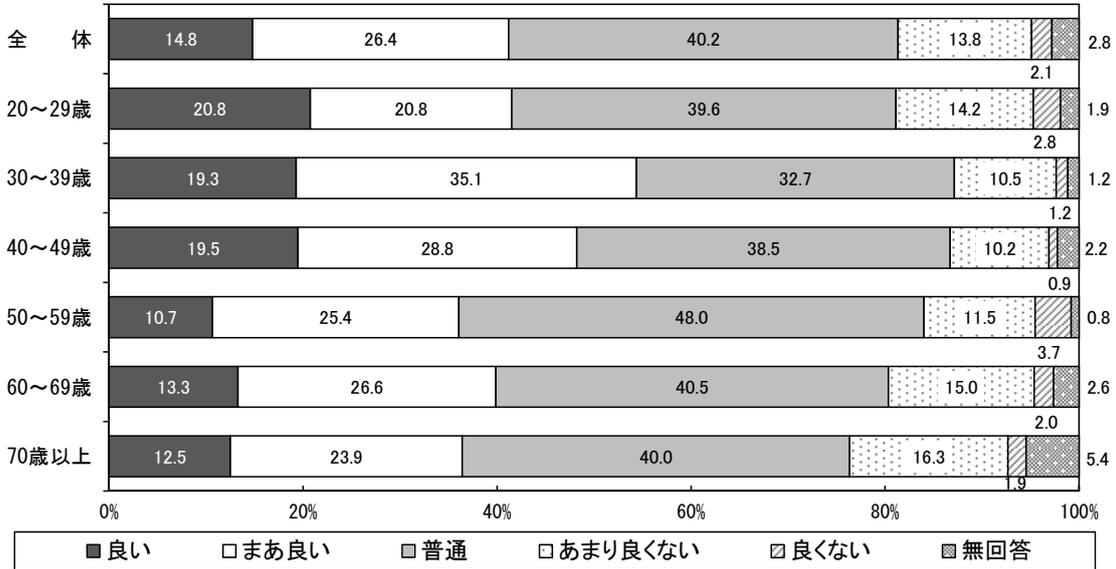
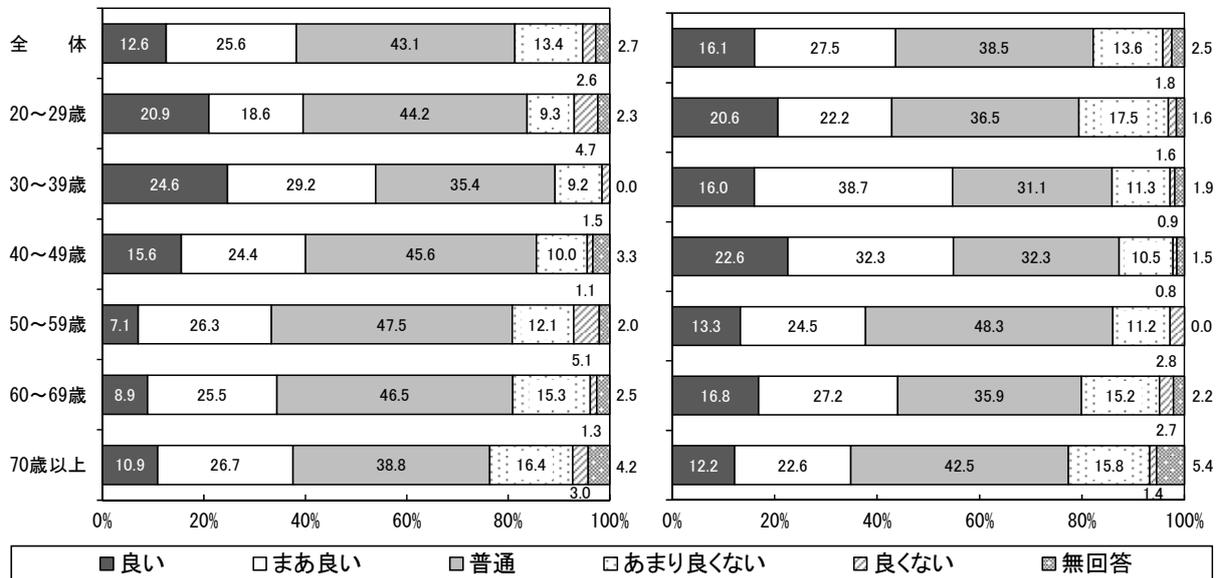


図 34.3 自身の現在の健康状態

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

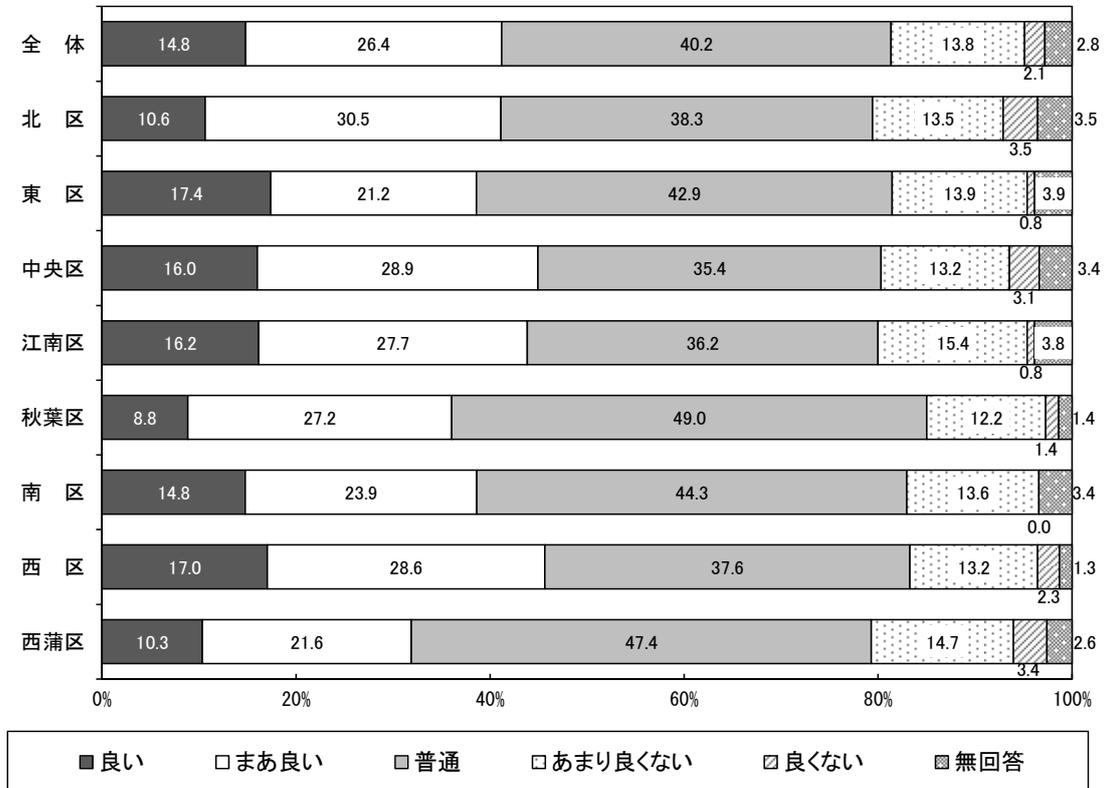
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、西区（45.6%）、中央区（44.9%）、江南区（43.9%）で比較的高くなっている。一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合では、東区（17.0%）が最も高くなっている。

図 34.4 自身の現在の健康状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,543	150	253	354	137	141	97	305	98	8

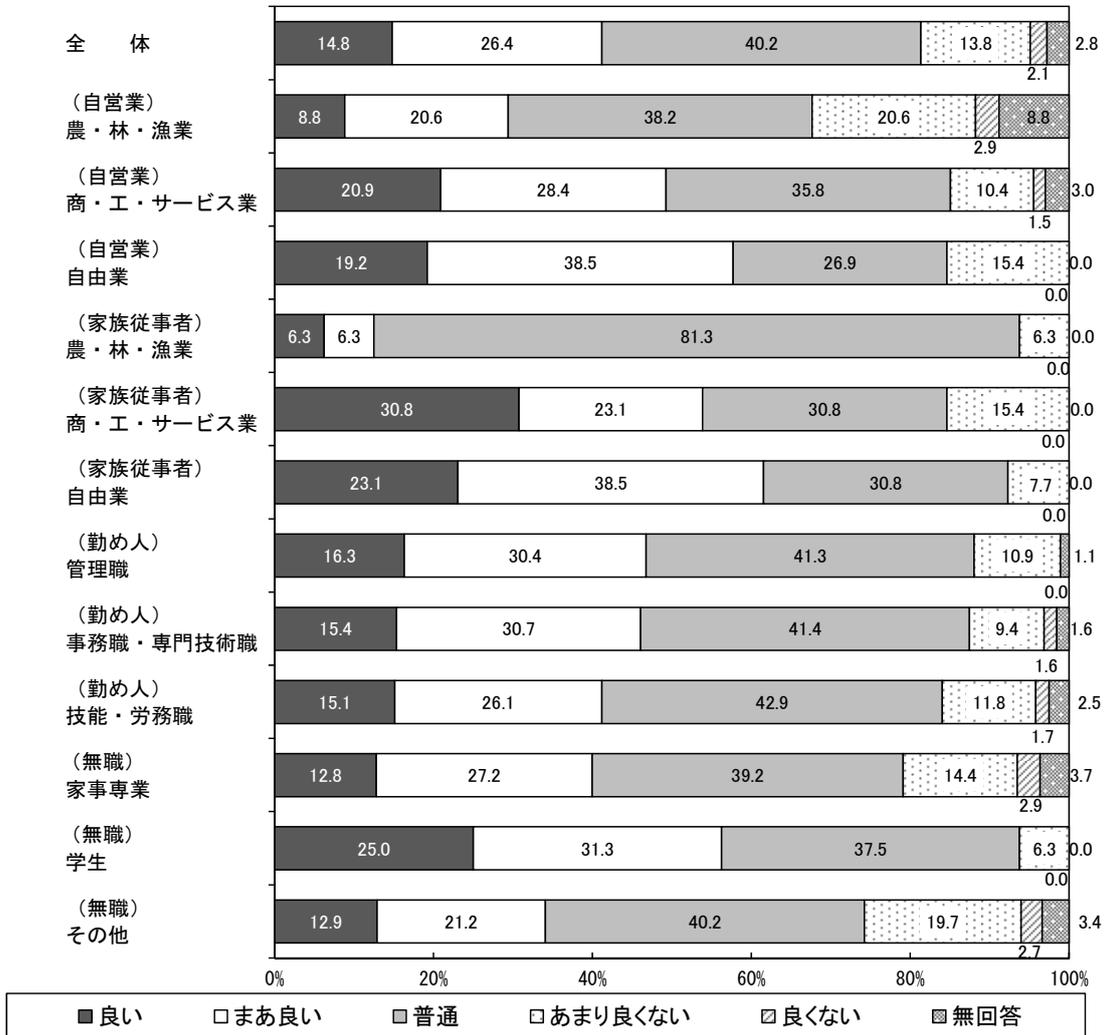
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 34.5 自身の現在の健康状態（職業別）



全体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人		無職				無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

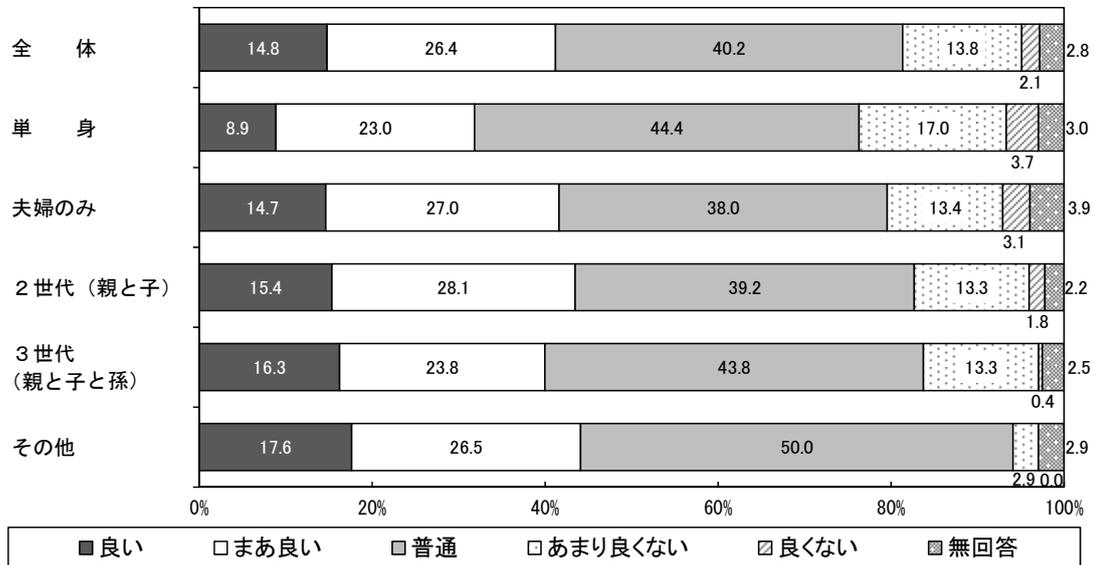
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「良い」「まあ良い」を合わせた割合はその他（44.1%）で最も高く、一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合は夫婦のみ（20.7%）で最も高くなっている。

図 34.6 自身の現在の健康状態（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(2) 睡眠による休養

問32 あなたはいつもとっている睡眠で休養が十分とれていると思いますか。(○は1つだけ)

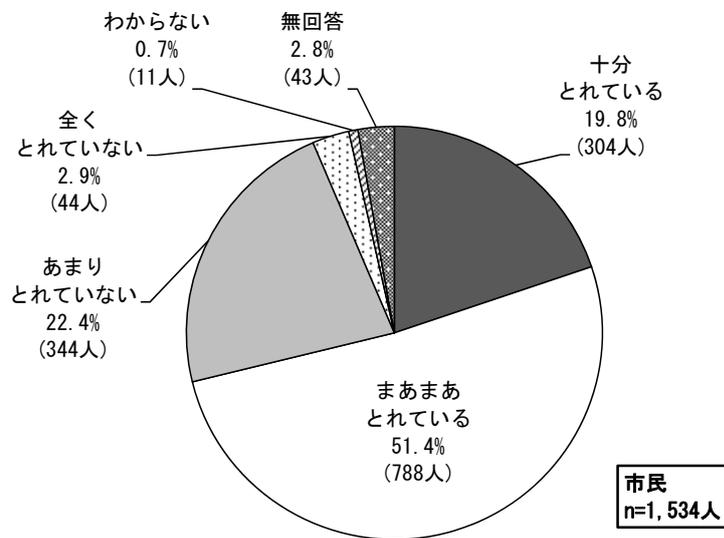
7割強が睡眠による休養がとれていると回答

【全体結果】

睡眠による休養が「十分とれている」「まあまあとれている」と回答した人を合わせた割合は7割強(71.2%)となっている。

一方、「あまりとれていない」「全くとれていない」と回答した人を合わせた割合は3割弱(25.3%)となっている。

図35.1 睡眠による休養



【性別・年齢別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、70歳以上（81.6%）で最も高く、8割強となっている。

図 35.2 睡眠による休養（年齢別・全体）

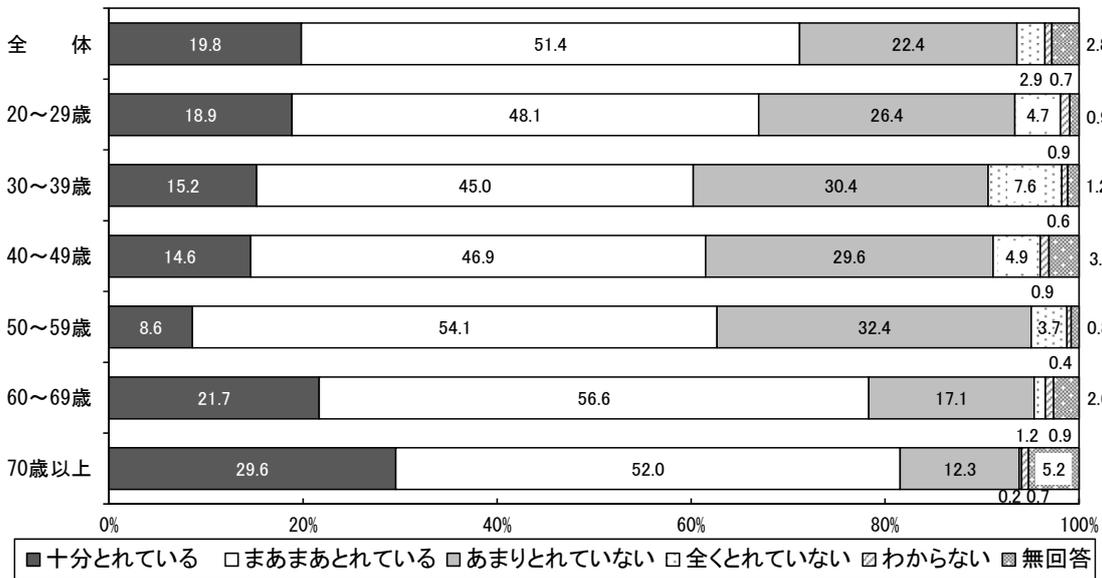
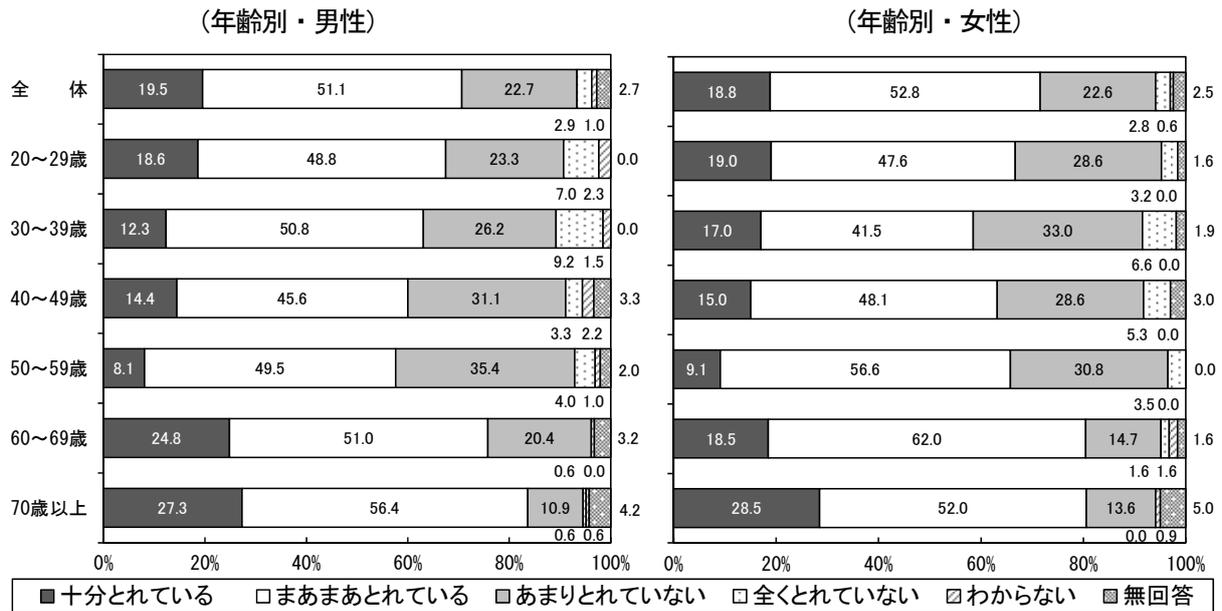


図 35.3 睡眠による休養



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

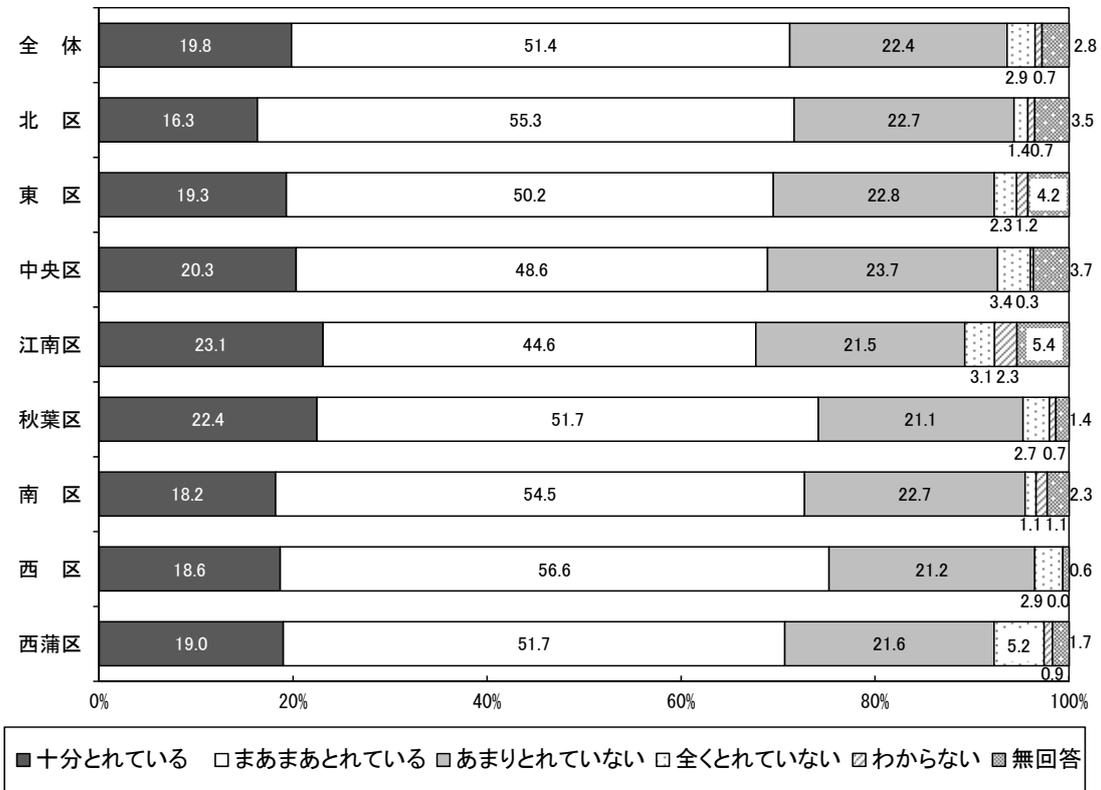
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、西区（75.2%）で最も高くなっている。

図 35.4 睡眠による休養（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

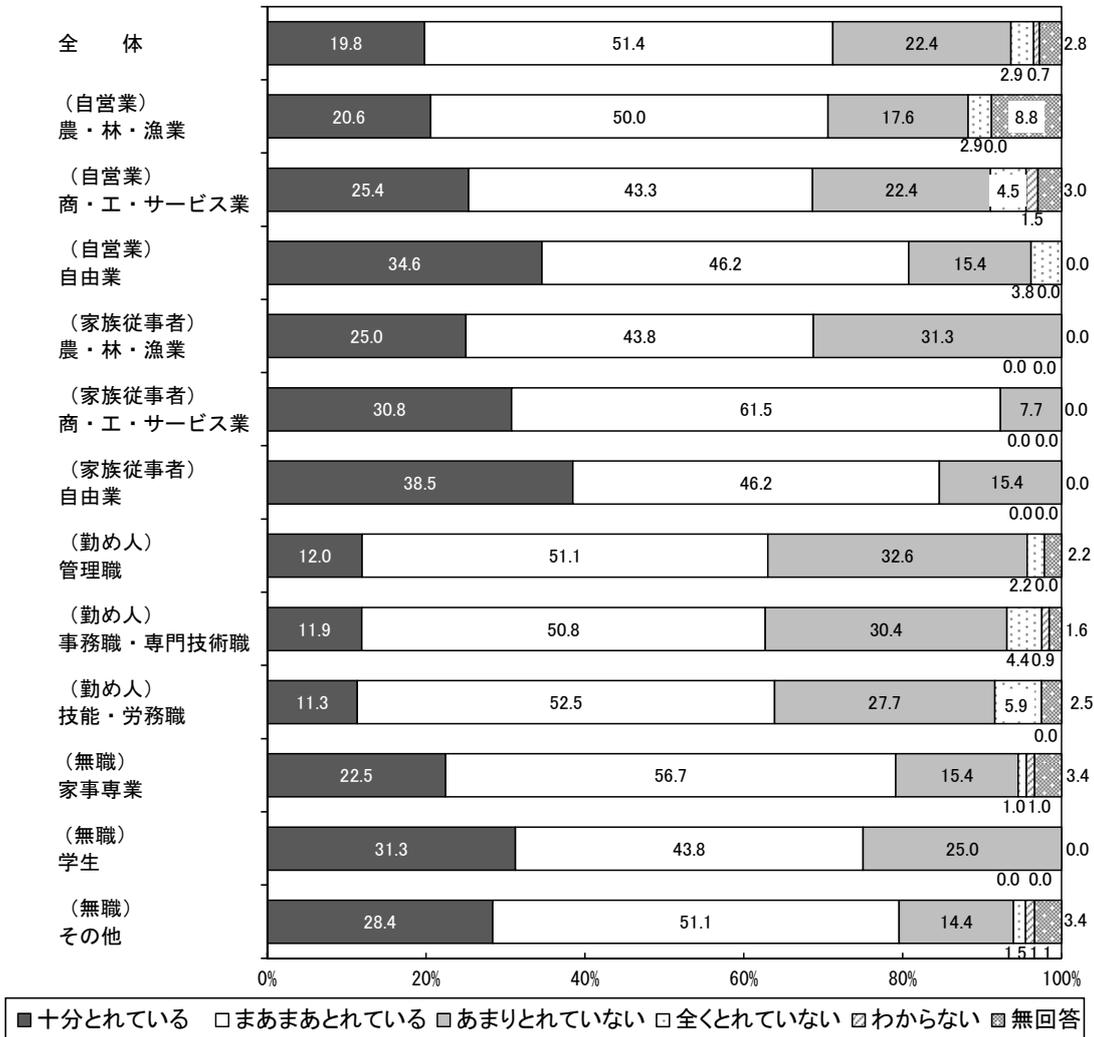
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 35.5 睡眠による休養（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人		無職				無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

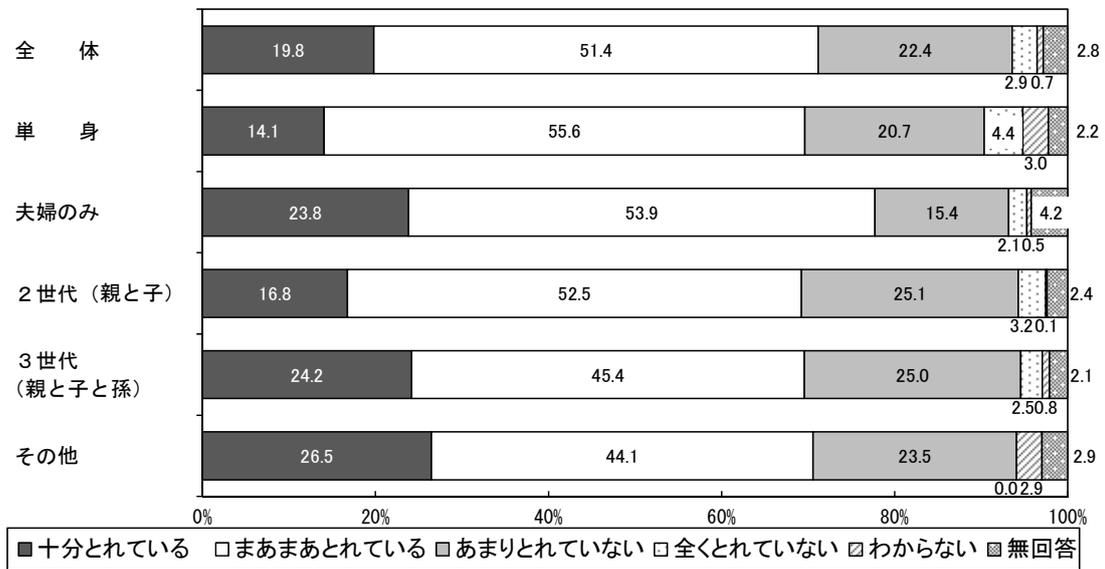
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、夫婦のみ（77.7%）で最も高くなっている。

図 35.6 睡眠による休養（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(3) ストレスがある時の対処法

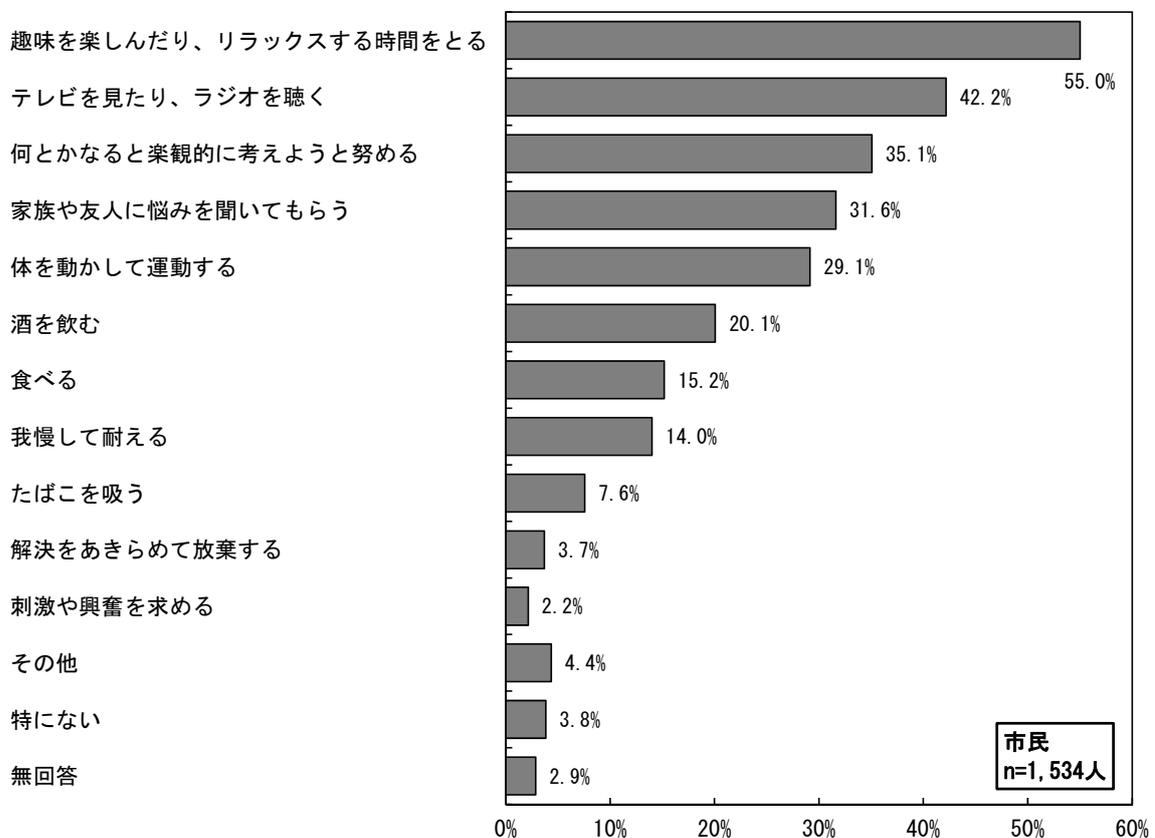
問33 ストレスがある時の対処法は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

5割強が「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答

【全体結果】

ストレスがある時の対処法については、「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人が5割強(55.0%)と最も多く、以下「テレビを見たり、ラジオを聴く」(42.2%)、「何とかなると楽観的に考えようと努める」(35.1%)、「家族や友人に悩みを聞いてもらう」(31.6%)、「体を動かして運動する」(29.1%)、と続いている。

図36.1 ストレスがある時の対処法



全体	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようと努める	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	その他	特にない	無回答
1,534	844	647	538	485	447	308	233	215	116	57	33	67	59	44

(人)

【性別・年齢別】

70歳以上では「テレビを見たり、ラジオを聴く」と回答した人の割合が最も高く、60歳代以下では「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

性別では「酒を飲む」「たばこを吸う」の割合は、各年代とも、男性の方が高くなっている。「家族や友人に悩みを聞いてもらう」「食べる」の割合は、各年代とも、女性の方が高くなっている。

表 8.1 ストレスがある時の対処法（年齢別・全体）

	対象者	趣味を楽しんだり、 リラックスする時間をとる	テレビを見たり、 ラジオを聴く	何とかになると楽観的に 考えようとする	家族や友人に悩みを 聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて 放棄する	刺激や興奮を求める	特 に な い	その他	無 回 答
計	1,534	55.0	42.2	35.1	31.6	29.1	20.1	15.2	14.0	7.6	3.7	2.2	3.8	4.4	2.9
20～29歳	106	75.5	26.4	27.4	46.2	21.7	17.9	33.0	17.9	12.3	6.6	7.5	1.9	4.7	1.9
30～39歳	171	60.8	29.8	27.5	45.6	24.6	31.0	33.3	20.5	14.0	6.4	5.3	2.9	5.3	1.2
40～49歳	226	66.8	38.9	35.8	36.3	26.1	25.7	24.3	15.5	9.7	4.4	2.7	1.8	5.3	2.2
50～59歳	244	54.9	48.0	34.4	37.3	24.6	26.2	15.6	13.1	9.8	4.1	1.2	1.6	4.1	1.2
60～69歳	346	50.6	42.2	42.5	24.3	35.0	18.5	7.2	10.4	5.5	3.2	1.2	5.2	4.3	2.3
70歳以上	423	44.9	49.2	33.6	22.5	32.6	11.3	4.7	12.3	3.3	1.9	0.7	5.9	3.5	5.7
年齢不明	18	55.6	50.0	44.4	33.3	22.2	11.1	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0

対象者：人／回答：%

表 8.2 ストレスがある時の対処法（年齢別・男性）

対象者	趣味を楽しんだり、ラッククスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかしようと努める	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にない	その他	無回答	
計	620	53.1	43.7	32.7	12.3	33.4	33.7	9.4	14.2	12.4	3.5	2.7	4.0	3.5	2.9
20～29歳	43	72.1	27.9	32.6	30.2	23.3	20.9	20.9	16.3	14.0	4.7	9.3	0.0	2.3	2.3
30～39歳	65	58.5	32.3	24.6	13.8	30.8	46.2	23.1	20.0	23.1	4.6	6.2	3.1	1.5	0.0
40～49歳	90	65.6	36.7	35.6	17.8	33.3	40.0	18.9	16.7	14.4	4.4	4.4	2.2	6.7	3.3
50～59歳	99	50.5	52.5	24.2	13.1	24.2	45.5	8.1	15.2	18.2	1.0	3.0	1.0	1.0	3.0
60～69歳	157	47.8	47.1	37.6	8.3	38.9	31.8	4.5	10.8	8.3	5.1	1.3	6.4	3.8	2.5
70歳以上	165	45.5	47.9	35.2	7.3	37.6	23.6	1.2	12.7	7.3	2.4	0.0	6.1	4.2	4.2
年齢不明	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 8.3 ストレスがある時の対処法（年齢別・女性）

対象者	趣味を楽しんだり、ラッククスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかしようと努める	家族や友人に悩みを聞いてもらう	体を動かして運動する	酒を飲む	食べる	我慢して耐える	たばこを吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にない	その他	無回答	
計	851	57.8	40.3	37.1	45.9	25.6	11.0	20.0	13.5	4.3	4.0	1.8	3.5	4.8	2.7
20～29歳	63	77.8	25.4	23.8	57.1	20.6	15.9	41.3	19.0	11.1	7.9	6.3	3.2	6.3	1.6
30～39歳	106	62.3	28.3	29.2	65.1	20.8	21.7	39.6	20.8	8.5	7.5	4.7	2.8	7.5	1.9
40～49歳	133	67.7	41.4	36.8	49.6	21.1	16.5	28.6	14.3	6.8	4.5	0.8	0.8	4.5	1.5
50～59歳	143	58.0	44.1	41.3	53.8	24.5	12.6	21.0	11.2	4.2	6.3	0.0	2.1	6.3	0.0
60～69歳	184	53.8	38.0	46.7	37.5	31.5	7.6	9.8	10.3	3.3	1.6	1.1	3.8	4.9	1.6
70歳以上	221	47.1	49.3	33.9	33.5	28.1	3.2	7.2	12.2	0.0	1.4	1.4	6.3	2.3	6.8
年齢不明	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

(4) 定期的に継続している運動の実施状況

問 34 あなたは、定期的に継続して運動や散歩等を行っていますか。(○は1つだけ) (「定期的に継続して」とは、1回30分以上、かつ週2日以上、かつ1年以上続けていることをいいます。)

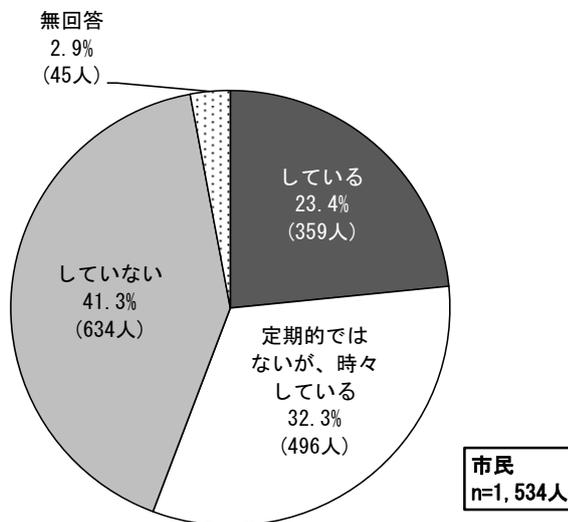
6割弱が運動を実施していると回答

【全体結果】

定期的に継続している運動の実施状況については、「している」(23.4%)と「定期的ではないが、時々している」(32.3%)と回答した人を合わせた割合は6割弱(55.7%)となっている。

一方、「していない」と回答した人が4割強(41.3%)となっている。

図 37.1 定期的に継続している運動の実施状況

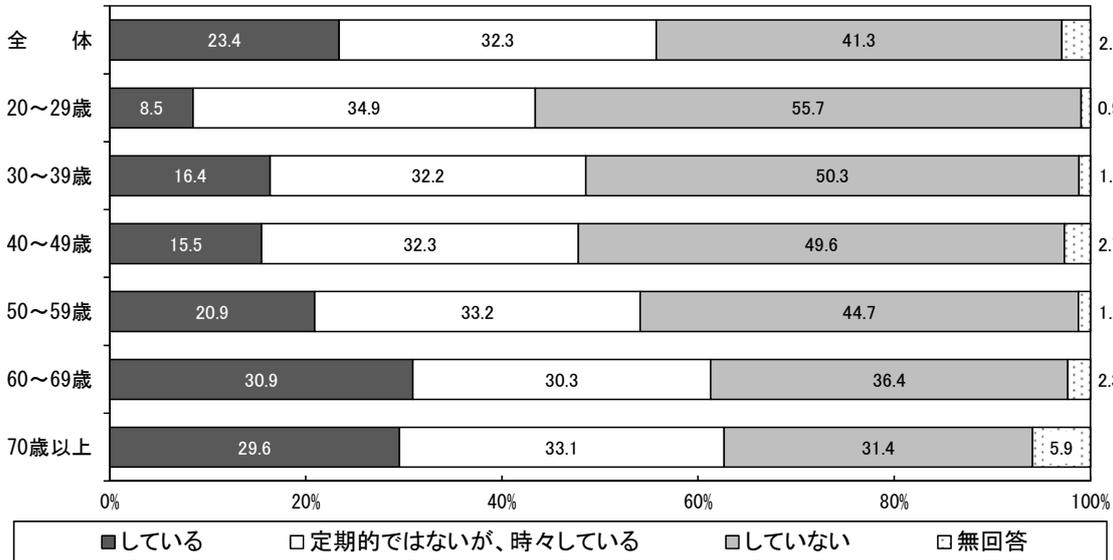
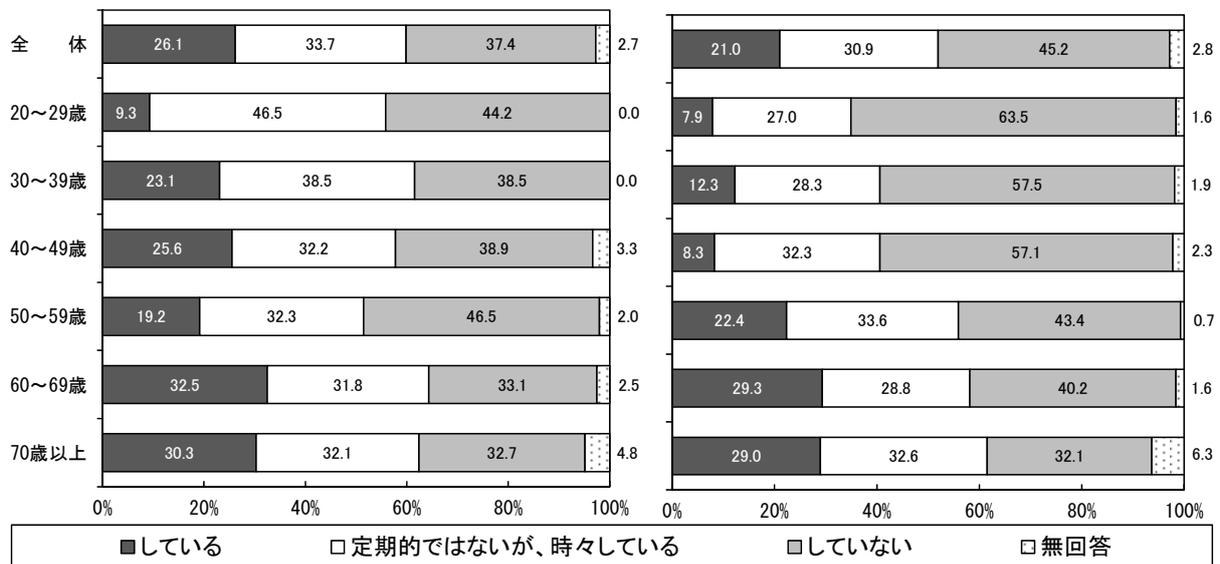


【性別・年齢別】

30歳代以下では、「していない」と回答した人が5割を超えている。一方、60歳以上では「している」と「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合が6割を超えている。

性別では、40歳代以下で「していない」の割合が、男性より女性の方が10ポイント以上高くなっている。

図 37.2 定期的に継続している運動の実施状況（年齢別・全体）

図 37.3 定期的に継続している運動の実施状況
（年齢別・男性） （年齢別・女性）

	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

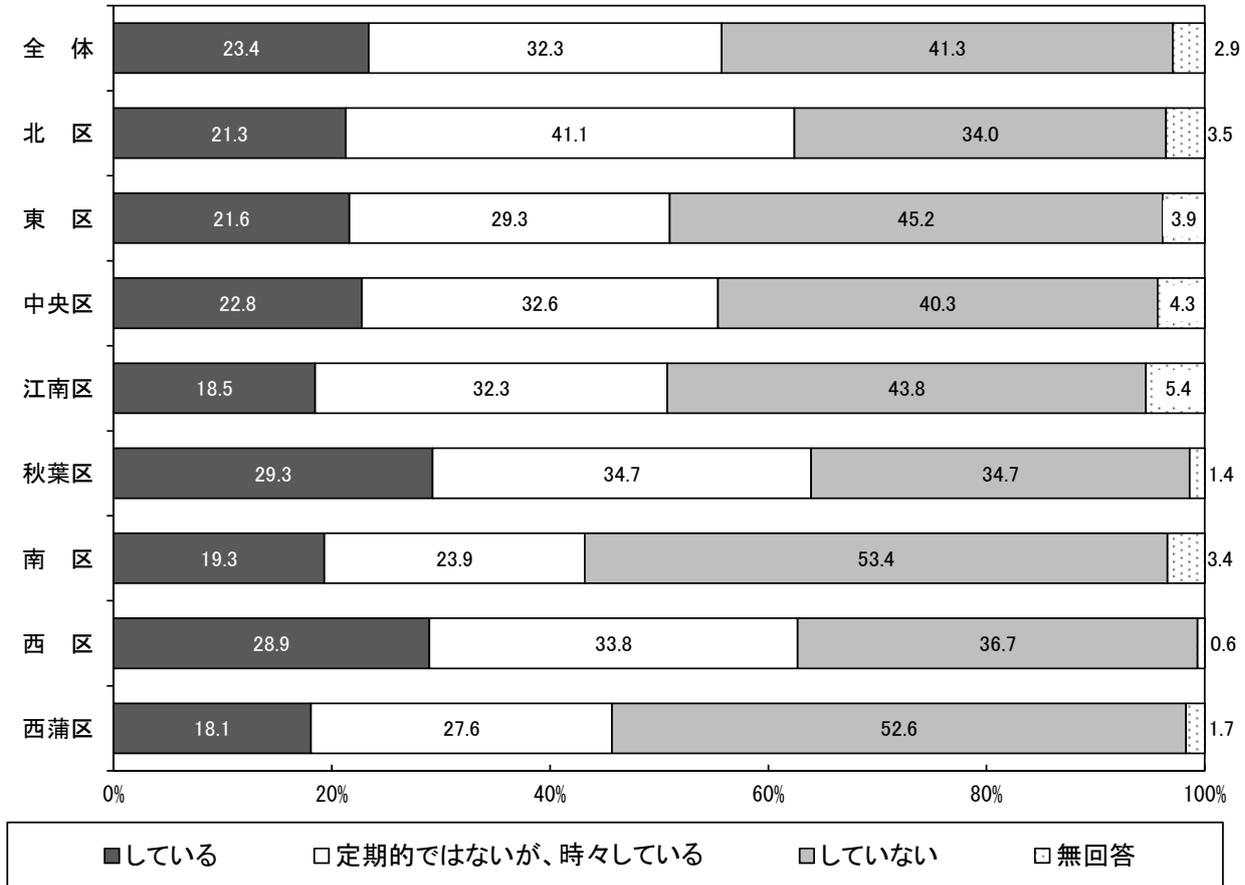
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、秋葉区（64.0%）で最も高くなっている。また、南区、西蒲区の2地区は「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合が、「していない」の割合よりも低くなっている。

図 37.4 定期的に継続している運動の実施状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

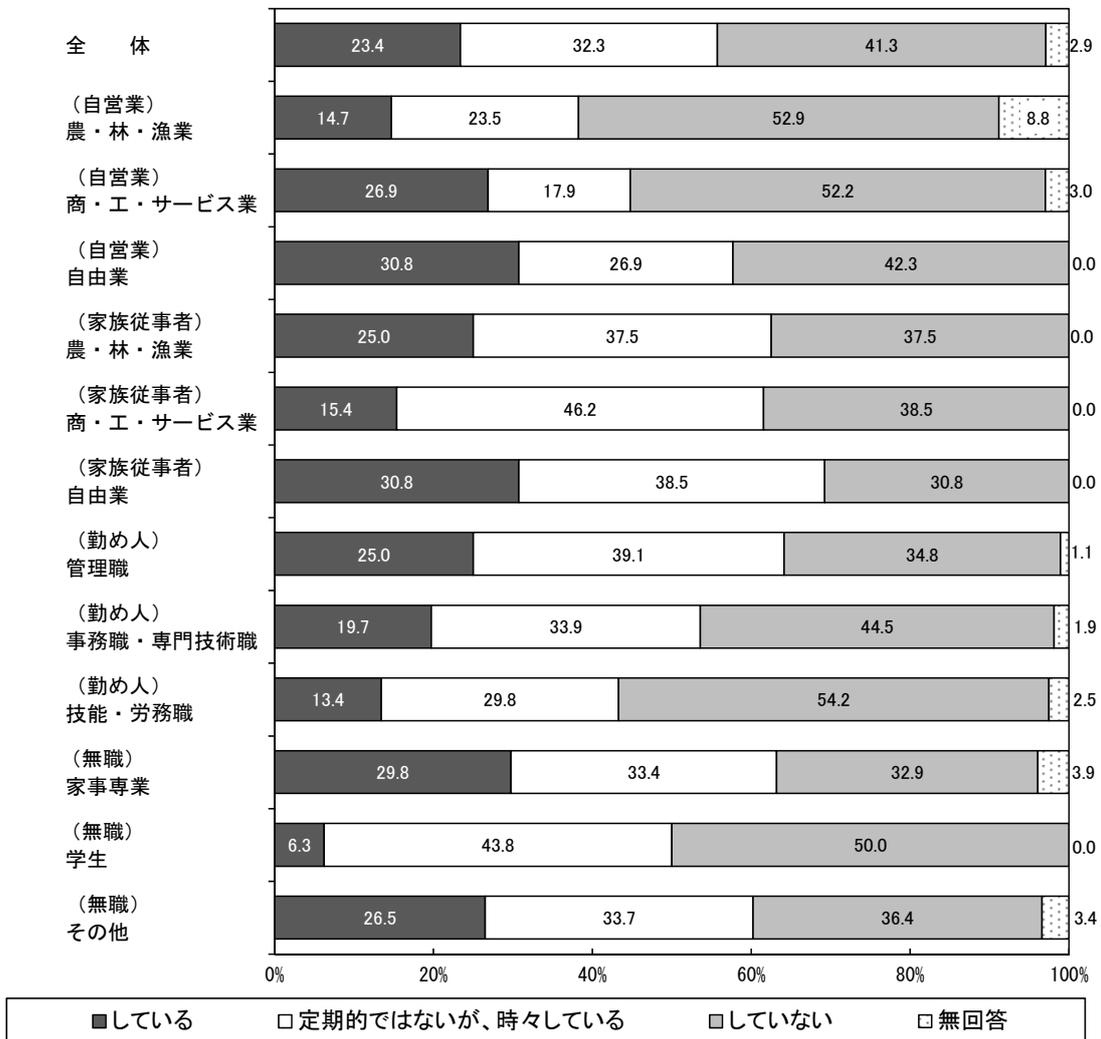
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 37.5 定期的に継続している運動の実施状況（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

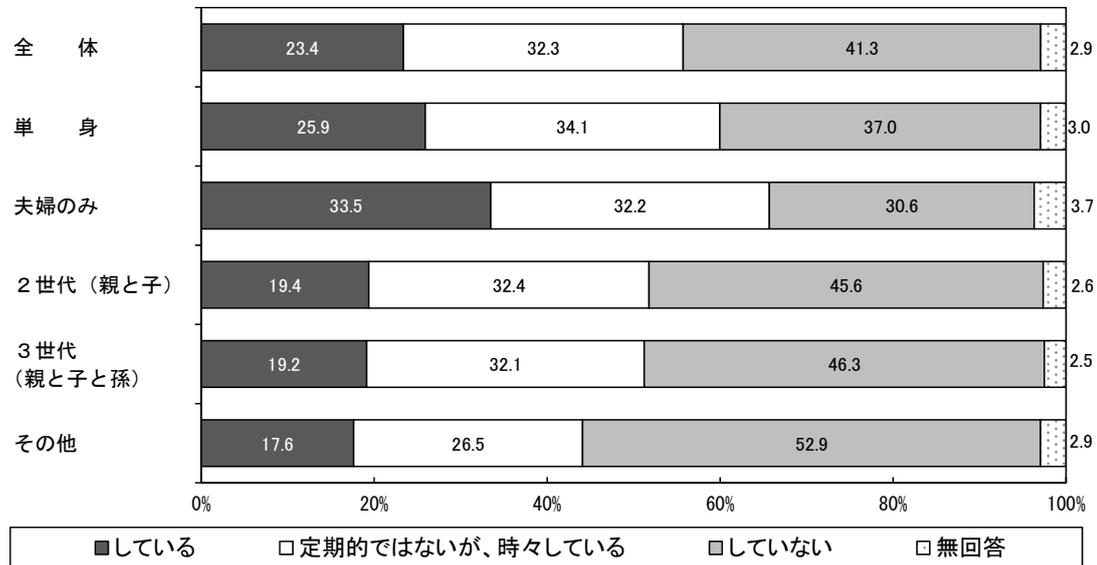
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、夫婦のみ（65.7%）で6割半ばと最も高くなっている。

図 37.6 定期的に継続している運動の実施状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(5) 1日60分くらいの運動習慣

問35 「健康維持のためには1日に60分くらい体を動かすような生活をする」とが推奨されています。あなたはこれを実行していますか。(〇は1つだけ)

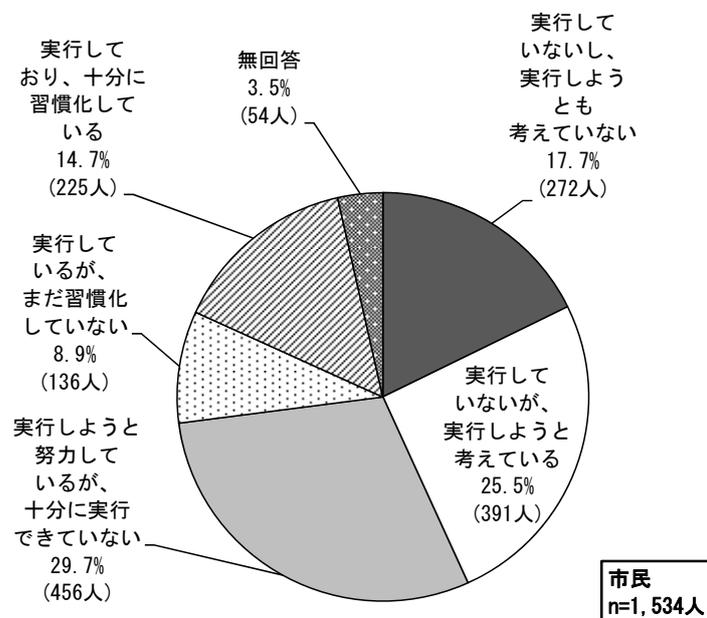
2割強が1日60分くらいの運動を実行していると回答

【全体結果】

1日60分くらいの運動習慣については、「実行しており、十分に習慣化している」(14.7%)と「実行しているが、まだ習慣化していない」(8.9%)と回答した人を合わせた実行している割合は2割強(23.6%)となっている。

一方「実行していないが、実行しようと考えている」(25.5%)、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」(29.7%)、「実行していないし、実行しようとも考えていない」(17.7%)を合わせた実行していない割合は7割強(72.9%)となっている。

図38.1 1日60分くらいの運動習慣



【性別・年齢別】

「実行しているが、まだ習慣化していない」と「実行しており、十分に習慣化している」を合わせた割合は60歳代以上で3割を超えている。

図 38.2 1日60分くらいの運動習慣（年齢別・全体）

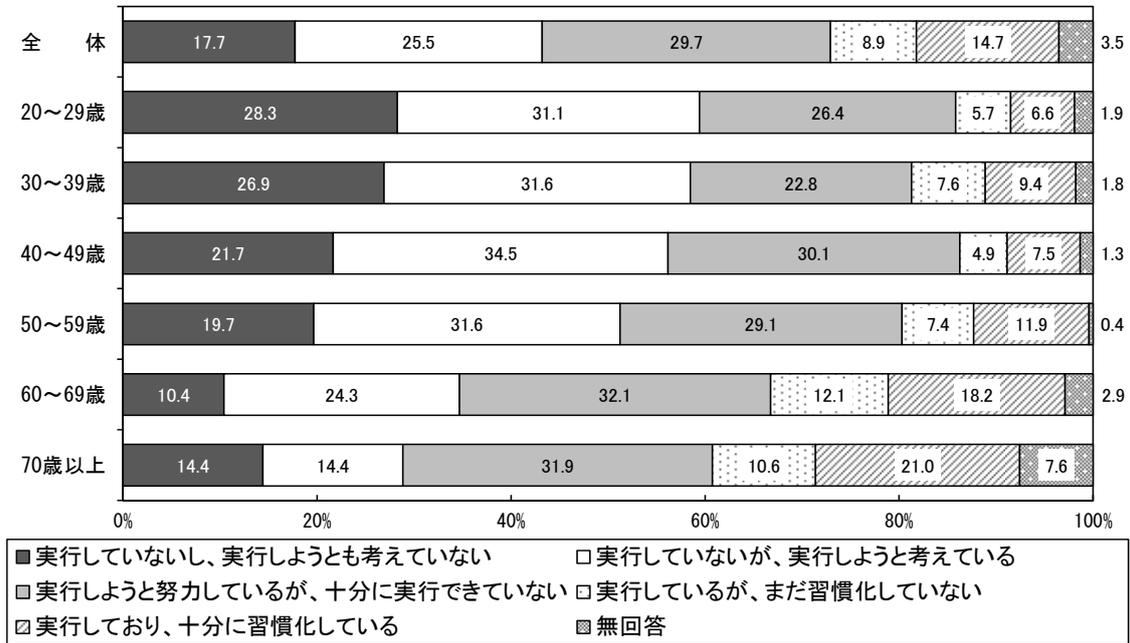
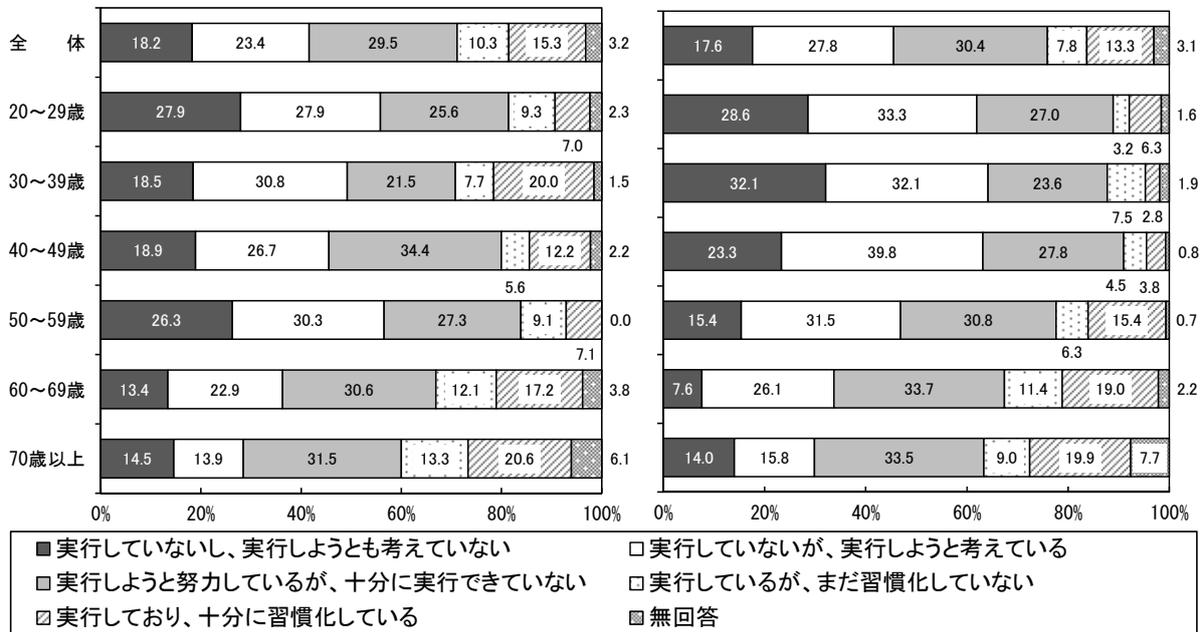


図 38.3 1日60分くらいの運動習慣

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

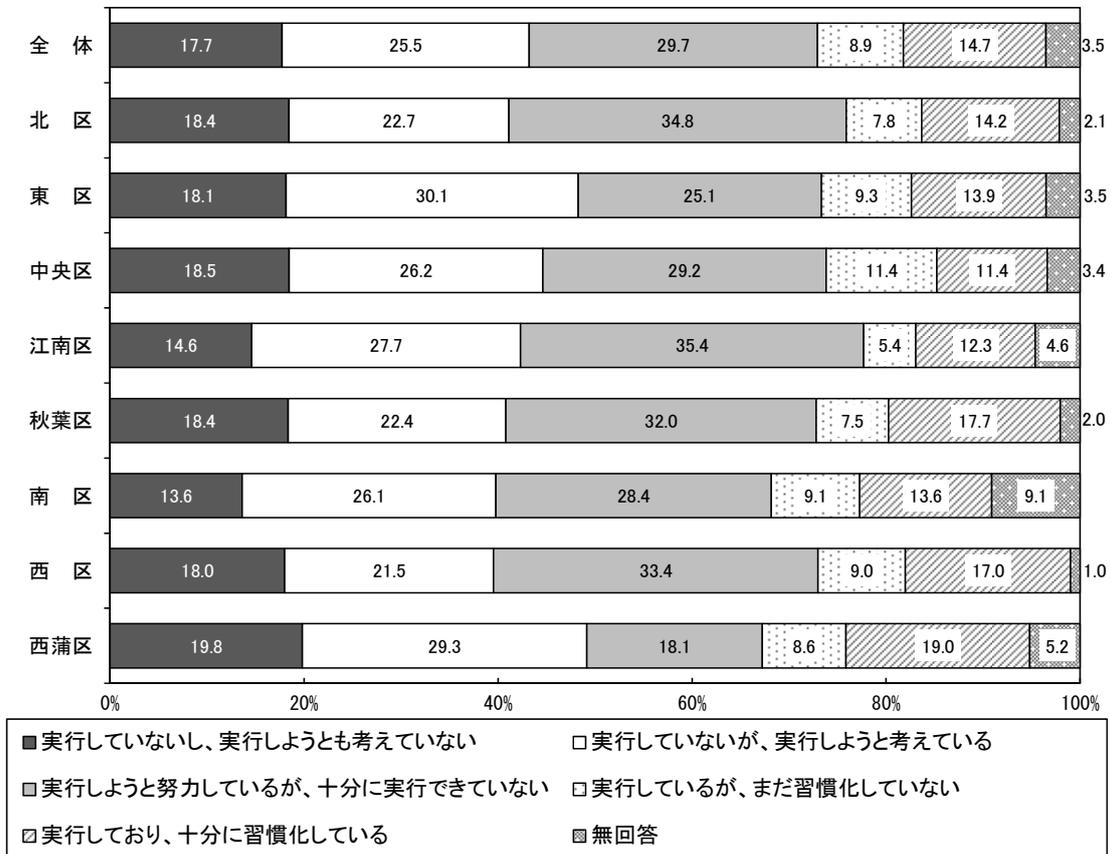
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

東区と西蒲区以外の地区で、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」と回答した人の割合が最も高くなっている。一方、東区、西蒲区では、「実行していないが、実行しようとしている」の割合が最も高くなっている。

図 38.4 1日60分くらいの運動習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

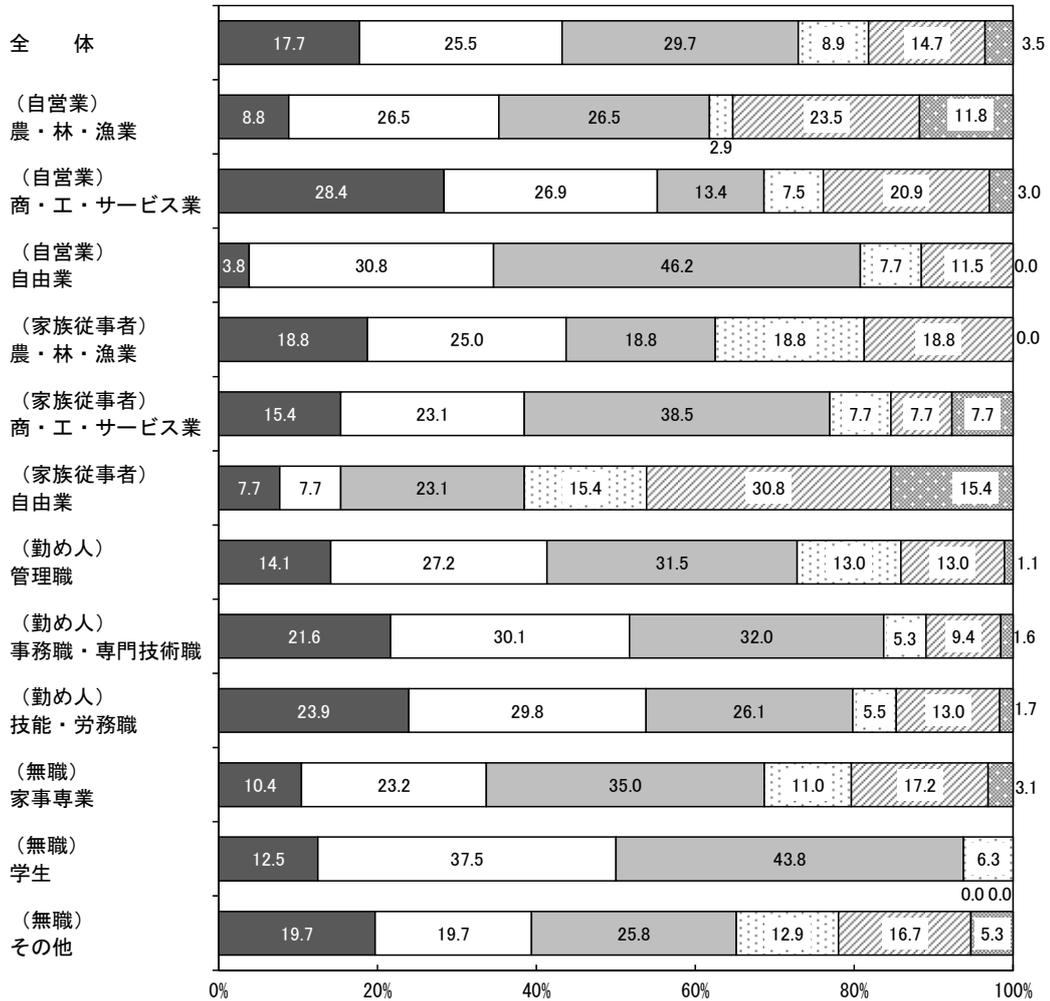
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 38.5 1日60分くらいの運動習慣（職業別）



実行していないし、実行しようとも考えていない 実行していないが、実行しようと考えている
 実行しようとしているが、十分に実行できていない 実行しているが、まだ習慣化していない
 実行しており、十分に習慣化している 無回答

全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

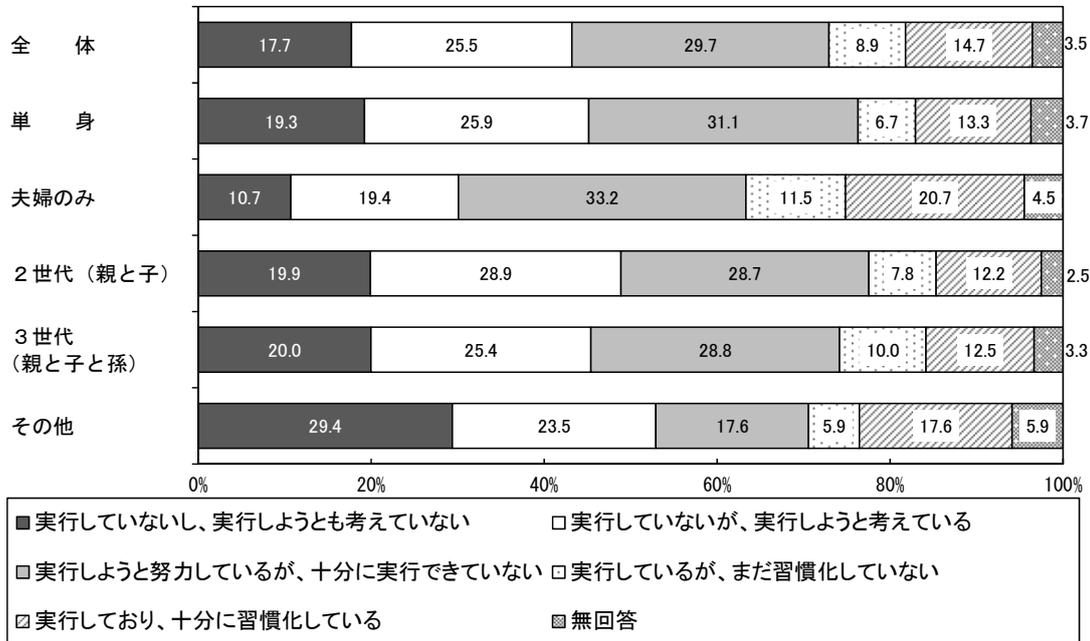
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

単身、夫婦、および3世代では、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」が、2世代では「実行していないが、実行しようとしている」の割合が最も高くなっている。その他では、「実行していないし、実行しようとも考えていない」が最も高くなっている。

図 38.6 1日60分くらいの運動習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(6) 喫煙習慣

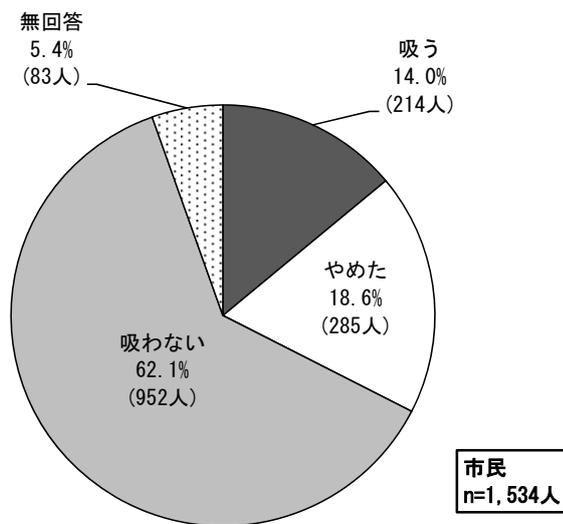
問36 あなたはタバコを吸いますか。(○は1つだけ)

8割強が喫煙をしていないと回答

【全体結果】

「やめた」「吸わない」と回答した人を合わせた喫煙をしていない人の割合は8割強(80.7%)となっている。

図 39.1 喫煙習慣



【性別・年齢別】

「やめた」「吸わない」と回答した人の割合は、各年代で6割を超えている。一方、「吸う」と回答した人の割合は30歳代で最も高く、2割を超えている。

性別では、各年代とも「吸う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

図 39.2 喫煙習慣（年齢別・全体）

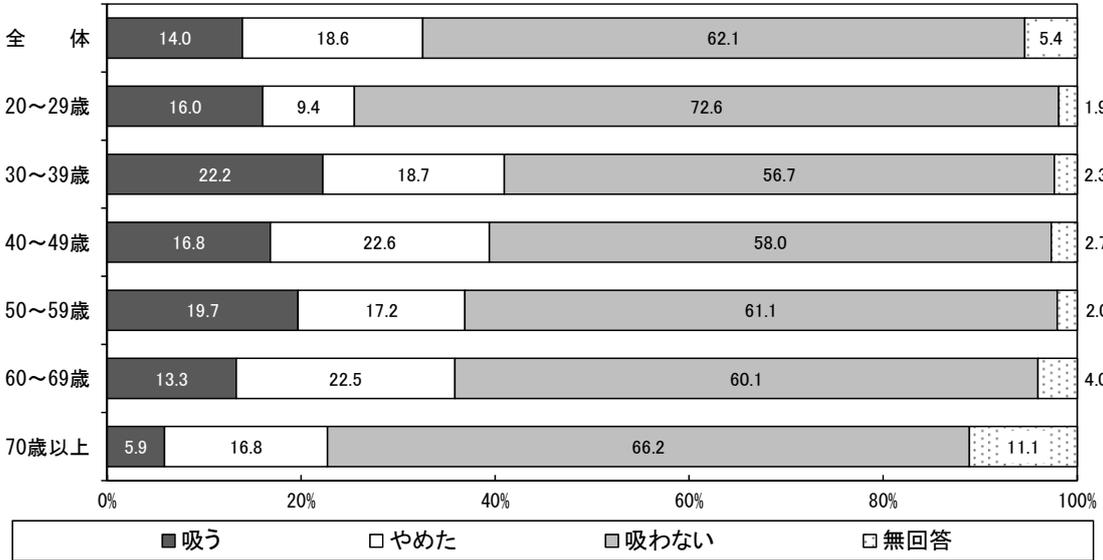
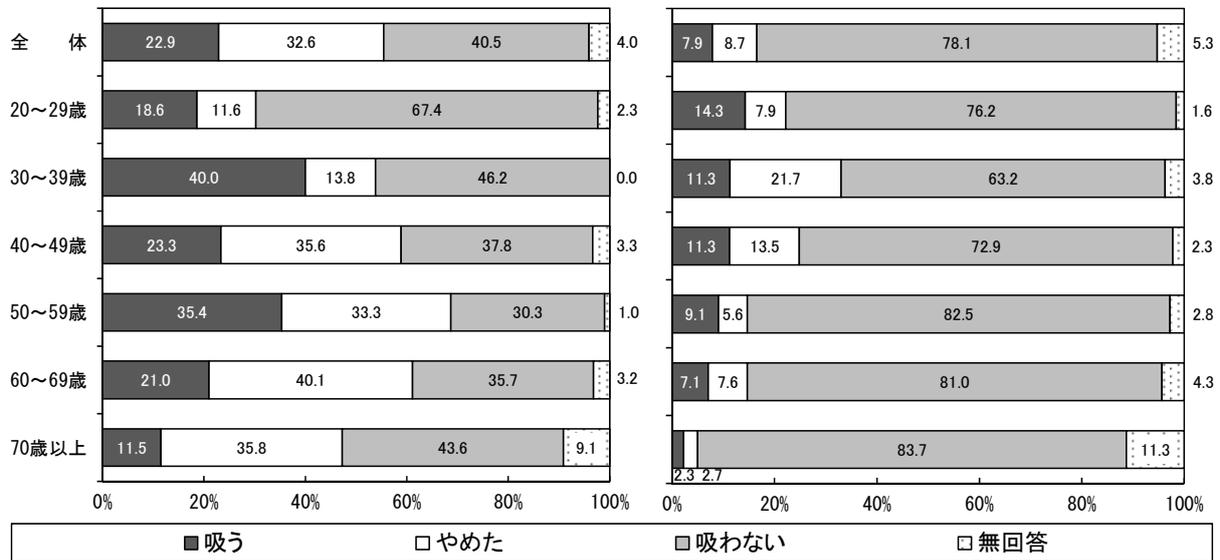


図 39.3 喫煙習慣

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

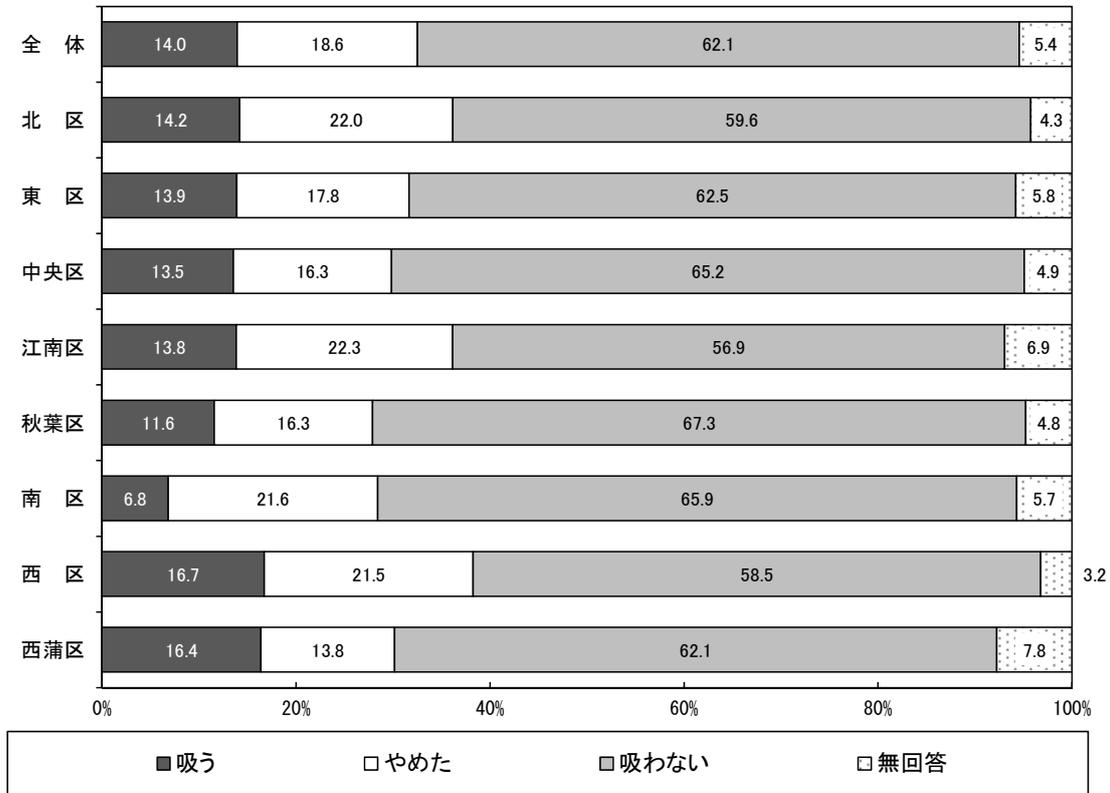
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、西区（87.5%）、南区（83.7%）で高くなっている。

図 39.4 喫煙習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

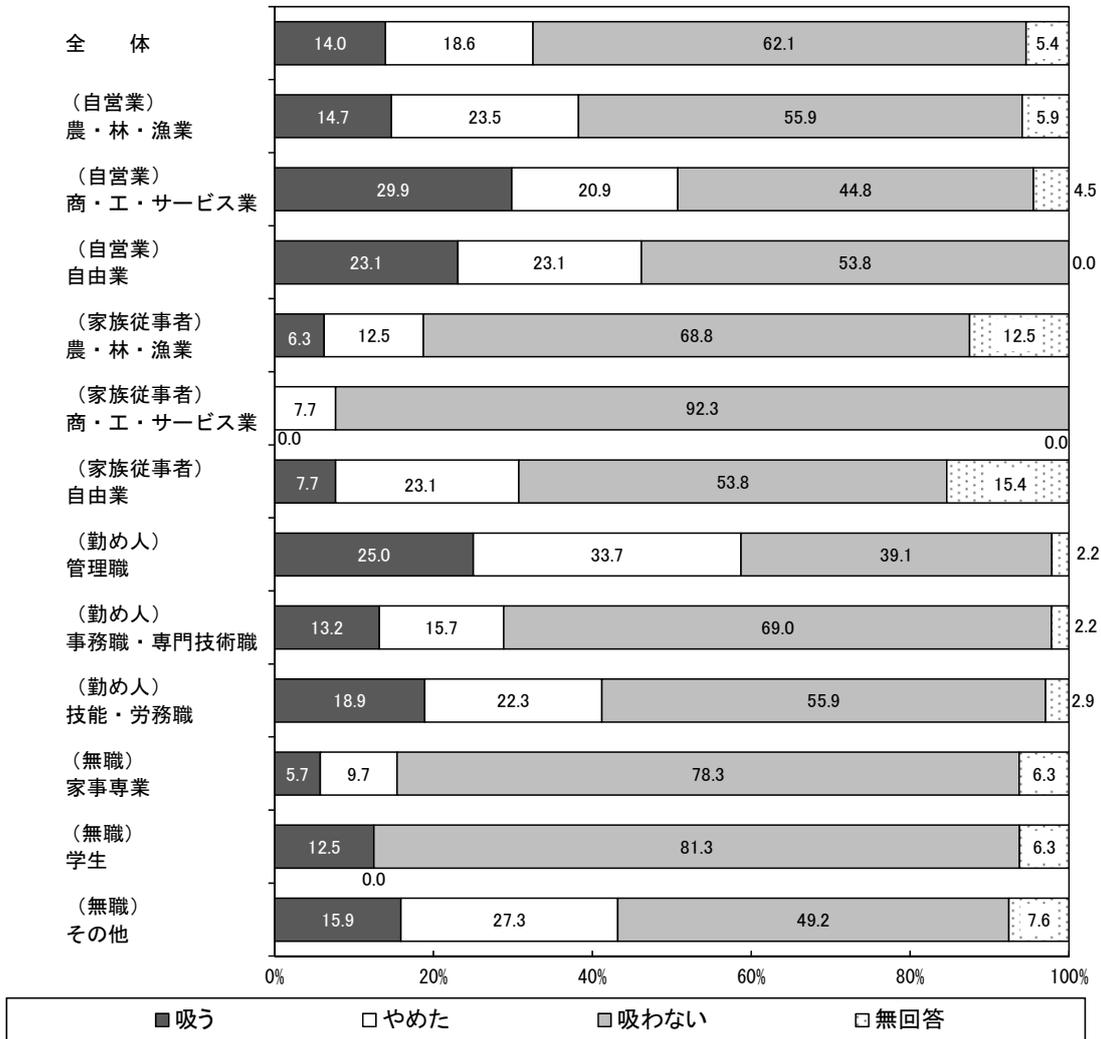
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 39.5 喫煙習慣（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
	勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
	92	319	238	383	16	264	53

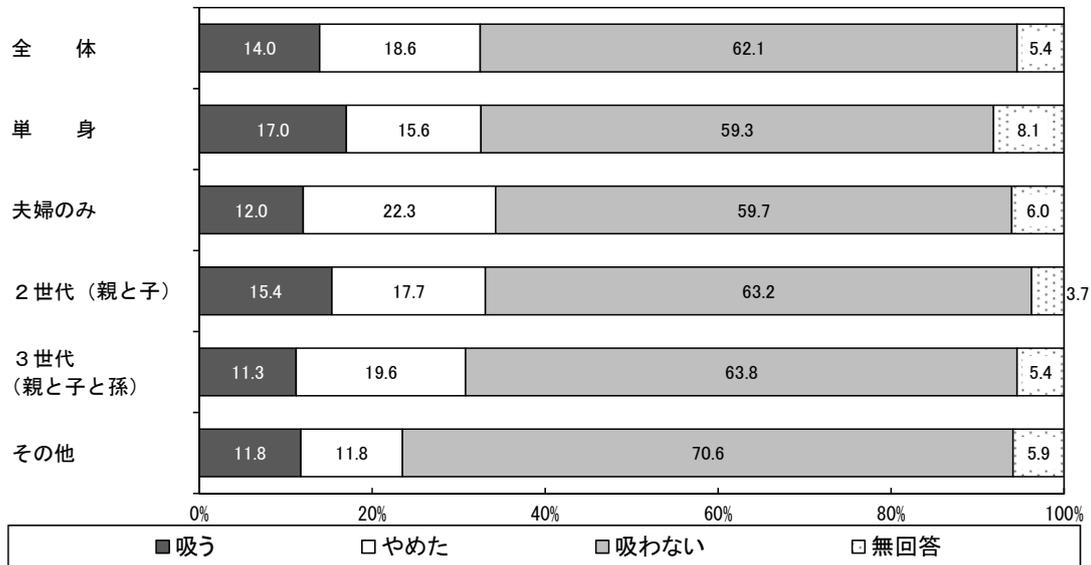
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、その他（83.3%）で最も高くなっている。一方、「吸う」は単身（17.0%）が最も高くなっている。

図 39.6 喫煙習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(7) 受動喫煙の機会

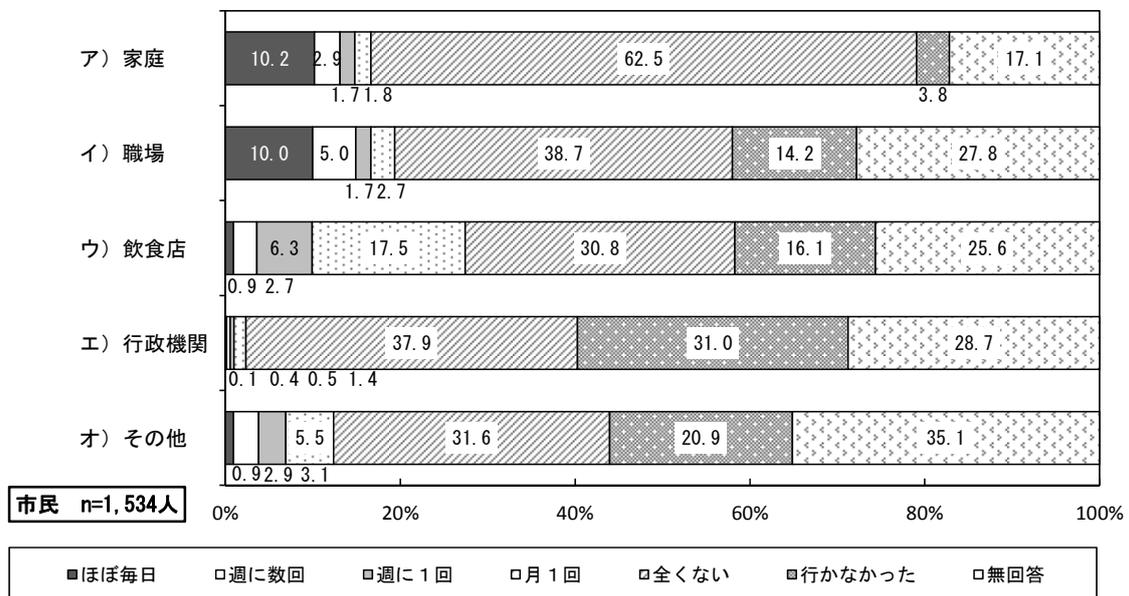
問 37 あなたはこの1か月に自分以外の人が吸っているたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。（項目毎に○は1つだけ）

6割強が家庭で「全くない」と回答

【全体結果】

受動喫煙の機会はすべて「全くない」が最も多く、中でも「ア）家庭」は6割強（62.5%）と高く、「イ）職場」（38.7%）、「ウ）飲食店」（30.8%）、「エ）行政機関」（37.9%）、「オ）その他」（31.6%）のいずれも3割を超えた。

図 40.1 受動喫煙の機会



(8) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」とは

主として喫煙などにより、有害物質を長期に吸い込むことによって肺に炎症がおき、肺の中の組織が破壊されて、酸素の取り込みや二酸化炭素を排出する機能が低下する疾患です。

せき・たん・息切れを主な症状とし、徐々に呼吸障害が進行します。

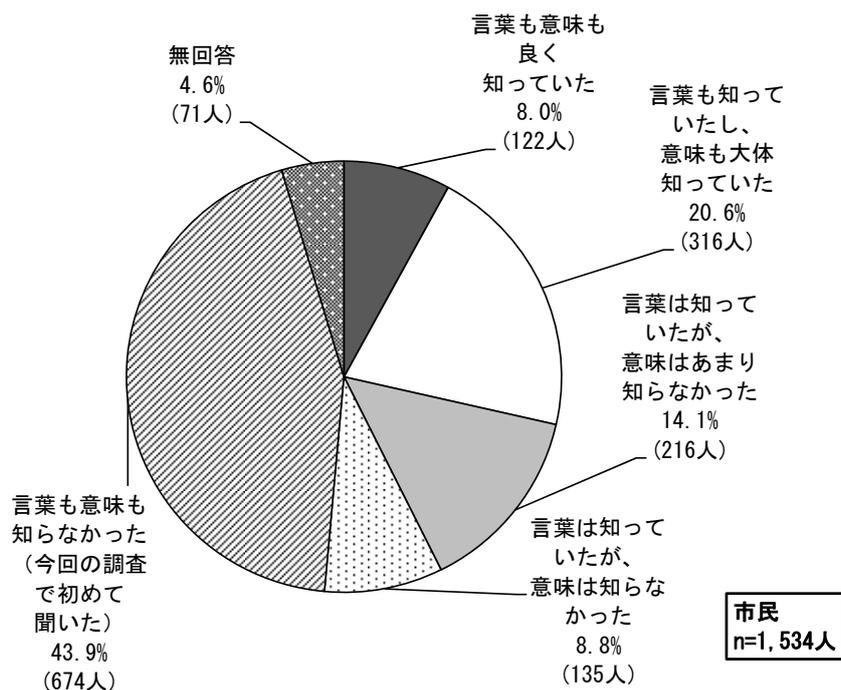
問38 あなたは「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉やその意味を知っていましたか。
(○は1つだけ)

3割弱が言葉や意味を認知していると回答

【全体結果】

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」(8.0%)、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」(20.6%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(28.6%)となっている。

図41.1 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、50歳代(32.3%)で最も高くなっている。

図 41.2 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度（年齢別・全体）

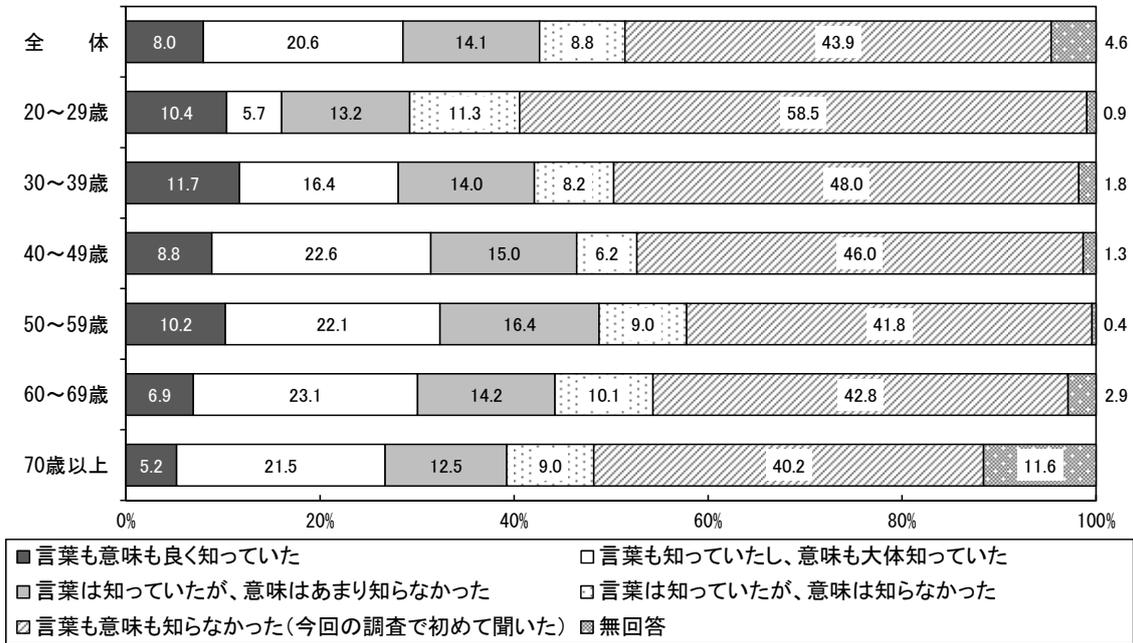
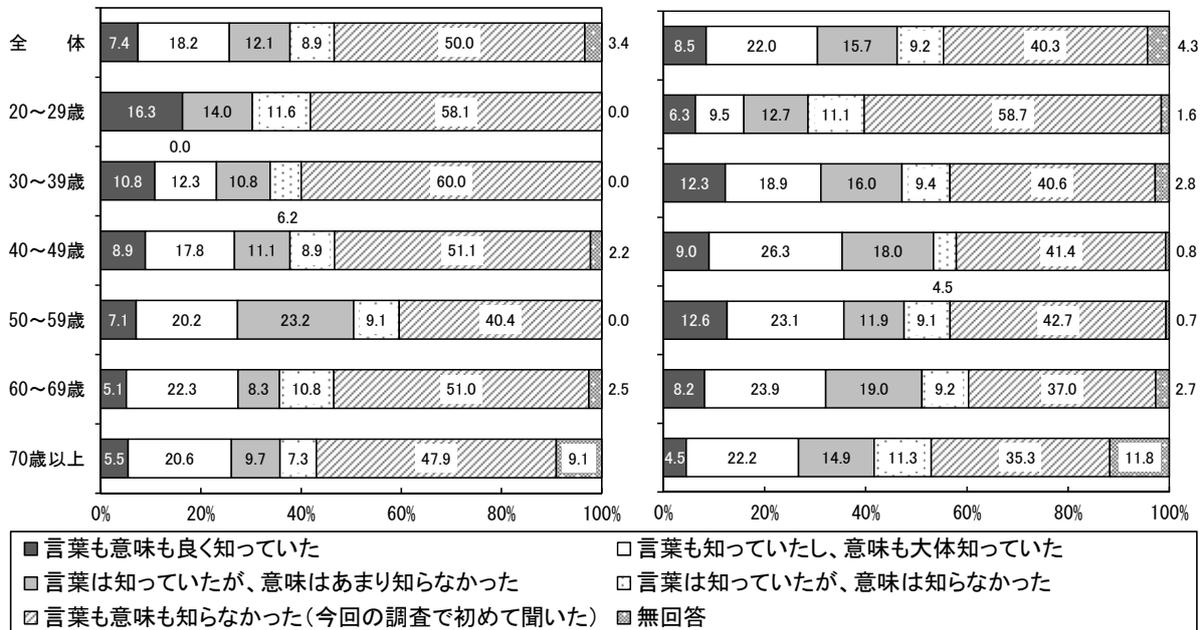


図 41.3 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度（年齢別・男性）
（年齢別・女性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

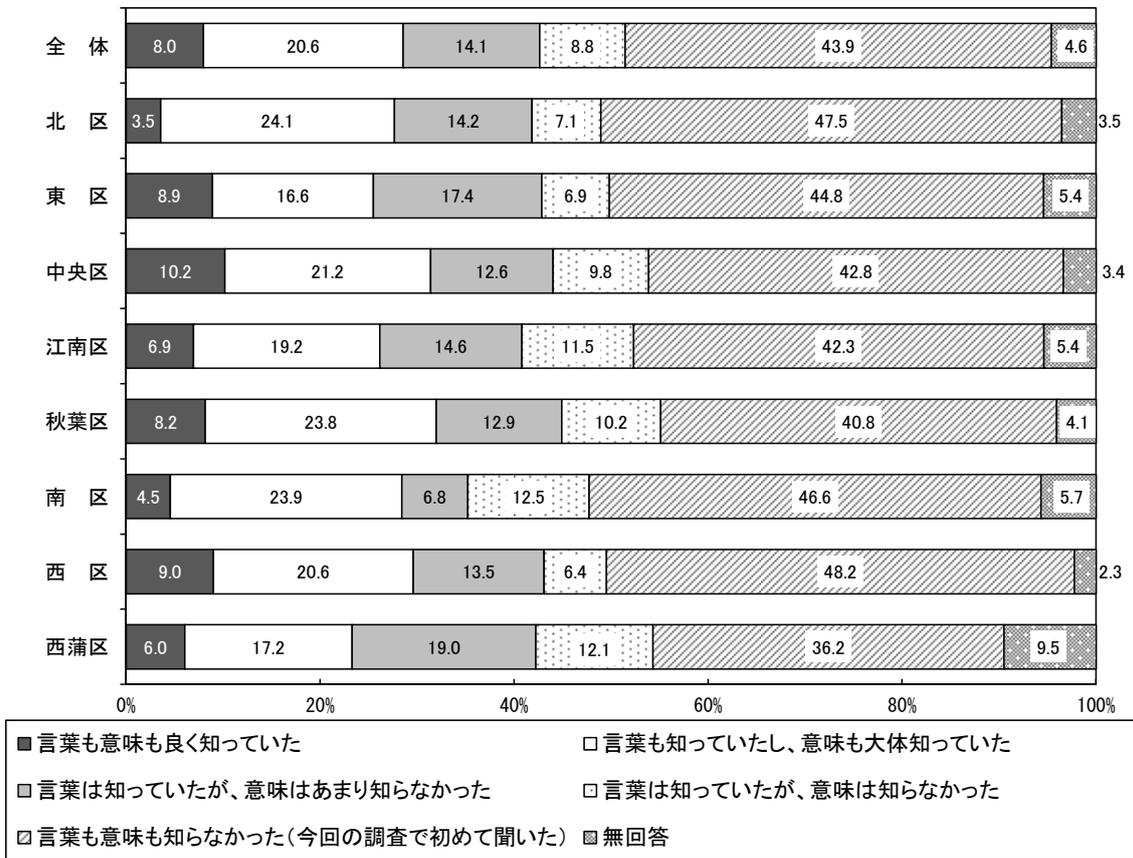
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、秋葉区(32.0%)で最も高くなっている。

図 41.4 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

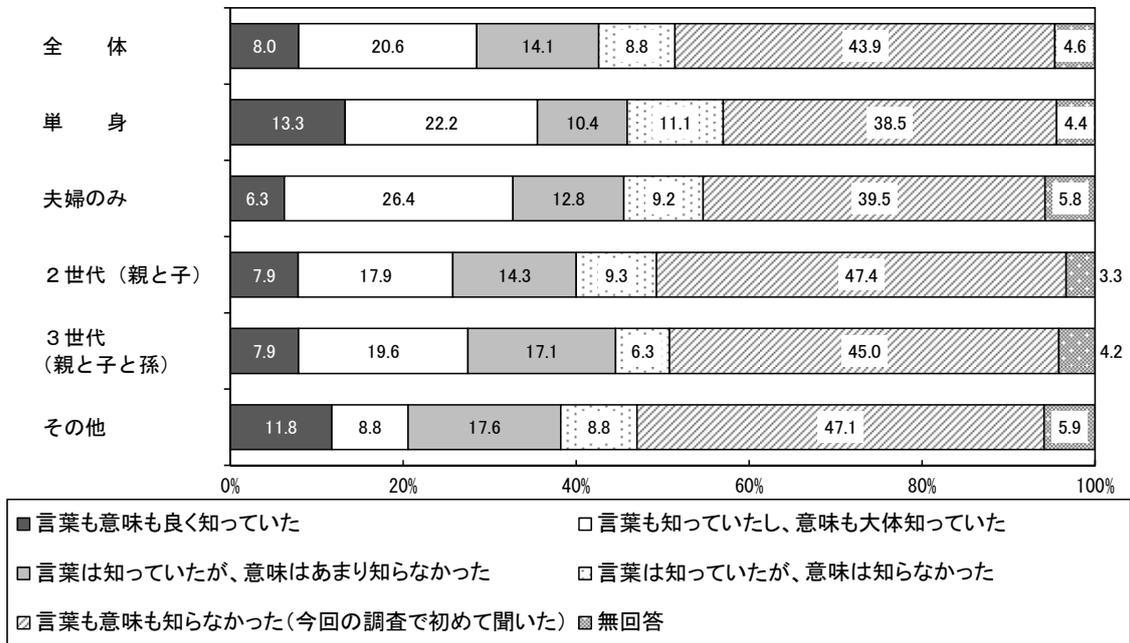
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、単身(35.5%)で最も高くなっている。

図 41.6 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(9) 飲酒の頻度

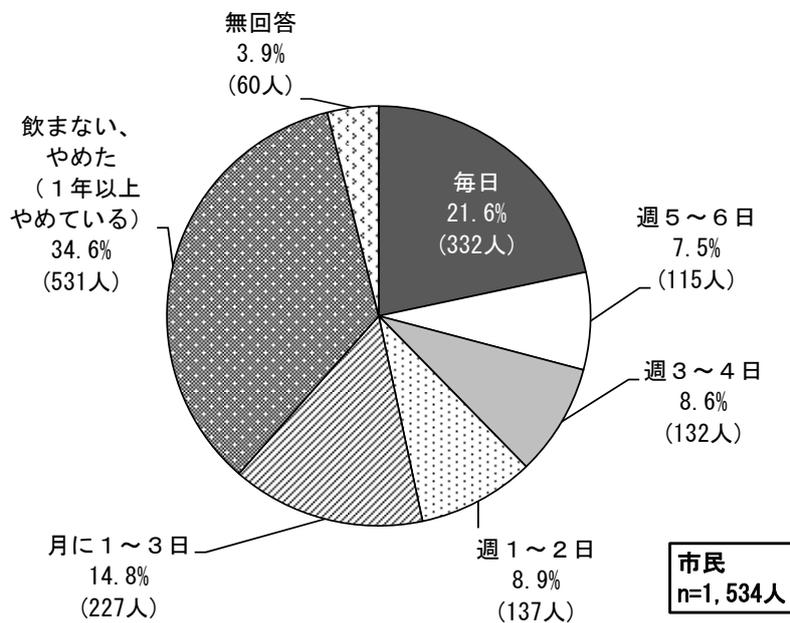
問39 あなたは週に何日くらいビール、日本酒、ウイスキーなどのアルコール類を飲みますか。
(○は1つだけ)

3割強が「飲まない、やめた(1年以上やめている)」と回答

【全体結果】

「飲まない、やめた(1年以上やめている)」と回答した人の割合が3割強(34.6%)となっている。一方、飲酒の回数では「毎日」が2割強(21.6%)と、最も高くなっている。

図42.1 飲酒の頻度



【性別・年齢別】

50歳代では「毎日」の割合が最も高く、20歳代では「月に1～3日」の割合が最も高くなっている。それ以外の年代では、「飲まない、やめた」の割合が最も高くなっている。

性別では、各年代とも「飲まない、やめた」の割合は男性より女性の方が高く、「毎日」「週5～6日」を合わせた割合は女性より男性の方が高くなっている。また「毎日」の割合は、50歳代と60歳代の男性で高く、4割を超えている。

図 42.2 飲酒の頻度（年齢別・全体）

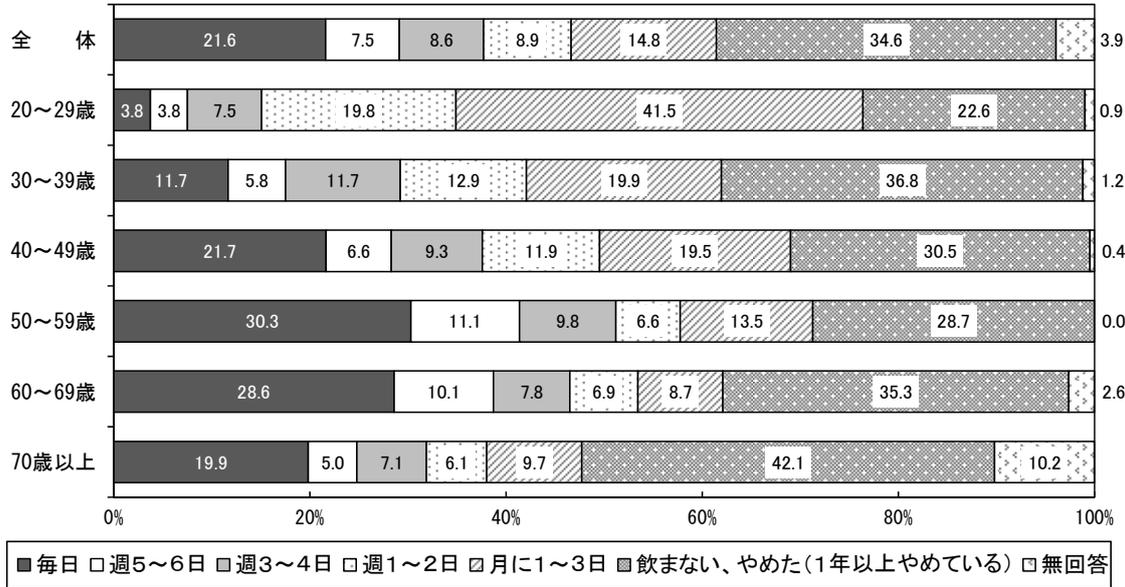
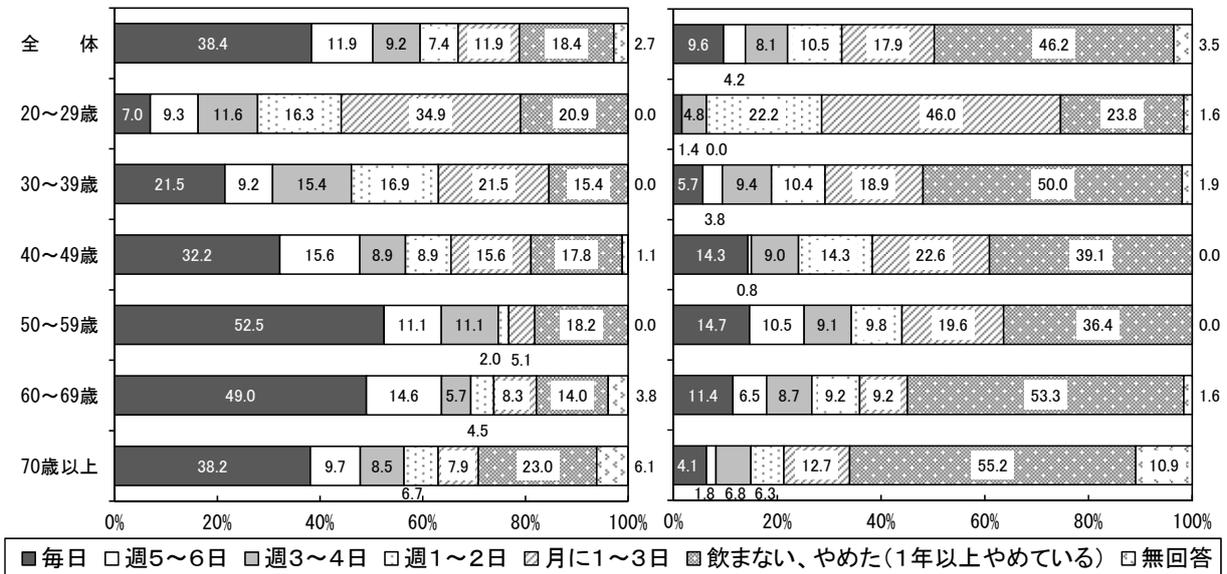


図 42.3 飲酒の頻度

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

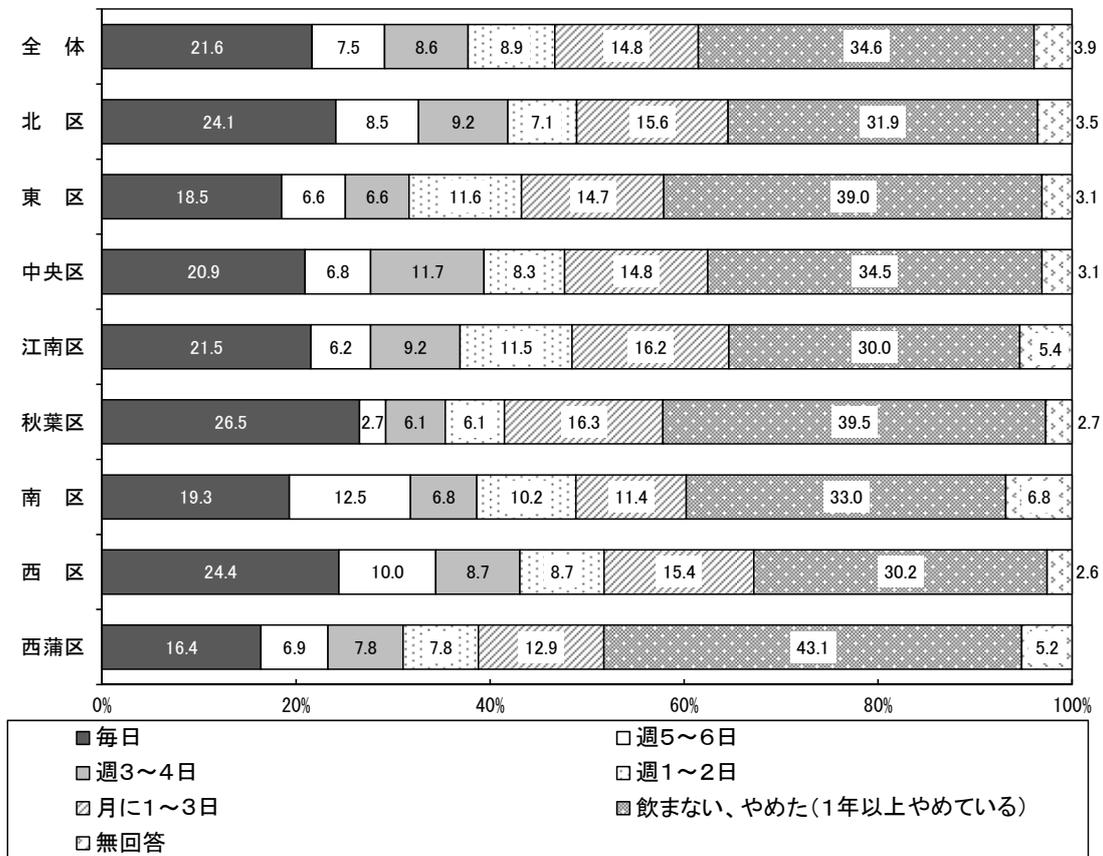
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。
一方、「毎日」の割合は、秋葉区（26.5%）で最も高くなっている。

図 42.4 飲酒の頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

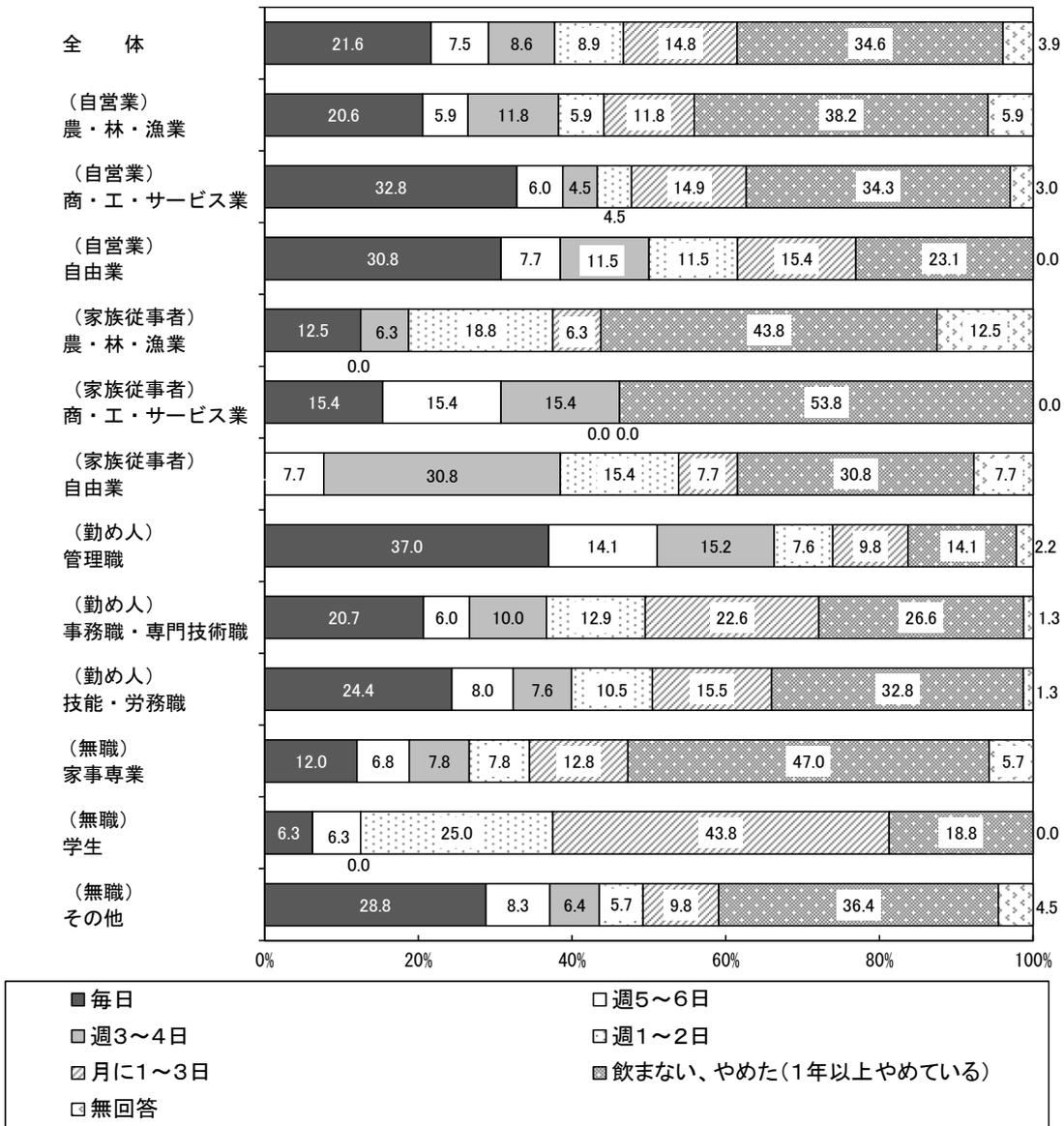
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 42.5 飲酒の頻度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

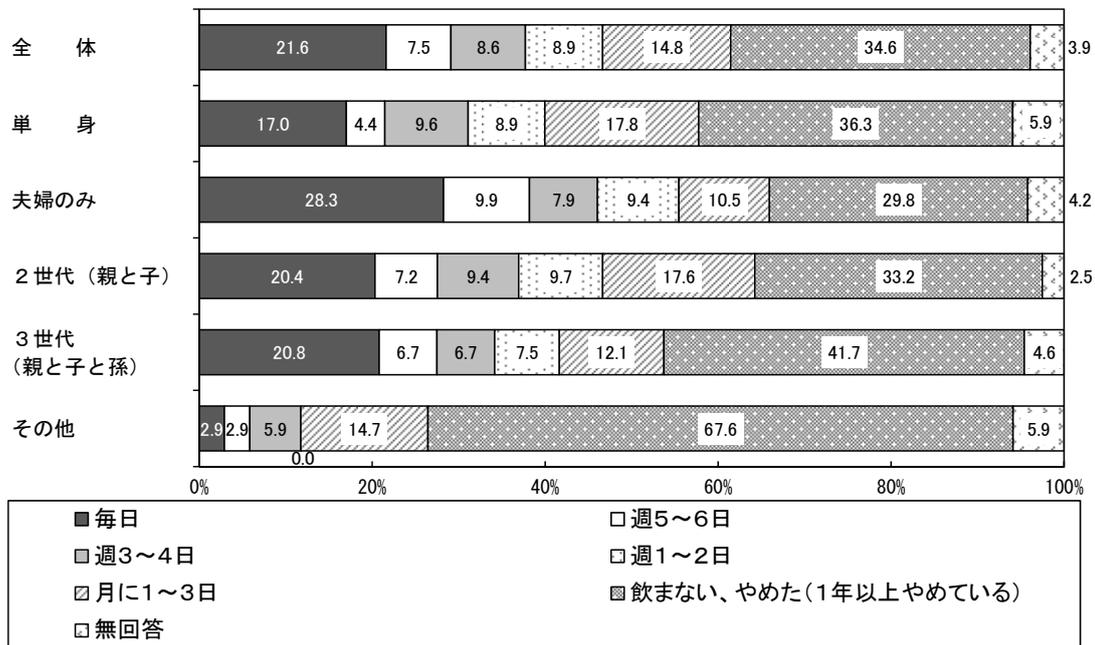
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。

図 42.6 飲酒の頻度（家族構成別）



家族構成	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
全体	1,534	135	382	722	240	34

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した

(10) 平均飲酒量

※日本酒1合= (180ml)	}	ビール、発泡酒1本(500ml) ワイン2杯(240ml) ウイスキーダブル1杯(60ml) 焼酎 20度(135ml) 焼酎 25度(110ml) 酎ハイ7度(350ml)	}	を目安にしてください。
--------------------	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	-------------

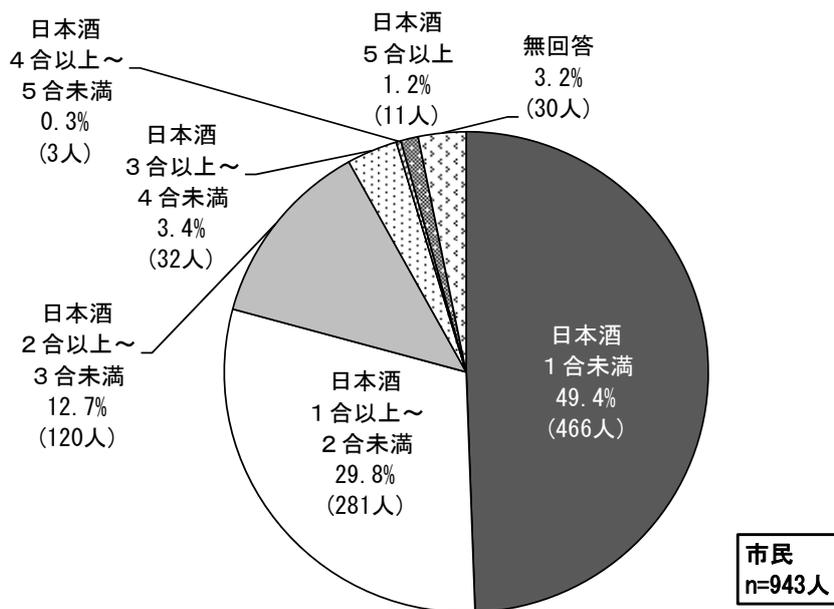
問39-1 あなたの1回当たりの平均飲酒量はどの程度ですか。(○は1つだけ)

5割弱が「日本酒1合未満」と回答

【全体結果】

平均飲酒量については、「日本酒1合未満」(49.4%)と回答した人が5割弱と最も多く、以下「日本酒1合以上～2合未満」(29.8%)、「日本酒2合以上～3合未満」(12.7%)、「日本酒3合以上～4合未満」(3.4%)、と続いている。

図43.1 平均飲酒量



【性別・年齢別】

各年代とも「日本酒1合未満」と回答した人の割合が最も高く、50歳代と70歳以上では5割を超えている。

性別では、男性の20歳代と女性の各年代では、「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。男性の30歳代以上では「日本酒1合以上～2合未満」の割合が最も高くなっている。

図 43.2 平均飲酒量（年齢別・全体）

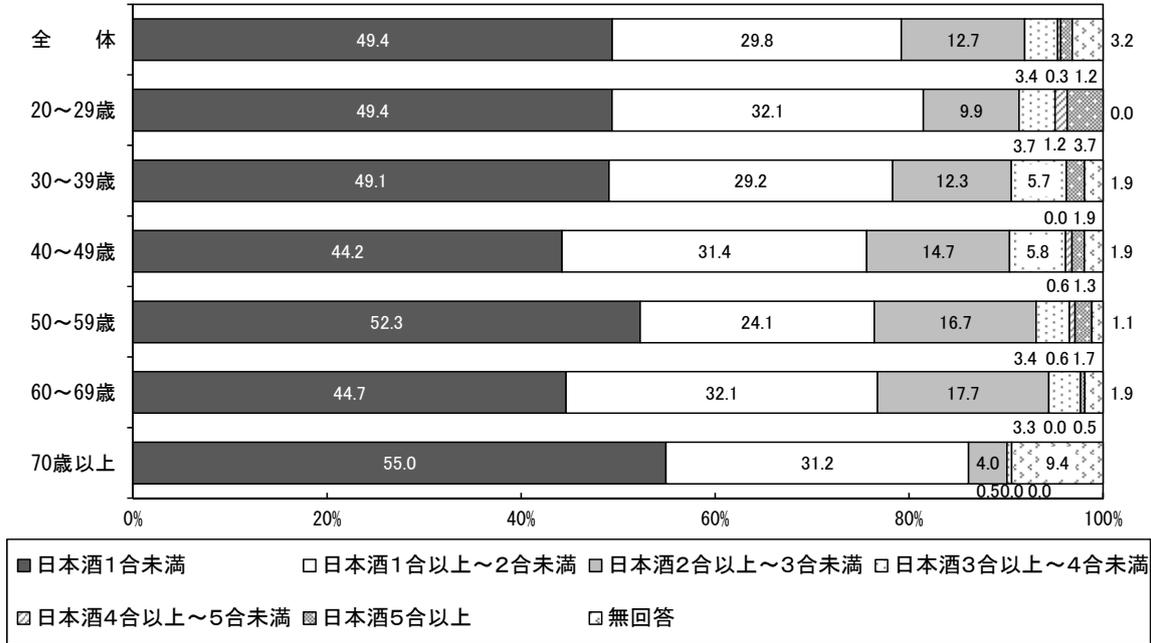
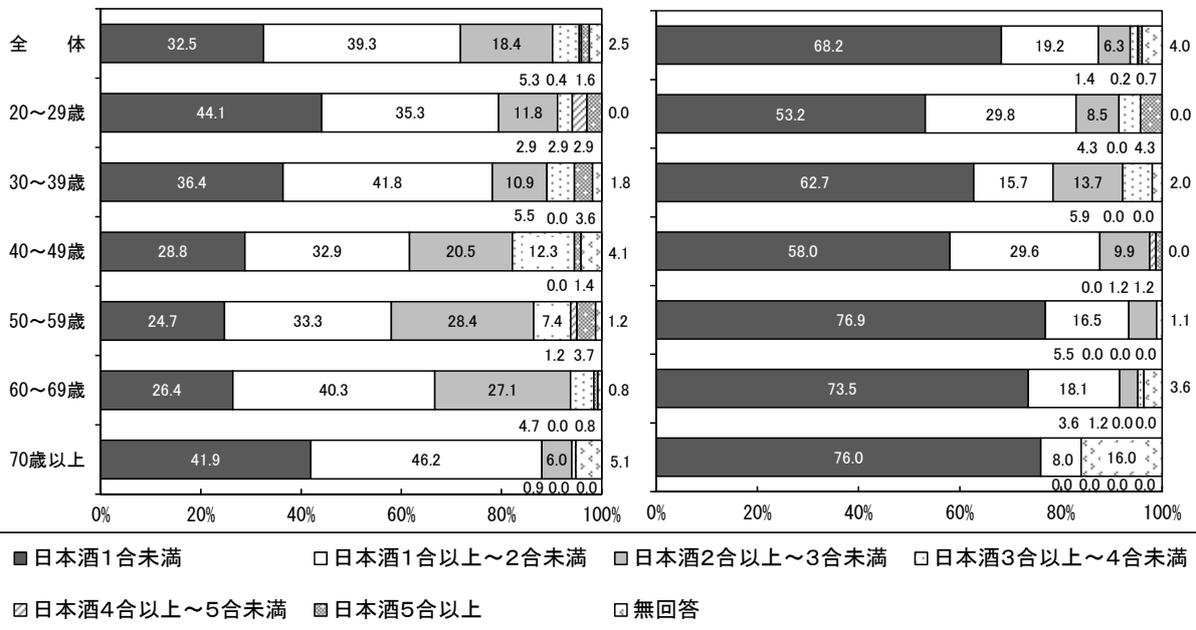


図 43.3 平均飲酒量

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	943	81	106	156	174	215	202	9
男性	489	34	55	73	81	129	117	0
女性	428	47	51	81	91	83	75	0

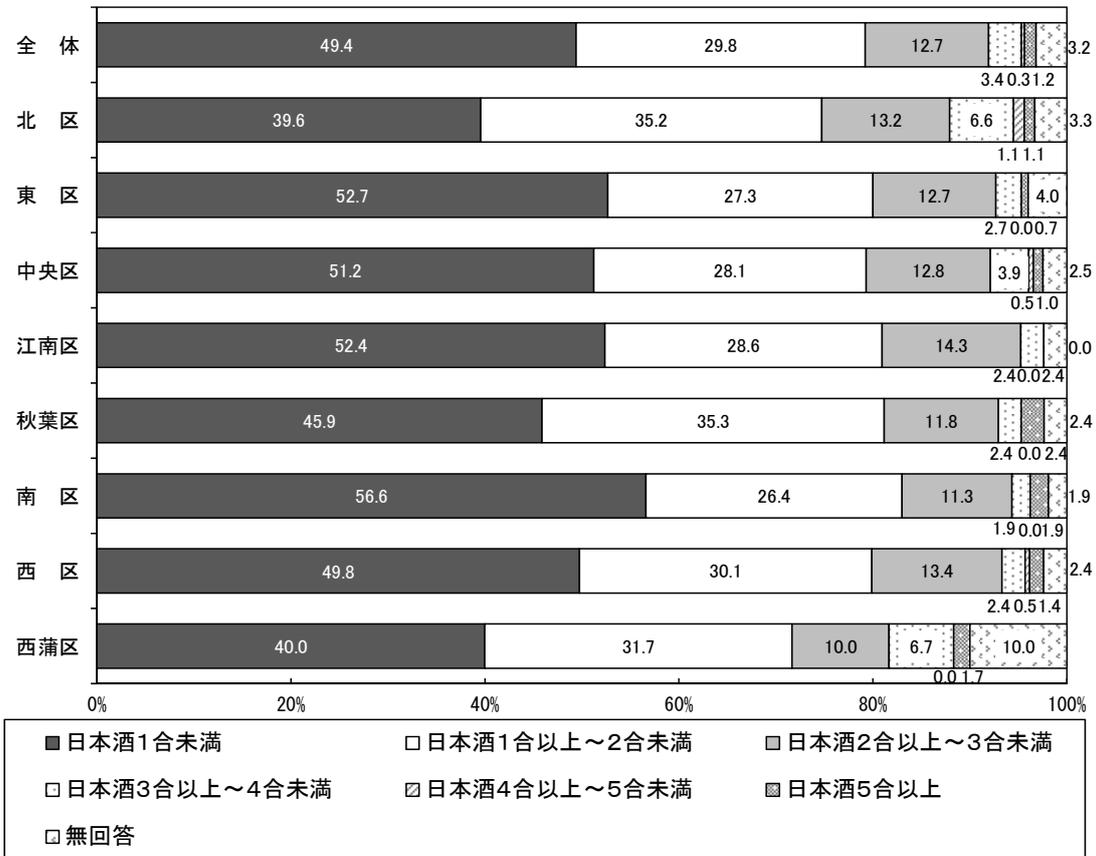
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

各地区とも「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっており、南区（56.6%）では6割弱となっている。

図 43.4 平均飲酒量（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
943	91	150	203	84	85	53	209	60	8

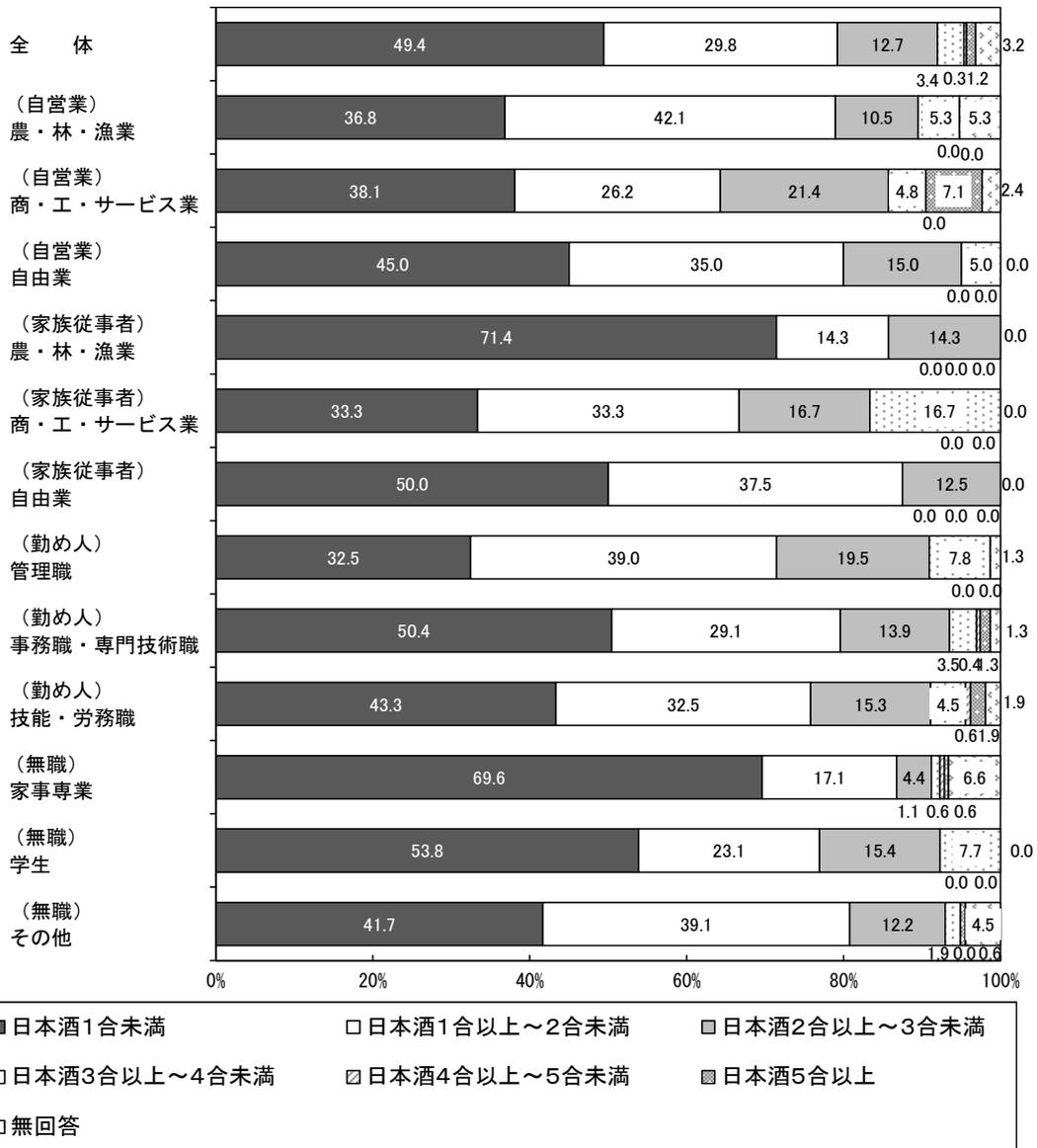
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 43.5 平均飲酒量（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
943	19	42	20	7	6	8	

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
77	230	157	181	13	156	27

(人)

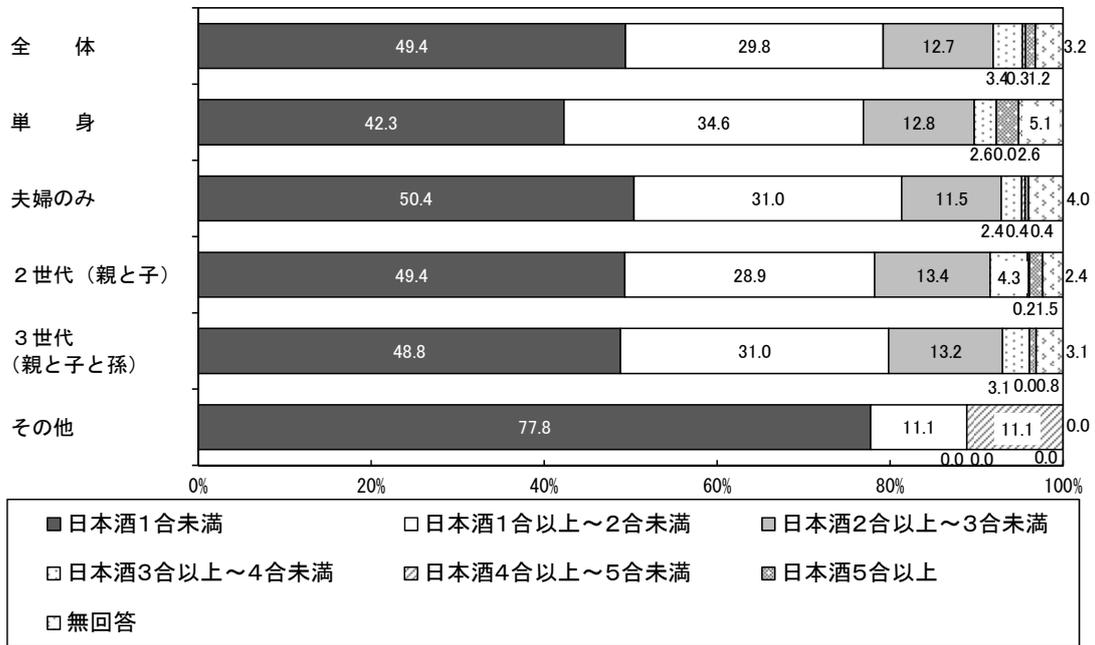
※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。

单身では、他の家族構成に比べ「日本酒1合以上～2合未満」(34.6%)の割合がやや高くなっている。

図 43.6 平均飲酒量 (家族構成別)



全体	单身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
943	78	252	464	129	9	11

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(11) 歯科健（検）診の受診状況

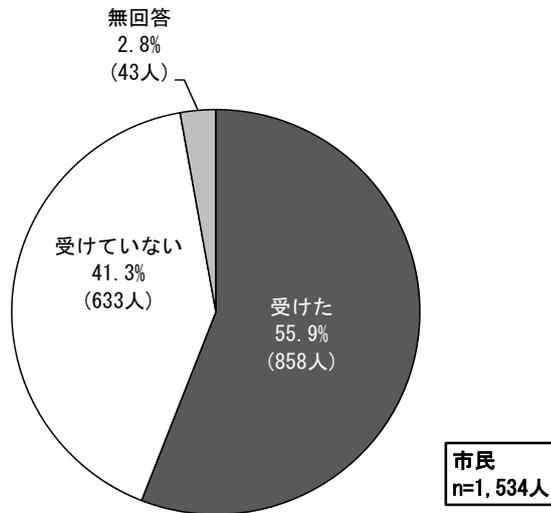
問40 あなたはこの1年間に歯科健（検）診を受けましたか。（○は1つだけ）

6割弱が「受けた」と回答

【全体結果】

「受けた」と回答した人は6割弱（55.9%）、「受けていない」と回答した人は4割強（41.3%）となっている。

図 44.1 歯科健（検）診の受診状況



【性別・年齢別】

「受けた」の割合は、60歳代（61.8%）が最も高く、60歳代以上では6割を超えている。
性別では、男性では50歳代以上で、女性では30歳代以上で、「受けた」の割合が5割を超えている。

図 44.2 歯科健（検）診の受診状況（年齢別・全体）

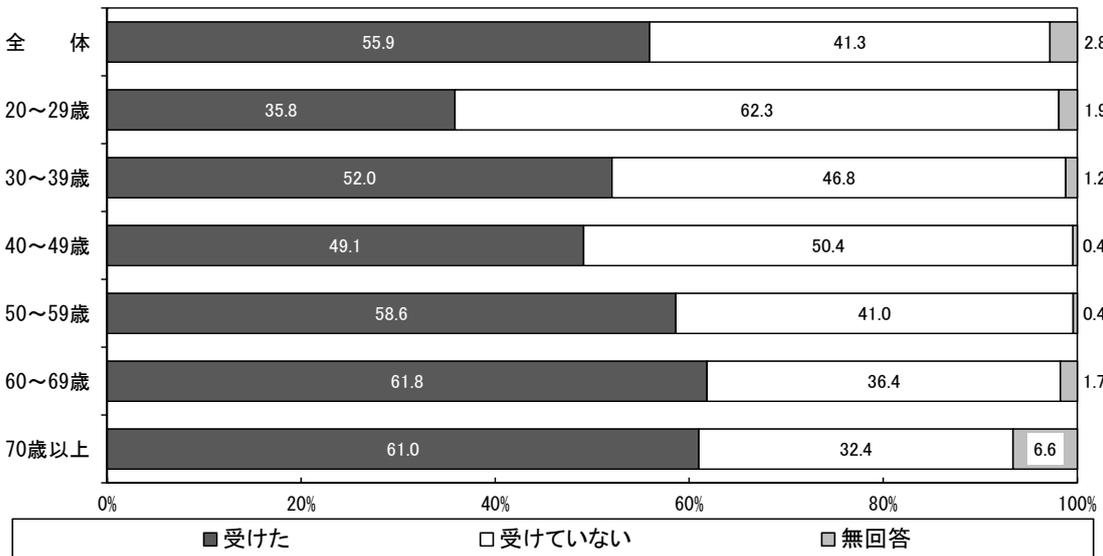
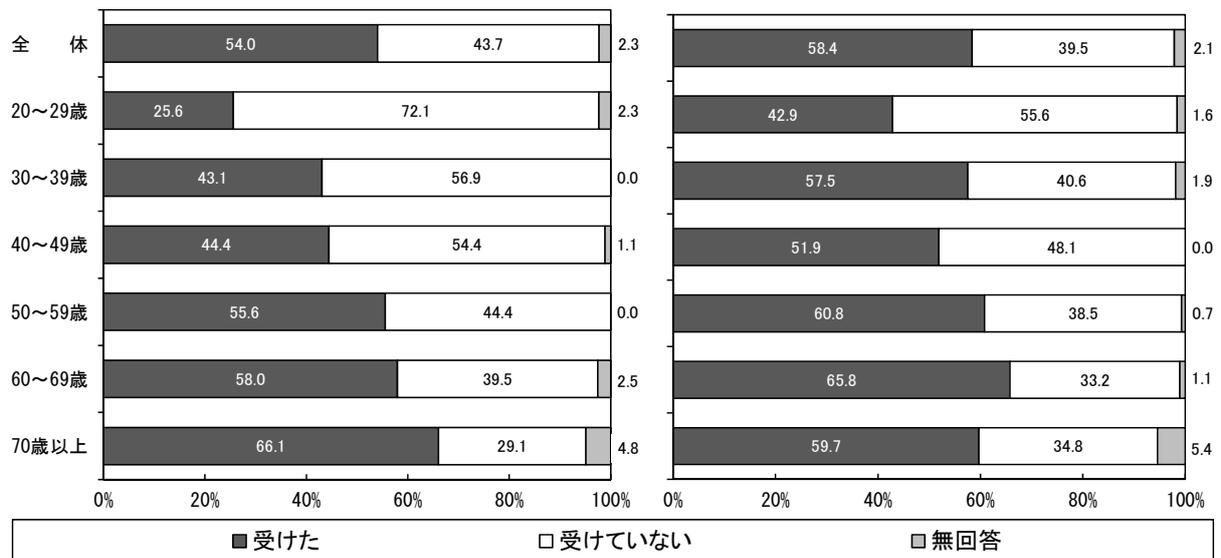


図 44.3 歯科健（検）診の受診状況
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

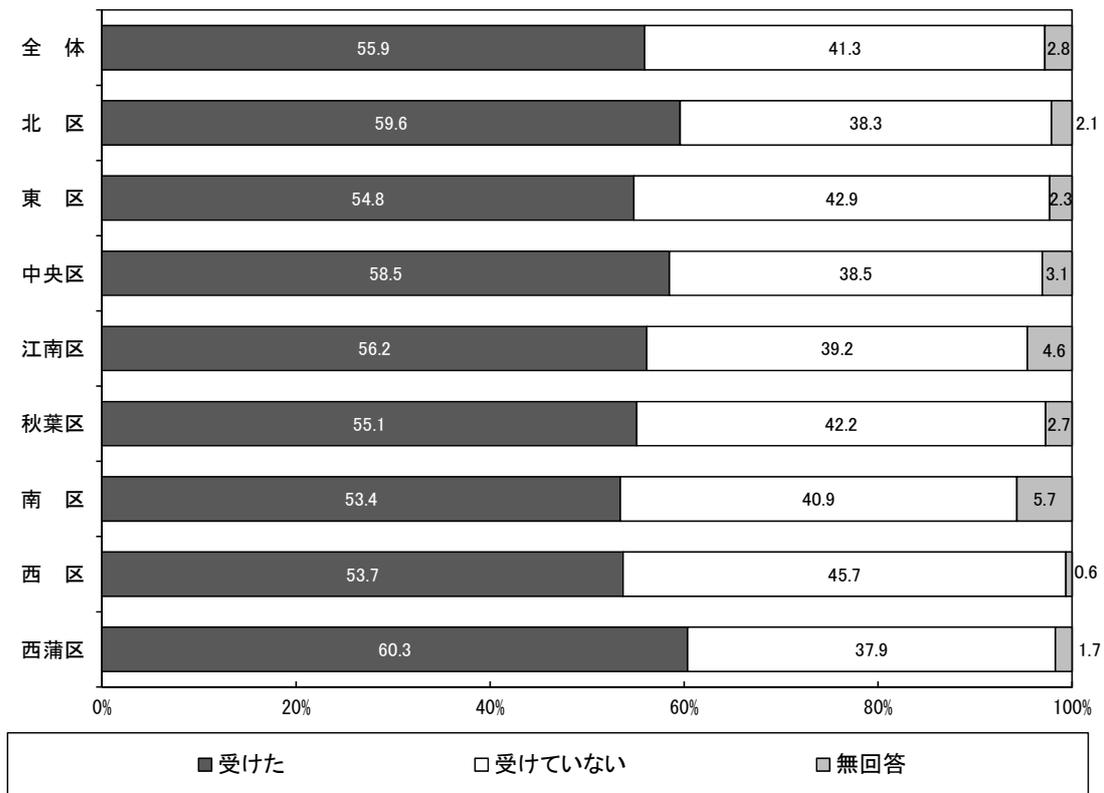
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受けた」割合は、西蒲区（60.3%）で最も高く、南区（53.4%）で最も低くなっている。

図 44.4 歯科健（検）診の受診状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

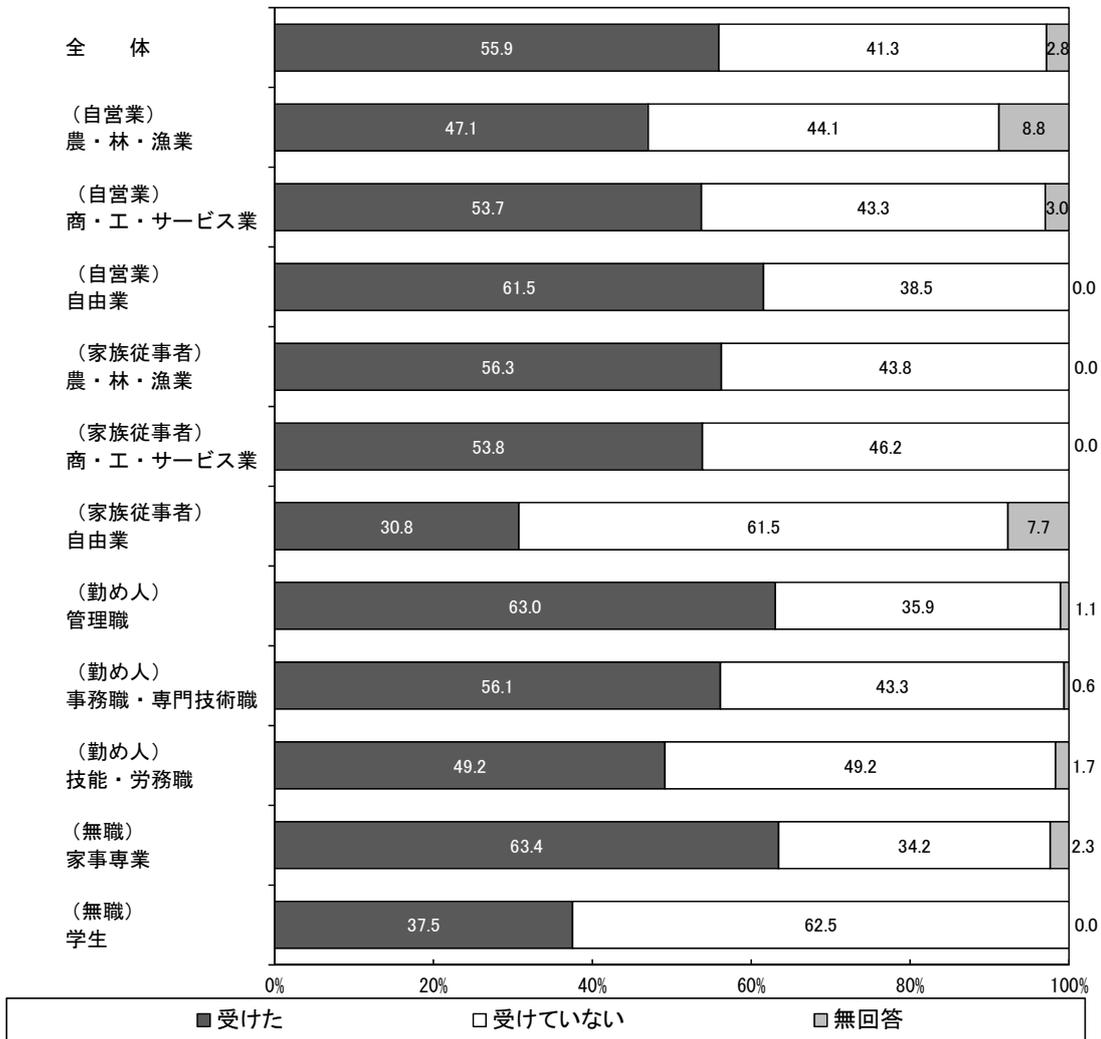
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 44.5 歯科健（検）診の受診状況（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人			無職			無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

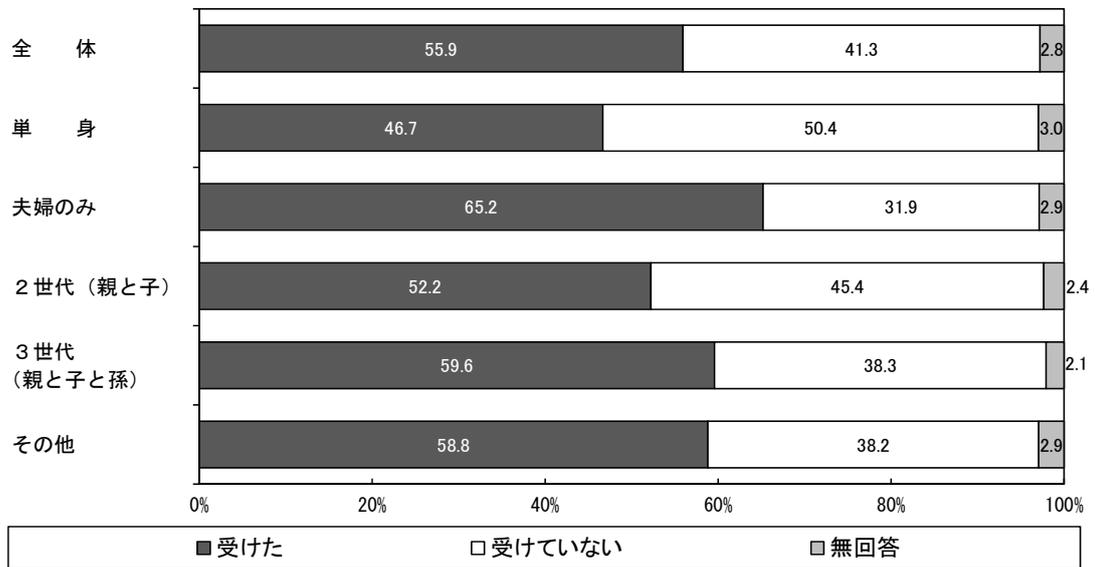
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受けた」割合は、夫婦のみ（65.2%）で最も高く、6割半ばとなっている。

図 44.6 歯科健（検）診の受診状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(12) 歯間部清掃用具の利用状況

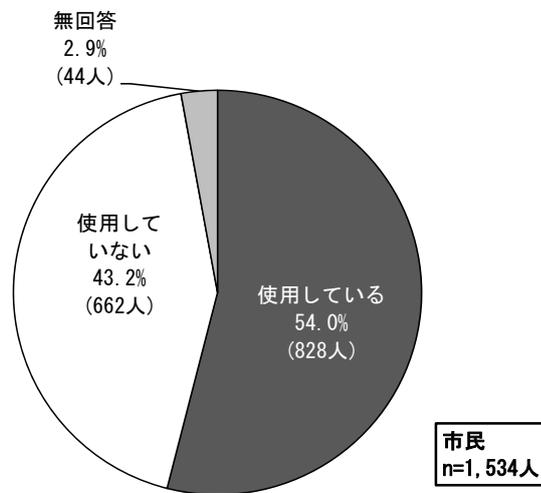
問41 あなたはむし歯予防や歯周病の予防のために歯間部清掃用具(デンタルフロス(糸つきようじ)、歯間ブラシ)を使用していますか。(○は1つだけ)

5割強が「使用している」と回答

【全体結果】

「使用している」と回答した人は5割強(54.0%)、「使用していない」と回答した人は4割強(43.2%)となっている。

図 45.1 歯間部清掃用具の利用状況



【性別・年齢別】

「使用している」割合は、20歳代（28.3％）で他の年代に比べ低くなっている。
性別では、「使用している」割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 45.2 歯間部清掃用具の利用状況（年齢別・全体）

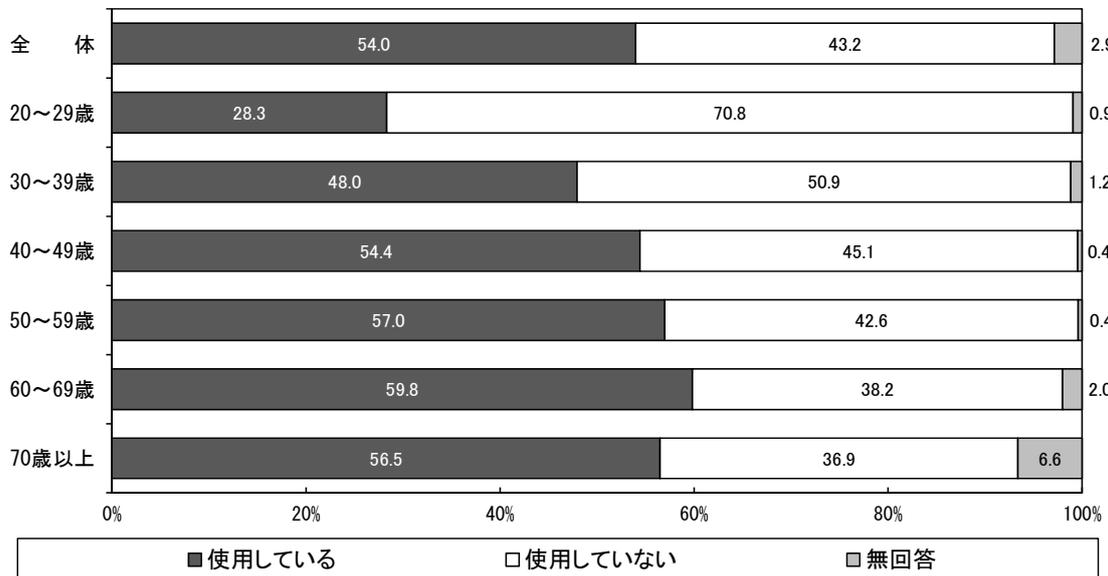
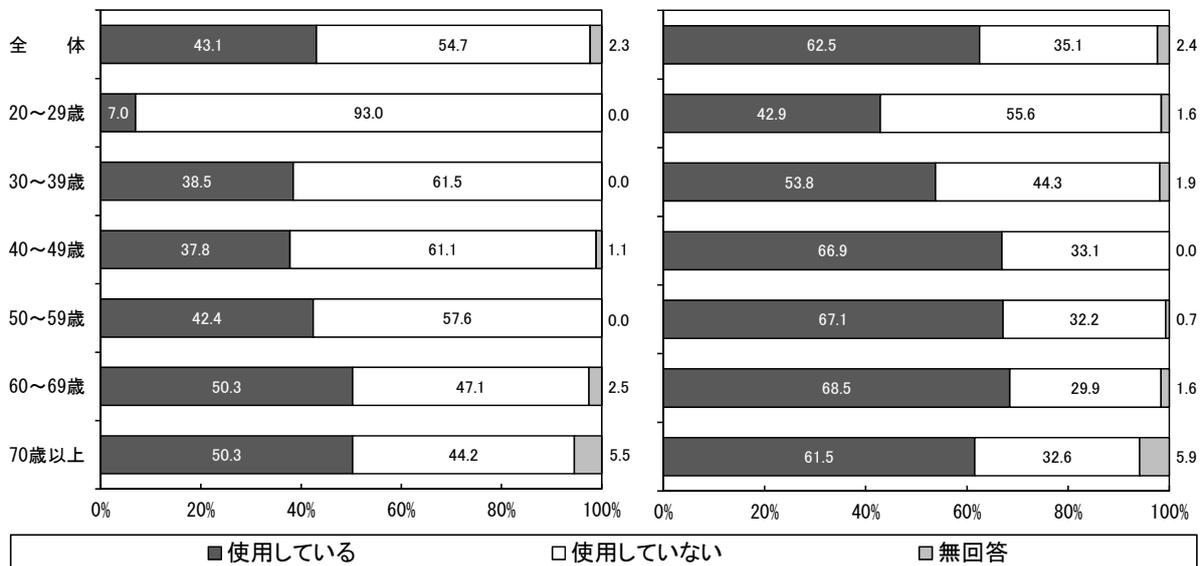


図 45.3 歯間部清掃用具の利用状況
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

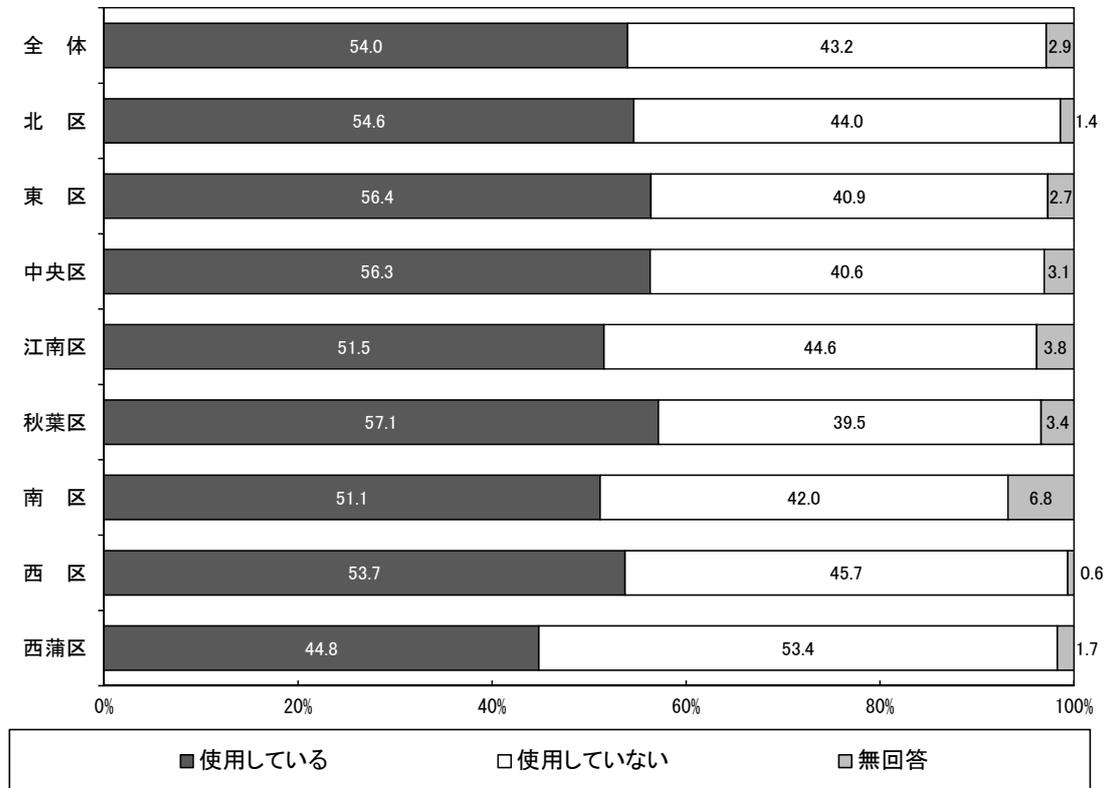
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「使用している」割合は、秋葉区（57.1%）で最も高くなっている。

図 45.4 歯間部清掃用具の利用状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

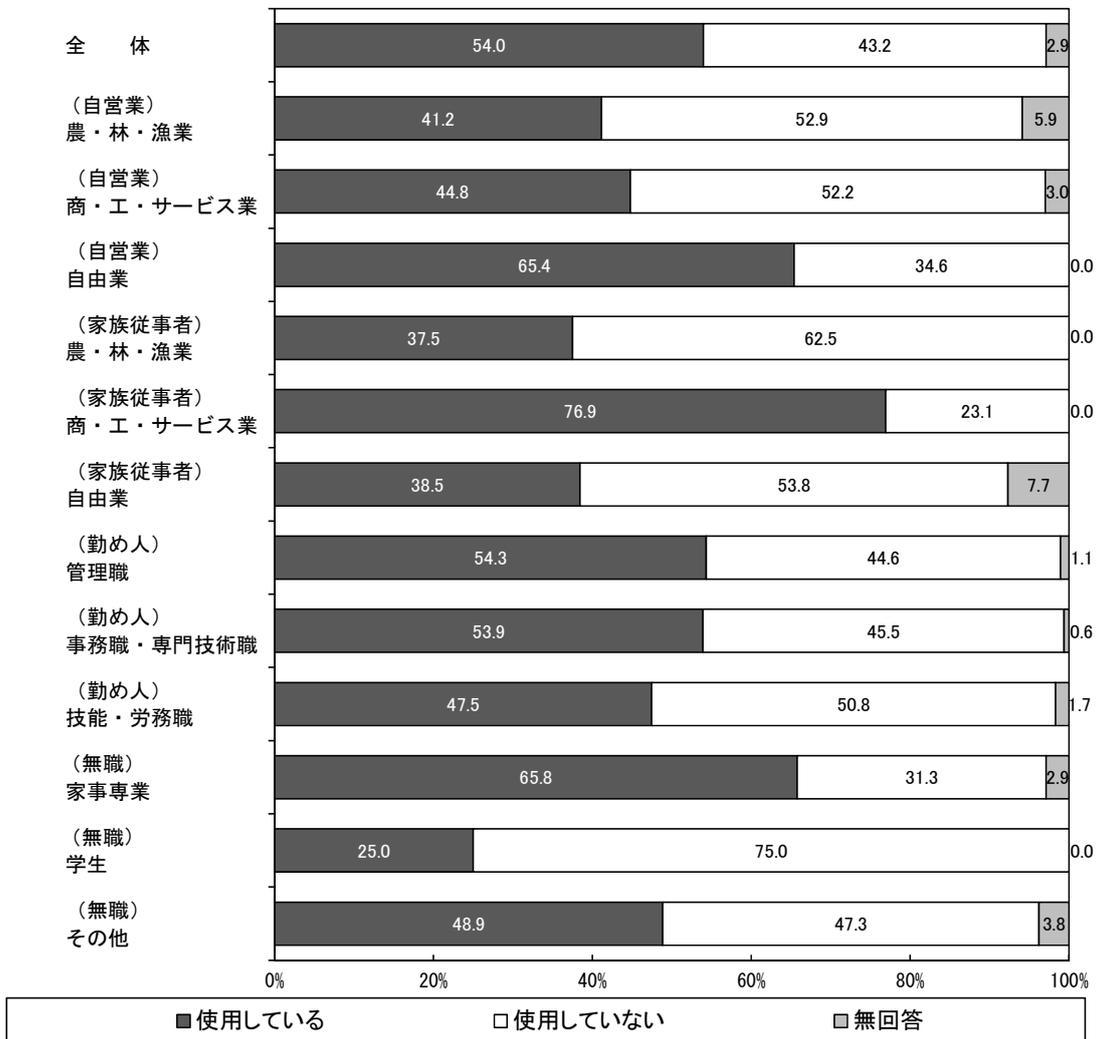
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 45.5 歯間部清掃用具の利用状況（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
	勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
	92	319	238	383	16	264	53

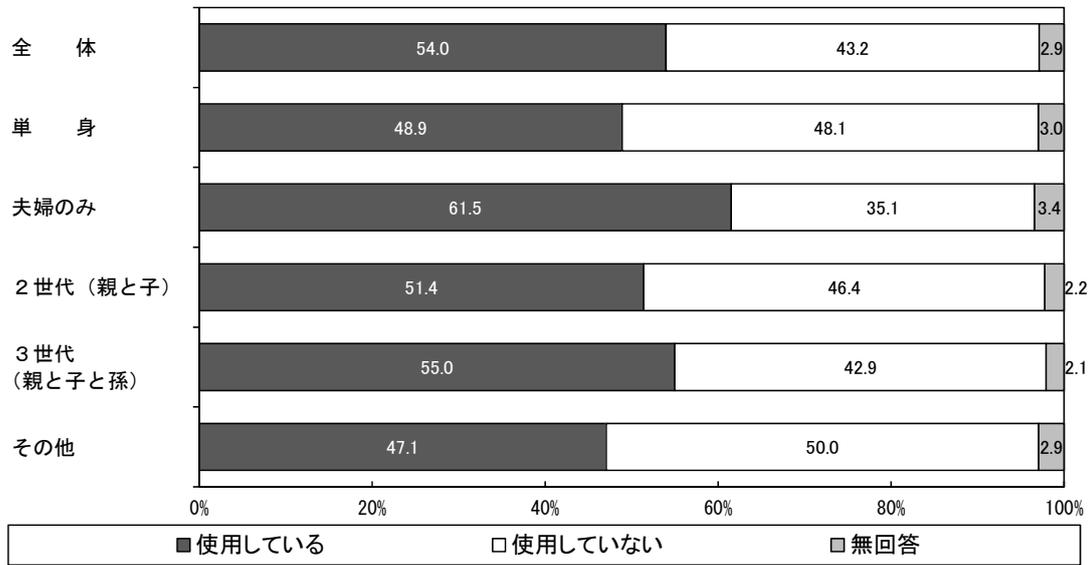
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「使用している」割合は、夫婦のみ（61.5%）で最も高くなっている。

図 45.6 歯間部清掃用具の利用状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(13) 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」とは

内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常をおこしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態のことです。

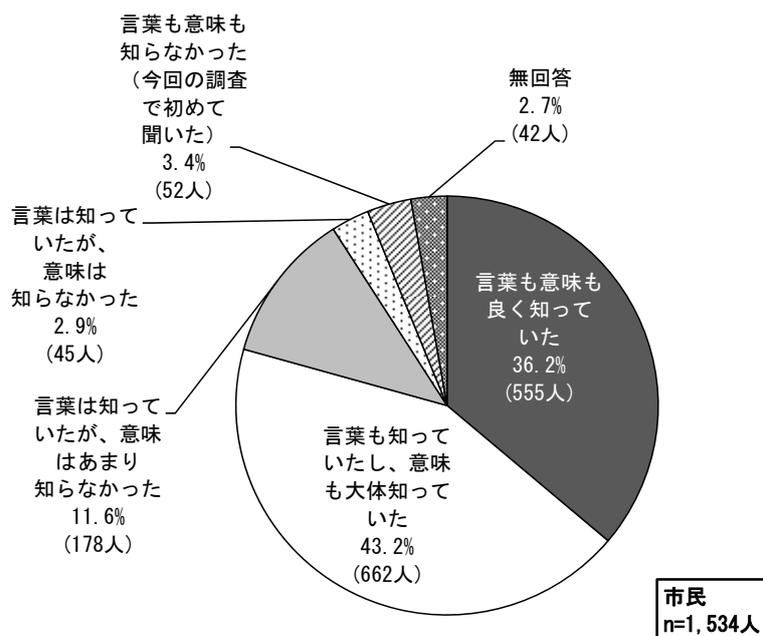
問 42 あなたは、「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や、その意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

8割弱が言葉や意味を認知していると回答

【全体結果】

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（36.2%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（43.2%）と回答した人を合わせた割合は8割弱（79.4%）となっている。

図 46.1 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、30歳代から60歳代では8割を超え、20歳代と70歳以上も約7割となっている。

なお、70歳以上では、他の年代に比べ「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」（7.8%）の割合がやや高くなっている。

図 46.2 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（年齢別・全体）

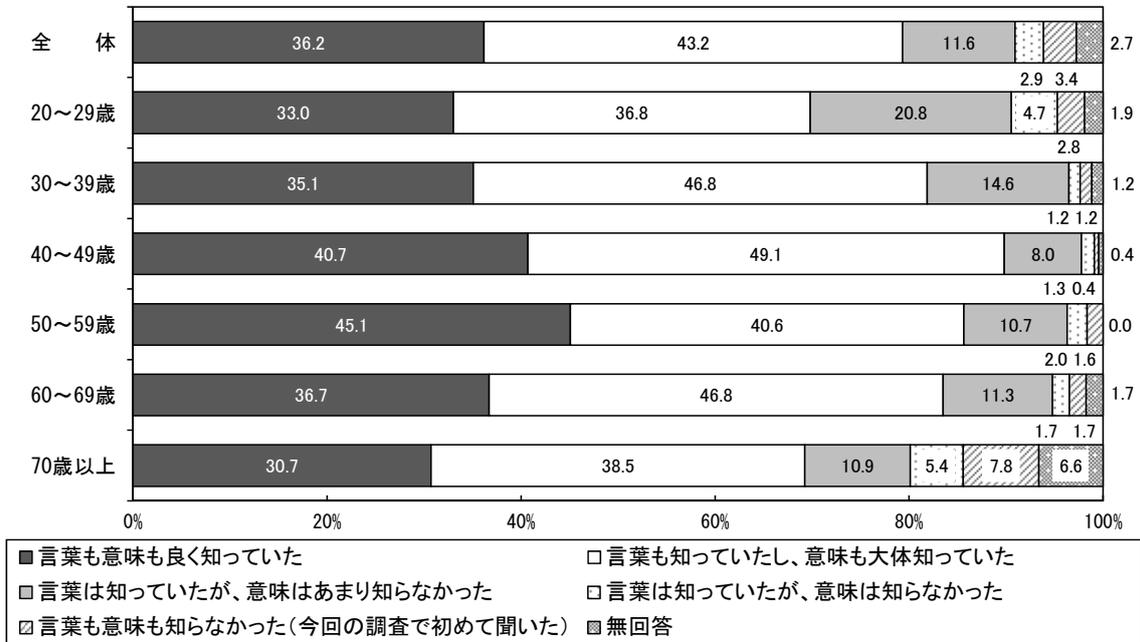
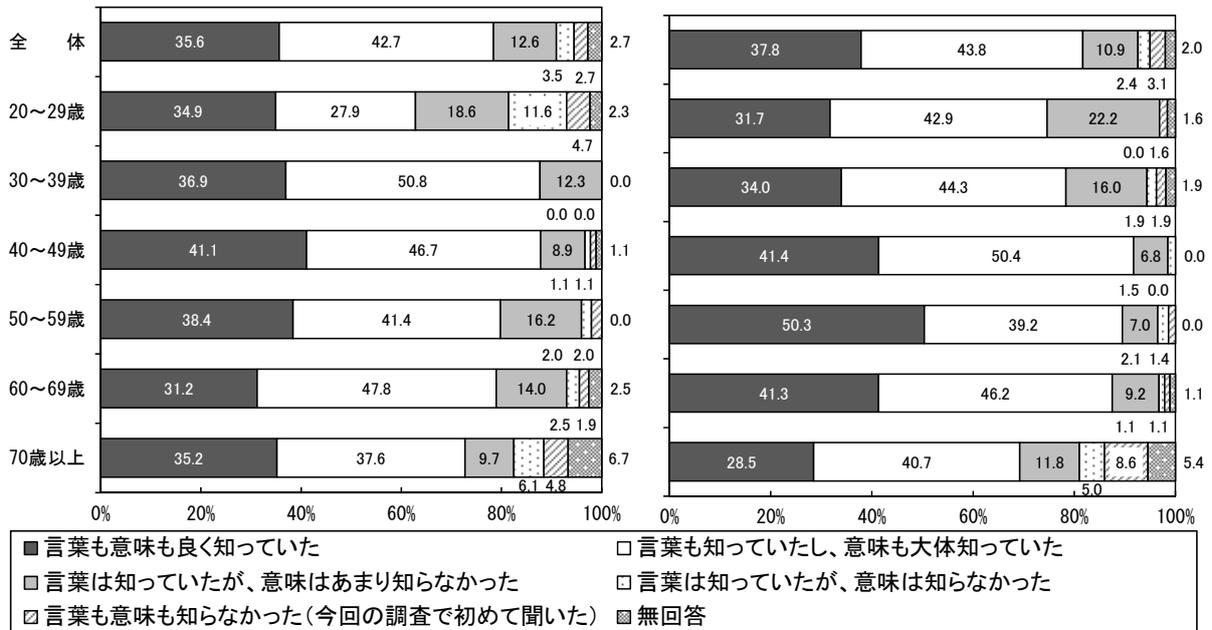


図 46.3 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（年齢別・男性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

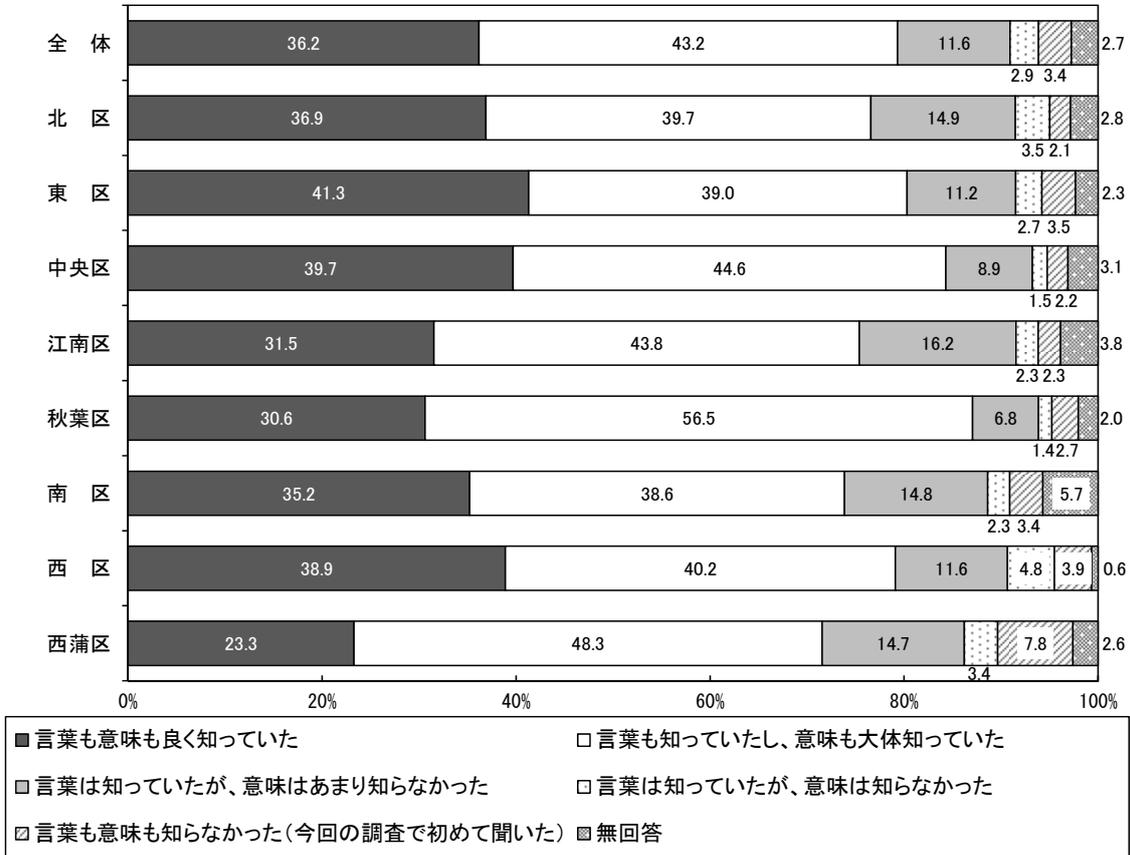
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、秋葉区、中央区、東区で8割を超えている。

図 46.4 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

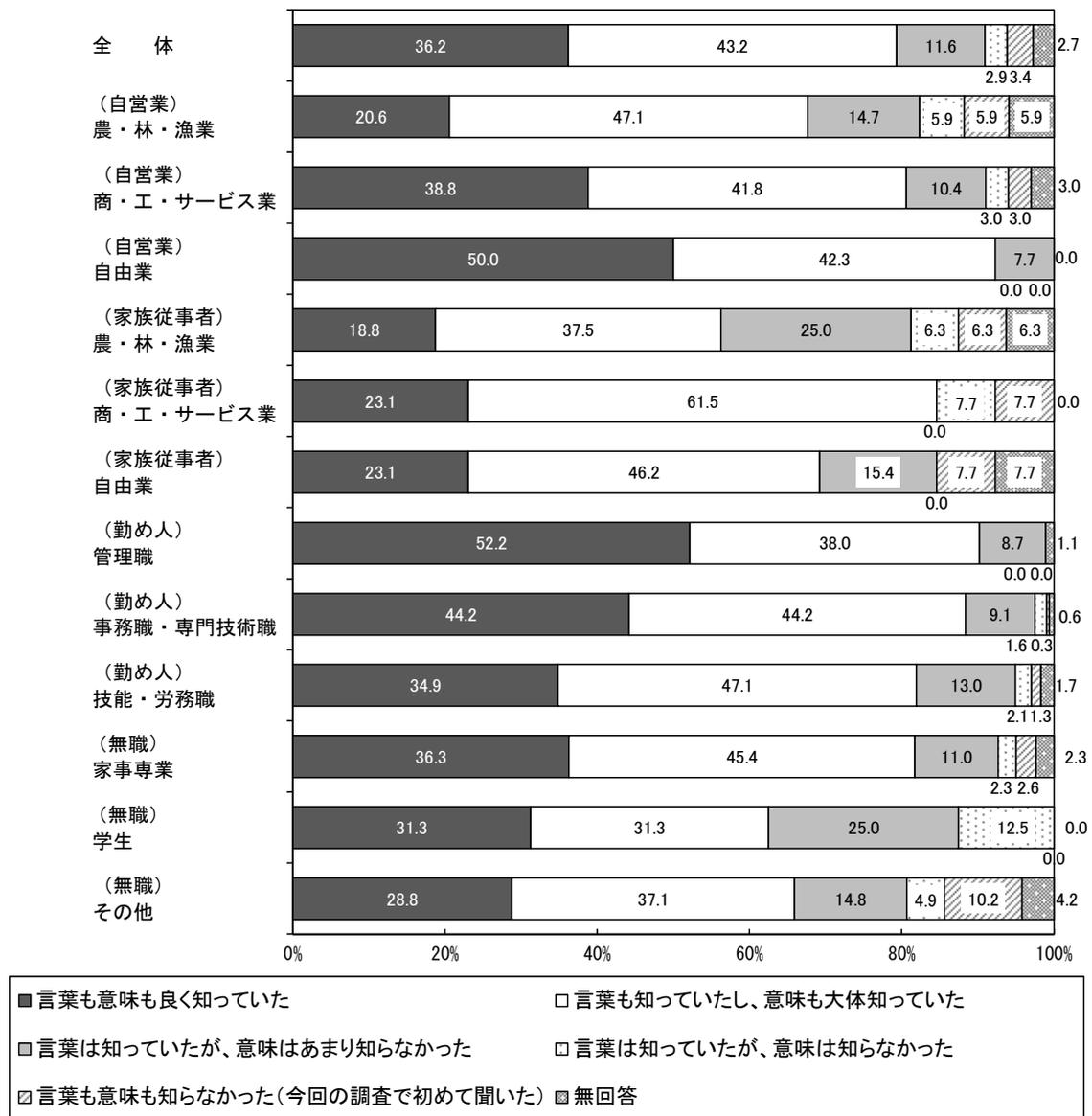
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 46.5 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（職業別）



全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

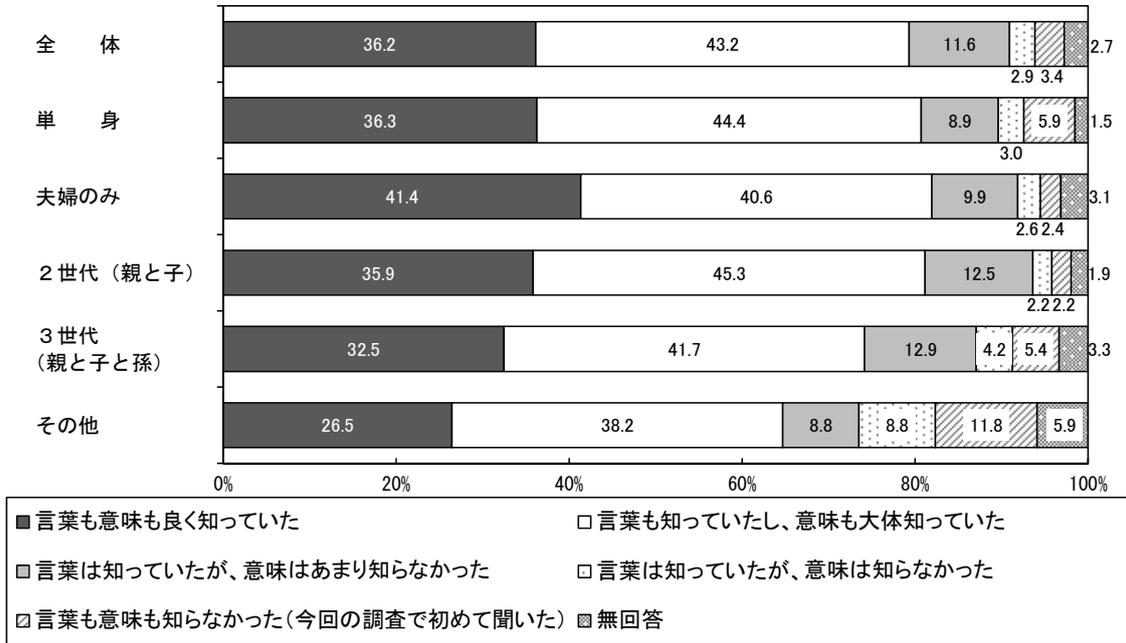
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、夫婦のみ（82.0%）で最も高くなっている。

図 46.6 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(14) メタボリックシンドロームの予防・改善の取組状況

問 43 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。
 (○は1つだけ)

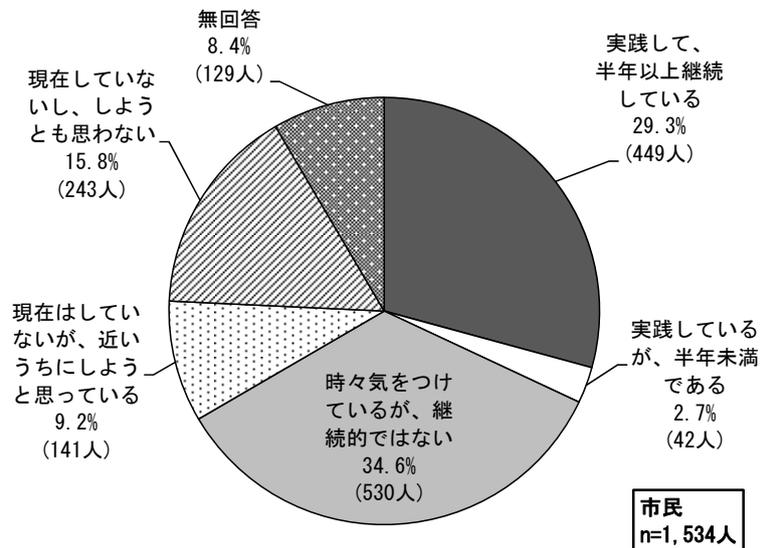
3割強が予防・改善を実践していると回答

【全体結果】

期間に程度の差はあるが、予防・改善を「実践して、半年以上継続している」(29.3%)、「実践しているが、半年未満である」(2.7%)と回答した人を合わせた割合は3割強(32.0%)となっている。

一方、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」(9.2%)、「現在していないし、しようとも思わない」(15.8%)と回答した人を合わせた、現在予防・改善を実践していない人は3割弱(25.0%)となっている。

図 47.1 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況



【性別・年齢別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は60歳代（34.47%）で最も高く、50歳代以上で3割強となっている。一方、「現在していないし、しようとも思わない」の割合は、20歳代（25.5%）で高くなっている。

図 47.2 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（年齢別・全体）

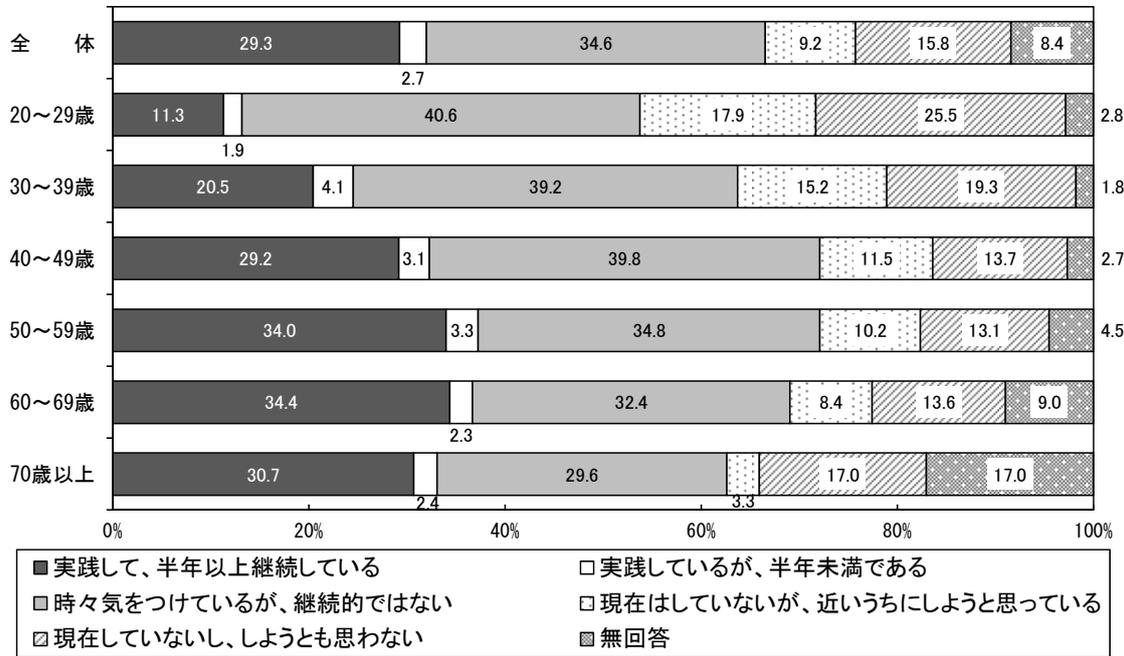
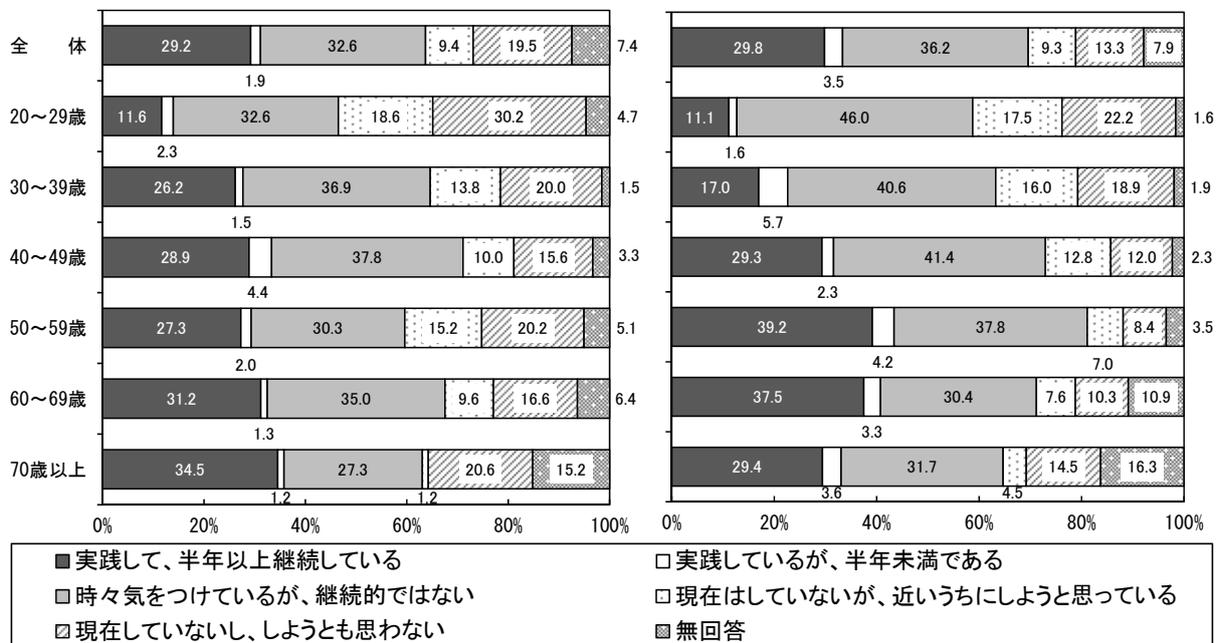


図 47.3 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

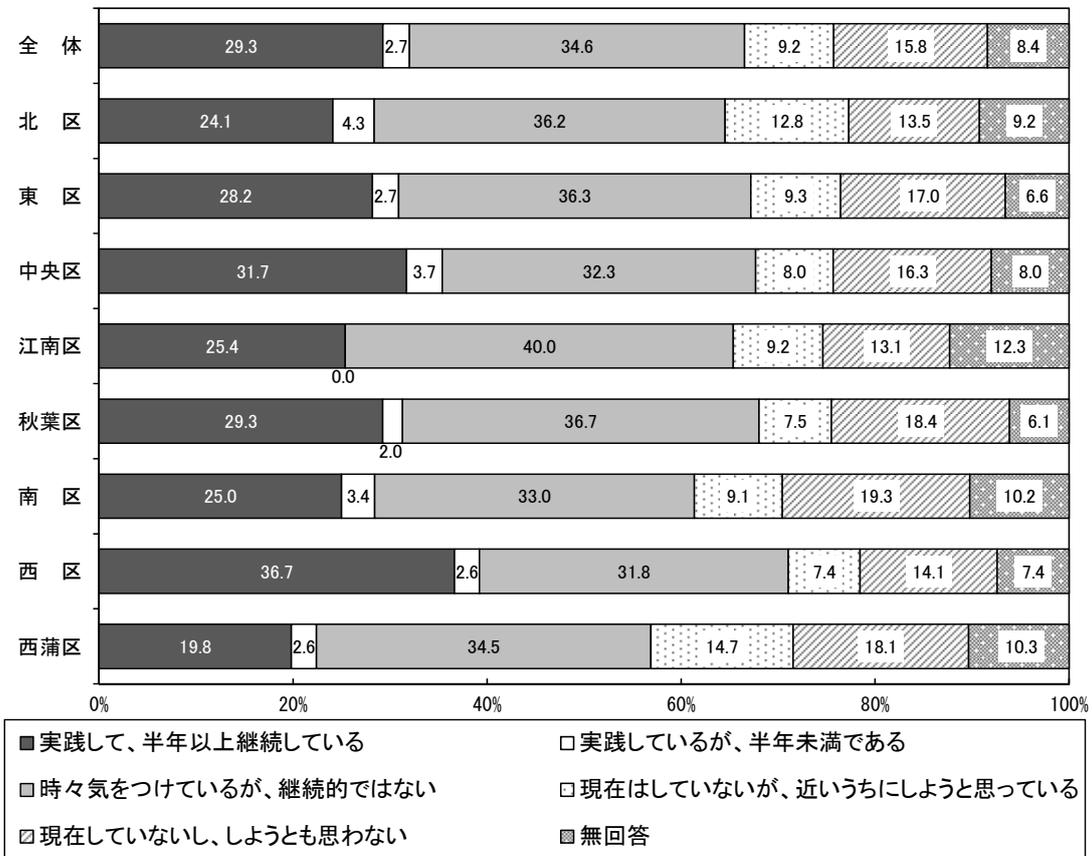
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「実践して、半年以上継続している」割合は、西区（36.7%）で4割弱と最も高くなっている。

図 47.4 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（地区別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

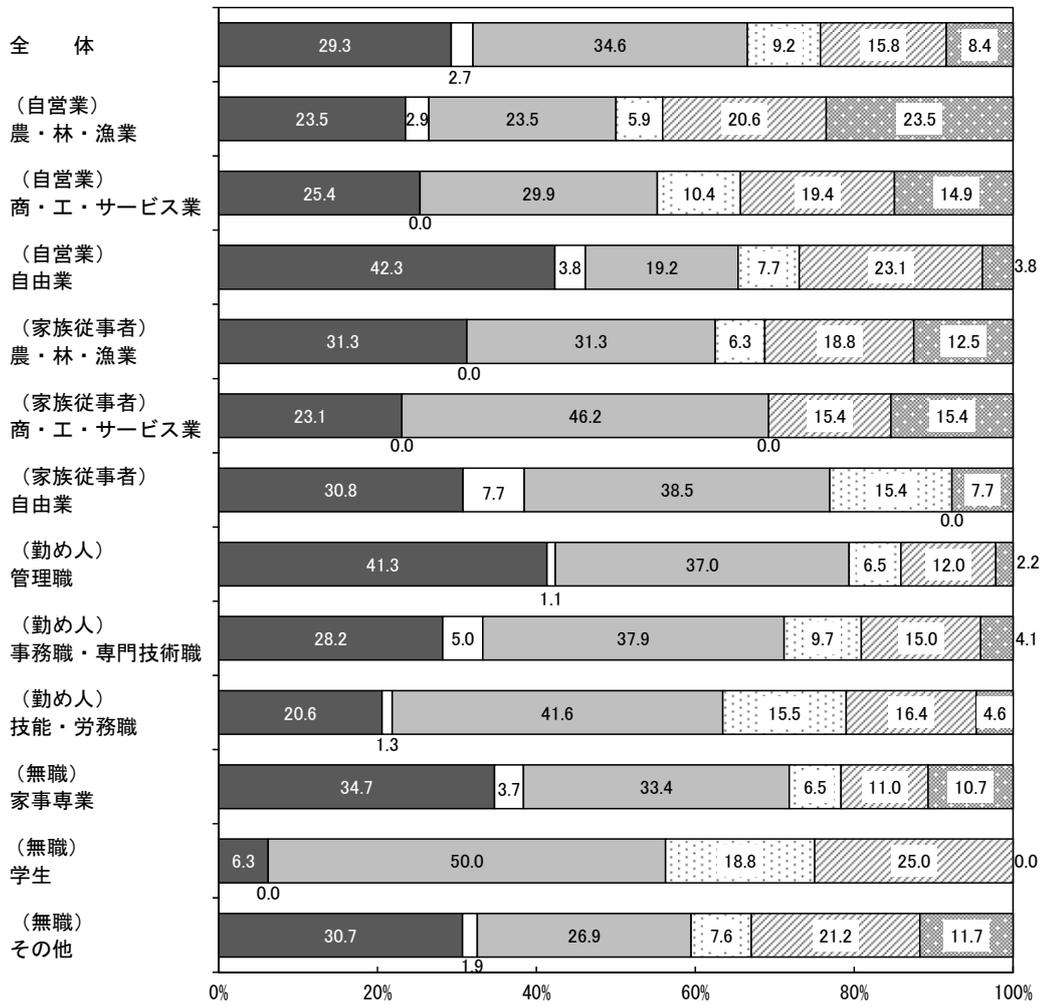
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 47.5 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（職業別）



実践して、半年以上継続している 実践しているが、半年未満である
 時々気をつけているが、継続的ではない 現在はないが、近いうちにしようと思っている
 現在していないし、しようと思わない 無回答

全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

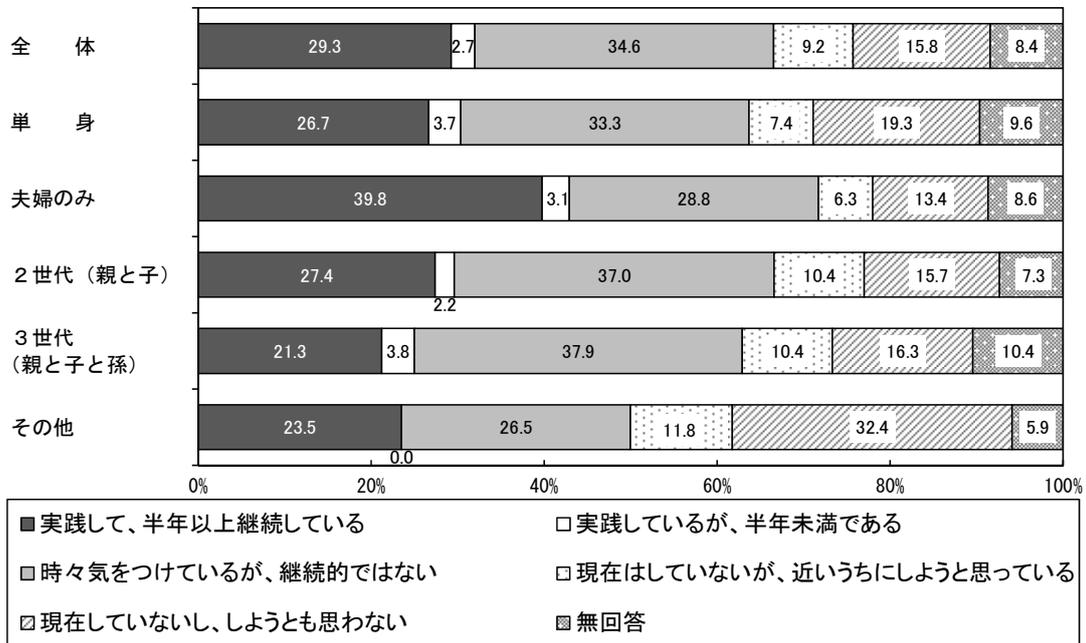
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「実践して、半年以上継続している」割合は、夫婦のみ（39.8%）で最も高くなっている。
一方、「現在していないし、しようとも思わない」は、その他（32.4%）で比較的高く、3割を超えている。

図 47.6 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(15) メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること

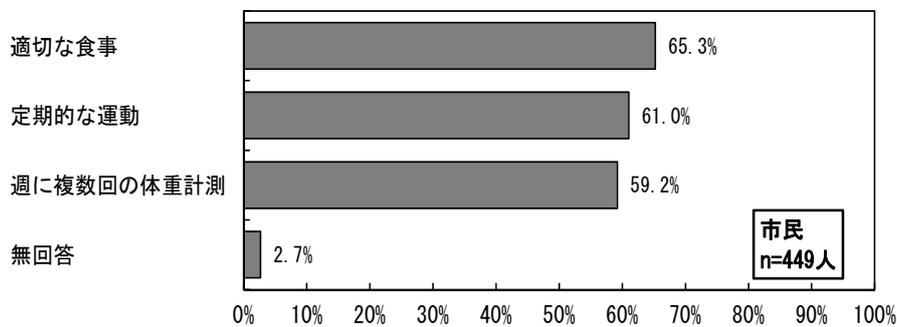
問43-1 問43で1に○を付けた方にお尋ねします。実践しているものは何ですか。
(○はいくつでも)

7割弱が「適切な食事」と回答

【全体結果】

メタボリックシンドロームの予防・改善を半年以上実践している人に、具体的な実践内容を聞いたところ、「適切な食事」と回答した人が7割弱（65.3%）で最も高くなっている。「定期的な運動」（61.0%）は6割を、「週に複数回の体重計測」（59.2%）は5割を超えている。

図 48.1 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること



全体	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
449	293	274	266	12

(人)

【性別・年齢別】

20歳代、50歳代および70歳以上では「適切な食事」が最も高く、30歳代から40歳代では「適切な食事」と「週に複数回の体重測定」が同率で最も高く、60歳代では「定期的な運動」が最も高くなっている。

性別では、60歳代以下で「定期的な運動」の割合は男性の方が高く、20歳代から30歳代および50歳代以上で「週に複数回の体重計測」の割合は女性の方が高くなっている。

表9.1 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・全体）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	449	65.3	61.0	59.2	2.7
20～29歳	12	58.3	58.3	50.0	16.7
30～39歳	35	60.0	54.3	60.0	5.7
40～49歳	66	60.6	45.5	60.6	1.5
50～59歳	83	66.3	51.8	65.1	2.4
60～69歳	119	65.5	70.6	57.1	1.7
70歳以上	130	68.5	66.9	56.2	2.3
年齢不明	4	75.0	100.0	100.0	0.0

対象者：人／回答：%

表9.2 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・男性）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	181	60.2	69.1	53.0	2.8
20～29歳	5	80.0	60.0	20.0	20.0
30～39歳	17	47.1	64.7	47.1	11.8
40～49歳	26	50.0	69.2	61.5	0.0
50～59歳	27	51.9	63.0	63.0	3.7
60～69歳	49	71.4	79.6	46.9	2.0
70歳以上	57	61.4	64.9	54.4	0.0
年齢不明	0	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表9.3 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・女性）

	対象者	適切な食事	定期的な運動	週に複数回の体重計測	無回答
計	254	68.9	53.9	63.4	2.4
20～29歳	7	42.9	57.1	71.4	14.3
30～39歳	18	72.2	44.4	72.2	0.0
40～49歳	39	66.7	28.2	61.5	2.6
50～59歳	56	73.2	46.4	66.1	1.8
60～69歳	69	60.9	63.8	63.8	1.4
70歳以上	65	76.9	67.7	58.5	3.1
年齢不明	0	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(16) 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」とは

筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障がいが起こり、歩行や日常生活に何らかの機能低下をきたして、要介護になっていたり、要介護になる危険の高い状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）」といいます。

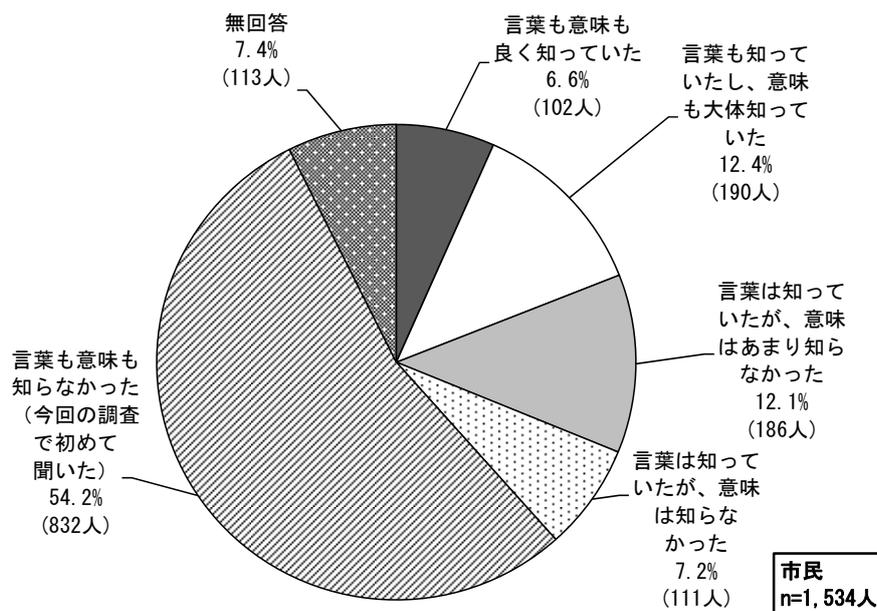
問 44 あなたは「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

2割弱が言葉や意味を認知していると回答

【全体結果】

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（6.6%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（12.4%）と回答した人を合わせた割合は2割弱（19.0%）となっている。

図 49.1 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、50歳代(25.4%)が最も高くなっている。

性別では、「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、20歳代では男女ほぼ同率で、30歳代以上で女性の方が高くなっている。

図 49.2 「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」という言葉や意味の認知度(年齢別・全体)

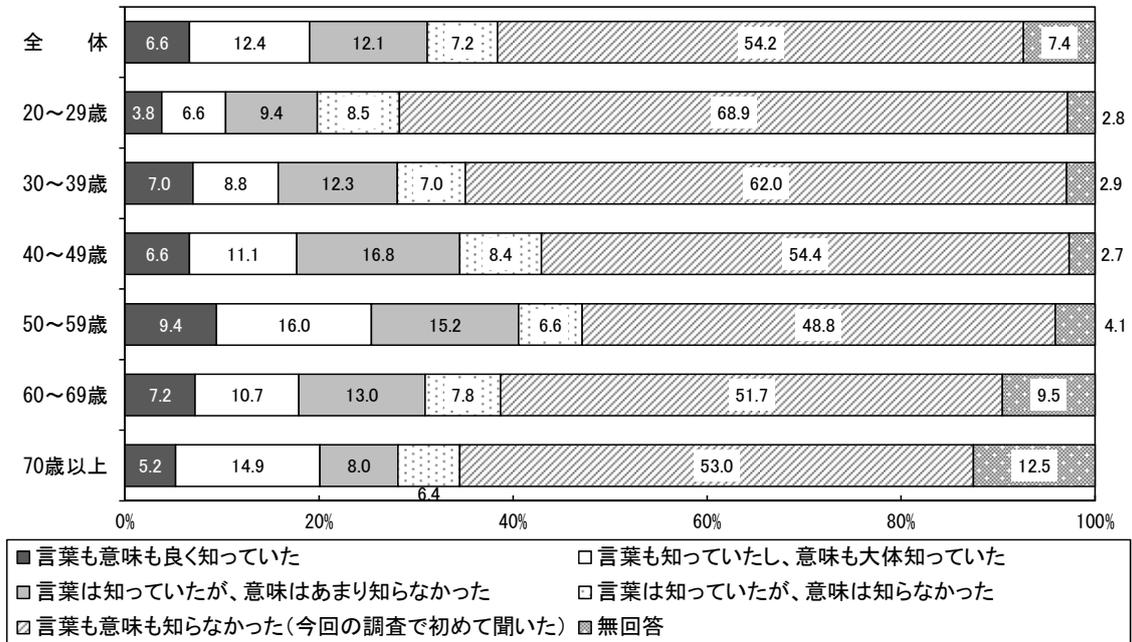
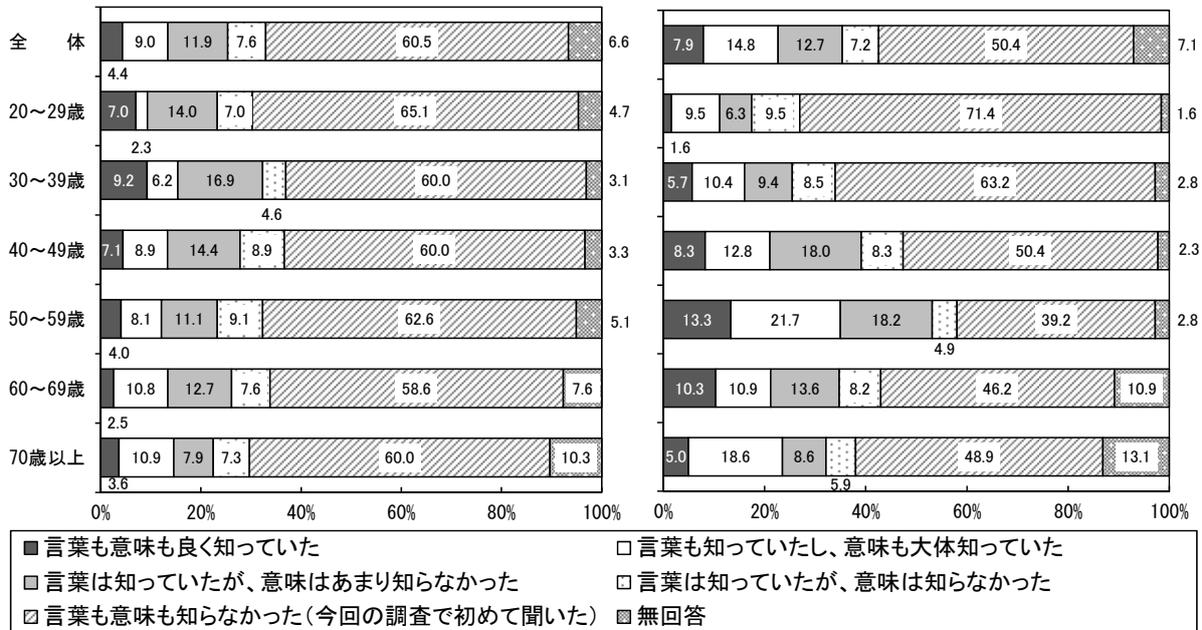


図 49.3 「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」という言葉や意味の認知度(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

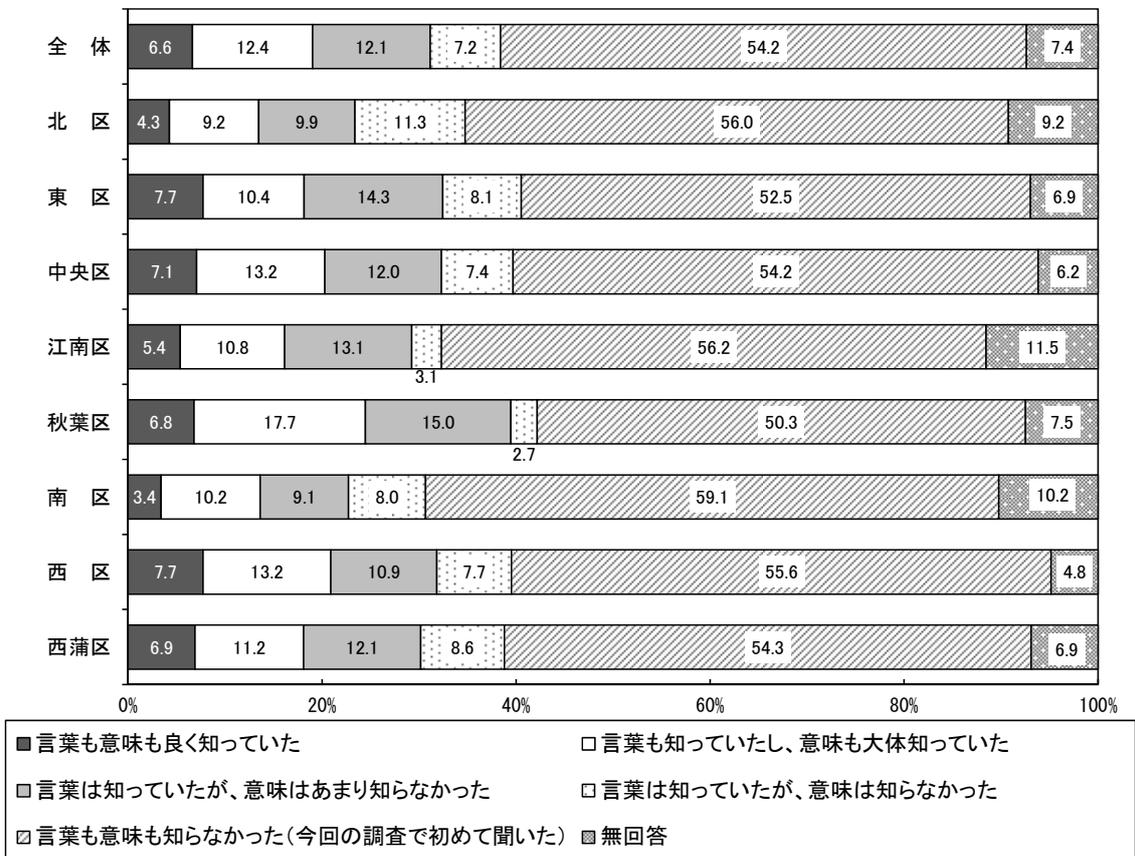
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

(人)

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、秋葉区(24.5%)、西区(20.9%)の順で高くなっている。

図 49.4 「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」という言葉や意味の認知度(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

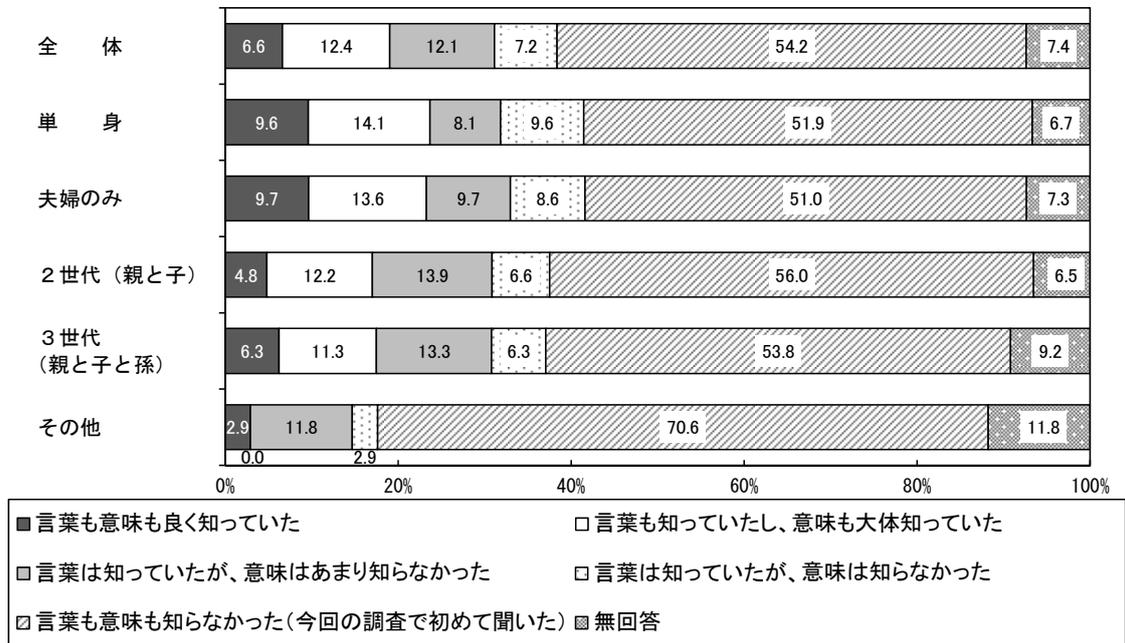
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、単身(23.7%)で最も高くなっている。

図 49.6 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(17) 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況

問45 あなたは過去1年間に市や職場などで行われる健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか。（受けたもの全てに○）

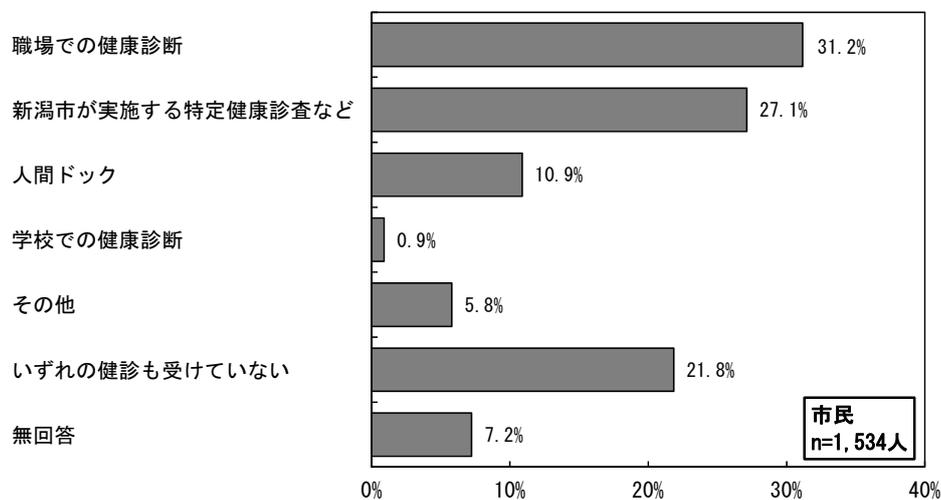
3割強が「職場での健康診断」と回答

【全体結果】

「職場での健康診断」と回答した人が3割強（31.2%）となっている。以下「新潟市が実施する特定健康診査など」（27.1%）、「人間ドック」（10.9%）、「学校での健康診断」（0.9%）と続いている。

一方、「いずれの健（検）診も受けていない」と回答した人は2割強（21.8%）となっている。

図 50.1 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況



全体	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	学校での健康診断	人間ドック	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
1,534	478	416	167	14	89	335	111

(人)

【性別・年齢別】

50歳代以下では「職場での健康診断」と回答した人が最も多く、60歳代以上では「新潟市が実施する特定健康診査など」と回答した人が多くなっている。

性別では、30歳代以上で、「職場での健康診断」「人間ドック」の割合は男性の方が高く、「新潟市が実施する特定健康診査など」の割合は女性の方が高くなっている。

表 10.1 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況（年齢別・全体）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	1,534	31.2	27.1	10.9	0.9	5.8	21.8	7.2
20～29歳	106	48.1	2.8	0.9	11.3	0.0	35.8	1.9
30～39歳	171	62.6	4.7	7.0	0.6	1.8	24.6	2.3
40～49歳	226	54.4	11.1	18.6	0.4	3.1	18.6	2.7
50～59歳	244	49.6	13.5	18.9	0.0	2.0	16.0	4.9
60～69歳	346	18.8	36.4	11.8	0.0	7.2	22.5	8.4
70歳以上	423	2.1	51.1	5.7	0.0	11.1	21.3	13.0
年齢不明	18	11.1	27.8	5.6	0.0	11.1	33.3	16.7

対象者：人／回答：%

表 10.2 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況（年齢別・男性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	620	36.8	23.7	14.8	1.1	5.5	17.6	6.6
20～29歳	43	46.5	4.7	0.0	14.0	0.0	32.6	2.3
30～39歳	65	75.4	0.0	12.3	1.5	0.0	13.8	1.5
40～49歳	90	63.3	6.7	24.4	0.0	3.3	7.8	3.3
50～59歳	99	56.6	4.0	27.3	0.0	3.0	10.1	4.0
60～69歳	157	25.5	32.5	12.7	0.0	8.9	21.7	5.7
70歳以上	165	3.6	50.9	9.1	0.0	8.5	20.6	13.9
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 10.3 最近1年間の健診や人間ドックの受診状況（年齢別・女性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	851	28.8	28.8	8.3	0.8	5.8	24.8	6.7
20～29歳	63	49.2	1.6	1.6	9.5	0.0	38.1	1.6
30～39歳	106	54.7	7.5	3.8	0.0	2.8	31.1	2.8
40～49歳	133	48.1	13.5	15.0	0.8	3.0	25.6	2.3
50～59歳	143	45.5	20.3	13.3	0.0	1.4	19.6	4.9
60～69歳	184	13.0	40.2	10.9	0.0	6.0	23.4	10.3
70歳以上	221	1.4	52.0	2.7	0.0	13.1	22.2	10.9
年齢不明	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

(18) 最近1年間のがん検診の受診状況

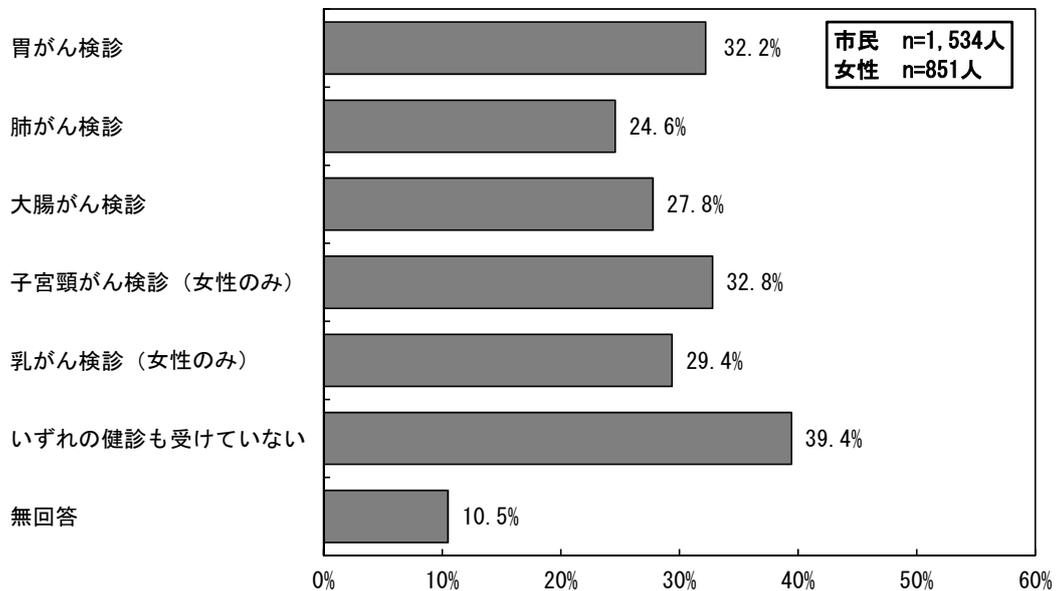
問46 あなたは過去1年間（乳がんまたは子宮頸がん検診は過去2年間）にがん検診を受けましたか。
（受けたもの全てに○）

4割弱が「いずれのがん検診も受けていない」と回答

【全体結果】

「いずれのがん検診も受けていない」と回答した人が4割弱（39.4%）となっている。
一方、受診したがん検診については、「胃がん検診」の回答が最も多く、3割強（32.2%）となっている。
また、女性のみが対象の「子宮頸がん検診」（32.8%）は3割強、「乳がん検診」（29.4%）は3割弱となっている。

図 51.1 最近1年間のがん検診の受診状況



※全体 （内は女性 の人数）	胃がん 検診	肺がん 検診	大腸がん 検診	子宮頸がん 検診（女性のみ）	乳がん 検診（女性のみ）	いずれの 健診も受けて いない	無 回 答
1,534 (851)	494	377	426	279	250	605	161

(人)

【性別・年齢別】

「胃がん検診」「肺がん検診」の割合は70歳以上で最も高く、「大腸がん検診」の割合は60歳代で最も高くなっている。

女性が対象の「子宮頸がん検診」の割合は、30歳代から40歳代で5割を超えている。「乳がん検診」の割合は、40歳代から50歳代で5割を超えている。

表 11.1 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・全体）

	対象者 ()内は 女性の人数	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん 検診	子宮頸がん 検診 (女性のみ)	乳がん 検診 (女性のみ)	いずれの がん健診も 受けていない	無回答
計	1,534(851)	32.2	24.6	27.8	32.8	29.4	39.4	10.5
20～29歳	106(63)	0.0	0.9	0.9	36.5	4.8	73.6	3.8
30～39歳	171(106)	5.8	4.7	4.7	55.7	21.7	53.8	3.5
40～49歳	226(133)	33.2	20.8	27.4	54.1	51.1	37.6	3.5
50～59歳	244(143)	30.7	30.3	32.0	37.1	50.3	38.9	6.6
60～69歳	346(184)	42.2	30.1	37.6	22.8	27.7	36.4	10.1
70歳以上	423(221)	43.3	33.3	33.8	13.1	14.5	29.8	19.9
年齢不明	18(1)	27.8	11.1	22.2	100.0	100.0	16.7	44.4

対象者：人／回答：%

表 11.2 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・男性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん 検診	いずれの がん健診も受 けていない	無回答
計	620	34.7	26.1	27.4	47.1	12.1
20～29歳	43	0.0	2.3	0.0	90.7	7.0
30～39歳	65	12.3	9.2	7.7	80.0	4.6
40～49歳	90	40.0	23.3	31.1	48.9	4.4
50～59歳	99	32.3	27.3	31.3	51.5	9.1
60～69歳	157	42.7	29.3	31.8	39.5	10.8
70歳以上	165	43.6	37.0	33.9	26.1	23.6
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 11.3 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・女性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん 検診	子宮頸がん 検診 (女性のみ)	乳がん 検診 (女性のみ)	いずれの がん健診も 受けていない	無回答
計	851	30.4	23.5	28.4	32.8	29.4	34.9	7.4
20～29歳	63	0.0	0.0	1.6	36.5	4.8	61.9	1.6
30～39歳	106	1.9	1.9	2.8	55.7	21.7	37.7	2.8
40～49歳	133	28.6	19.5	25.6	54.1	51.1	29.3	3.0
50～59歳	143	30.1	32.9	32.9	37.1	50.3	30.1	4.2
60～69歳	184	42.9	31.5	42.9	22.8	27.7	33.2	9.2
70歳以上	221	43.4	30.3	34.8	13.1	14.5	33.9	14.5
年齢不明	1	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

(19) がん検診の検診場所

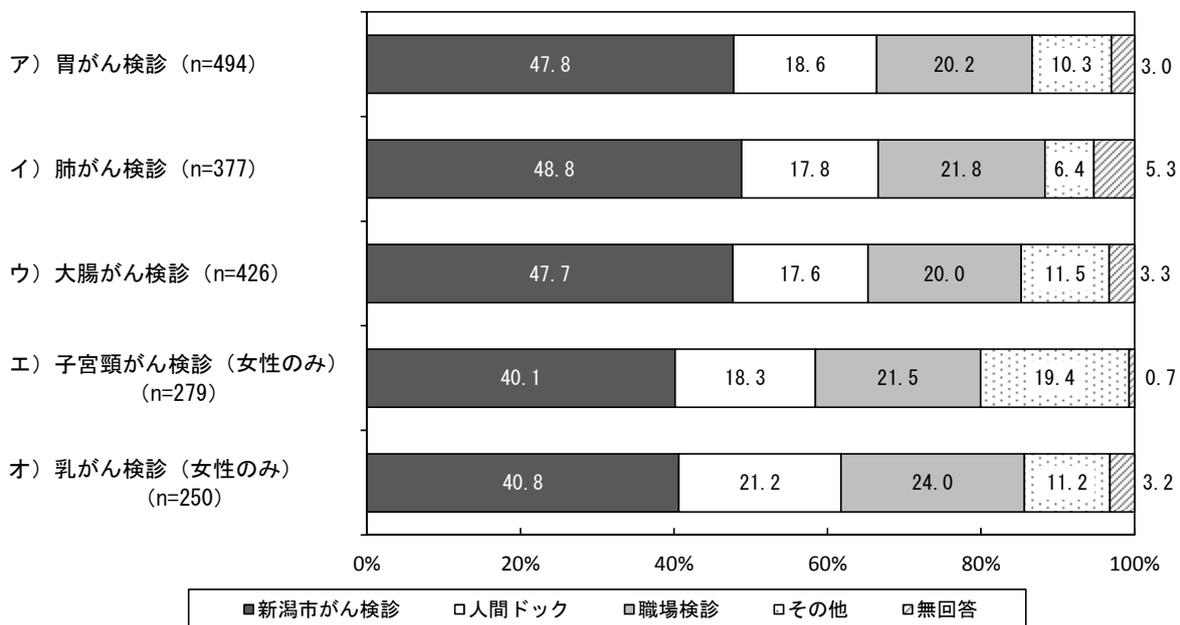
問47 がん検診を受けた方にお尋ねします。それぞれどこで検診を受けましたか。
(がん検診ごとに○は1つだけ) ア～ウは全員、エ、オは女性のみお答えください。

検診場所は「新潟市がん検診」が最も多い

【全体結果】

いずれのがん検診も「新潟市がん検診」と回答した人が最も多くなっており、「肺がん検診」(48.8%)が最も高く、以下「胃がん検診」(47.8%)、「大腸がん検診」(47.7%)と続き、いずれも5割弱となっている。

図 52.1 がん検診の検診場所



	全体	新潟市がん検診	人間ドック	職場検診	その他	無回答
ア) 胃がん検診	494	236	92	100	51	15
イ) 肺がん検診	377	184	67	82	24	20
ウ) 大腸がん検診	426	203	75	85	49	14
エ) 子宮頸がん検診(女性のみ)	279	112	51	60	54	2
オ) 乳がん検診(女性のみ)	250	102	53	60	28	8

(人)

ア) 胃がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（72.1%）で最も高く7割を超えている。「人間ドック」の割合は、50歳代（30.7%）で最も高く3割を超えている。「職場検診」は40歳代（54.7%）で5割を超えている。

図 52.2 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

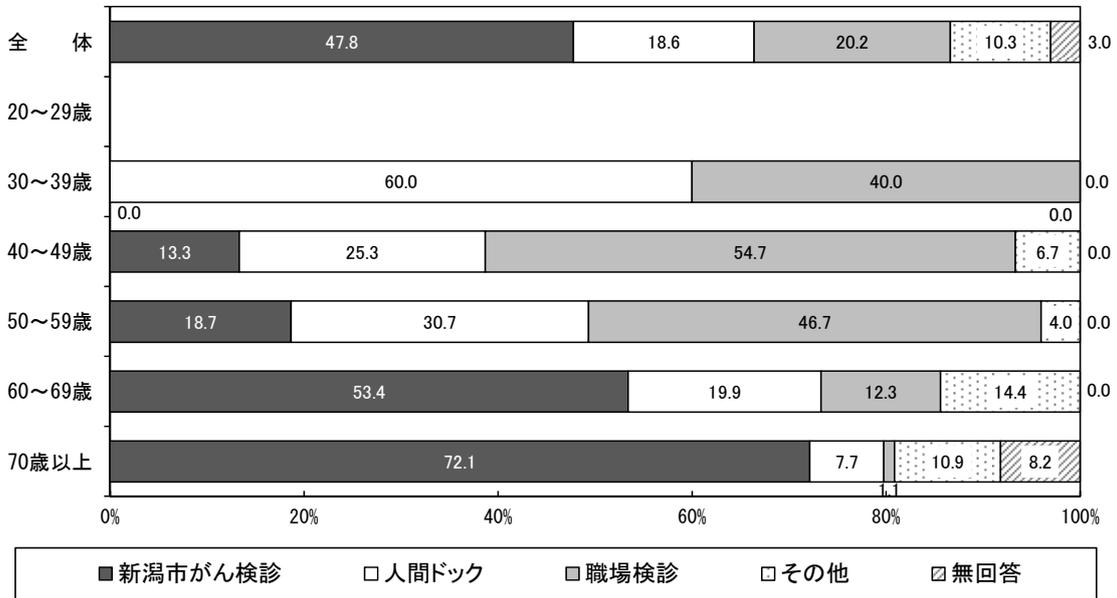
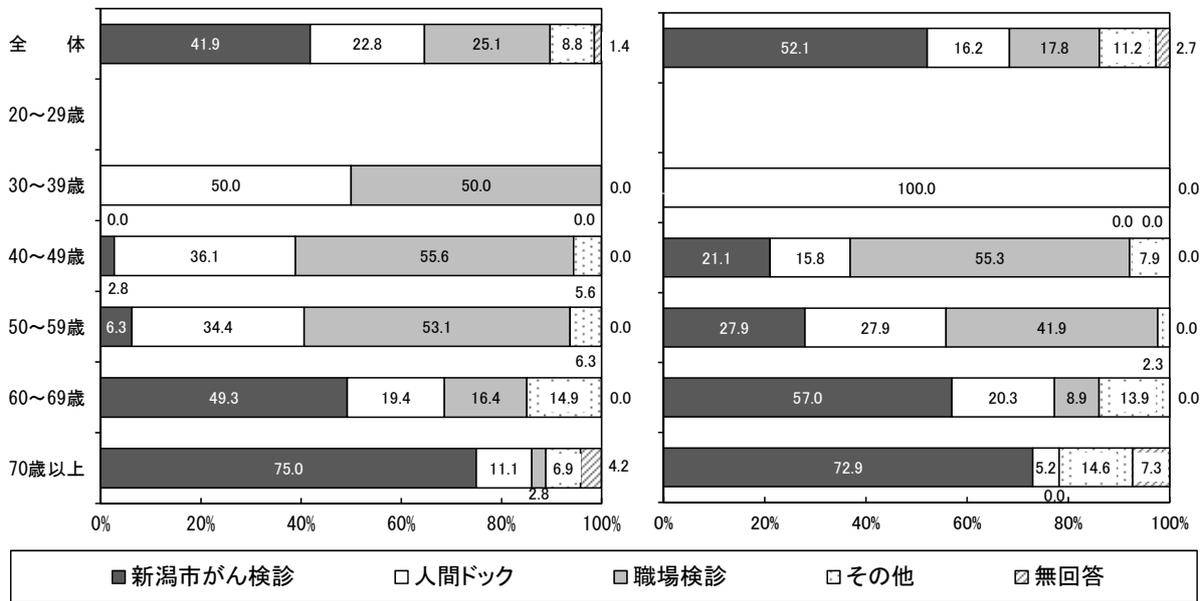


図 52.3 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	494	0	10	75	75	146	183	5
男性	215	0	8	36	32	67	72	0
女性	259	0	2	38	43	79	96	1

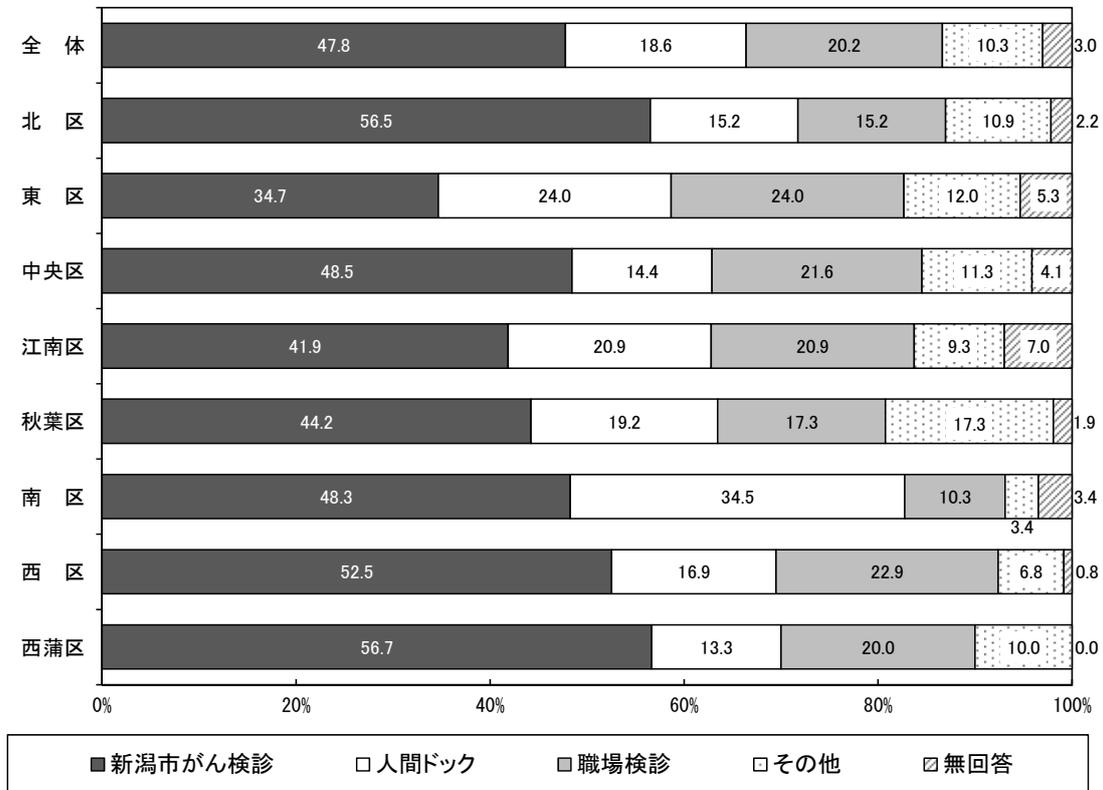
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高く、北区（56.5%）、西区（52.5%）、西蒲区（56.7%）では5割を超えている。

図 52.4 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
494	46	75	97	43	52	29	118	30	4

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

イ) 肺がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（68.1%）で最も高く、60歳代以上で6割を超えている。「職場検診健診」は50歳代（51.4%）で最も高く、5割を超えている。

図 52.5 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

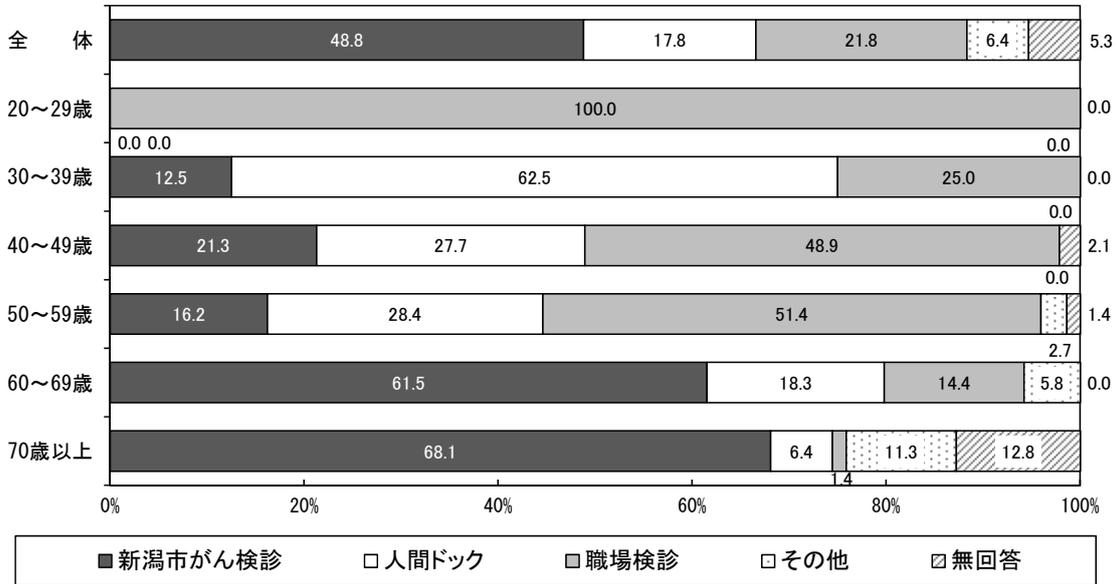
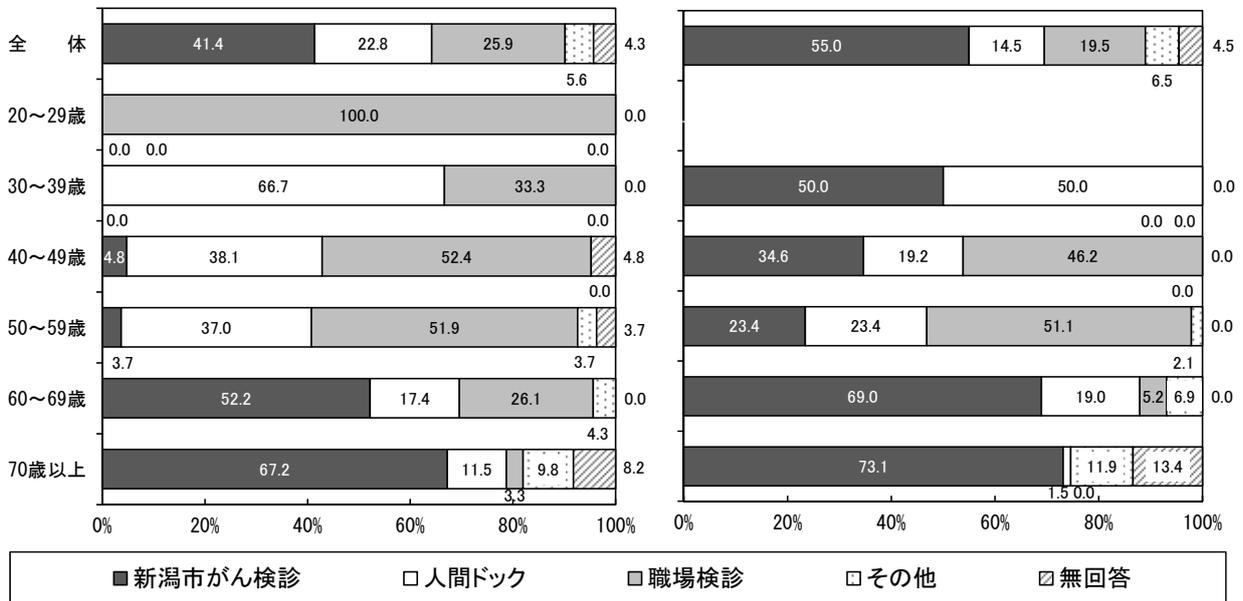


図 52.6 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	377	1	8	47	74	104	141	2
男性	162	1	6	21	27	46	61	0
女性	200	0	2	26	47	58	67	0

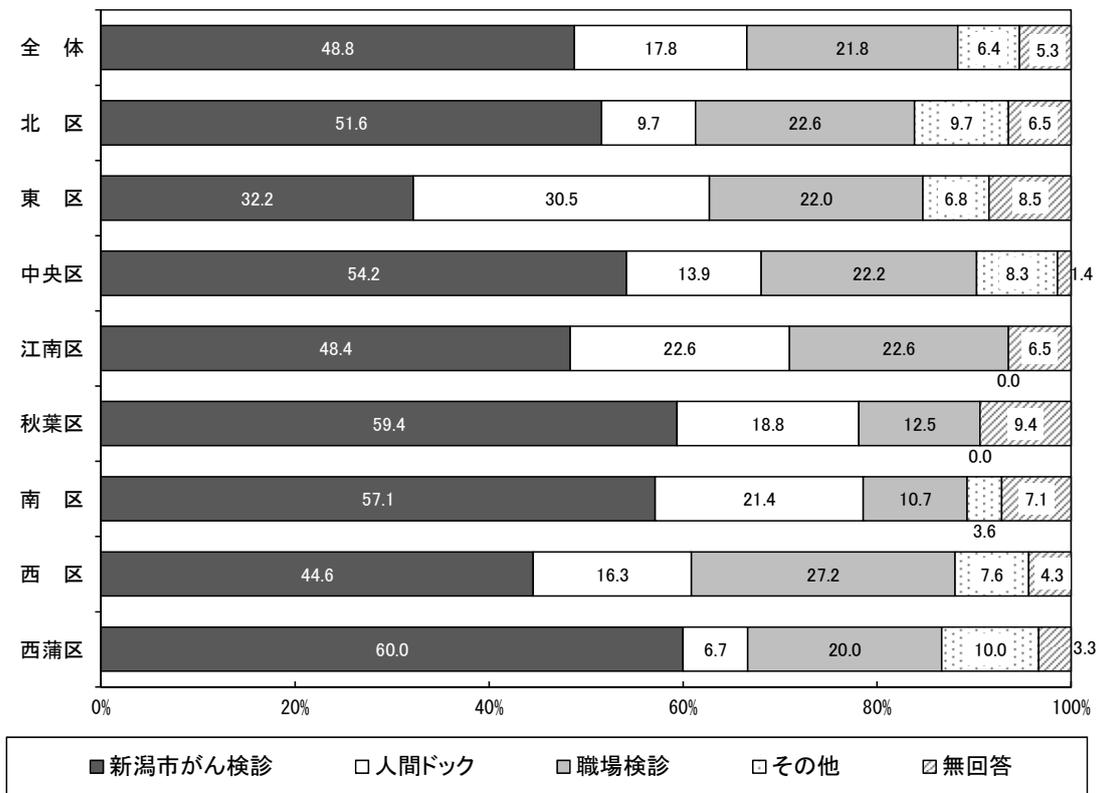
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高く、西蒲区では6割となっている。

図 52.7 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
377	31	59	72	31	32	28	92	30	2

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

ウ) 大腸がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（72.7%）で最も高く7割を超えている。「職場検診」は、40歳代（53.2%）で最も高く5割を超えている。

図 52.8 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

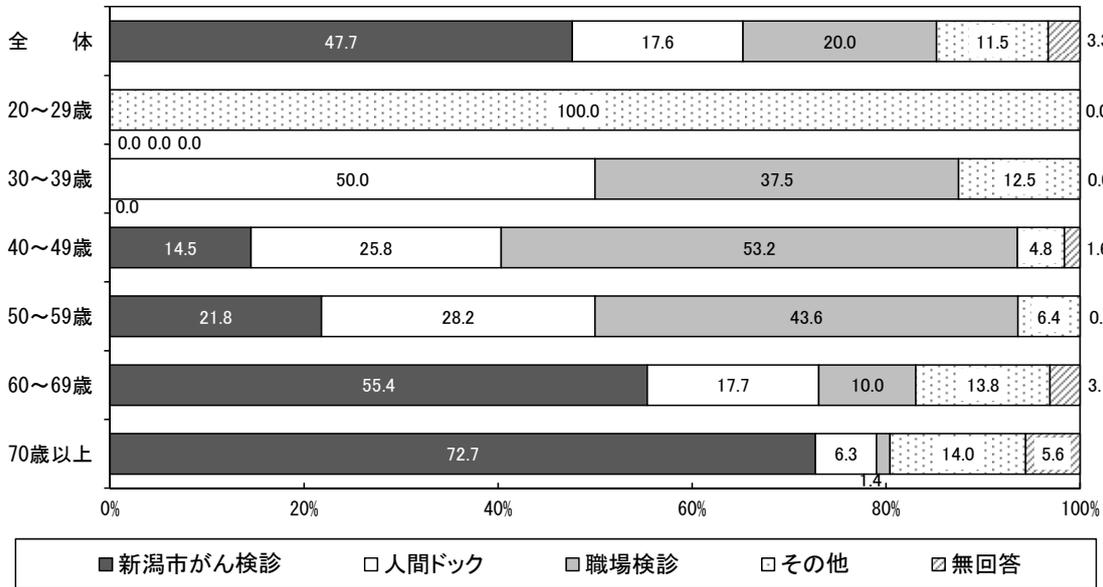
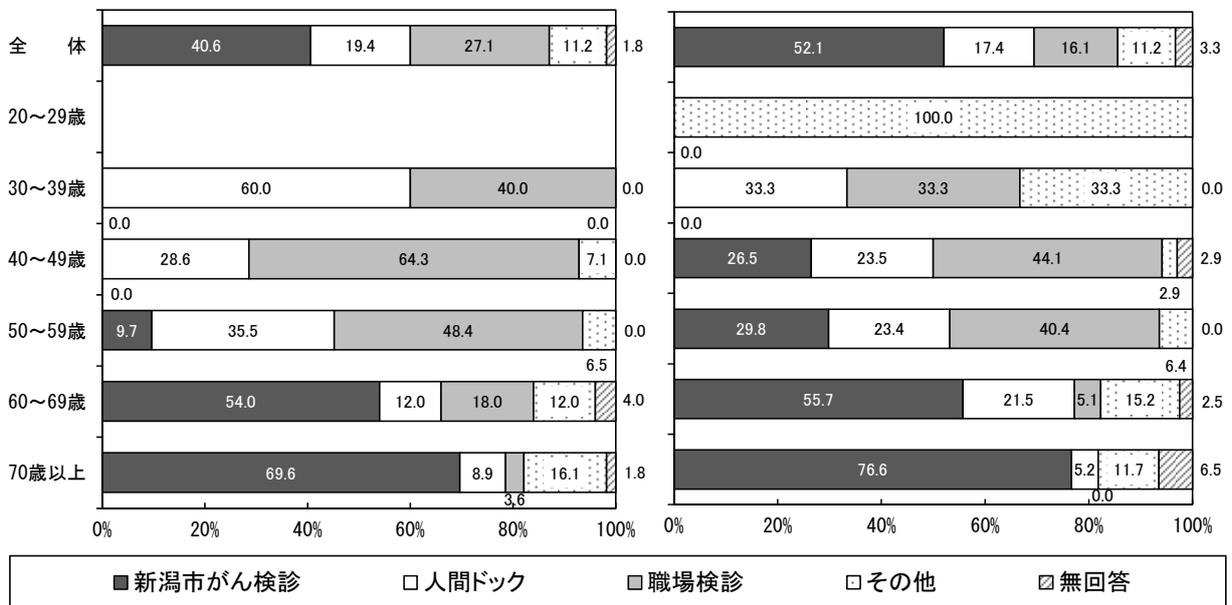


図 52.9 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	426	1	8	62	78	130	143	4
男性	170	0	5	28	31	50	56	0
女性	242	1	3	34	47	79	77	1

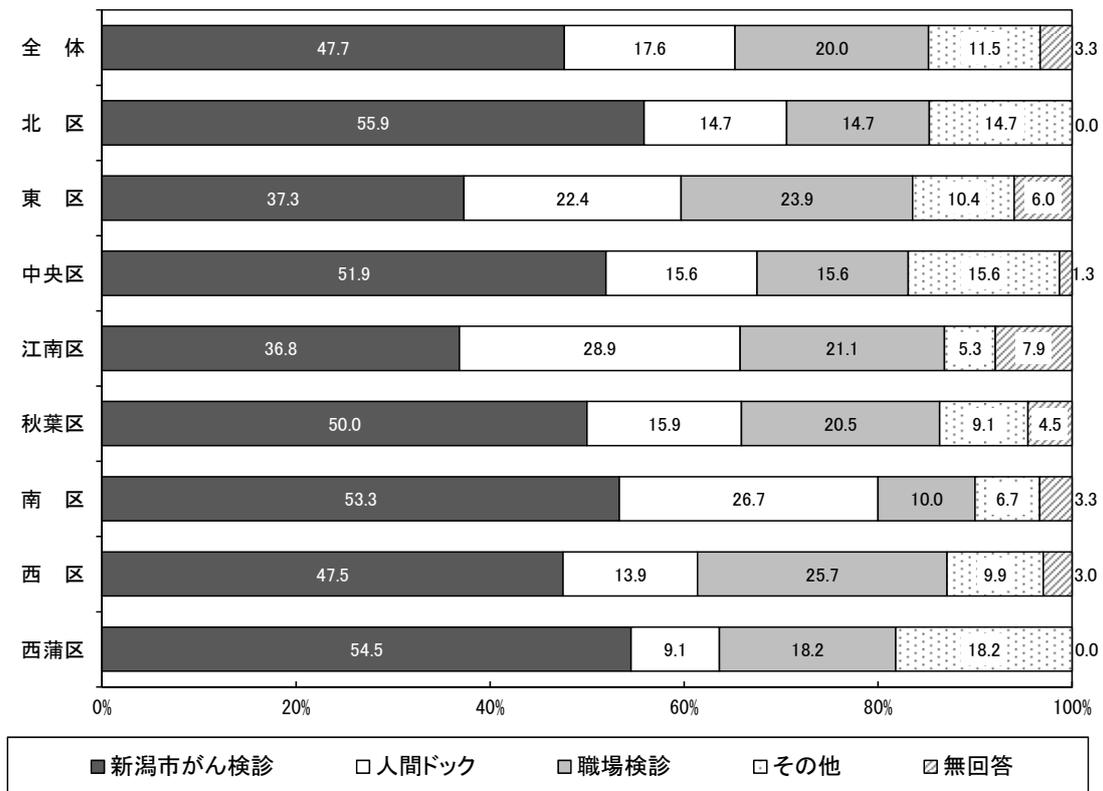
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 52.10 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
426	34	67	77	38	44	30	101	33	2

(人)

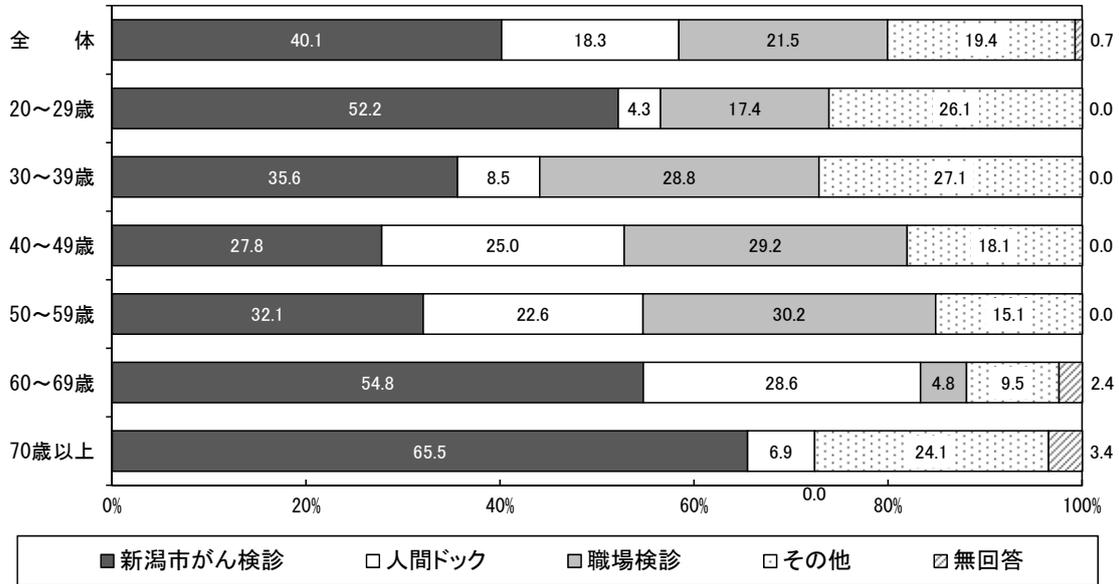
※ 地区不明者のグラフは省略した。

エ) 子宮頸がん検診

【性別・年齢別】

「その他」を除き、40歳代は「職場検診」(29.2%)が最も高く、それ以外の年代では「新潟市がん検診」が最も高くなっている。

図 52.11 がん検診の検診場所 (年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	279	23	59	72	53	42	29	1
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	279	23	59	72	53	42	29	1

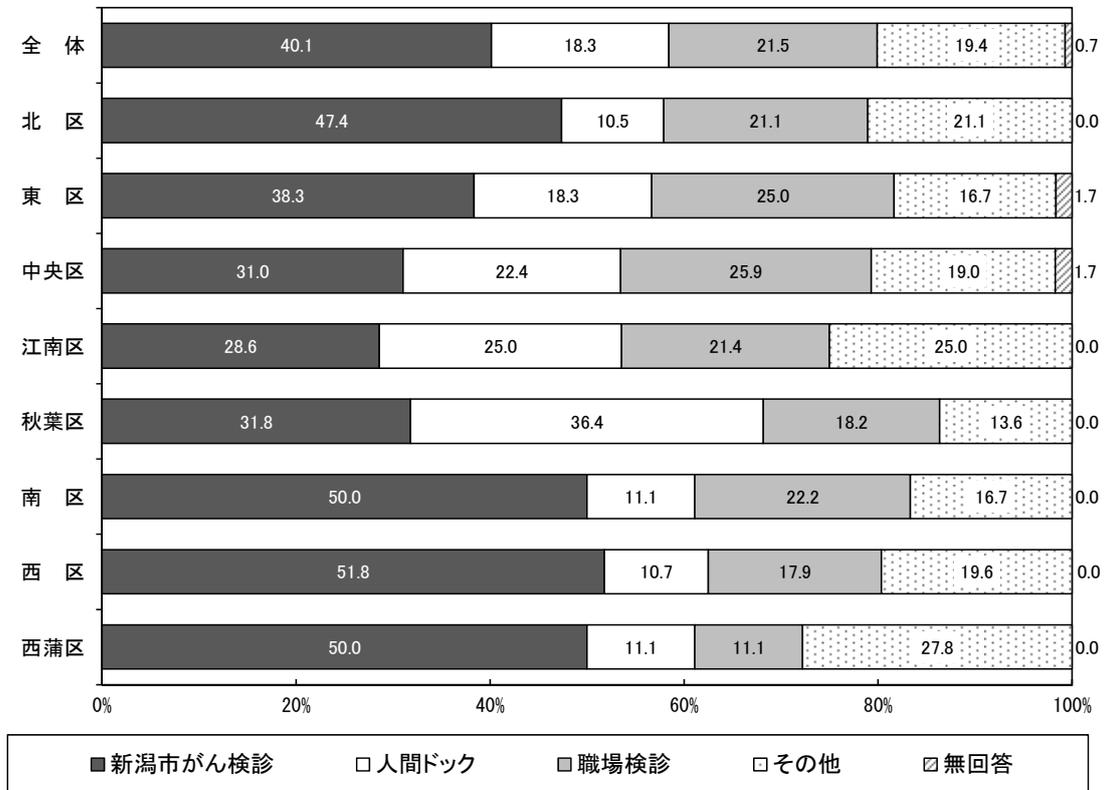
(人)

※ 年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

秋葉区では「人間ドック」と回答した人の割合が最も高く、その他の地区では「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 52.12 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
279	19	60	58	28	22	18	56	18	0

(人)

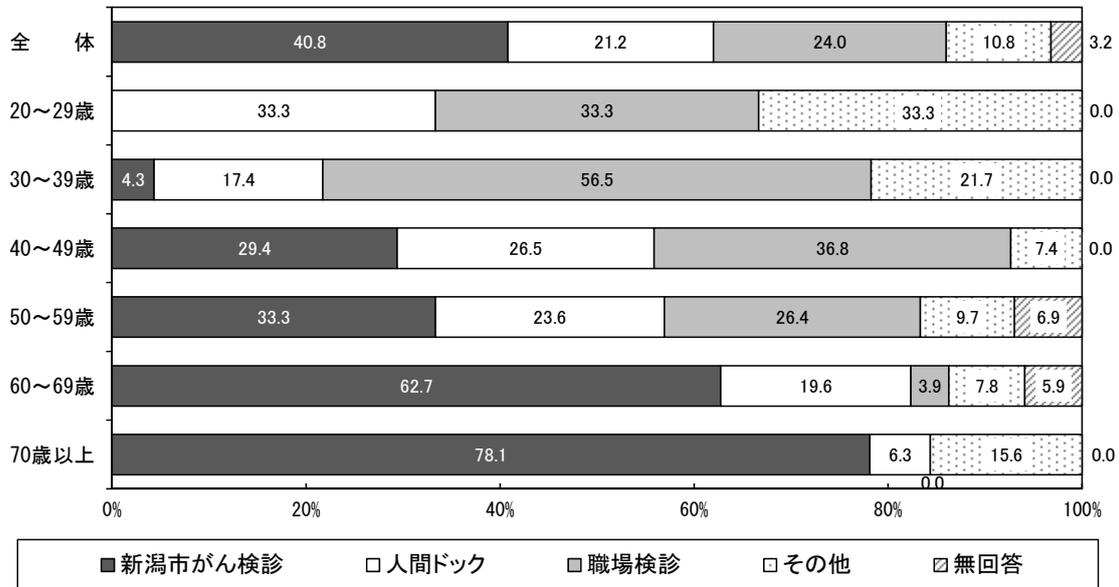
※ 地区不明者のグラフは省略した。

オ) 乳がん検診

【性別・年齢別】

「その他」を除き、20歳代は「人間ドック」と「職場検診」の割合が同率で最も高く、30歳代から40歳代は「職場検診」の割合が最も高くなっている。50歳代以上では「新潟市がん検診」の割合が最も高くなっている。

図 52.13 がん検診の検診場所（年齢別・全体）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	250	3	23	68	72	51	32	1
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	250	3	23	68	72	51	32	1

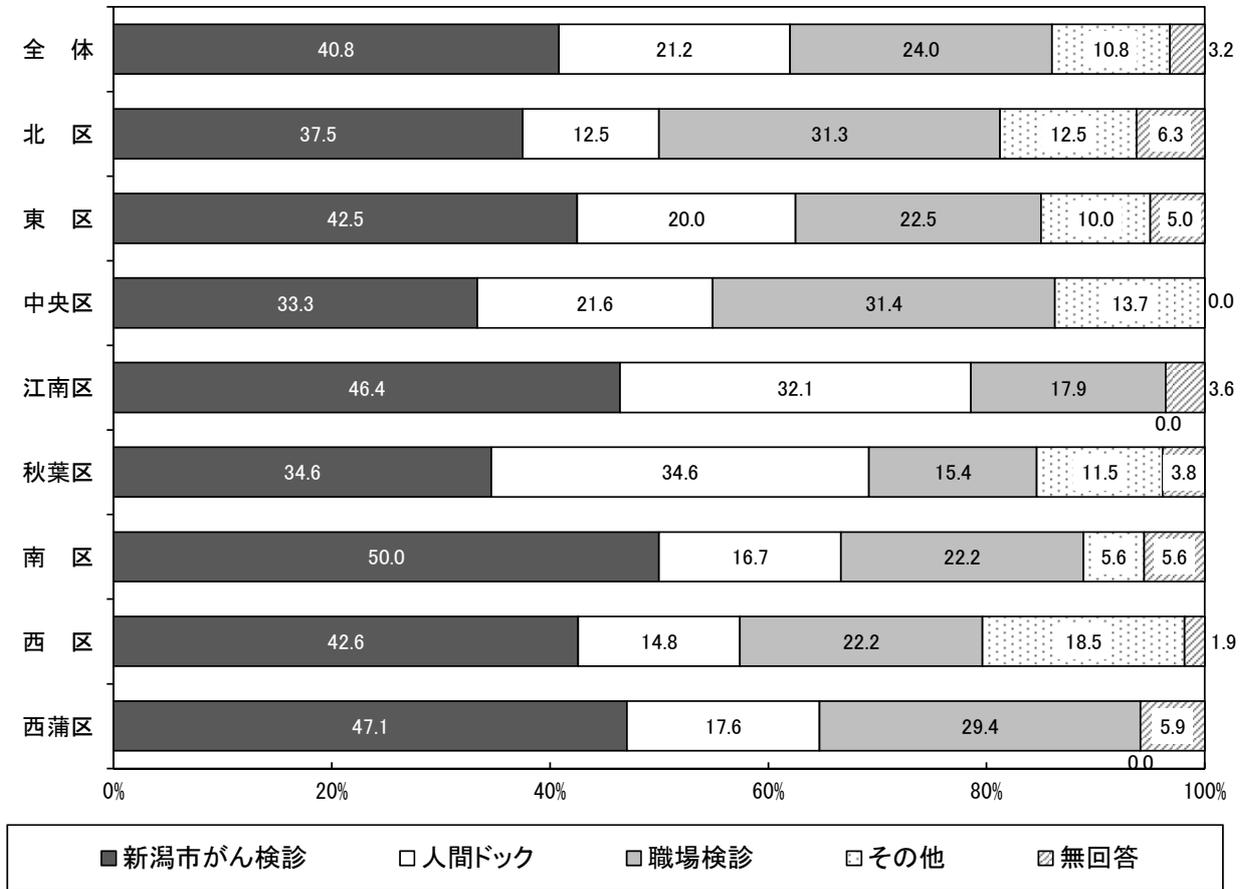
(人)

※ 年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

秋葉区では「新潟市がん検診」と「人間ドック」と回答した人の割合が同率で最も高く、秋葉区以外の地区では「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 52.14 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
250	16	40	51	28	26	18	54	17	0

(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

(20) がん検診を受けなかった主な理由

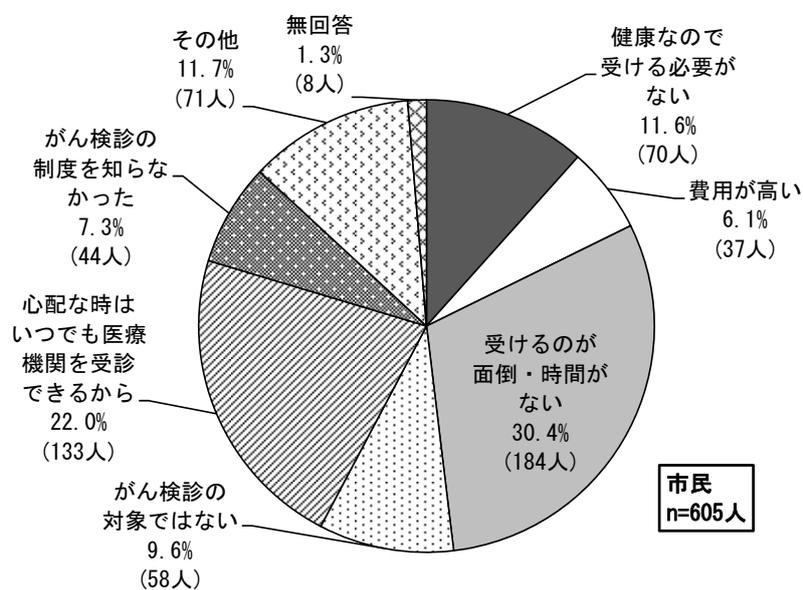
問48 問46で「6 いずれのがん検診も受けていない」に○を付けた方にお尋ねします。
がん検診を受けなかった主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

3割強が「受けるのが面倒・時間がない」と回答

【全体結果】

がん検診を受けなかった主な理由は、「受けるのが面倒・時間がない」(30.4%)、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(22.0%)と回答した人の割合が高くなっている。以下「健康なので受ける必要がない」(11.6%)、「がん検診の対象ではない」(9.6%)と続いている。

図 53.1 がん検診を受けなかった主な理由



【性別・年齢別】

30歳代は「受けるのが面倒・時間がない」と「がん検診の対象ではない」が同率で最も高く、60歳代以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。20歳代と40歳代から50歳代は「受けるのが面倒・時間がない」が最も高くなっている。

図 53.2 がん検診を受けなかった主な理由（年齢別・全体）

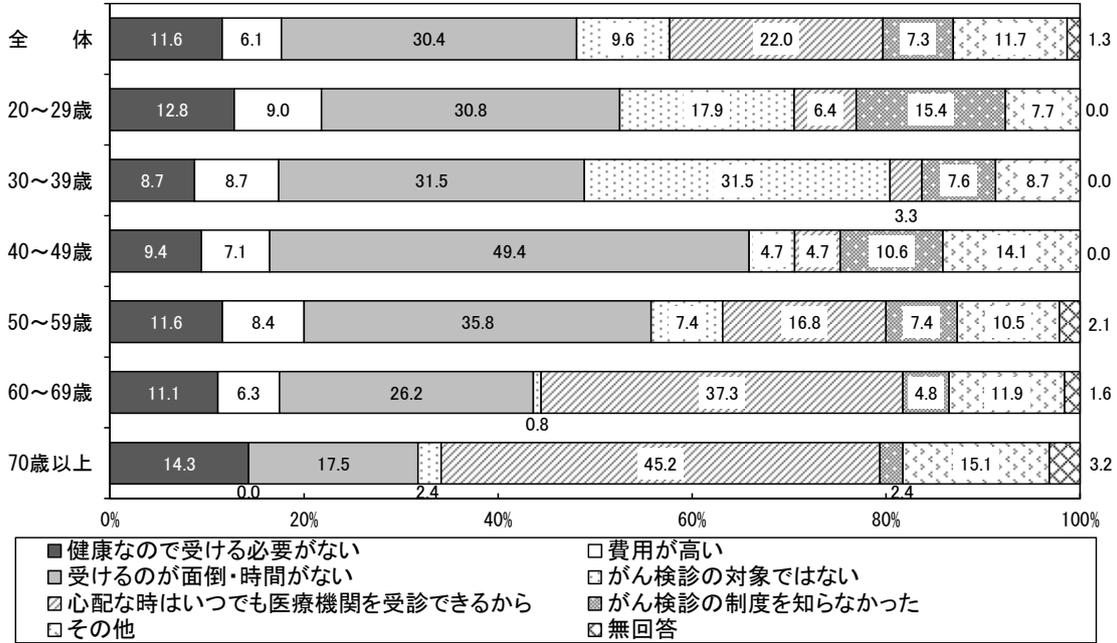
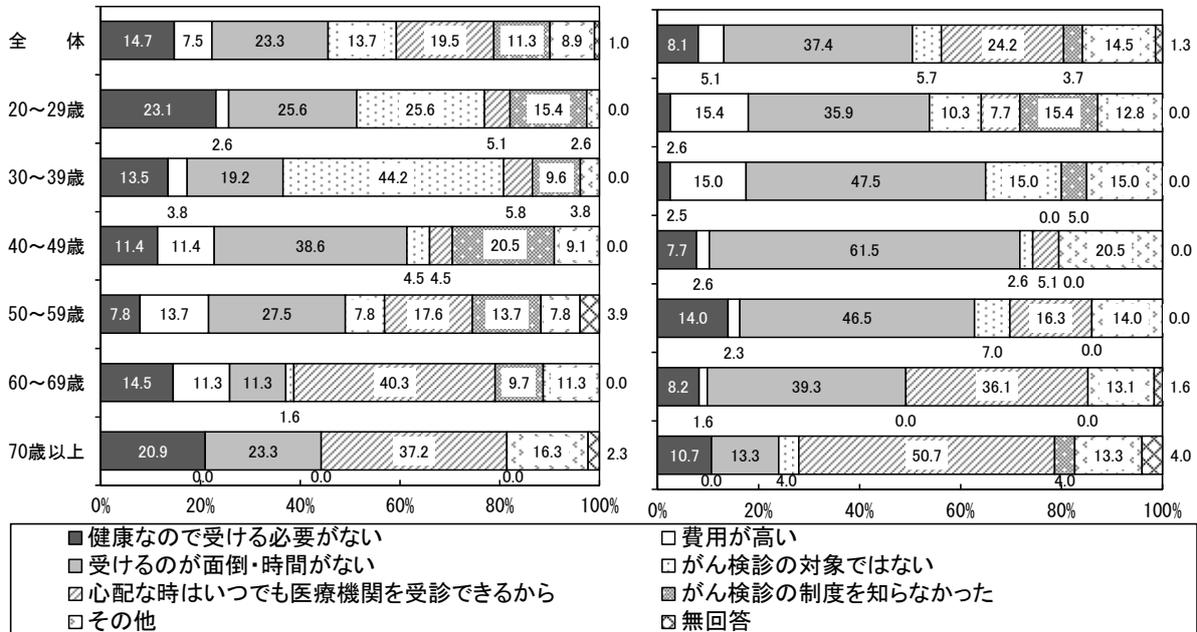


図 53.3 がん検診を受けなかった主な理由

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	605	78	92	85	95	126	126	3
男性	292	39	52	44	51	62	43	1
女性	297	39	40	39	43	61	75	0

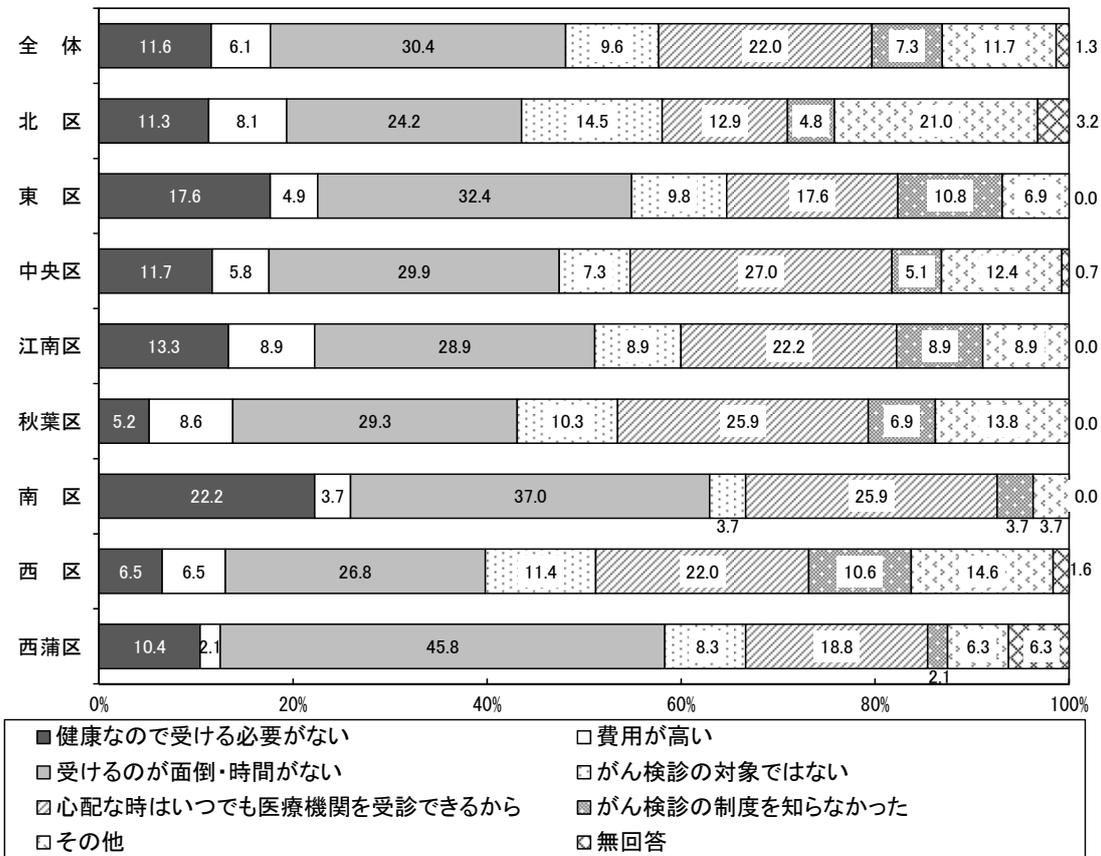
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「受けるのが面倒・時間がない」が最も高く、西蒲区では4割半ばとなっている。

図 53.4 がん検診を受けなかった主な理由（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
605	62	102	137	45	58	27	123	48	3

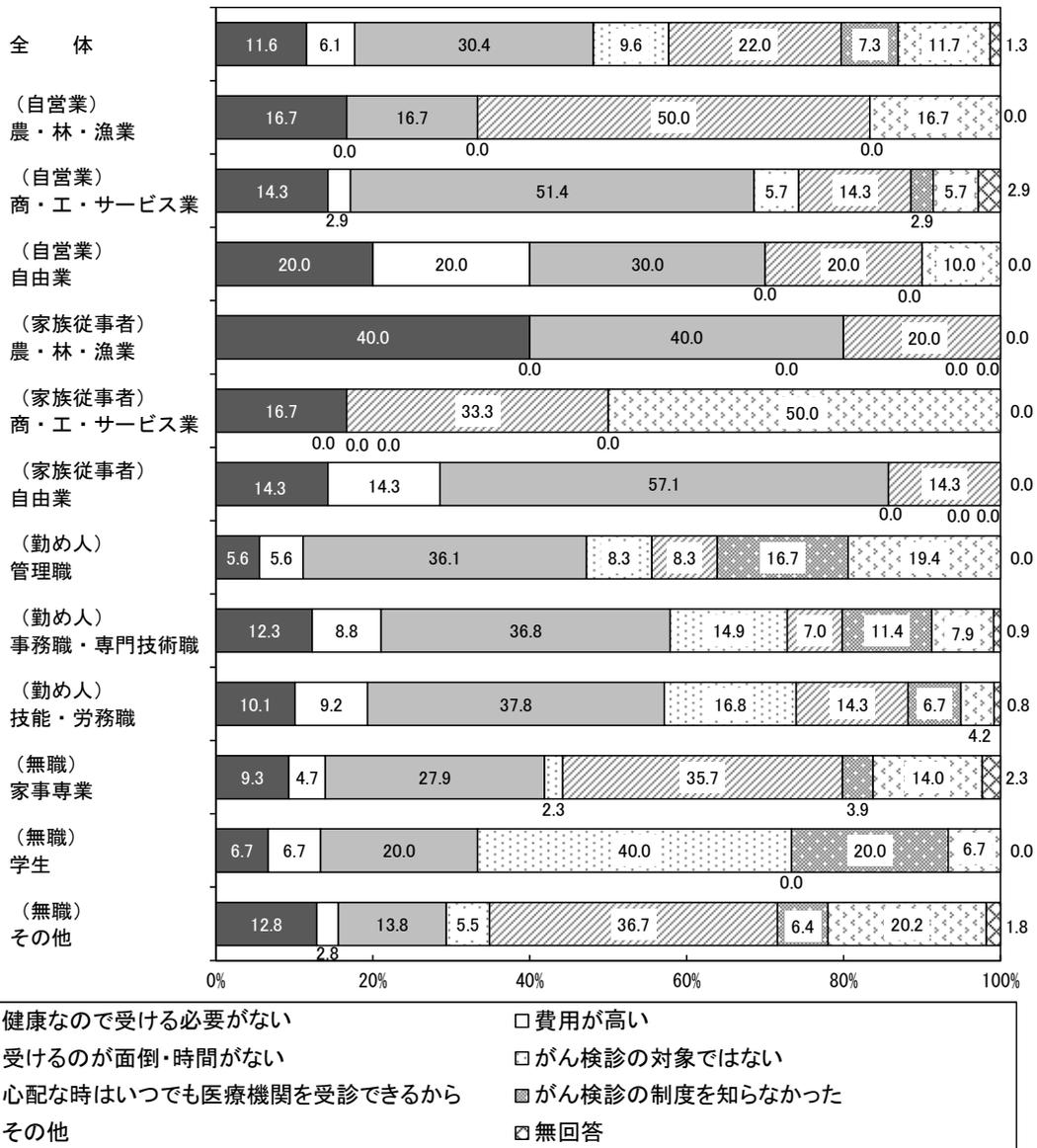
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 53.5 がん検診を受けなかった主な理由（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
605	6	35	10	5	6	7		
		勤め人			無職			無回答
		管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
		36	114	119	129	15	109	14

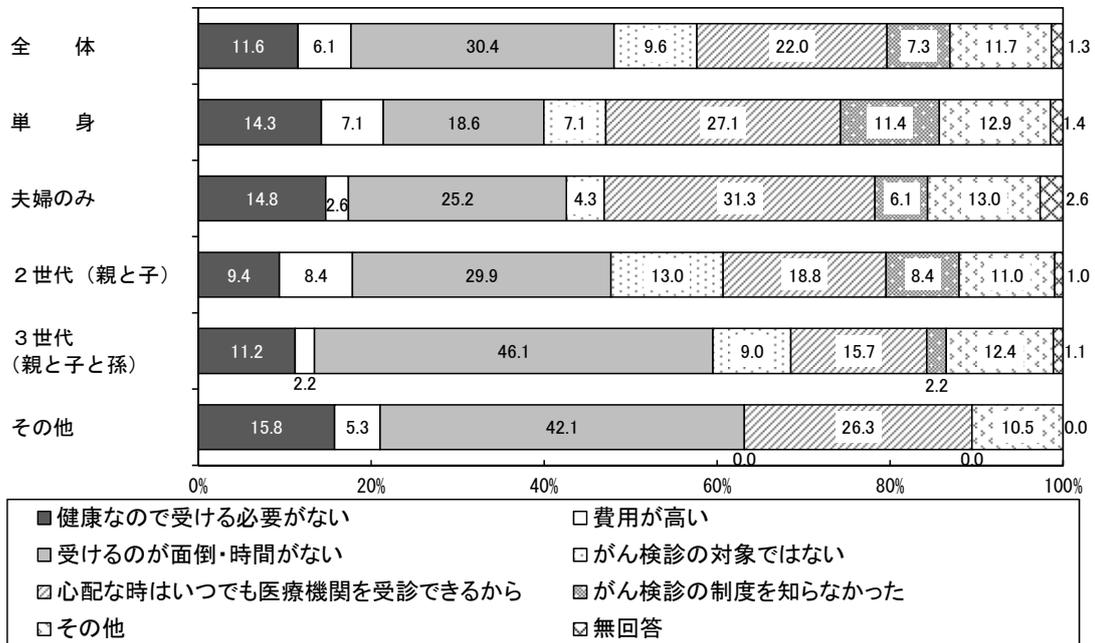
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

単身、夫婦のみは「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、2世代と3世代、およびその他は「受けるのが面倒・時間がない」を回答した人が、それぞれ最も多くなっている。

図 53.6 がん検診を受けなかった主な理由（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
605	70	115	308	89	19	4

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(21) 地域の人たちとのつながり

問49 あなたにとってご自身と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。
(○は1つだけ)

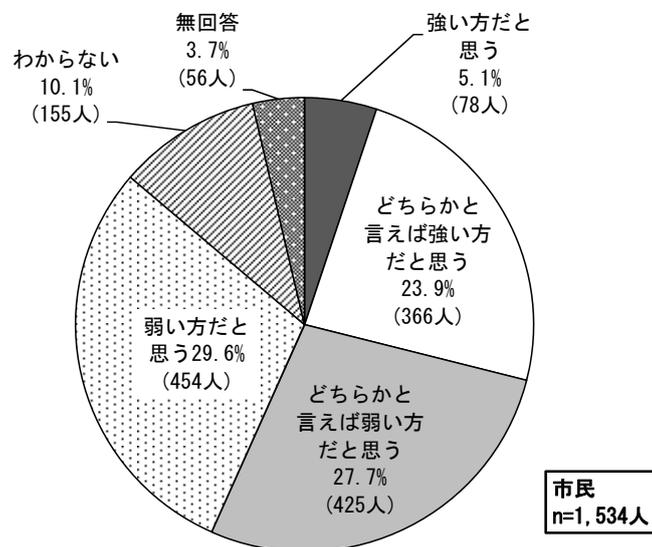
3割弱が地域の人たちとのつながりは強いと回答

【全体結果】

「強い方だと思う」(5.1%)、「どちらかと言えば強い方だと思う」(23.9%) 回答した人を合わせた強いと思う割合は3割弱(29.0%)となっている。

一方、「どちらかと言えば弱い方だと思う」(27.7%)、「弱い方だと思う」(29.6%) と回答した人を合わせた割合は6割弱(57.3%)となっている。

図 54.1 地域の人たちとのつながり



【性別・年齢別】

60歳代以下で、「どちらかと言えば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」を合わせた割合は、70歳以上（40.6%）で最も高く、「どちらかと言えば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合（40.7%）とほぼ同率となっている。

図 54.2 地域の人たちとのつながり（年齢別・全体）

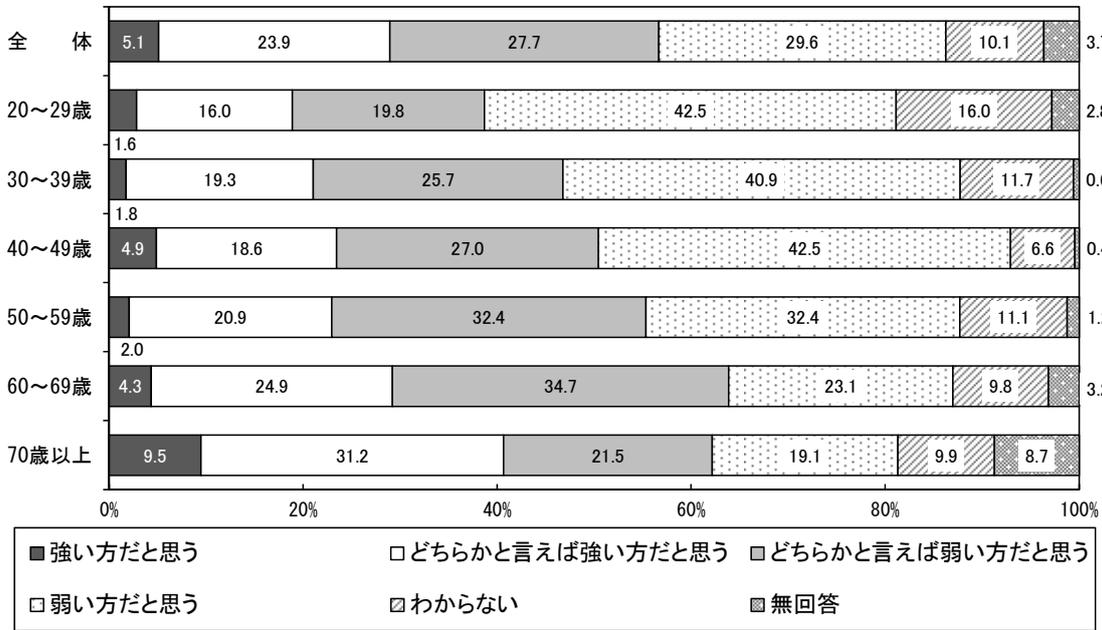
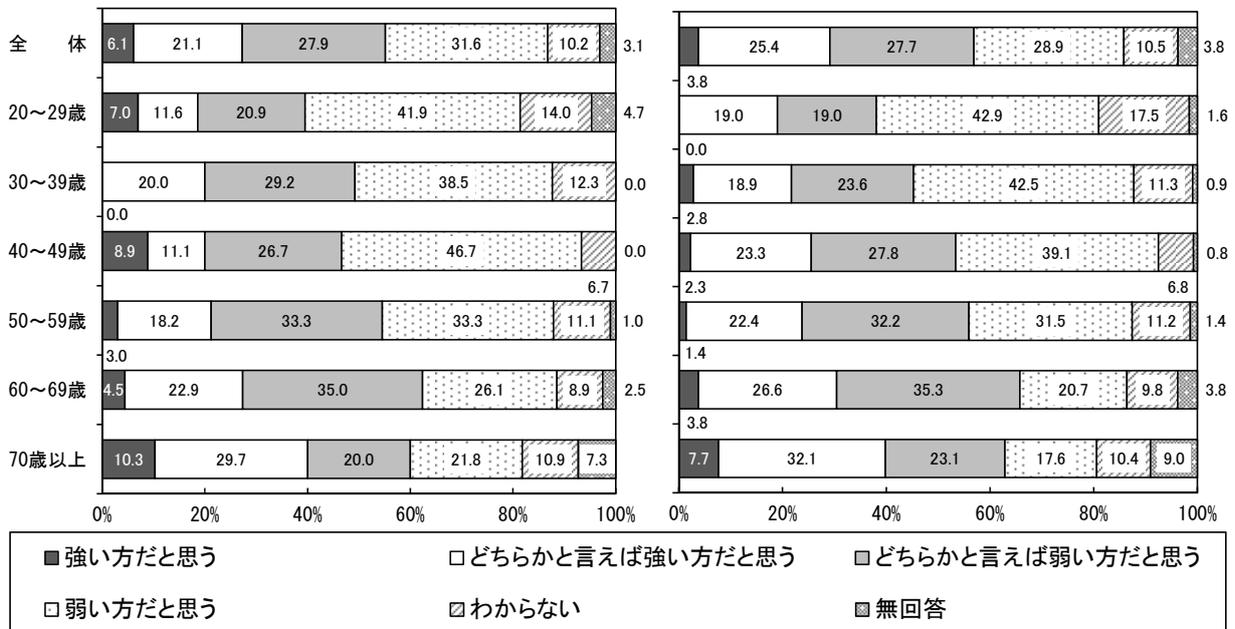


図 54.3 地域の人たちとのつながり

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

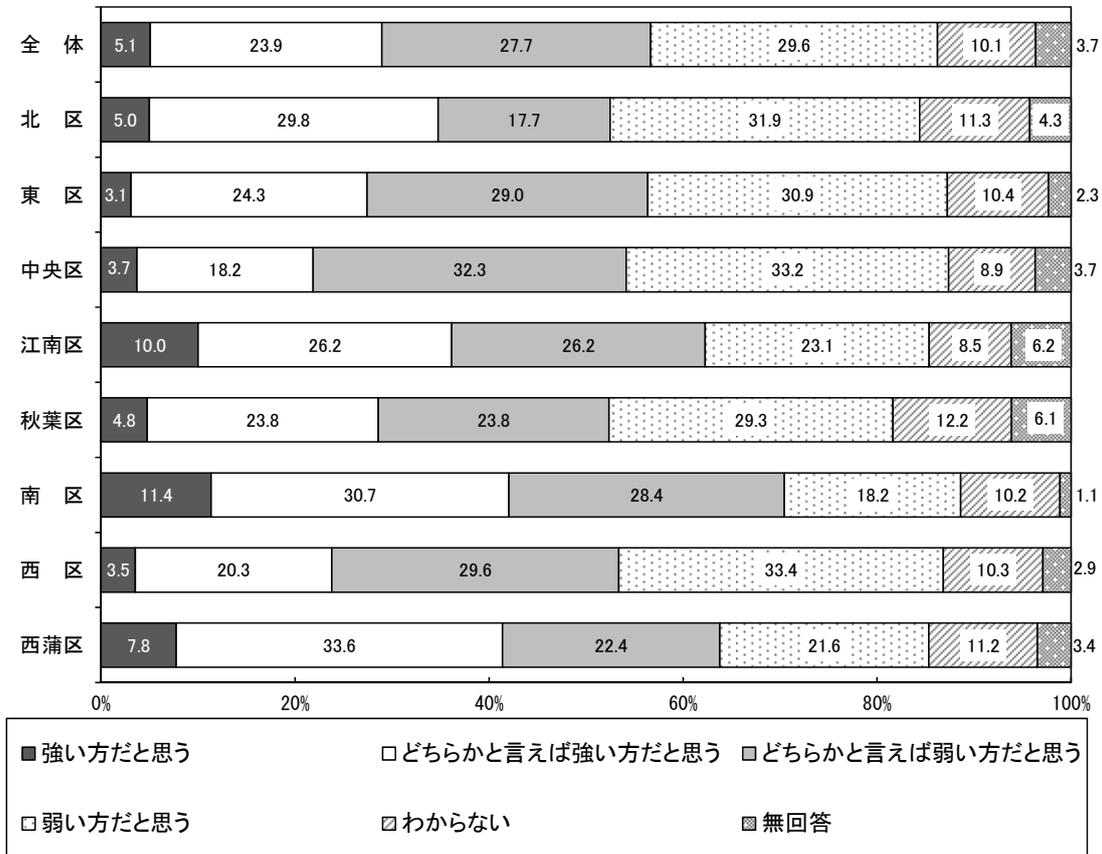
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

全ての地区で「どちらかと言えば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。

図 54.4 地域の人たちとのつながり（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

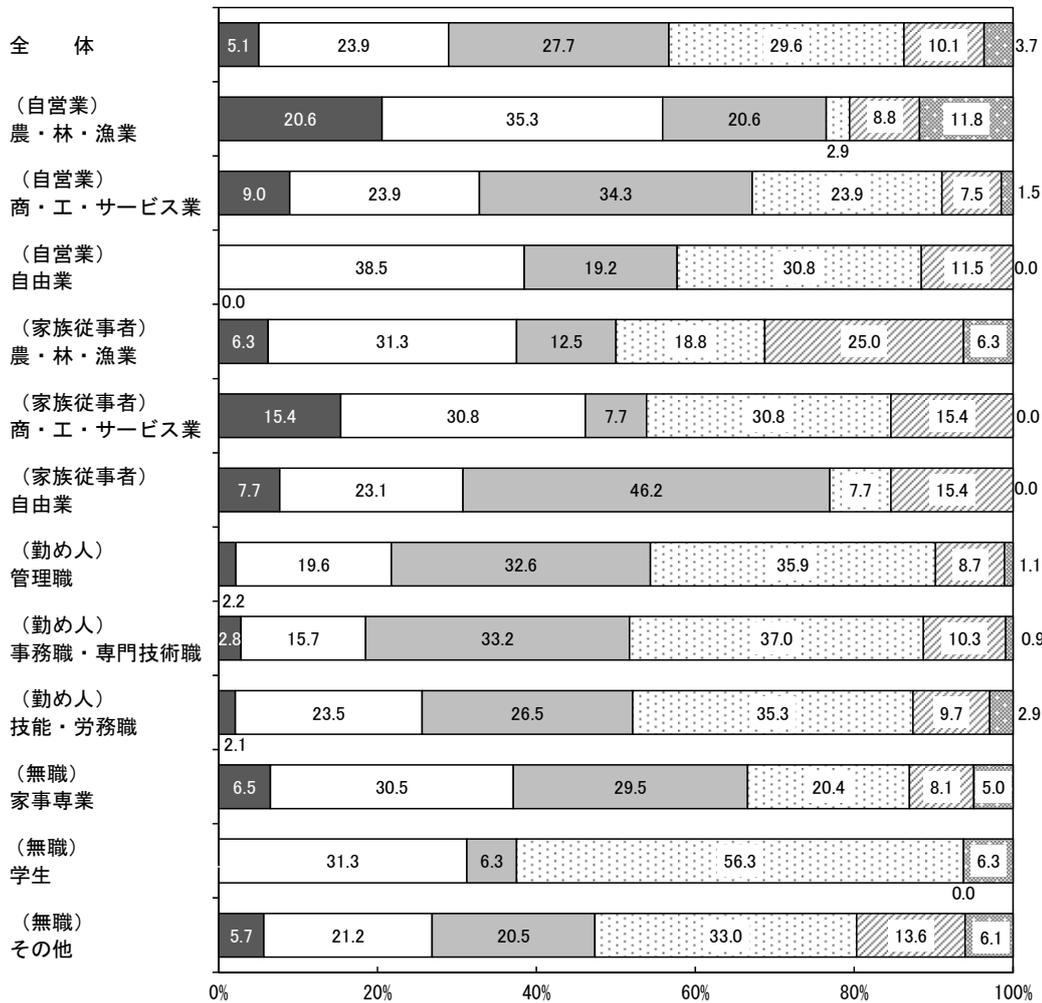
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 54.5 地域の人たちとのつながり（職業別）



強い方だと思う
 どちらかと言えば強い方だと思う
 どちらかと言えば弱い方だと思う
 弱い方だと思う
 わからない
 無回答

全 体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,534	34	67	26	16	13	13

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
92	319	238	383	16	264	53

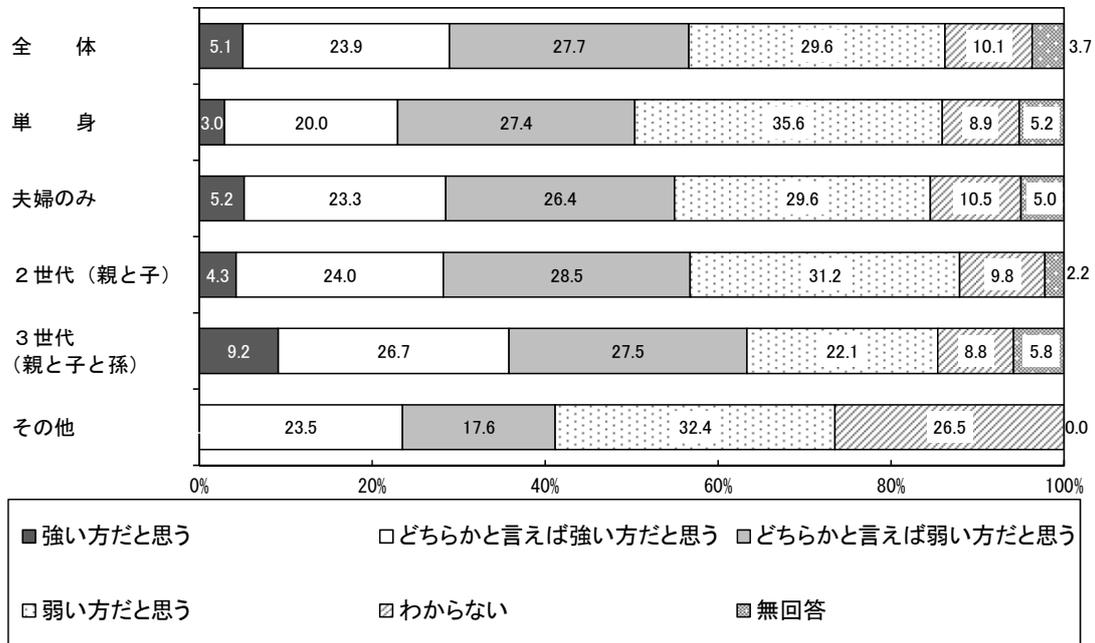
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成とも、「どちらかと言えば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。

図 54.6 地域の人たちとのつながり（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(22) 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況

問50 あなたはこの1年間にボランティア活動（近隣の人への手助け・支援を含む）、地域社会活動（町内会活動・地域行事など）を行いましたか。（○はいくつでも） ※有償・無償にかかわらず

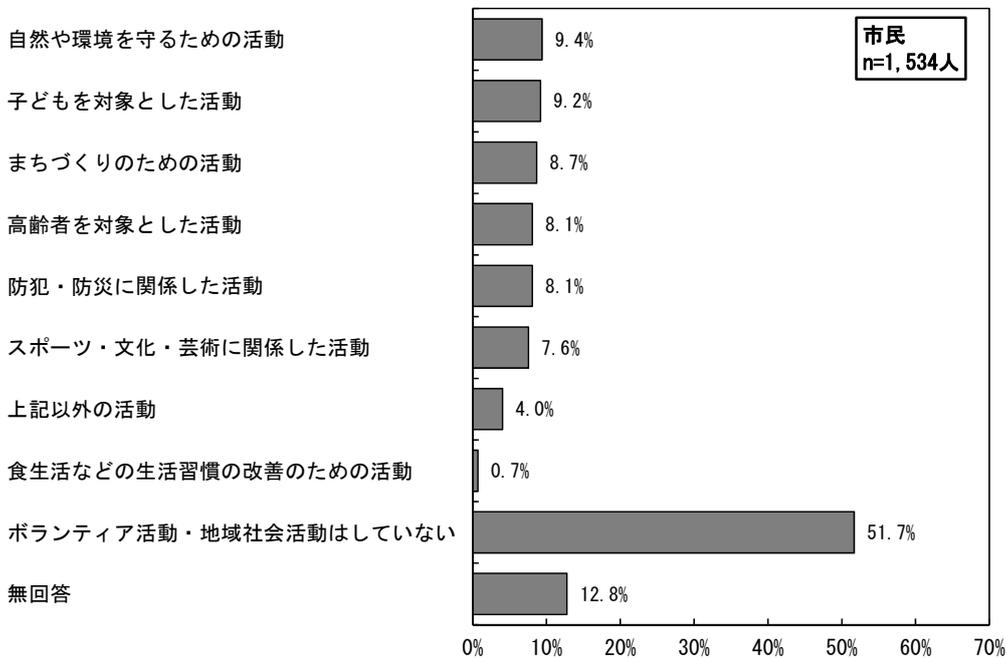
4割弱が最近1年間に何らかのボランティア活動・地域社会活動に参加したと回答

【全体結果】

「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」（51.7%）、「無回答」（12.8%）を除いた、何らかのボランティア活動・地域活動に参加したと回答した人の割合は4割弱（35.5%）となっている。

その中で、「自然や環境を守るための活動」（9.4%）を回答した人が最も多く、以下「子どもを対象とした活動」（9.2%）「まちづくりのための活動」（8.7%）と続いている。

図 55.1 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況



全体	自然や環境を守るための活動	子どもを対象とした活動	まちづくりのための活動	高齢者を対象とした活動	防犯・防災に関係した活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	上記以外の活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	ボランティア活動はしていない	無回答
1,534	144	141	133	124	124	116	62	11	793	196

(人)

【性別・年齢別】

各年代とも「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」と回答した人の割合が最も高くなっている。

また、30歳代から40歳代では「子どもを対象とした活動」の割合が他の年代に比べて高く、40歳代から50歳代では「自然や環境を守るための活動」の割合が他の年代に比べて高く、60歳代以上では「高齢者を対象とした活動」が他の年代に比べて高くなっている。

表 12.1 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況（年齢別・全体）

	対象者	守る自然や環境のための活動	子どもを対象とした活動	まちづくりのための活動	高齢者を対象とした活動	関係犯した防災活動	スポーツ・文化活動	食生活などのための生活改善活動	上記以外の活動	地域社会活動はしていない	ボランティア活動はしていない	無回答
計	1,534	9.4	9.2	8.7	8.1	8.1	7.6	0.7	4.0	51.7	12.8	
20～29歳	106	5.7	4.7	2.8	3.8	0.9	4.7	0.0	2.8	77.4	4.7	
30～39歳	171	6.4	16.4	8.2	0.0	6.4	4.7	0.0	1.2	64.9	4.7	
40～49歳	226	10.2	23.0	8.8	3.5	8.0	6.6	0.4	4.0	51.3	3.5	
50～59歳	244	12.3	7.4	8.2	4.1	6.1	7.8	0.8	4.5	57.8	6.6	
60～69歳	346	8.4	6.1	9.0	10.7	11.0	7.5	0.9	4.9	50.3	13.3	
70歳以上	423	9.9	4.0	9.9	15.4	9.0	9.5	1.2	4.5	38.3	25.5	
年齢不明	18	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	5.6	38.9	27.8	

対象者:人/回答:%

表 12.2 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況（年齢別・男性）

	対象者	守る自然や環境のための活動	子どもを対象とした活動	まちづくりのための活動	高齢者を対象とした活動	関係犯した防災活動	スポーツ・文化活動	食生活などのための生活改善活動	上記以外の活動	地域社会活動はしていない	ボランティア活動はしていない	無回答
計	620	10.3	8.5	11.0	7.4	11.3	9.5	0.2	4.2	53.4	9.4	
20～29歳	43	4.7	2.3	4.7	4.7	0.0	4.7	0.0	2.3	76.7	7.0	
30～39歳	65	13.8	10.8	10.8	0.0	6.2	6.2	0.0	3.1	63.1	6.2	
40～49歳	90	8.9	17.8	12.2	2.2	12.2	8.9	0.0	4.4	51.1	4.4	
50～59歳	99	8.1	8.1	12.1	3.0	11.1	11.1	0.0	2.0	59.6	4.0	
60～69歳	157	8.9	7.0	8.3	6.4	14.0	8.3	0.6	5.1	57.3	7.6	
70歳以上	165	13.9	6.1	13.9	17.6	13.3	12.7	0.0	5.5	37.0	18.8	
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

対象者:人/回答:%

表 12.3 最近1年間のボランティア活動・地域活動の参加状況（年齢別・女性）

	対象者	守る自然や環境のための活動	子どもを対象とした活動	まちづくりのための活動	高齢者を対象とした活動	関係犯した防災活動	スポーツ・文化活動	食生活などのための生活改善活動	上記以外の活動	地域社会活動はしていない	ボランティア活動はしていない	無回答
計	851	8.5	10.1	7.1	8.5	5.9	6.1	0.9	3.8	51.8	13.7	
20～29歳	63	6.3	6.3	1.6	3.2	1.6	4.8	0.0	3.2	77.8	3.2	
30～39歳	106	1.9	19.8	6.6	0.0	6.6	3.8	0.0	0.0	66.0	3.8	
40～49歳	133	10.5	26.3	6.0	4.5	5.3	4.5	0.8	3.8	51.9	3.0	
50～59歳	143	15.4	7.0	5.6	4.2	2.8	5.6	1.4	6.3	56.6	8.4	
60～69歳	184	7.6	5.4	9.8	14.1	8.7	7.1	0.0	4.9	44.6	18.5	
70歳以上	221	7.2	2.7	7.7	14.5	6.8	7.7	2.3	3.2	40.7	27.6	
年齢不明	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

対象者:人/回答:%

6 農林漁業体験について

(1) 農林漁業体験の参加経験の有無

「農林漁業体験」の例

- ◆ 水田での田植え、栽培管理、稲刈り、はさがけなどの米に関する体験
- ◆ 畑での種まき・苗植え、栽培管理、収穫などの野菜に関する体験
- ◆ 樹園地での花粉付け、袋がけ、収穫などの果樹に関する体験
- ◆ 花の栽培・育種などの花に関する体験
- ◆ 搾乳、エサやり、ミルクやり、畜舎の管理などの酪農体験、その他の畜産体験
- ◆ 植林、下草刈り、枝打ち、除伐・間伐などの林業体験
- ◆ 釣り、底引き網などの漁業体験

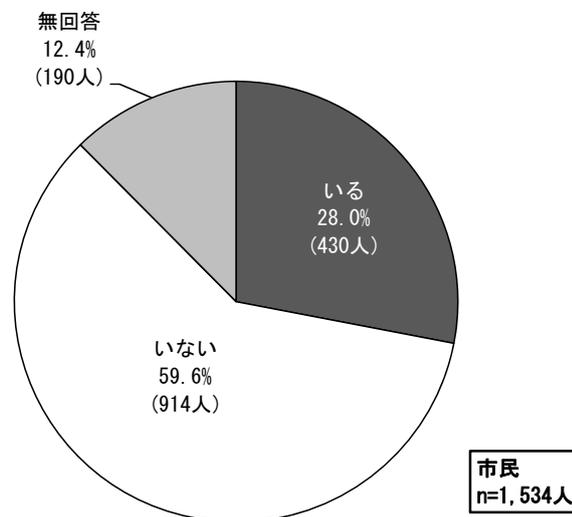
問51 これまで、あなた又はあなたの家族の中で農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。子どもたちの学校や園での体験も含みます。(○は1つだけ)
「農林漁業体験」とは、次のようなものに関する体験とお考えください。

3割弱が参加経験者は「いる」と回答

【全体結果】

自身や家族の中に農林漁業体験に参加したことがある人が「いる」と回答した人は3割弱（28.0%）、「いない」と回答した人は約6割（59.6%）となっている。

図 56.1 農林漁業体験の参加経験の有無



【性別・年齢別】

「いる」と回答した人の割合は、40歳代（49.1%）で最も高く、40歳代以下では3割を超えている。一方、70歳以上では2割弱となっている。

性別では、「いる」と回答した人の割合は、男女の20歳代と40歳代で4割を超え、比較的高くなっている。

図 56.2 農林漁業体験の参加経験の有無（年齢別・全体）

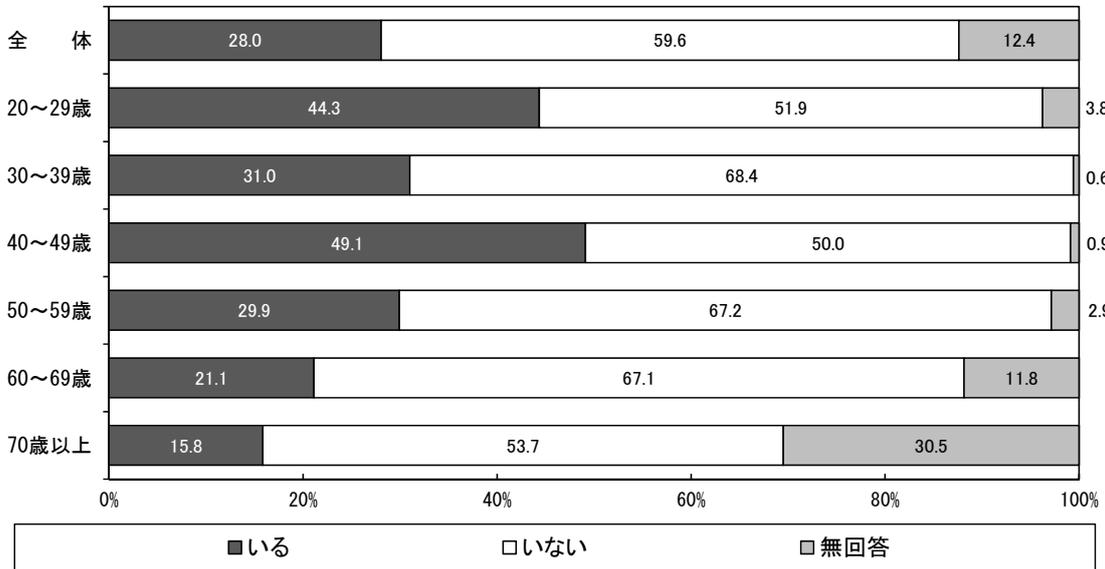
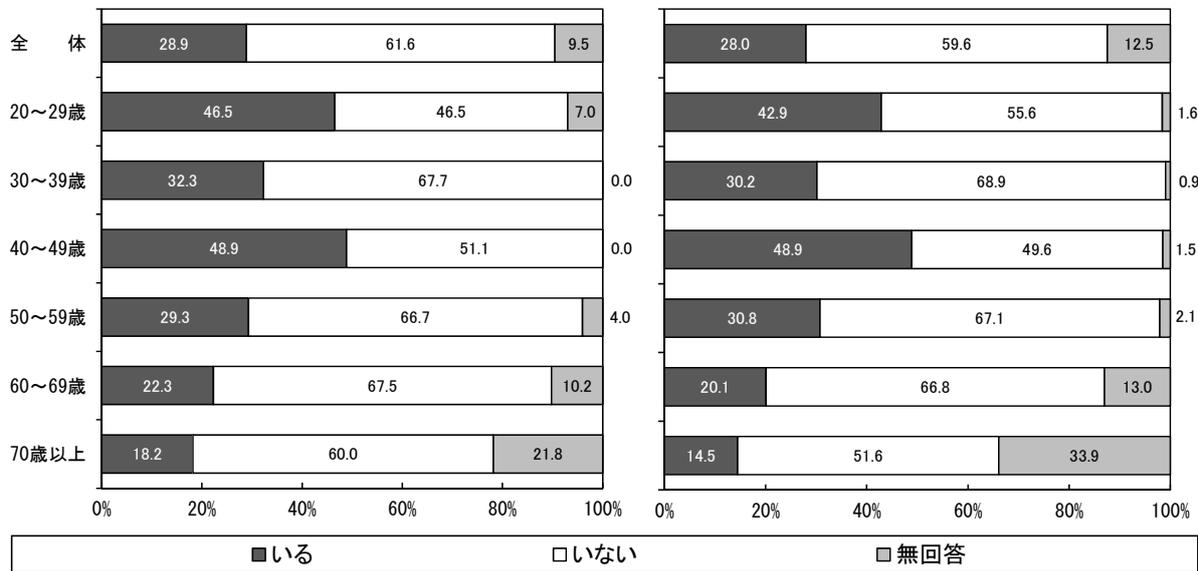


図 56.3 農林漁業体験の参加経験の有無
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

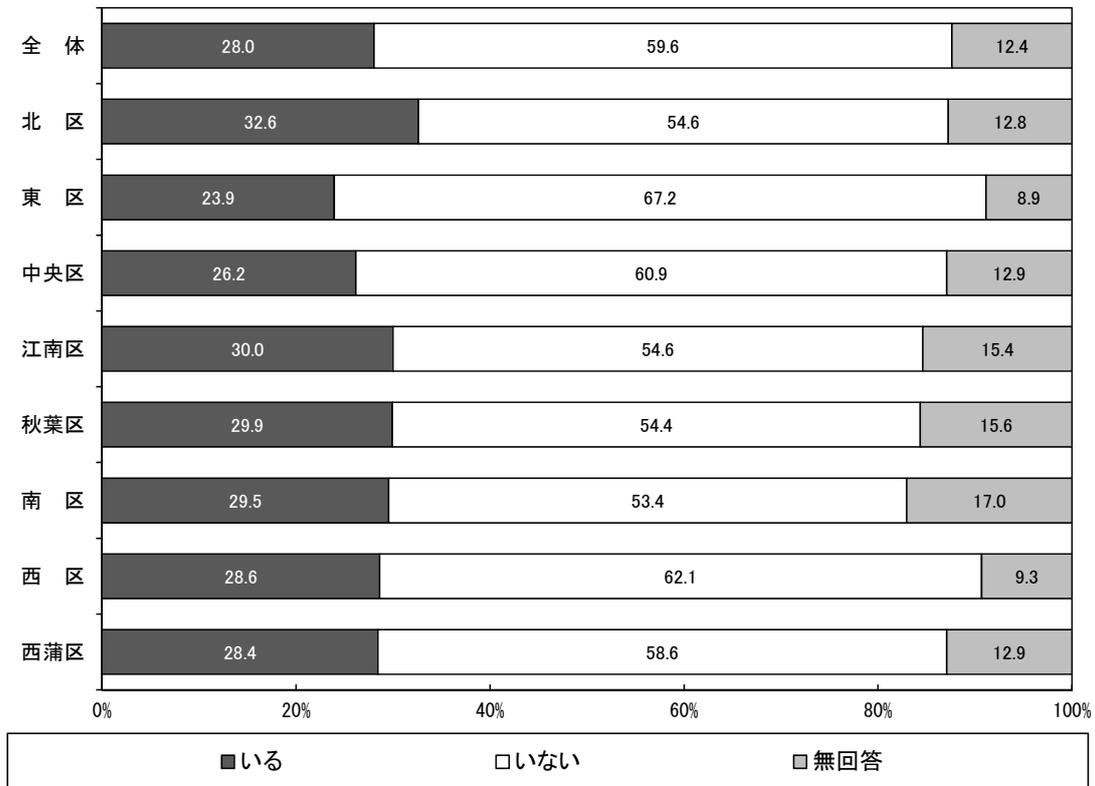
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いる」と回答した人の割合は、北区（32.6%）で最も高くなっている。

図 56.4 農林漁業体験の参加経験の有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

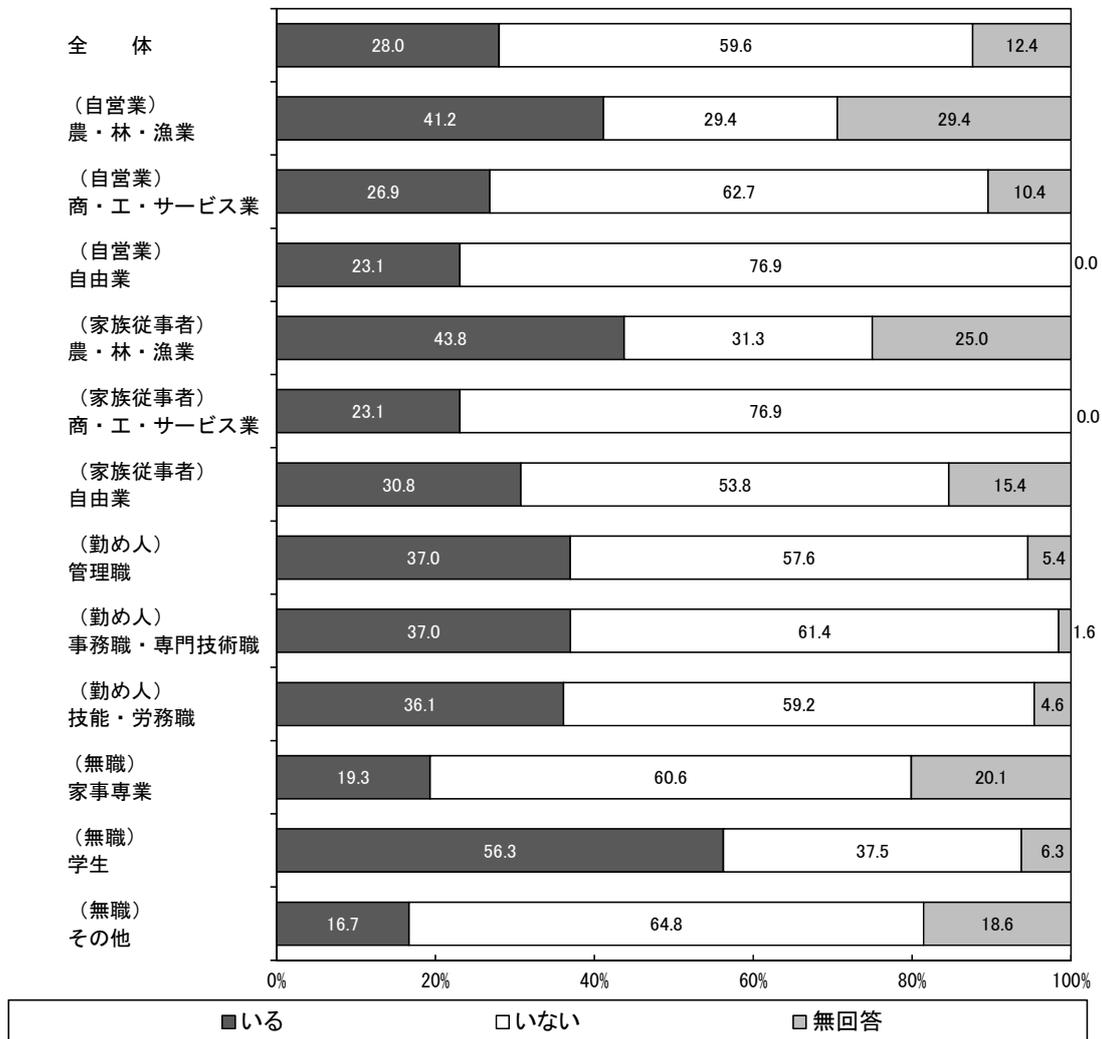
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 56.5 農林漁業体験の参加経験の有無（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
1,534	34	67	26	16	13	13	
勤め人			無職			無回答	
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他		
92	319	238	383	16	264	53	

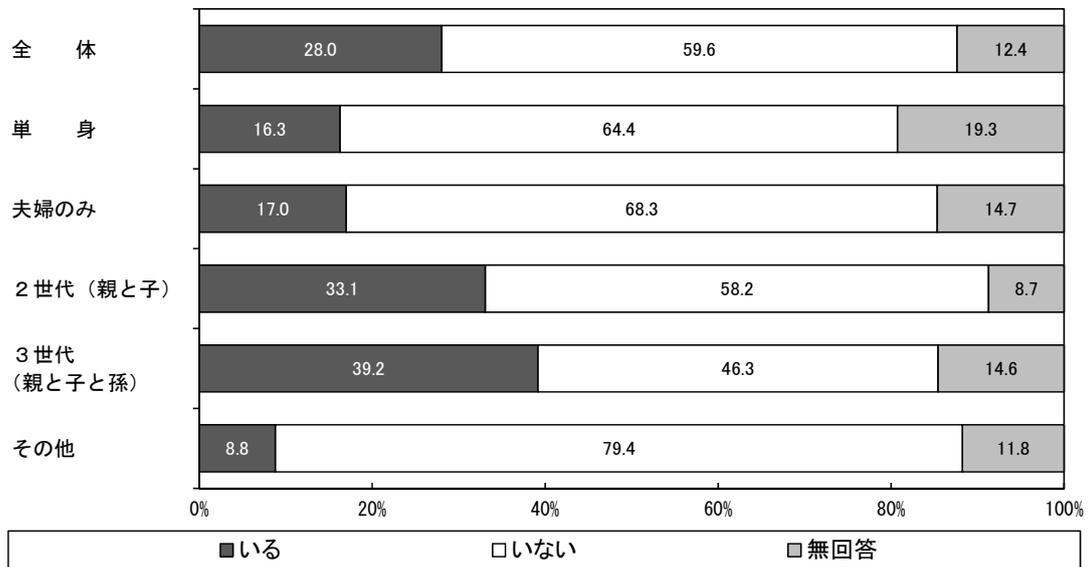
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いる」と回答した人の割合は、3世代（39.2%）、2世代（33.1%）で高くなっている。

図 56.6 農林漁業体験の参加経験の有無（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

(2) 参加した農林漁業体験の内容

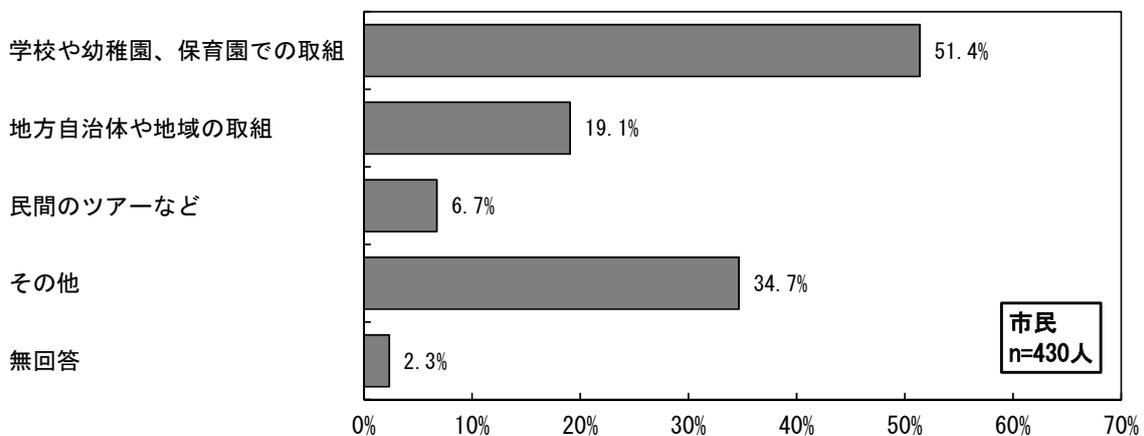
問52 問51で1に○を付けた方にお尋ねします。どのようなものに参加されましたか。
(○はいくつでも)

5割強が「学校や幼稚園、保育園での取組」と回答

【全体結果】

「学校や幼稚園、保育園での取組」(51.4%)と回答した人が最も多くなっている。「その他」を除き、以下「地方自治体や地域の取組」(19.1%)、「民間のツアーなど」(6.7%)と続いている。

図 57.1 参加した農林漁業体験の内容



全体	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
430	221	82	29	149	10

(人)

【性別・年齢別】

「その他」を除き、60歳代以下では「学校や幼稚園、保育園での取組」が最も多く、70歳以上では「地方自治体や地域の取組」が最も多くなっている。

表 13.1 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・全体）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	430	51.4	19.1	6.7	34.7	2.3
20～29歳	47	78.7	14.9	6.4	14.9	2.1
30～39歳	53	64.2	17.0	1.9	26.4	1.9
40～49歳	111	71.2	11.7	4.5	25.2	1.8
50～59歳	73	53.4	19.2	13.7	37.0	4.1
60～69歳	73	27.4	23.3	5.5	49.3	2.7
70歳以上	67	14.9	32.8	7.5	50.7	0.0
年齢不明	6	33.3	0.0	16.7	50.0	16.7

対象者：人／回答：%

表 13.2 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・男性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	179	44.1	19.0	3.9	41.9	2.2
20～29歳	20	75.0	20.0	0.0	10.0	0.0
30～39歳	21	61.9	23.8	0.0	28.6	0.0
40～49歳	44	61.4	13.6	2.3	36.4	0.0
50～59歳	29	41.4	13.8	10.3	41.4	6.9
60～69歳	35	22.9	28.6	5.7	48.6	5.7
70歳以上	30	13.3	16.7	3.3	73.3	0.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 13.3 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・女性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	238	58.4	19.3	8.4	28.6	2.1
20～29歳	27	81.5	11.1	11.1	18.5	3.7
30～39歳	32	65.6	12.5	3.1	25.0	3.1
40～49歳	65	80.0	10.8	6.2	15.4	3.1
50～59歳	44	61.4	22.7	15.9	34.1	2.3
60～69歳	37	32.4	18.9	2.7	51.4	0.0
70歳以上	32	15.6	46.9	12.5	31.3	0.0
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

対象者：人／回答：%

【地区別】

「その他」を除き、各地区で「学校や幼稚園、保育園での取組」の割合が最も高く、特に北区と秋葉区で6割を超えている。

表 13.4 参加した農林漁業体験の内容（地区別）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	430	51.4	19.1	6.7	34.7	2.3
北 区	46	50.0	17.4	6.5	34.8	0.0
東 区	62	45.2	25.8	11.3	38.7	0.0
中央区	85	63.5	21.2	7.1	22.4	3.5
江南区	39	48.7	15.4	5.1	41.0	0.0
秋葉区	44	61.4	22.7	9.1	25.0	2.3
南 区	26	38.5	19.2	3.8	42.3	0.0
西 区	89	48.3	18.0	4.5	42.7	2.2
西蒲区	33	42.4	9.1	3.0	36.4	9.1
地区不明	6	50.0	0.0	16.7	33.3	16.7

対象者：人／回答：%

(3) 今後の農林漁業体験への参加意向

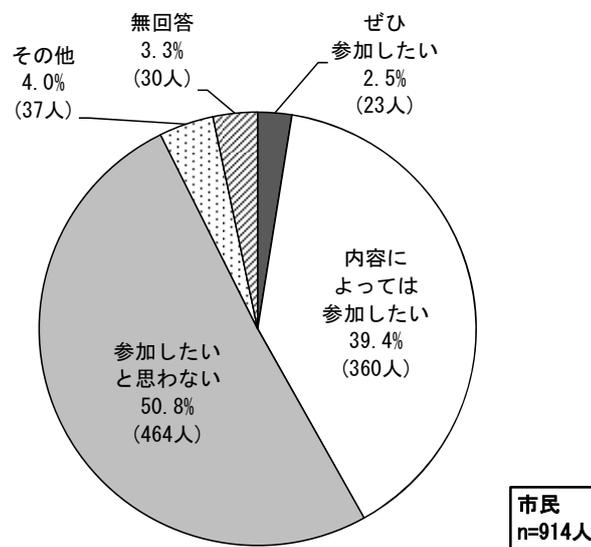
問 53 問 51 で 2 に ○ を 付 け た 方 に お 尋 ね し ま す 。 今 後 、 あ な た は 農 林 漁 業 体 験 に 参 加 し た い と 思 い ま す か 。 (○ は 1 つ だ け)

4 割 強 が 「 ぜ ひ 参 加 し た い 」 「 内 容 に よ っ て は 参 加 し た い 」 と 回 答

【全体結果】

「ぜひ参加したい」(2.5%)、「内容によっては参加したい」(39.4%)と回答した人を合わせた割合は4割強(41.9%)となっている。

図 58.1 今後の農林漁業体験への参加意向



【性別・年齢別】

30歳代から50歳代では、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合が、「参加したいとは思わない」の割合を上回っているが、20歳代と60歳代以上では「参加したいとは思わない」の割合の方が高く、70歳以上では6割強（60.8%）となっている。

図 58.2 今後の農林漁業体験への参加意向（年齢別・全体）

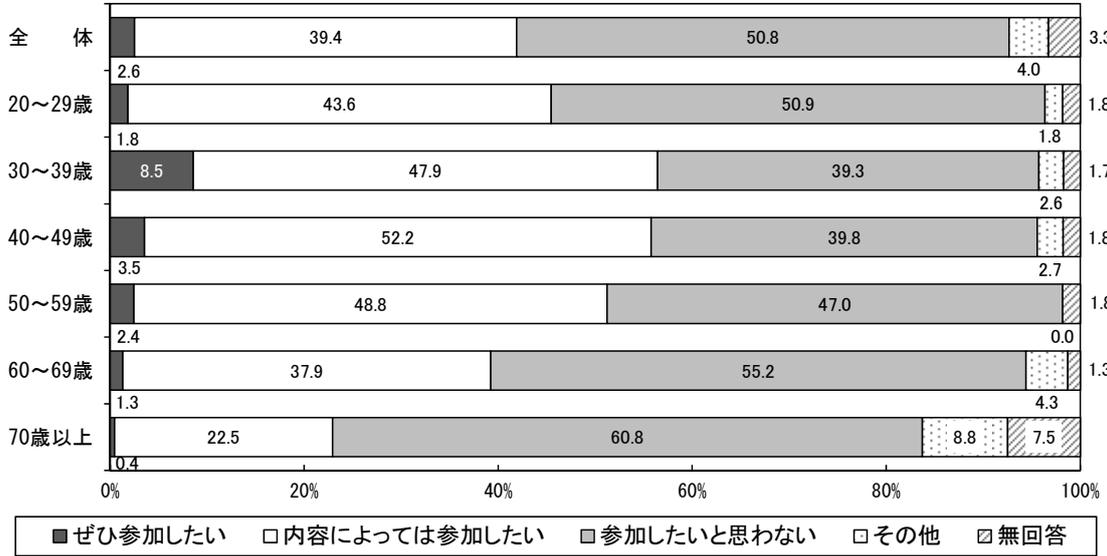
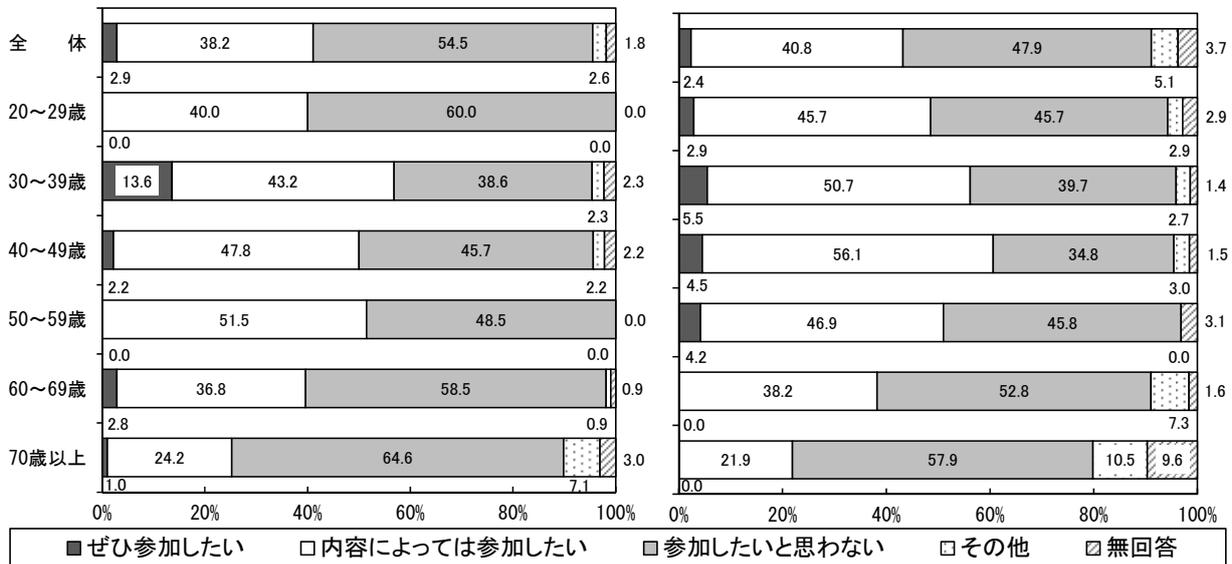


図 58.3 今後の農林漁業体験への参加意向

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	914	55	117	113	164	232	227	6
男性	382	20	44	46	66	106	99	1
女性	507	35	73	66	96	123	114	0

(人)

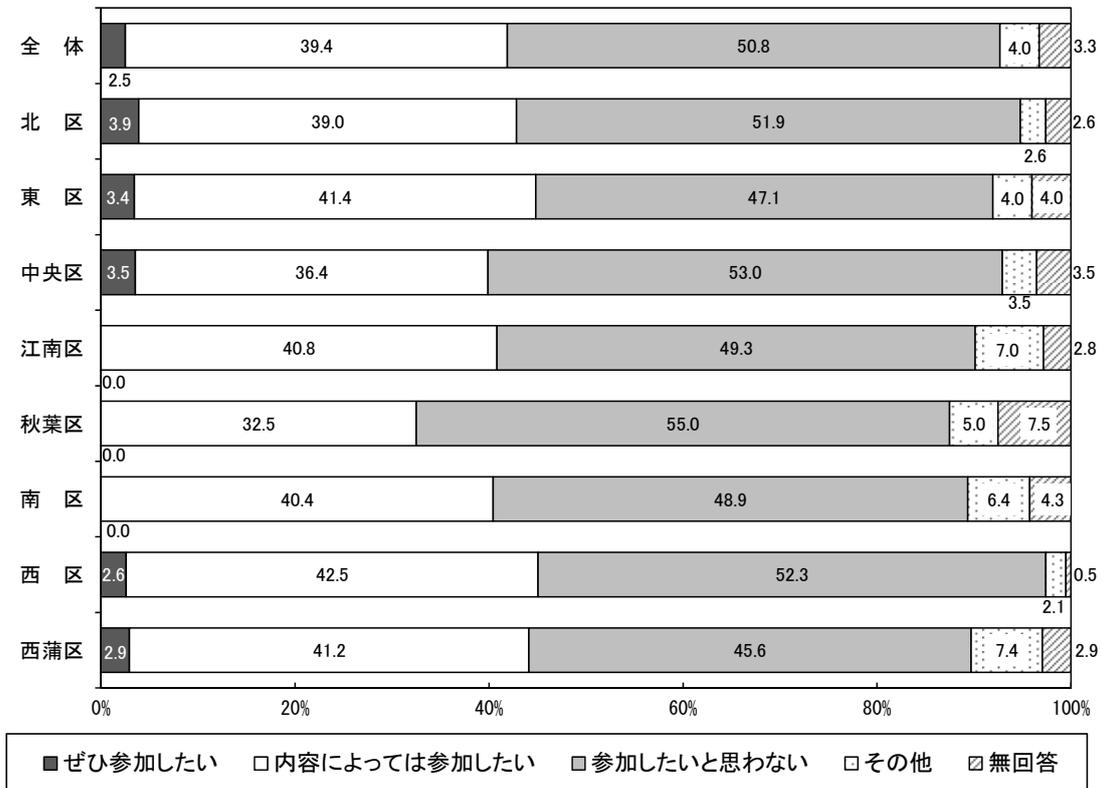
※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は、西区（45.1%）で最も高くなっている。

また、すべての地区で、「参加したいと思わない」と回答した人の割合が、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合を上回っている。

図 58.4 今後の農林漁業体験への参加意向（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
914	77	174	198	71	80	47	193	68	6

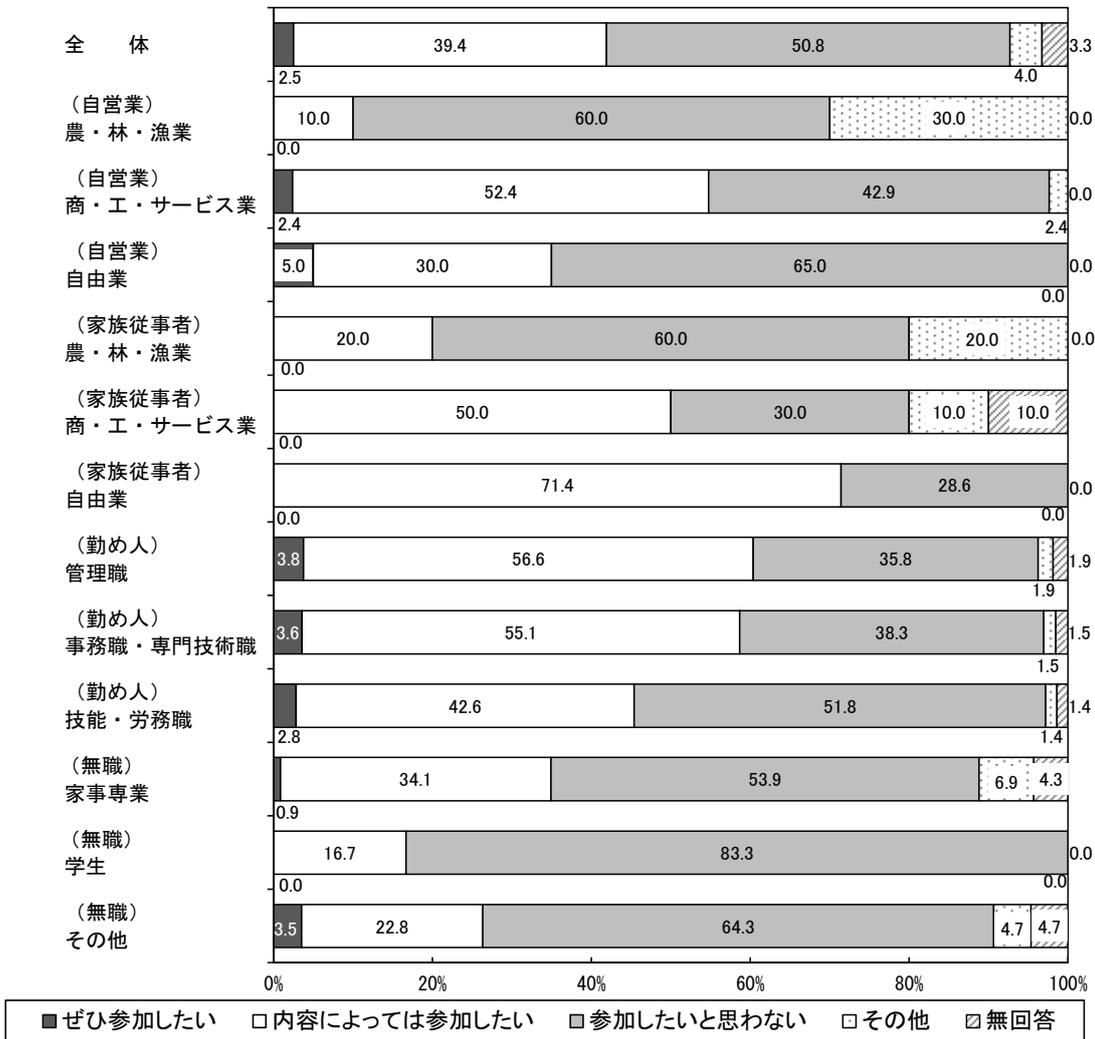
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 58.5 今後の農林漁業体験への参加意向（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	
914	10	42	20	5	10	7	
	勤め人			無職			無回答
	管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
	53	196	141	232	6	171	21

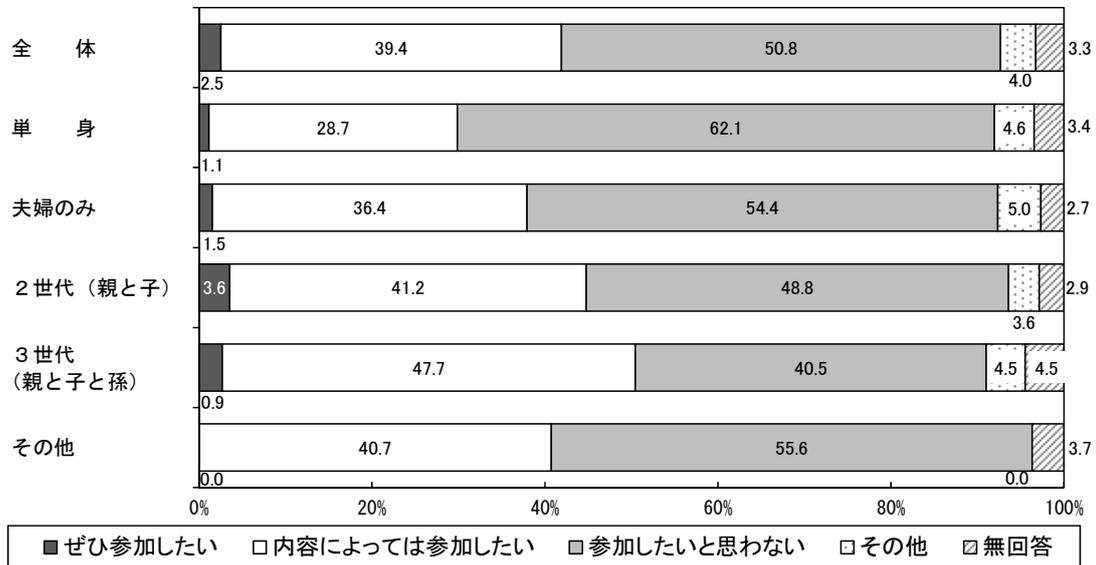
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は、3世代（48.6%）で最も高くなっている。

図 58.6 今後の農林漁業体験への参加意向（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
914	87	261	420	111	27	8

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

7 食育や健康づくりに関する情報やサービスの利用状況等

(1) スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの

問54 あなたは、スーパーマーケット、食料品店や飲食店等での取組や情報で、利用しているものがありますか。(〇はいくつでも)

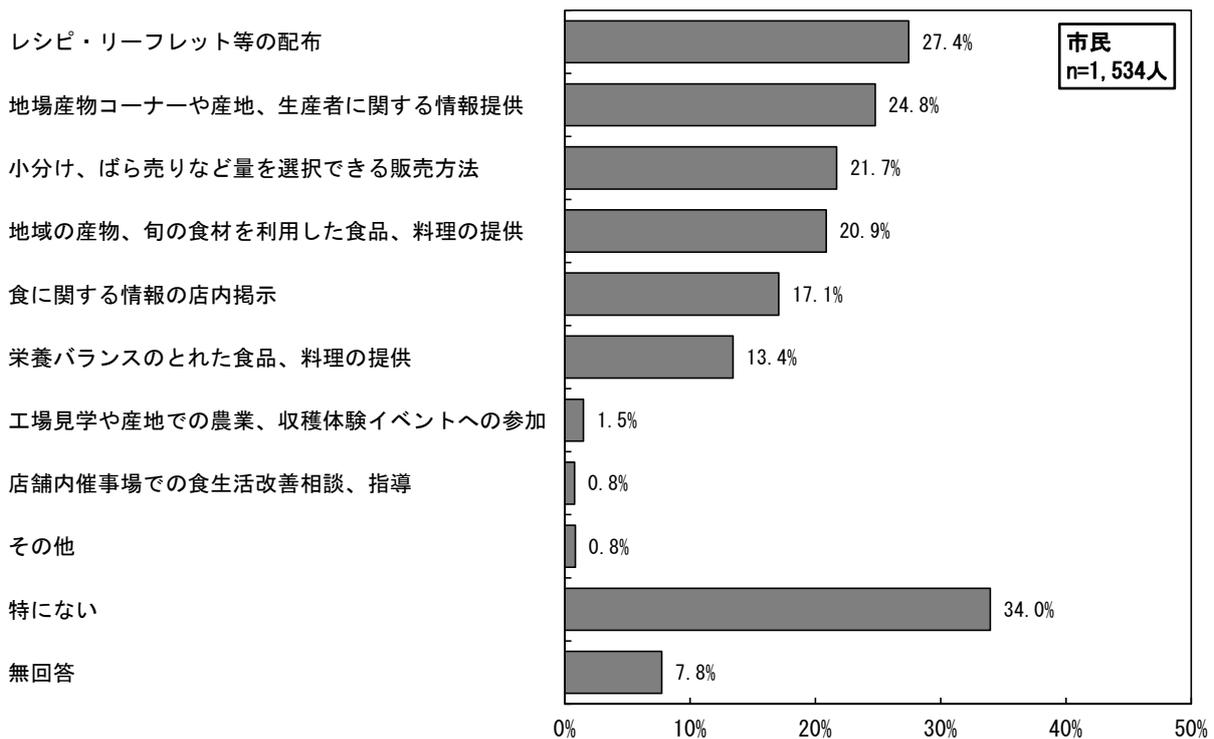
3割弱が「レシピ・リーフレット等の配布」と回答

【全体結果】

スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているものについては、「レシピ・リーフレット等の配布」(27.4%)と回答した人が最も多く、以下「地場産物コーナーや産地、生産者に関する情報提供」(24.8%)、「小分け、ばら売りなど量を選択できる販売方法」(21.7%)、「地域の産物、旬の食材を利用した食品、料理の提供」(20.9%)、「食に関する情報の店内掲示」(17.1%)と続いている。

一方、利用しているものは「特にない」(34.0%)が3割強となっている。

図 59.1 スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの



全体	レシピ・リーフレット等の配布	地場産物コーナーや産地、生産者に関する情報提供	小分け、ばら売りなど量を選択できる販売方法	地域の産物、旬の食材を利用した食品、料理の提供	食に関する情報の店内掲示	栄養バランスのとれた食品、料理の提供	工場見学や産地での農業、収穫体験イベントへの参加	店舗内催事場での食生活改善相談、指導	その他	特にない	無回答
1,534	421	380	333	320	262	206	23	12	13	521	119

(人)

【性別・年齢別】

「特にない」を除き、70歳以上では「小分け、ばら売りなど量を選択できる販売方法」の割合が最も高く、60歳代以下では「レシピ・リーフレット等の配布」の割合が最も高くなっている。

性別では、各年代とも「レシピ・リーフレット等の配布」、「小分け、ばら売りなど量を選択できる販売方法」の割合は女性の方が高く、「特にない」の割合は男性の方が高くなっている。

表 14.1 スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの（年齢別・全体）

	対象者	ト レ シ の ピ 配 ・ ブ リ ー フ レ ッ ト	産 地 情 報 、 生 産 者 に 関 す る 情 報 の 提 供	小 分 け 、 ば ら 売 り な ど の 選 択 可 能 な 販 売 方 法	地 域 の 産 物 、 旬 の 食 材 の 利 用 、 食 品 の 提 供	食 に 関 す る 情 報 の 提 供	栄 養 バ ラ ン ス の 提 供	農 業 、 見 学 や 産 地 の 参 加	生 活 改 善 相 談 、 指 導	店 舗 内 催 事 場 、 の 食	そ の 他	特 に な い	無 回 答
計	1,534	27.4	24.8	21.7	20.9	17.1	13.4	1.5	0.8	0.8	0.8	34.0	7.8
20～29歳	106	29.2	16.0	27.4	12.3	16.0	12.3	2.8	0.0	0.0	0.0	39.6	2.8
30～39歳	171	33.3	25.1	21.6	20.5	16.4	11.1	2.3	0.0	0.0	0.0	34.5	1.2
40～49歳	226	38.5	29.6	21.2	21.7	16.8	11.5	2.2	0.4	0.9	0.9	34.1	0.4
50～59歳	244	34.4	31.6	25.0	30.3	20.5	14.8	1.6	0.8	0.8	0.8	29.5	2.9
60～69歳	346	28.3	28.0	22.5	22.3	17.1	14.2	0.9	0.3	0.3	0.3	34.7	4.3
70歳以上	423	13.7	16.8	17.5	15.4	15.6	13.7	0.9	1.7	1.9	1.9	35.2	20.6
年齢不明	18	33.3	44.4	33.3	38.9	22.2	27.8	0.0	5.6	0.0	0.0	11.1	22.2

対象者：人／回答：%

表 14.2 スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの（年齢別・男性）

	対象者	ト レ シ ピ の 配 布	産 地 情 報 提 供	地 場 生 産 者 に 関 す る コ ー ナ ー	売 方 法 選 択 で き る 販 売	小 分 け を ば ら さ る 販 売	材 理 の 提 供	地 域 の 産 物 、 旬 の 食 品	内 食 に 関 す る 情 報 の 店	た 栄 養 バ ラ ン ス の 提 供	農 工 場 見 学 や 産 地 の 参 加	生 活 改 善 相 談 、 指 導	店 舗 内 催 事 場 で の 食 事	そ の 他	特 に な い	無 回 答
計	620	14.4	18.5	13.7	15.6	16.1	12.3	1.5	0.5	0.8	49.7	6.5				
20～29歳	43	14.0	11.6	25.6	14.0	20.9	14.0	4.7	0.0	0.0	53.5	4.7				
30～39歳	65	15.4	26.2	16.9	18.5	18.5	10.8	0.0	0.0	0.0	46.2	1.5				
40～49歳	90	23.3	17.8	11.1	14.4	13.3	8.9	1.1	0.0	1.1	56.7	0.0				
50～59歳	99	14.1	24.2	14.1	21.2	17.2	13.1	2.0	1.0	0.0	45.5	4.0				
60～69歳	157	15.3	21.0	15.3	15.9	17.2	11.5	0.6	0.0	0.0	52.2	3.8				
70歳以上	165	8.5	12.1	9.1	12.1	13.9	14.5	1.8	1.2	2.4	46.1	16.4				
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0				

対象者：人／回答：%

表 14.3 スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの（年齢別・女性）

	対象者	ト レ シ ピ の 配 布	産 地 情 報 提 供	地 場 生 産 者 に 関 す る コ ー ナ ー	売 方 法 選 択 で き る 販 売	小 分 け を ば ら さ る 販 売	材 理 の 提 供	地 域 の 産 物 、 旬 の 食 品	内 食 に 関 す る 情 報 の 店	た 栄 養 バ ラ ン ス の 提 供	農 工 場 見 学 や 産 地 の 参 加	生 活 改 善 相 談 、 指 導	店 舗 内 催 事 場 で の 食 事	そ の 他	特 に な い	無 回 答
計	851	37.6	29.5	27.5	25.0	18.0	14.0	1.6	0.9	0.9	22.9	7.5				
20～29歳	63	39.7	19.0	28.6	11.1	12.7	11.1	1.6	0.0	0.0	30.2	1.6				
30～39歳	106	44.3	24.5	24.5	21.7	15.1	11.3	3.8	0.0	0.0	27.4	0.9				
40～49歳	133	48.9	38.3	28.6	27.1	19.5	13.5	3.0	0.8	0.8	18.0	0.8				
50～59歳	143	48.3	37.1	32.2	37.1	22.4	15.4	1.4	0.7	1.4	18.9	2.1				
60～69歳	184	39.7	34.8	29.3	28.3	17.4	16.3	1.1	0.5	0.5	19.0	4.3				
70歳以上	221	18.6	20.4	23.5	19.0	17.6	13.6	0.5	2.3	1.8	27.6	22.2				
年齢不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0				

対象者：人／回答：%

【地区別】

「特にない」を除き、秋葉区では「地場産物コーナーや産地、生産者に関する情報提供」の割合が、それ以外の各地区では「レシピ・リーフレット等の配布」の割合が、それぞれ高くなっている。

表 14.4 スーパーマーケット等の取組や情報で利用しているもの（地区別）

	対象者	ト レ シ ピ の 配 布	産 地 情 報 提 供	地 場 産 物 コ ー ナ ー や 産 地 に 関 す る 情 報 提 供	小 分 け の 選 択 を し て 販 売 す る	地 域 の 産 物 、 旬 の 食 材 の 利 用 を 促 す	食 に 関 す る 情 報 の 提 供	栄 養 バ ラ ン ス の 提 供	農 業 、 工 場 見 学 や 産 地 イ ベ ン ト へ の 参 加	生 活 改 善 相 談 、 指 導	店 舗 内 催 事 場 、 食 の 指 導	そ の 他	特 に な い	無 回 答
計	1,534	27.4	24.8	21.7	20.9	17.1	13.4	1.5	0.8	0.8	34.0	7.8		
北 区	141	33.3	24.1	23.4	23.4	17.7	16.3	3.5	2.1	1.4	29.1	9.9		
東 区	259	29.0	23.9	23.9	22.0	19.7	14.7	1.9	1.2	1.2	32.0	7.3		
中央区	325	28.9	27.4	25.2	23.1	18.5	15.4	1.5	0.6	0.9	30.8	6.2		
江南区	130	25.4	24.6	20.0	23.1	17.7	16.2	3.1	0.8	0.0	34.6	9.2		
秋葉区	147	19.7	23.8	15.0	15.6	8.2	6.8	1.4	0.7	0.7	38.1	11.6		
南 区	88	27.3	18.2	17.0	15.9	19.3	17.0	1.1	0.0	0.0	34.1	10.2		
西 区	311	26.0	24.8	21.5	19.9	18.6	12.2	0.3	0.3	1.0	37.9	5.1		
西蒲区	116	27.6	24.1	15.5	17.2	11.2	6.9	0.0	0.0	0.9	40.5	7.8		
地区不明	17	35.3	41.2	47.1	35.3	17.6	17.6	0.0	5.9	0.0	5.9	17.6		

対象者：人／回答：%

(2) 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象

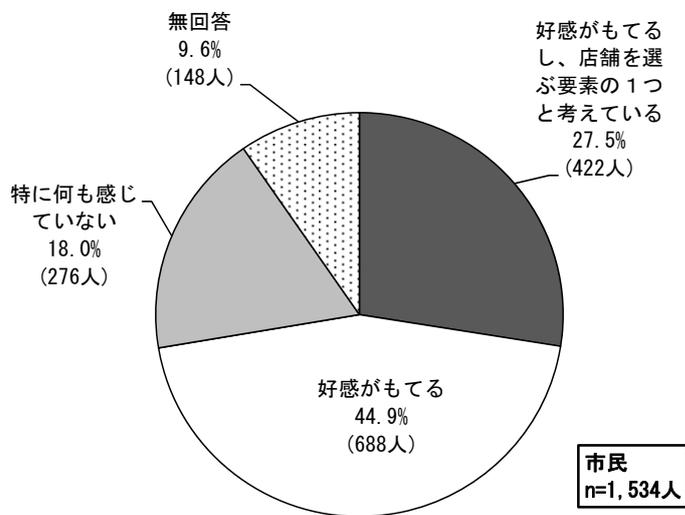
問55 あなたは、問54のような取組を行っている店舗に対して、どのように感じていますか。
(○は1つだけ)

7割強が好感がもてると回答

【全体結果】

「好感がもてるし、店舗を選ぶ要素の1つと考えている」(27.5%)、「好感がもてる」(44.9%)と回答した人を合わせた、好感がもてると感じている人の割合は7割強(72.4%)となっている。

図 60.1 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象



【性別・年齢別】

「好感がもてるし、店舗を選ぶ要素の1つと考えている」「好感がもてる」を合わせた割合は、40歳代(85.4%)で最も高くなっている。

性別では、「好感がもてるし、店舗を選ぶ要素の1つと考えている」「好感がもてる」を合わせた割合は、30歳代で男女ほぼ同率、20歳代と40歳代以上で女性の方が高くなっている。

図 60.2 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象（年齢別・全体）

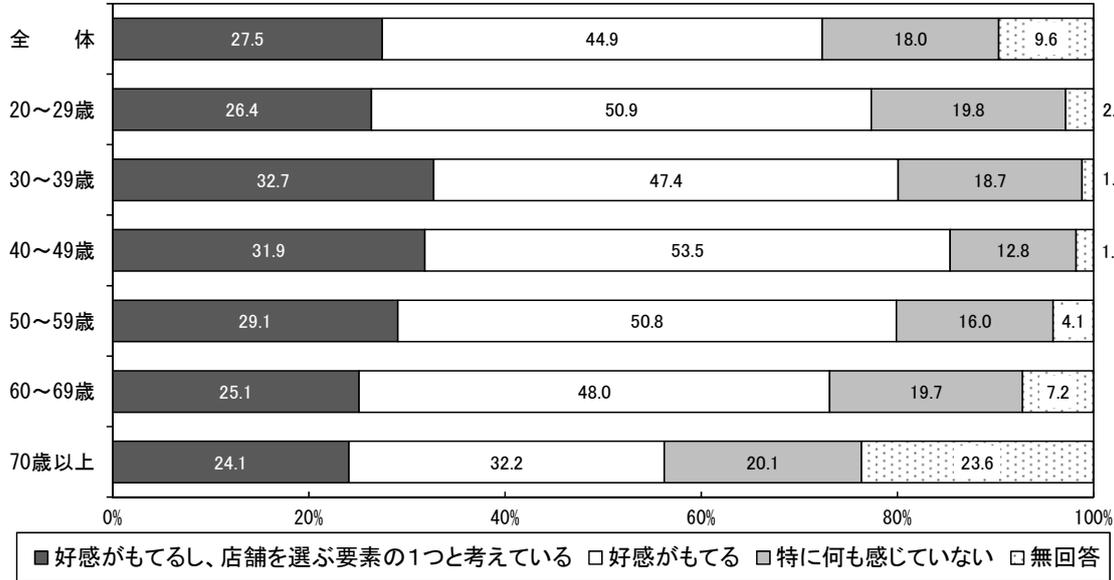
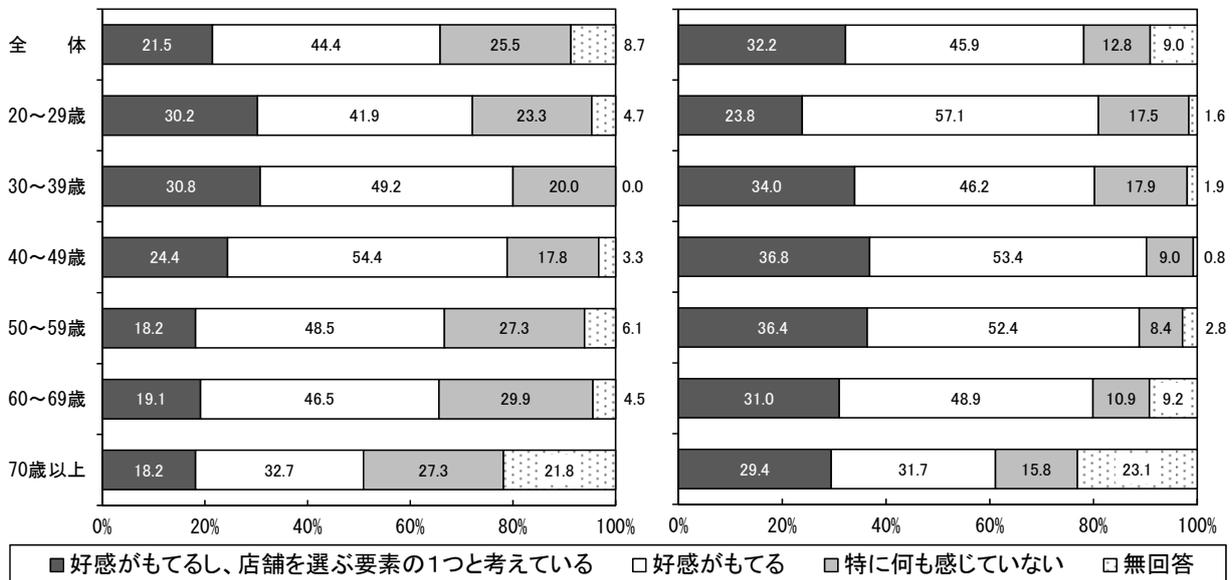


図 60.3 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象
（年齢別・男性） （年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,534	106	171	226	244	346	423	18
男性	620	43	65	90	99	157	165	1
女性	851	63	106	133	143	184	221	1

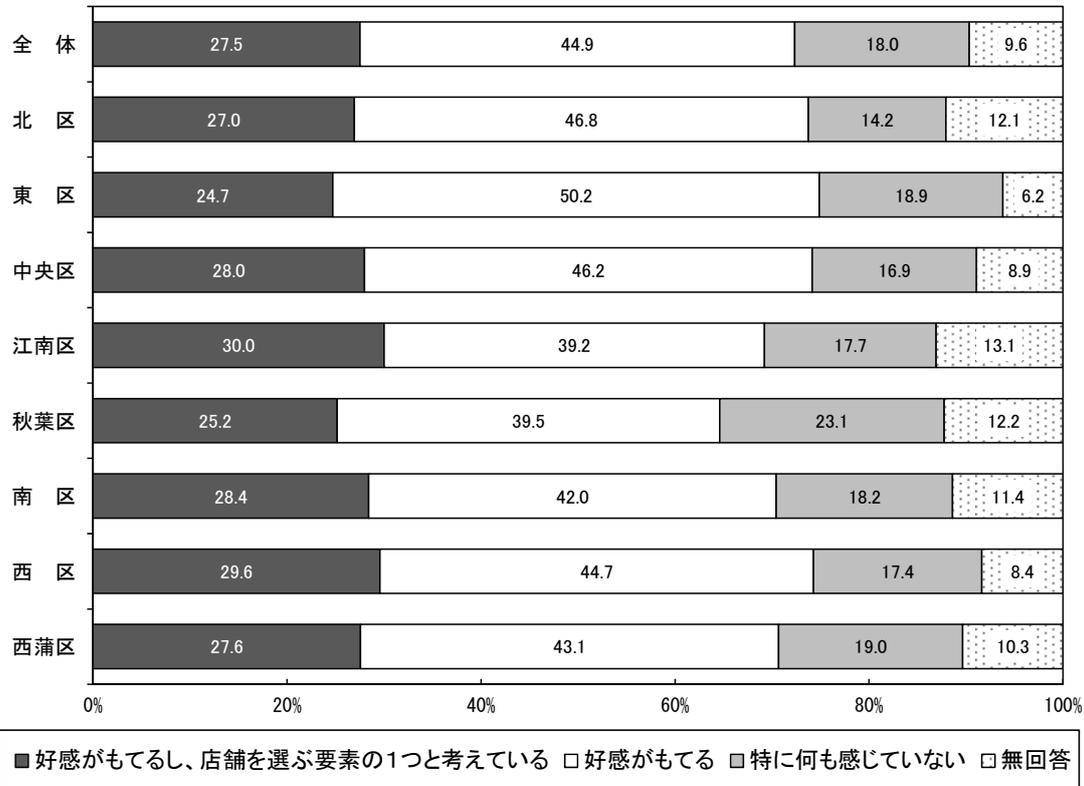
(人)

※ 性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「好感がもてるし、店舗を選ぶ要素の1つと考えている」「好感がもてる」を合わせた割合は、東区(74.9%)、西区(74.3%)、中央区(74.2%)でやや高くなっている。

図 60.4 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,534	141	259	325	130	147	88	311	116	17

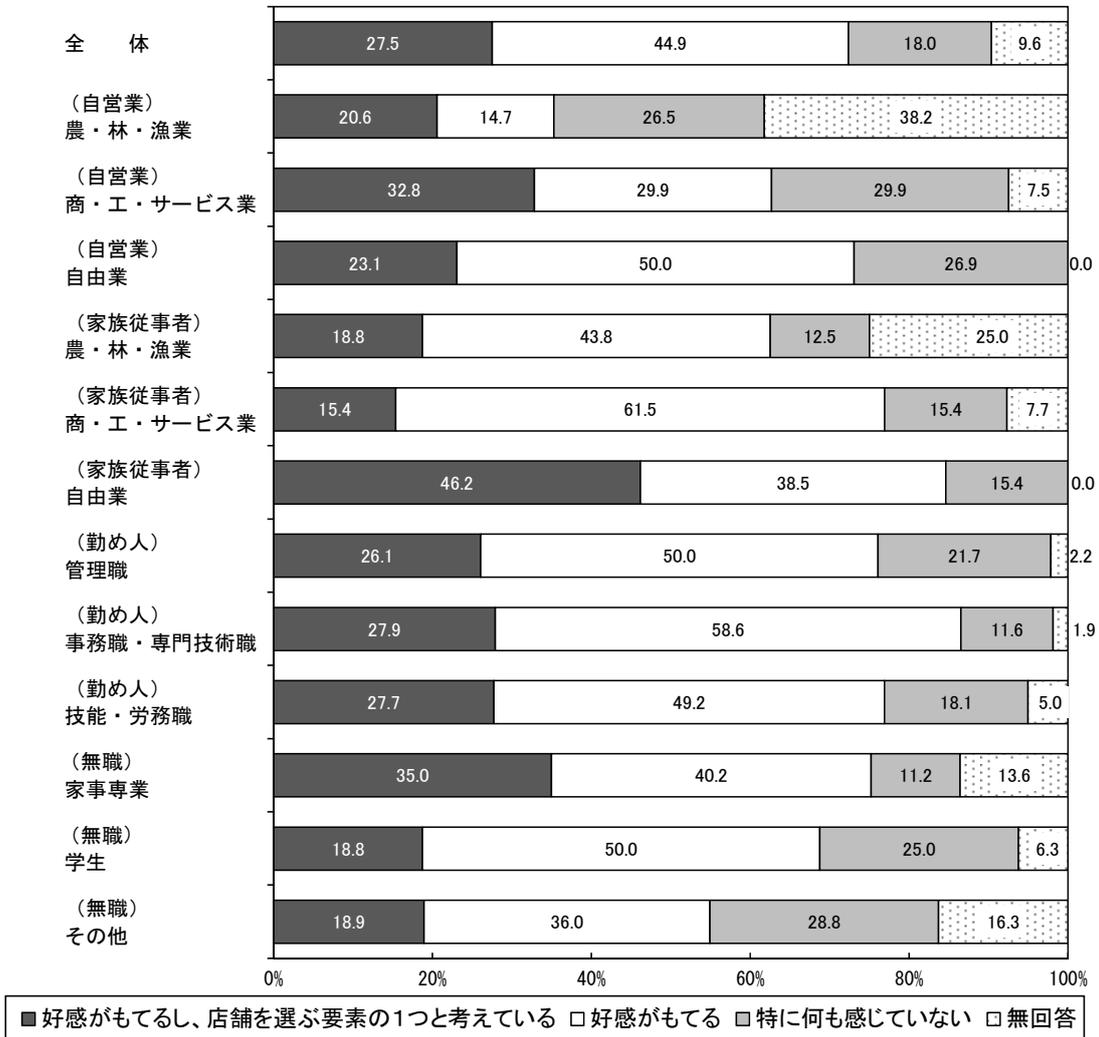
(人)

※ 地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 60.5 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象（職業別）



全 体	自営業			家族従事者			無回答	
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業		
1,534	34	67	26	16	13	13		
		勤め人			無職			無回答
		管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
		92	319	238	383	16	264	53

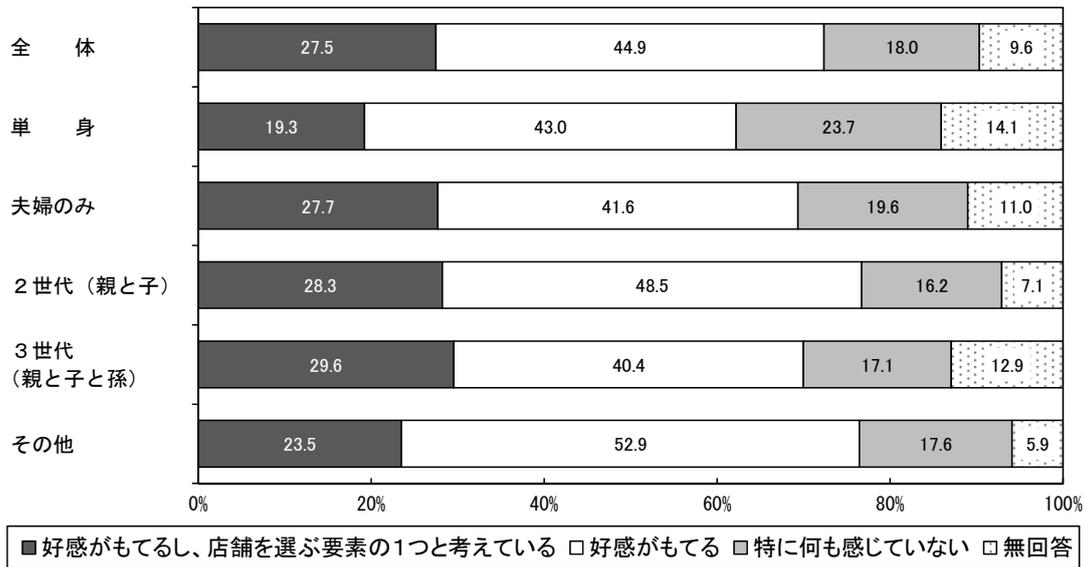
(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「好感がもてるし、店舗を選ぶ要素の1つと考えている」「好感がもてる」を合わせた割合は、2世代(76.8%)で最も高く、単身(62.3%)で最も低くなっている。

図 60.6 食育に取り組むスーパーマーケット等に対する印象(家族構成別)



全 体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,534	135	382	722	240	34	21

(人)

※ 無回答者のグラフは省略した。